

外部評価報告書

第8報

2025年3月

独立行政法人国立高等専門学校機構

長野工業高等専門学校

目次

○ 外部評価報告書第8報発刊にあたって	1
1. 外部評価実施概要	
1. 1 参与会の設置	2
1. 2 参与の委嘱	4
1. 3 参与会実施概要	6
1. 3. 1 第19回参与会（2023年2月14日）	8
1. 3. 2 第20回参与会（2024年1月23日）	33
1. 3. 3 第21回参与会（2025年1月29日）	41
2. 参与会の提言を受けて	57
○ 付録 参与会配付資料	
（第19回）	59
（第20回）	93
（第21回）	184

外部評価報告書第8報発刊にあたって

校長 江崎 尚 和

近年、AI、IoT、ロボティクス、バイオテクノロジーといった新しい科学技術が急速に進展し、社会や産業のあり方を根本から変えつつある。高専は高度経済成長時代のエンジニア不足に対応するべく設置され、60年の長きに亘り数多くの優秀な人材を輩出してきた。しかしながら、その時代からは予測もつかないような昨今の科学技術の急速な進歩に対応し、これからの時代を支えられるエンジニアを育成するには、その教育体制や教育内容、さらには教育手法を常に改善・向上させていく必要がある。この3年間の取り組みの主なものを以下に紹介する。

最近では、一つの専門分野に精通するだけでなく、複数の工学分野の知識を融合させて課題を解決するなど、分野横断的に工学を学んだ人材の育成が重要になってきている。このような要請に対応するため、本校では令和4年4月より既存の機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、電子情報工学科、環境都市工学科の5学科を「工学科」に統合し、情報エレクトロニクス、機械ロボティクス、都市デザインの3つの系に加えて副専攻・分野横断科目を配置した教育体制を整えた。この新体制で教育を受けた学生は3年生を修了し、令和7年度に4年生へと進級することになる。

また、グローバルに活躍できるエンジニアの育成や、自らが起業を目指すことができるスタートアップ人材の育成にも重点が置かれるようになってきている。教育のグローバル化に対しては、本校が進めるグローバルエンジニア育成事業の中で全学生を対象にした海外研修の実施や、海外協定校での語学研修、海外インターンシップの実施環境を整えてきた。またこれまでは派遣先がアジア圏の国が中心であったところを、カナダの高等教育機関2校と新たに連携協定を結び、ネイティブの英語に触れる機会を提供できるようにした。さらに、スタートアップ人材の育成に向けては外部講師による講演会の実施や、アイデアを形にできるソーシャルイノベーション・サポートセンターを設置することによって人材育成の環境を整えてきている。

本校の研究や産学官連携の推進に関しては、地域共同テクノセンターならびに全国高専の中でも最大規模を誇る技術振興会の支援等により積極的な取り組みが展開されている。令和6年度には新たにオープンラボ制度を制定した。この制度では企業が校内に研究室を設置する。企業研究者は客員教授として本校の複数の教員と開発研究に取り組む中で、学生の教育研究指導にも関わって頂く。学生は企業技術者の指導の下、実社会での課題解決につながる研究開発を実体験できることになり、その教育効果は極めて高いものとなる。

長野高専では、学外有識者の方々によって構成される参与会を毎年1回開催し、様々な視点からのご意見を頂くことで、地域企業や社会のニーズを教育や学校運営に反映してきている。この外部評価報告書第8報は、第19回、第20回及び第21回の参与会において、その3年間に長野高専が取り組んだ教育・運営システムの点検評価結果ならびに参与の皆様方からいただいた貴重なご助言をまとめたものである。

1. 外部評価実施概要

1. 1 参与会の設置

長野工業高等専門学校（以下「本校」という。）では、1995年に「有識者との懇話会」を設置し、長野県内有識者との意見交換会を開催して、本校の運営に反映してきた。その後、外部評価活動を活性化することを目的として、2002年には「外部評価委員会要項」を定め、同年に第1回外部評価委員会を実施した。さらに、独立行政法人化を控えた2004年には、上述の「有識者との懇話会」及び「外部評価委員会」を整理統合し、新たに「参与会」を設置し、現在に至っている。なお、2003年3月に「外部評価報告書 第1報」、2006年10月に「外部評価報告書 第2報」、2010年6月に「外部評価報告書 第3報」、2013年6月に「外部評価報告書 第4報」、2016年6月に「外部評価報告書 第5報」、2019年6月に「外部評価報告書 第6報」及び2023年2月に「外部評価報告書 第7報」を刊行した。以下に、長野工業高等専門学校参与会設置要項を示す。

長野工業高等専門学校参与会設置要項

（設置）

第1条 長野工業高等専門学校（以下「本校」という。）に学外の有識者から広く意見を求めるため参与会を置く。

（目的）

第2条 参与会は、本校の教育研究活動等の状況について検証及び評価を行ない、本校の自己点検・評価に関する活動を支援するとともに、本校が将来にわたって目指すべき改革・改善の方向性を提言することを目的とする。

（任務）

第3条 参与会は、次の各号に掲げる事項について、校長の諮問に応じて検証及び評価ならびに提言を行う。

- (1) 教育活動に関すること。
- (2) 研究活動に関すること。
- (3) 産学連携・地域貢献に関すること。
- (4) 管理運営に関すること。
- (5) 施設設備に関すること。
- (6) 入学者募集・卒業後の進路指導に関すること。
- (7) その他校長から諮問のあった事項

（組織）

第4条 参与会は、本校の職員以外の者で次の各号に掲げる若干名をもって組織し、参与は、校長が委嘱する。

- (1) 地方公共団体の関係者

- (2) 産業・経済界の関係者
- (3) 教育研究機関の関係者
- (4) 本校を卒業した者
- (5) 本校後援会の関係者
- (6) その他高等専門学校に関してすぐれた識見を有する者

(任期)

第5条 参与の任期は2年とし、再任を妨げない。

(会長等)

第6条 参与会に会長及び副会長を置き、校長が指名する。

2 会長に支障あるときは、副会長がその職務を代行する。

(運営)

第7条 参与会は、校長が招集し、会長がその議長となる。

2 参与会は、原則として毎年1回以上開催する。

(意見の聴取)

第8条 会長が必要と認めたときは、参与以外の者に前条の会議への出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第9条 参与会の事務は、総務課において処理する。

(補則)

第10条 この要項に定めるもののほか、参与会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

1 この要項は、平成16年6月30日から施行する。

2 長野工業高等専門学校と有識者との懇話会設置要項（平成7年12月1日制定）は廃止する。

附 則

この要項は、平成16年11月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

1. 2 参与の委嘱

2021年10月以降に委嘱した参与は以下のとおり。

《2021年10月1日～2023年9月30日》

(敬称略)

設置要項 第4条	氏名	現職	備考
(1)	丸山陽一	長野市教育委員会教育長	
(1)	庄村栄治	長野県産業労働部産業技術課長	
	倉島浩		2022. 4. 1～
(2)	池田明	長野高専技術振興会長 (株)ミマキエンジニアリング名誉顧問	
(2)	小根山克雄	信越放送株式会社取締役相談役	
	渡辺雅義	信越放送株式会社代表取締役社長	2022. 10. 1～
(2)	水本正俊	一般社団法人長野県経営者協会専務理事	
	平林靖久		2022. 4. 1～
(3)	天野良彦	国立大学法人信州大学工学部長	会長
(4)	小河原敏男	長野工業高等専門学校同窓会長	副会長
(5)	倉沢弘二	長野工業高等専門学校後援会会長	
	高橋健也		2022. 4. 1～
	白井幸一		2023. 4. 1～
(6)	柳見沢 宏	NPO 法人長野スポーツコミュニティクラブ 東北 会長	

《2023年10月1日～2025年9月30日》

(敬称略)

設置要項 第4条	氏名	現職	備考
(1)	丸山陽一	長野市教育委員会教育長	
(1)	倉島浩	長野県産業労働部産業技術課長	
(2)	池田明	長野高専技術振興会長 (株)ミマキエンジニアリング名誉顧問	
(2)	渡辺雅義	信越放送株式会社代表取締役社長	
(2)	平林靖久	一般社団法人長野県経営者協会専務理事	
(3)	天野良彦	国立大学法人信州大学工学部長	会長
	香山瑞恵		2024.4.1～
(3)	萱津理佳	長野県立大学グローバルマネジメント学科 准教授	
(4)	小河原敏男	長野工業高等専門学校同窓会長	副会長
(5)	白井幸一	長野工業高等専門学校後援会会長	
	金澤彰		2024.4.1～

<参考>

長野工業高等専門学校参与会設置要項(抄)

(組織)

第4条 参与会は、本校の職員以外の者で次の各号に掲げる者若干名をもって組織し、参与は、校長が委嘱する。

- (1) 地方公共団体の関係者
- (2) 産業・経済界の関係者
- (3) 教育研究機関の関係者
- (4) 本校を卒業した者
- (5) 本校後援会の関係者
- (6) その他高等専門学校に関してすぐれた識見を有する者

1. 3 参与会実施概要

第1回（2004年度）から第19回（2021年度）までの主な検討事項は以下のとおり。

	開催日	主な検討事項	備考
第1回	2004年12月8日(水)	学校運営全般について	※1
第2回	2005年5月26日(木)	教育の現状と課題について	※1
第3回	2006年1月25日(木)	長野高専専攻科の教育について	※1
第4回	2007年1月29日(月)	長野高専各学科の現状と今後の課題について	※2
第5回	2008年2月12日(火)	長野高専のあり方について —高専特別委員会からの提言を受けて—	※2
第6回	2009年1月30日(金)	長野高専の現状と課題 —長野高専の高度化に向けて—	※2
第7回	2010年1月25日(月)	長野高専における教育の質の向上について	※2
第8回	2011年2月9日(水)	長野高専の将来計画について	※3
第9回	2012年2月6日(月)	長野高専における地域社会との連携について	※3
第10回	2013年2月4日(月)	長野高専の国際化について	※3
第11回	2014年7月7日(月)	長野高専の中期ビジョンについて	※4
第12回	2016年2月1日(月)	長野高専における教育の改善に関する取組み について	※4
第13回	2017年2月9日(木)	長野高専における教育・運営システムの点 検・評価について	※5
第14回	2018年2月8日(木)	長野高専の評価の実施について	※5
第15回	2019年2月8日(金)	長野高専における高度化再編成について	※5
第16回	2020年2月5日(水)	国際化について	※6
第17回	2021年2月12日(金)	コロナウイルス感染症拡大防止の本校の取組 について	※6
第18回	2022年2月8日(火)	学科改組の取組みについて	※6
第19回	2023年2月14日(火)	自己点検・評価について	
第20回	2024年1月23日(火)	改組進捗状況について	
第21回	2025年1月29日(水)	新系設置構想について	

(※1：外部評価報告書第2報参照、※2：外部評価報告書第3報参照、
※3：外部評価報告書第4報参照、※4：外部評価報告書第5報参照、

※5：外部評価報告書第6報参照、※6：外部評価報告書第7報参照)

なお、2002年12月25日(水)に、学校運営に係る現状と課題を検討事項として、
参与会の前身ともいえる外部評価委員会を開催した。(外部評価報告書第1報参照)

1. 3. 1 第19回参与会

日時：2023年2月14日(火) 10:00～12:00

場所：長野工業高等専門学校第一会議室

主な検討事項：自己点検・評価について

出席者：

<参与>

天 野 良 彦 [信州大学工学部長] (会長)
小河原 敏 男 [長野工業高等専門学校同窓会長] (副会長)
丸 山 陽 一 [長野市教育委員会委員長]
倉 島 浩 [長野県産業労働部産業技術課長]
池 田 明 [株式会社ミマキエンジニアリング名誉顧問
／長野高専技術振興会会長]
渡 辺 雅 義 [信越放送株式会社代表取締役社長]
平 林 靖 久 [一般社団法人長野県経営者協会専務理事]
高 橋 健 也 [長野工業高等専門学校後援会会長]
柳見沢 宏 [NPO 法人長野スポーツコミュニティクラブ東北 会長]

<長野高専>

江 崎 尚 和 [校長]
濱 口 直 樹 [副校長 (教務主事)]
児 玉 英 樹 [副校長 (学生主事)]
松 下 英 次 [副校長 (寮務主事)]
渡 辺 誠 一 [副校長 (専攻科長)]
古 川 万寿夫 [副校長 (総務主事) /第三者評価対応委員会委員長]
小 野 伸 幸 [副校長 (研究主事)]
亀 井 耕 治 [副校長 (事務部長)]
春 日 貴 志 [工学科情報エレクトロニクス系長]
中 山 英 俊 [工学科機械ロボティクス系長]
酒 井 美 月 [工学科都市デザイン系長 /男女共同参画推進室長]
富 永 和 元 [工学科リベラルアーツ教員院長]
板 屋 智 之 [学生相談室長]
榆 井 雅 巳 [教育改善委員会委員長]
鈴 木 宏 [入試広報室長]
森 田 智 士 [総務課長]
中 嶋 広 隆 [学生課長]

議事：

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介（各参与・長野高専出席者）
4. 校長あいさつ

本参与会は本校の教育研究、学校運営全般に関わることについて、外部の有識者の意見を本校の改革・改善につなげていくことを目的としている。

今年度の参与会は本校で作成した自己点検・評価について意見をいただきたい。

今年度、このようなテーマを選んだ理由は、学校教育法で義務づけられている機関別認証評価において指摘があったためである。

自己点検・評価の内容は、「教育の質保証」「教育環境」「学生支援」「教育カリキュラム」「入試」「研究」「地域貢献」「学校運営」と非常に幅広い内容になっている。議論が絞りにくいところもあるが、評価項目、評価の結果も含めて、忌憚のない意見をいただきたい。

5. 配付資料確認

6. 議事

天野会長から、これまでの参与会と違い、外部評価について、各参与の方々から忌憚のない意見等を伺いたいとのあいさつがあった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により天野会長が議長となり、議事が進行された。

- (1) 自己点検・評価表の評価方法

古川副校長から、「資料No.2 自己点検・評価の方法」に基づき、自己点検・評価の方法について説明が行われた。

- (2) 自己点検・評価の説明

引き続き、配付資料に基づき、長野高専担当者から自己点検・評価の説明があった。その後、大項目毎に質疑応答が行われた。

大項目1：教育の内容質保証（発表者：総務主事）

古川副校長：ディスプレイの表示になりますけれども、大項目1番は教育の内部質保証ということで、番号1、番号2、それから次のスライドになります。番号3と分かれています。番号1は点検改善システムの整備・実施がされていて、結果が公表されているかという観点なんです。それが自己評価は5点になっております。それから、番号2、これは学校の構成員とか外部の方から意見を聞いて学校の改善に生かしているかという項目ですが、これは自己評価が3になります。それから次のスライドですが、番号3、3つのポリシーとなっています。これは入学者募集の方針、それからカリキュラムの方針、それから卒業認定の方針、方針とポリシーと書いてありますが、3つのポリシーが設定されていて、公表して見直しを行っているかということについては、これは自己評価5といたしております。この3つの中から、今日は、最初の番号1番のところ、点検改善システムについて中央のスクリーンで詳しく御説明させていただきます。中央のスクリーンを御覧ください。番号の1番は自己点検・評価にな

りますが、点検改善システムがルール化されて整備されていて、定期的に実施していて、結果をちゃんと公表しているかという項目になります。これは自己評価5といたしておりまして、点検改善システムはこの6項を実施しております。下から御説明しますが、6番の学生への支援体制点検システムということで、これは授業アンケートですとか、満足度調査をして改善に生かしていて、そういったものを使いながら5番の授業改善システムということで、こちらのオレンジ色のところ、ここでPDCAサイクルを回して各教員が授業改善を行っています。そして、4番目のところ、これは各委員会の重点項目の点検システムということで、こちらの青いところになります。各委員会で年度計画とか目標を立てまして、それを実際の教育活動を行ってPDCAサイクルを回しているという点検システムになります。それから、2番、3番ですけれども、これは年度計画ですとか、3つの方針、これは先ほどの3ポリシーとっているものですが、これらを執行会議でプランニングをした上で、各委員会でそれを実施して、その結果を教育改善委員会に戻してチェックをして、また執行会議に戻すというPDCAサイクルで回しています。それから一番上、これは一番外枠の上位の点検システムになりますが、自己点検・評価項目による点検システムということで、これは本日実施しているものですが、執行会議でプランニングをしまして、それを学校全体で実行してみてそれを自己評価した上で、参与会で外部評価をした上で、また学校へフィードバックいただいて、学校で執行会議でまたそれを学校の中へフィードバックしていく、こういったような点検システムをつくって実施しております。以上が大項目の1番になります。何か御質問がありましたらお願いいたします。

天野参与：ありませんでしょうか。

池田参与：定期的というのは、どのくらいの定期なんですか。これ、年度計画が参与会の場合は年に1回なのかなと。その他の定期的にとというのは、どんな周期でおやりになられて、1年に1回だとPDCAは回せないのではないのでしょうか。

古川副校長：基本的に、5番と6番、ここは授業改善の部分ですので、これは年に2回ほど授業アンケートを行っております。それで回しています。それ以上のところ、4、3、2、1のところは、これは1年に1回になっております。

天野参与：よろしいですか。

池田参与：1年に1回だとPDCAになっちゃうんじゃないかな。だから、年度計画を立てて1年に1回見直して次の年度計画になっちゃうんですね。というふうで、CAは回らないんじゃないのでしょうかということです。

古川副校長：分かりました。途中で中間評価、いろいろなことを行ったほうがよろしいという意味合いですね。

池田参与：そのほうがいいんじゃないのでしょうか。

古川副校長：ありがとうございます。

平林参与：今のお話の延長ですけれども、これは階層がみんな違うものだから、最後のところのPDCAは多分1回でいいと思うんですけれども、参与会送りは1回しかないわけだから、でも、その下の階層は回数を増やさないと次に回ら

ないと思います。

古川副校長：2番より下のところですね。

平林参与：それともう一点、前提ですけれども、十二分というのと十分によってどう違うんですか。5と4。

古川副校長：5と4の違いですね。

平林参与：十二分と十分と、それで実施しているが3ですよ。5の評価は十二分という位置づけなんですよ。

古川副校長：5はそうですね。十二分ですね。

平林参与：その意味合いを教えてください。十二分に実施している、十分に実施している、実施している、5、4、3と、これ、非常に曖昧な言い方なものですから、評価のしようがない。もっと定量的な評価が必要じゃないかなと思う。そこを御説明いただきたい。

古川副校長：分かりました。評価というのをどうやってつけるかというので議論がいろいろあって、なかなか難しかったんですけども、十二分というのは一応、点検を実施しているかどうかという観点でつけました。きちんとこういうシステムが出来上がっていて、きちんと実施しているであれば、十二分ということ考えました。十分というのは、十分、十二分と同じなんですけれども、なかなか難しいところなんですけれども、また来年度、その辺よく検討していきたいと思います。

柳見沢参与：お願いします。この後、この質疑応答、意見交換というのを大項目ごとにこういう形でやっていくというようなことで進行されるんですか。

古川副校長：はい。そうです。大項目ごとに3分程度質問になります。

柳見沢参与：分かりました。全体を通して、評価3というのが8か所あるんですよ。ここの教育の内部質の保証が、アンケートが15%ですよ。このことが非常に気になるんですよ。今回の結果ですから、これをどうするかということになるかと思うんですが、15%というのはあまりにも回答率としては低過ぎて、評価の対象にならないんじゃないかとも思うんですが、こちら辺はどういう原因なり、考えられることがあるのか、現時点で教えてもらいたいですね。

古川副校長：番号の2番のところ、ここに回収率15%とあるんですが、これは実は卒業生、修了生に対して郵送で送って、それで回答をお願いしたものなんです。そのため、郵送で送っているんで回答率が低かったということになります。うちの在学生であれば、アンケートを取って何日までに出してねということと言えるんですが、なかなか卒業生ですので、それができなくて15%という数字になっています。

柳見沢参与：失礼しました。これは学生の評価ということではないんです？教員ではないんですか。

古川副校長：教員ではないです。卒業生と修了生になっています。これ、今ここにあげてあるものですね。

柳見沢参与：そうすると、ここに示された自己評価・点検というのは学生の評価ということで判断してよろしいですか。

古川副校長：番号の2番ですよ。これは学生も含んでいます。学生と、それから

卒業生とか、それから学校の外部の方、そういった意見を収集してということで、取りあえず今ここには卒業生と修了生しか書いていないんですけども、あと企業も書いておりますけれども、そのほか在校生に対しては満足度調査などをしております。

柳見沢参与：分かりました。そうすると、点検項目の1と2、これも全て学生の評価ということなんでしょうか。要するに、自己評価しているのは、学生の評価に対して、今評価を求められているのか、それとも教員の方の評価で判断している資料なのか。先ほど外部評価ということもあったんですけども、誰を対象にして評価し、まとめてきたのかということが分からないものですから。

古川副校長：学校の運営、教育の運営の仕方に対する評価になりますので、こちらの表にまとめてある評価になりますね。

柳見沢参与：そうすると、その運営というものが、学生がそれを把握しながら評価するということが可能なのか。私は、これ、高専に勤務される方の、教員の質を見るための評価なんじゃないかと思ったんですよ。そうしないと、この内容から学生がこれを見て評価してくださいと出すのは、どういうアンケートを取られたか分からないんですが、そこが見えなかったものですから。

古川副校長：これは学校全体の運営で、教員の質もありますし、それから学校の施設ですとか学校の運営方針、運営の仕方とか、それから我々の授業の仕方とか、その辺の評価になります。

柳見沢参与：ですから、何か評価するときの、誰を対象に評価するかというと、それは項目をやはりきちっとそれに対応するようなものを求めないと、なかなか学生と教員との立場で、同じアンケート基準、または評価基準で評価するというのは実情を見ることは難しいんじゃないかと思うんですけども。これ、高専機構からこういう形でやってくれという指示で出ている内容というか、形式なんですか。

古川副校長：そうです。最初の点検項目、高専機構から来ている、高専認証評価の点検の内容がありまして、それを基にしてつくられた点検項目になります。

柳見沢参与：それで、学生も同じものを評価しているとやってきているということなんですか。

古川副校長：ここには基本的に学生の評価はなくて、学生が学校でどんなふうに満足しているとか、学生が授業に対してどういうふうに思っているとかということ吸い上げて、我々がそれを授業の改善に生かしているかどうかという観点の評価です。

柳見沢参与：そうすると、学生にやった評価というのはまた別のものがあって、その回答率が15%だという判断ですか。

古川副校長：この15%は学生ではなく卒業生、修了生に対して、学校でやってきた教育、教わってきたことが社会で生かされているとか、社会に出て自分が高専を卒業してどんなふうに学校で学んだことが生かされているとか、そういったようなことを聞いたものになります。番号2番のここに書いてあるものは。

柳見沢参与：学生さんにどういう評価というか、どういうものを求めたかというこ

とが分からないので何とも言えないんですけれども、いずれにしろ15%というのは低過ぎるなという感想を持ったものですから。ありがとうございました。
古川副校長：ありがとうございました。

天野参与：ありがとうございます。内部質保証は非常に文科省でも今求められているもので、一番は多分学生がDP・CP等に合うように、一定レベルが確保されているかどうかというところが多分内部質保証の一番大事なところで、そのためにいろいろな項目があるのかなと思っています。多分学びの履歴書みたいなものがあるって、例えば、就職するときそれぞれの人それぞれを持って企業へ自分の学びはこうであったということを出せるというようなことを文科省で多分今出せという話になってきていて、私どものところも今それに対応しているんですが、なかなかこれが難しい問題ではあるかなと思います。この大項目1のところではよろしいでしょうか。項目が幾つかありますので、項目を進ませていただいて、また全体のところで議論をさせていただければと思います。それでは、次の項目をよろしいでしょうか。

大項目2：組織及び教員・教育支援者（発表者：教務主事）

濱口副校長：次の項目、大項目2につきまして、教務主事、濱口から御報告させていただきます。まず、小項目でいうと4から7までになります。こちらを説明させていただきます。まず、4ですが、教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているかという項目になります。こちらについては評価4ということで点検をさせていただいております。5番目の教員等の配置になります。準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているかということにつきましては評価4とさせていただいております。こちらは後ほど大きな画面で説明させていただきます。6番目、教員の評価についてです。教員の採用や承認に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育・研究活動に対して定期的な評価が行われているかという項目になります。こちらについては自己評価を4とさせていただいております。7番目がFD活動、FD・SD活動が実施され、改善等に結びついているかということで、こちらにつきましては自己評価を3とさせていただいております。この3の理由としましては、支援等の具体的な評価手法、こちらが定まっていないという自己評価ということで、教育及びその支援等の具体的な評価手法について今後検討していくという改善点をまず挙げさせていただいております。では、5番に戻りまして、教員等の配置となります。大きな画面で、こちらには教員の配置ということで教職員数を挙げさせていただいております。こちらは準学士課程において、本科のほうですが、一般及び専門の教員を各科目担当者として配置、必要に応じて技術支援部より技術職員を配置しているということになります。技術支援部、一番下の合計の上でございますが、15名ということになっております。括弧内は女性数ということになっておりまして、こちらも御覧いただければと思います。専攻科課程においては、生産環境システム専攻に機械工学、電気電子工学、土木工学を専門とする教員、電気情報システム専攻には電気電子工学を専門とする教員を配置しているという形になっております。こちらの自己評価につい

ては4ということで、今後も、令和4年度に学科再編を行っております。このカリキュラムに従い、学科再編による変更点を確認しながら今後も適切に配置していくという予定としております。大項目2の説明については以上となります。御質問等ありましたらよろしくお願ひいたします。

天野参与：いかがでしょうか。私から1点、この教員の組織というのは、あくまでもこの課程に張りついていて、専攻科というのはまた別というか兼任という形で考えたらよろしいでしょうか。

濱口副校長：そうですね。専攻科にも適切に兼任の形になります。

天野参与：分かりました。何か皆さんからございますでしょうか。もう一点、FDのところが3ということで、このFDが、私どものところもなかなか難しい問題だなと思っていて、FDはもちろんいろいろなことをやっているんですけども、その効果をどうはかるかというのは非常に難しいところだなとも私も思っております。そこら辺の評価手法というのは非常に効率的なものがあるかどうかというのは難しいけれども、何らかのものはしなければいけないというのも確かかなとも私も思っておりますけれども、ぜひ御検討をよろしくお願ひします。

濱口副校長：ありがとうございます。

天野参与：ほかはよろしいでしょうか。そうしましたら、また全体でありましたらお願ひします。では、3番目の項目に移らせていただきます。

大項目3：学習環境及び学生支援（発表者：総務主事、教務主事、学生主事）

古川副校長：では、大項目3、学習環境及び学生支援ということで御説明いたしますが、この大項目3は番号がたくさんありまして、3名の担当者からそれぞれ分割させて御説明させていただきます。まず、私は番号8、9、10についてになります。番号8は、施設とか設備の整備・活用がきちんとした安全とか衛生管理の下行われているかどうかということで、これは自己評価4。それから、番号9、これは、ICT環境が適切な情報セキュリティ管理の下で整備されて活用されているかどうかということで、これは自己評価4。番号10は、図書類の収集とか整備・活用、これがきちんとなされているかどうかということで、自己評価4とさせていただきます。この中で番号9のICT環境とか情報セキュリティのところについて中央のスクリーンで説明させていただきます。まず、ICT環境について、学生に対する満足度のアンケート調査を令和3年度に行っております。その中の設問の2番に、本校のICT環境について満足していますかという設問がありまして、それに対する回答はこちらです。やや満足と満足、これを合計すると約80%の学生が回答しておりまして、ほぼ満足される環境になっているんだなと考えています。ただ、一方で、不満、やや不満を合計すると約20%になりますが、不満もないわけではないと。その設問の自由記述のところ挙げていただいたのがこれらなんですけど、ネットワーク環境の通信が不安定とか、それから、学校の無線LANにタブレット端末をつなぎたいとかいろいろな要望があります。それから、教室のプロジェクターが暗いとか、そういったものがありますが、ネットワーク環境に関しては、通信速度に関しては今年度夏に整備いたしました。それから、教室のプロジェクターについては、また予算がつき次第、順次明るいものに

変えていっております。それから、セキュリティーですけれども、パスワードポリシーの遵守とか多要素認証の実施とかウイルス対策ソフトなどを使ってセキュリティーを強化しております。それから、ネットワーク接続は申請許可制、それからこういったセキュアが、これはIEEE 802.1X認証というセキュアなネットワーク環境も使っております。それから、学校の集合してやるパソコンを整備して、絶えず新しいものに公費で更新していくというのはなかなか難しいところがありまして、令和3年度からBYODのPC、学生にノートパソコンを購入していただいて、その学生所有のPCで授業を受けていただくということを始めました。これによって費用負担がかかるんですけども、新しい情報環境を使いながら学生が授業を受けていくということができるようになってきています。以上で終わります。何か御質問ありましたらよろしくお問い合わせいたします。

天野参与：いかがでしょうか。

池田参与：学習に使うためのパソコンだとかそういうのを各個人が使えるんですけども、それは学ぶために使うのと、個人で使う場合がありますよね。個人で使うものもどの程度個人に守るのか。そこにあるデータというのはどなたかチェックして、好ましくない情報なんかがあったらまずいよ、というのも言うのかどうか。その辺に、学生が学ぶために使う、そうでない別な目的で使う、ここを皆さんはどういうふうに監視というのか見るのか、そこで何か起きたらその情報ってどんな扱いをされるのか、その辺をお伺いしたい。

古川副校長：例えば、学生が自分のスマホでSNSを使っていたりとか、スマホでいろいろなウェブを見たり、いろいろなところに情報発信したいという部分の話になりますかね。

池田参与：例えば未成年の学生がお酒を飲んでいる写真が出たとしたらどうされます？

古川副校長：その場合は、学校で把握した場合には、本人に事情聴取して、その内容によって学校の……。

池田参与：ですから、把握するには周期的に監視されるということですか。

古川副校長：監視はしていません。学校として……。

池田参与：しないと、何が入っていてもいいんですね。

古川副校長：よくはないんですが。

池田参与：とんでもないものが載っていても全然見ないわけだから、使うことができるわけですね。

古川副校長：学校としてのウェブとかそこには一切学生は情報を載せられません。

池田参与：そういう記憶する部分がないんですか。例えば、学生が実験した実験データを入れておくところがありますよと。これを別の目的で使って、どなたも見られないとすると、不正アクセスからいくと、何に使われているか分からないですよ。大丈夫ですか。

古川副校長：学校としては、そういったものはウェブに置くようなことはしていなくて、基本的にグーグルドライブとか、マイクロソフトのワンドライブのようなものですが、それを学生が使っている形ですね。

池田参与：個人のメモリに勝手に入れなさいよという形になっているということですか。

か。

古川副校長：そうです。

池田参与：分かりました。

天野参与：ほか、いかがでしょうか。情報セキュリティーの問題は非常に大学も大きくて、個人管理の問題と公的なもの、しかも研究データとかいろいろな公的なものをどうやって保存していくかというのは、今大変な問題になっていまして。

池田参与：高いものは難しいですね。

天野参与：そうですね。非常にこれは悩ましい問題だと思います。ほかはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。なければ次の項目に移らせていただきます。

濱口副校長：それでは、11から13番まで、大項目3、学習環境及び学生支援の部分の前半になりますが、再び教務主事、濱口から御説明させていただきます。11番につきましては、新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設、設備等に関するガイダンスを実施しているかという点検項目となります。こちらにつきましては、それぞれ実施しているという自己評価4となっております。様々な変更点を含めて、適切にガイダンスの実施を継続していくということにしております。12番、後ほど説明させていただきますが、学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているかという項目となります。13番は、特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているかという点検項目となります。こちらにつきましては、入学前の調査、保健調査票による保護者からの申出等をはじめとして、それぞれ特別な支援の確認、必要な学生の確認を行って進めております。自己評価としては4とさせていただいております。今後も学生一人一人の状況に応じて支援を行っていくということで継続をしていきたいと考えております。それでは、12番に戻りまして、学習環境及び学習支援のところの学生の自主的学習を進める上での相談・助言等の体制となります。こちらにつきましては、準学士課程においては学級担任制により学生の相談、助言を行っております。学級担任制をしいておりますが、非常に学生に近い立場ということで、学級担任業務ガイドというものをつくりまして、こちらを参考資料に学生に対して担任を中心に学年団というまとまりであったり、または学科単位の相談に対して教員の中での相談体制も進めていただきながら学生一人一人に対応しているということになります。また、メール目安箱等、学生の意見や苦情を受けるシステムというものが構築されていて、対応は遅延なく行われているということを確認しております。また、専攻科課程については、専攻長及び専攻科長が相談、助言を行っております。専攻長というのは準学士課程というと、学級担任に当たる専攻科の教員ということになります。今後も学級担任ガイドブックの確認、見直しを継続して進めて、学校としての体制、学生に周知する仕組みを今後も検討して進めていくということにしております。私からの説明は以上です。御質問等ありましたらお願いいたします。

天野参与：いかがでしょうか。お願いします。

小河原参与：今のメール目安箱とか学生の意見や苦情というのがあるんですけども、これは大体年に何件くらいあるんでしょうかということのと、それと、その下の13

番の入学前に保健調査票による保護者から云々の入学時の支援可能な体制を整えているということがあるんですが、これも全体の今の学生の中で何人でも何%いいんですけれども、どのくらいおられるんでしょう。

濱口副校長：まず、後半の部分の御質問についてですけれども、入学前に保健調査票によって、例えば、入学式の前に相談を希望するとか、入学式の日には保護者の方が見えたときに保健室で相談を希望するとか、そういうところ、まず、保健調査票を入学書類と共に郵送していただくんですけれども、そこに記述があったときに学校から電話で連絡を入れまして、そういうことを必要でしょうかというような話をしたりしております。毎年10件程度ぐらいだと把握をしております。後半についてはそのような形になります。また、メール目安箱の件数についてですけれども、21年度、昨年度は21件、今年度については14件ということで対応をしているということになります。

小河原参与：ありがとうございました。

天野参与：ほかはいかがでしょうか。

渡辺参与：伺いたいんですが、コロナ禍でやっと経済が上向き始めたんですが、学生の相談の件数というのはどんな推移で来ているんですかね。

濱口副校長：それにつきましては学生相談室長からお願いします。

板屋学生相談室長：学生相談室長の板屋と申します。よろしく申し上げます。まずは、本年度の学生相談室の件数が、学生及び保護者からの相談を全部含めまして、これは先週末までで310件です。そのうち学生の相談が230件です。昨年度は大体200弱、その前の年がコロナで学校が途中でオンライン授業とかがありました件でかなり少ない年もあったんですけれども、大体200を超えております。学生自身の相談が200を超えております。以上です。

渡辺参与：あわせて伺いたいんですが、この大項目3のその2にあるいじめの関係とか、こういう類いの相談が多いんですか。

板屋学生相談室長：いじめに関しては、もしあった場合にはいじめ対策委員会がありまして、そこで話し合うことになってますが、いじめに関しても、いじめアンケートは大体、嫌な思いをしたかどうかという確認は年4回やっておりまして、実際いじめアンケートは詳しくは前期後期1回ずつやっておりまして、今年度は多少未然防止というところでいじめに発展する前に対処していて、実際にいじめが起こったというのは今年度は実はそれで議論したことはありません。昨年度は1件ありました。

渡辺参与：ありがとうございます。こういうことで相談が多いという傾向みたいなものというのはございますか。

板屋学生相談室長：相談内容ですけれども、勉学不振とか、あとはメンタルの、いろいろメンタルが落ちるといいますが、あとは家族との関係ですか、そういうところが主な相談内容となっております。

渡辺参与：ありがとうございます。

天野参与：よろしいでしょうか。まだ項目がたくさん残っているので、次に進ませていただきたいと思います。

濱口副校長：ありがとうございました。

児玉副校長：よろしくお願いいたします。学生主事の児玉といいます。本校には学生支援委員会という組織がございまして、次に挙げます4本柱をメインとして業務を遂行しております。1つ目が、就職や進学に対する進路指導、それから問題行動などに対する生活指導が2つ目、3つ目は奨学金ですとか授業料免除などの学生生活の支援、4つ目として学生会活動とか文化祭ですとか、あるいは課外活動などの支援を行っております。こちら、今メインでお示ししていますスライド、同じものを手元にも資料があると思われませんが、本日はその中で特に4つ目に挙げました課外活動支援について報告させていただきます。テーマは課外活動に対する支援が適切に機能しているかと書かせていただきました。まず、根拠資料に今までも出てきていますが、マニュアルですとかガイドラインですとか、たくさん登場してきますので、長野高専の教員は教科書がないと動けないのかと感じられる向きもあるかもしれません。電気科ですとかあるいは機械科、特に専門学科の先生方は大学の博士課程を出て研究機関に勤めた後に本校に着任されたり、企業に複数年お勤めになってから本校に来られたりする方もいらっしゃいますので、冒頭で申し上げた学生支援委員会、私どもが担当しております業務に関しては、経験が不足する場合もございまして、支援が不十分で学生の不利益とならないようマニュアルですとかガイドラインなどを作成して業務を進めております。スライドを見ていただいて、左側、支援体制の3項目めに書いてございます令和4年の3月に長野市の北部地域で活動を展開されております3つの総合型スポーツクラブ、北部スポーツクラブ連合と包括連携協定を結ぶことができました。スポーツクラブの会員に長野高専の体育施設が空いている時間帯にその場所をお使いいただいたり、逆に長野高専の課外活動をスポーツクラブのスタッフに指導いただいたり、ウィン・ウィンの関係が構築できればと考えております。また、卒業生中心に外部指導者として登録いただきまして、技術指導などサポートをしていただいております。令和4年度に関しては17の団体や24人の外部指導者から支援や指導をいただきました。続いて、スライドの右側ですが、御覧ください。中学の部活動が令和5年度から3年間で地域に移行されるというニュースをお聞きになられていると思います。高専の課外活動に関しても例外ではございませんで、支援の質が低下しないようにしつつ、業務負担の軽減を模索しております。令和2年の秋から課外活動指導員と呼んでおりますが、非常勤職員を2名雇用しまして、土日など休日の課外活動に関してはその団体の顧問が登校し、見守り等の指導を行わなくても大会やコンテストに向けた活動を行えるようにしました。さらに、令和4年の春からは、ちょうど1年たとうとしておりますが、平日の放課後、17時以降の勤務時間外に関しても、課外活動指導員が緊急時対応を行えるよう指導員の数を増員して対応しております。また、団体の名前は一覧表に書かれているが、実際の活動が充実していない団体、いわゆる幽霊部員と申しましょうか、幽霊団体に関しては整理を行えるようにスライドに書いてございますが、団体活動の継続に関する許可基準を定めまして、年度末に審査を行い、評価の低い団体に関しては解散ですとか降格などの指導が行われるようにいたしました。団体の数の最近の増減に関してはスライドに書かれたとおりでございます。以上で説明を終わります。

天野参与：御質問、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、まだありますので、次の項目に移らせていただきます。

大項目4：準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果（教務主事）

濱口副校長：それでは、再び、三度ですが、濱口から説明をさせていただきます。大きなA3の資料7ページ分の4ページということになりますが、こちら全て18から27の中から主には19と20について説明をさせていただきます。18につきまして、点検項目はカリキュラムポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているかということで、自己評価は4、学科再編のカリキュラムについて、さらに整理を進めていくということにしております。飛ばしまして、21番のカリキュラムポリシーに沿って適切なシラバスが作成され、活用されているかということで、授業の最初に説明を含めまして、カリキュラムポリシーに沿って到達目標を記したシラバスを策定して活用しているということですが、再編によって少しウェブシラバスの十分な対応等の部分で点検、整理していかないといけないところが残っているというところで自己評価を3とさせていただきます。成績評価、進級及び卒業判定についてですが、番号22、成績評価、単位認定、卒業認定の基準等が学生等に周知されているかというところで、自己評価は4ということで、こちらは必要に応じて改善を進めていくということを確認をすることにしております。23番、成績評価は適切に行われているかということで、こちら点検どおり、自己評価のとおり、4ということで、点検がより効果的に運用できる体制を検討するとしております。24番、進級判定、卒業認定が適切に行われているかということで、学年末、成績判定会議を開催しまして、資料を作成し、教員会議において確認をしているということ、自己評価を5としております。25番、学習教育の成果ということで、ディプロマポリシーに沿った学習教育の成果が認められるかということで、こちらにつきましては自己評価を4としております。必要に応じた改善を進めることとしています。26番、卒業時の学生及び卒業生、進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマポリシーに沿った学習、教育の成果が認められるかということで、自己評価を3としております。こちら、先ほどもお話にございました回答率の改善に向けて、また新設した教学IR室を中心にさらに体制を整えて整備していくということにしております。自己評価は3としております。27は、卒業後の進路状況から判断して学習教育の成果が認められるかということで、進路先等を確認しつつ、自己評価を4とさせていただきます。大きな画面の方ですが、上に戻りまして、19番と20番になります。19番、左側が教育課程には学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているかということで、こちらは自己評価4とさせていただきます。現状、実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験実習、卒業研究などにより、課題の発見能力、解決能力及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成しております。今後、学科再編によって、左側の図にありますが、こちら学科再編の図になります。工学科は1学科となりまして、今後はエンジニアリングデザインという項目のところで、

2年生、あるいは4年生で、クラス、分野を超えた形の授業というものを設計して進めていくということにしております。こちらは新しい形の、これまでにない学科再編後の科目ということで、計画をして進めるということにしております。また、下の方では、今日、注目されている分野でありますデータサイエンス、あるいはリベラルアーツ教育にも力を入れていくということで、進めるということになっております。今年度1年生、学年末を初めて迎えているということになります。また来年度の1年生、また2年生に進む、工学科の新しい2年生に対しましてもしっかり教育活動、新しい形の活動をしていくということになります。右側、番号20になります。教育内容に応じた適切な学習指導、途中指導上の工夫がなされているかということで、自己評価を4とさせていただいております。主体的な学習活動に向けた教材の利用や新たなオンライン教材の活用、遠隔授業でも利用できるカメラやPCの設置など様々な工夫を行っているということの現状になっております。少し写真を載せさせていただいておりますが、コロナ禍で新しい教育の手法というものがどの大学や高専でも、また中学校や小学校でも扱われております。こちら、我々も教員としてのいろいろな技を身につけたという部分もあります。これらを例えば家庭学習に利用したり、新しい説明の方法としたいということで、今後も取り入れて進めていくということになろうかと思えます。こちらは根拠資料にも挙げさせていただいているんですけども、授業公開のときに教員相互で参加をしているところの教員のコメントの中に実は出たりしているんですけども、こういうところが参考になった、新しい先生方、それぞれが工夫される技というものを教員相互に参加して自分のところでも取り入れるとかというようなことも行っているということになります。私からの説明は以上になります。御質問等よろしくお願ひします。

天野参与：御質問等ありましたらお願ひします。私から、ここは多分すごく項目が多くて、学びの質保証のところとかなりかぶるところが多いなと思うんですけども、これはこのままの項目でいいんですかね。もう少し整理ができないのかなというような気はしたので、というところで、自主的なものとならなければいけないんですけども、それともう一点、ディプロマポリシーで質保証というところの中でそれを確保するためのカリキュラムのポリシーとか授業へのひもづけというのが多分これから求められるのかなと思って我々もやっていますけれども、そこら辺は、今、作業はされていますか？

濱口副校長：これまでもディプロマポリシー、今、3ポリシーをしっかりと整理ということで注目されている前の段階から学習面に対する学習教育目標ということで、目標を設置しまして、それと各科目がひもづいているというような状態になっております。これがディプロマポリシーの中の例えば専門科目であったり一般科目であったりというところの理解というものがディプロマポリシーの中に入っているというような形、各科目との対応ができているという形になっています。

天野参与：分かりました。

平林参与：実は23番と24番について確認したいんですが、成績評価が適切に行われているかが評価4で、その評価を基に進級判定等をするわけですね。これは5なんですかね。というか、これが分かれること自体がよく分からないんですね。

これは矛盾があると思うんですが、いわゆる成績評価はちゃんと行われていなければ進級判断はできないんじゃないかなと。だから、この項目を分けた意味を、4と5にした、さっき言われたみたいに評価が曖昧過ぎるものだから分からないんですけれども、成績評価をちゃんとしないと進級判定並びに卒業認定が適切に行われているかというところは共通じゃないんですかねと思います。

濱口副校長：ありがとうございます。先ほどの項目の整理というところも関係してくると思います。成績評価が適切に行われているかということで、まず、科目の成績評価についてはシラバスどおりということで、科目担当者による学生の成績の評価ということになります。こちらが正しく行われていることを成績評価履歴、あるいはその根拠となる資料を確認しながらそれを行っているということになります。項目としては、作業としては、そういう形になります。進級判定、卒業認定というところにつきましては、学校全体ということで、判定資料を見て、それを教員会議、成績判定会議、卒業認定会議において認定しているということになります。先ほどの自己評価の上が4で下が5というのは確かに違和感ということもあるかもしれないので、ここは項目の整備というところと併せて観点のところも整理していかないといけないと思いますので、こちらについては再度確認をさせていただきたいと思います。

池田参与：1年次から2年次に行くときに、専攻の選択というのはそれぞれが勝手にできるんですよね。アンバランスが起きちゃうとどうするんだろうなという。

濱口副校長：新しい1年生が12月に希望を取って、そこから調整を行いまして、おおよそ順番にいくと、情報エレクトロニクス系が2クラス、80人程度、機械ロボティクス系が80人程度、都市デザイン系が40人程度ということで、まず、1年生に周知しまして、希望調査を行うということになります。今回、それ以前に2回予備調査のような形で、年度途中で行っておりまして、最終的に4名の学生に対して第2希望に移動してもらおうというような調整となりました。そこにつきましては、担任との面談という形で、機械的な形ではなく、進めたという形になります。

池田参与：辞めちゃう可能性もあるけれども、それはそれでしょうがないねと。

濱口副校長：そうならないように話をさせていただきながら進めていただいて。

池田参与：せっかく高専に入って、こういうところへ行きたいんだと言って入ったんだけど、あとは説得されて残りますか、自分の意思を通しますかという判断を二、三回やりますよと。要するに、入学するときを選んでくるんじゃないくて、2年になるときに選ぶんですよねとおっしゃっているんですよね。

濱口副校長：そうですね。入学の段階でもう既に決めていたという学生も当然いたり、入学のときとは変わってこちらを希望するという学生も結構多い数ありました。入学時には決まっていなかったという学生もいました。いろいろな学生がいて、実際に1年生に入って、それぞれの分野の内容をしっかりと理解した上で変わった、あるいは変わらなかった、それぞれ一定数いて、中学校の段階で選ぶというのは難しいということはあると思います。実際に話を聞いてみると、こっちの分野だということに変わった学生がおりましたので、選択としては、行けなかった子がいるのは我々も残念な部分はあるんですけれども、選択するという部分については

これまでよりは情報としては与えられたかなと思っております。
天野参与：よろしいでしょうか。まだまだ項目が残っておりますので、先に進ませて
いただきたいと思います。それでは、次の項目をお願いします。

大項目 5：専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果（専攻科長）

渡辺副校長：よろしくお願いします。専攻科長をしております渡辺といいます。A3
の大きい自己点検・評価の項目の5ページ目のところの資料が専攻科に関連する
ものになっていまして、項目が28番から37番という項目になっています。それ
ぞれの点検項目、28から37については、先ほど濱口から説明させていただきました
準学士課程と同様の項目になっています。本科の場合には卒業という項目を使っ
ていますが、専攻科の場合にはと修了という項目になっております。もしかすると
御存じない方もいらっしゃるかもしれませんが、御説明させていただきますと、
専攻科は本科5年間の課程を修了した後に2年制の教育課程になります。その2年、
ちょうど大学の3年生と4年生の課程が本科の5年の上についておりまして、2年
間修了しますと、大学改革支援・学位授与機構から学位が授与される、または、
もう一つ、本校は豊橋技術科学大学との連携教育プログラムというのを実施して
おります。そちらのところとちょうどダブルディグリーといっているのかどうかあ
れですけれども、ちょうど本校の専攻科と豊橋技術科学大学に同時に入学いたしま
して、同時に入学した学生は豊橋技術科学大学から学士、いわゆる大卒の資格を
もらうというような制度になっております。各それぞれ、ちょうど28番、29番が
教育課程の編成につきましては、2つとも自己評価4で評価させていただきました。
続きまして、30番、31番のところの授業形態、学習指導法につきましても、
ともに4で評価させていただいております。続きまして、32番、33番、34番の
成績評価、修了判定につきましては、最終的な34番の修了判定については5で
評価させていただきました。あとの項目については4で評価させていただきました。
特に成績評価の点検というのは、各教員が成績をつけたものをエビデンスとい
う形で提出いたしまして、それを教育改善委員がちゃんとシラバスどおりに評
価されているかというのを、ある意味目視的にチェックしていますので、もう少
し効率的に検討できるような体制ができないかなというところがあります。最後
の項目が35から37番の学習教育の効果につきましても、全て4と呼んで評価さ
せていただきました。今回中心で説明させていただきますのは、37番の学習教育
の効果について御説明させていただきます。この表につきましては、過去5年間
の専攻科の学位取得状況と進路決定状況になります。平成29年度から昨年度
令和3年度までのものになっています。専攻科の1学年の定員が20名になって
おります。大体学位授与機構から130%以内に下さいという指導をいただいて、
今年度27名と、昨年度は27名でした。昨年度からちょうど連携教育プログラ
ムの学生が2名在籍していましたので、27名中25名は大学改革支援・学位授
与機構で学士を取得しました。また、2名につきましては豊橋技術科学大学か
ら学士を取得したという形になります。進路状況につきましては、専攻科の特
殊なところもあって、就職が大体8割で進学が2割というような状況になって
います。昨年度については進路決定率100%

という形になっています。そのほかも、進路決定率は100%と、修了者については100%になっているところなんですけれども、年によって休学とかそういうのが出てきまして、学位取得率が100%になっていないというような年度が出ております。以上です。

天野参与：何か御質問ございますか。特にここはよろしいでしょうか。それでは、次に進ませていただきます。

大項目6：アドミッションポリシーに沿った学生の受け入れ（入試広報室長）

鈴木入試広報室長：アドミッションポリシー、いわゆる受入れ方針に基づいた学生の受け入れについて、本科と専攻科について説明させていただきます。入試広報室長の鈴木です。よろしくお願いいたします。専攻科のほう、ここはアドミッションポリシーにのっとったということで、専攻科と本科は同じ項目で評価しております。まず、41番が適切な選抜方法、42番が入学選抜の改善、43番が受験者数増加対策というような形になっております。おのおの評価が4、3、3という形になっています。適切に選抜が行われていますが、42番、改善法が具体的な例がないということと、あと、43番は先ほどの話で130%を超えているということになります。これは専攻科です。本科のほう、2枚戻っていただいて、こっちも適切な選抜方法ということでやっていますが、選抜をしているんですが、改善する余地があるということで3にしております。39番は入学者選抜の方法、ここは先ほどの話にありました教学IR室の新設につきまして、これまでの検証を進めていっているところですので、評価を3にしております。次、40番について詳しく説明したいと思います。40番におきましては、受験者数の増加対策ということで、そちらの大きな画面に示してありますように、本校主催のイベントとして3つ実施しております。1日体験入学として、中学生の3年生を本校に呼びまして、新学科の体験ですとか学校説明会を423名に行いました。その2つ下、秋の説明会というのも行いまして、これも学校説明と授業見学及び施設見学を90名の生徒さんに行っております。真ん中のところのオンライン進学説明会は、これは中学校の先生に対してオンラインで説明会を実施しました。84人の先生が参加しております。下のほうは中学校からの依頼でのもので、まず、直接中学校から本校に依頼がありまして、本校の先生が中学校に直接訪問して中学3年生に対して説明を行うというのが3校ありまして、人数が多くて445名です。あと、個人とかからの申込みがあって学校を見学するというのが7件、あと先輩の話を聞くとかというので本校の学生が中学校に行き、中学3年生を対象にお話をするというのが7件ありました。このような形で行っております。先ほどの説明会の話はウェブで公開しておりまして、そこから見ることもできますし、あとサイエンスツアーという形で出前授業という形で申し込んで高専を多くの小中学生に知ってもらうという機会をつくっております。しかし、受験者数の対策に対してはまだまだ改善する余地がありまして、今年度新しく入試広報室を立ち上げました。入試広報室で新たな手法を始めているところですが、なかなか倍率が上がらないのは事実ですので、もうちょっと中学生に来ていただければなと思いますし、あと女子学生の増加も今考えているところです。以上です。

天野参与：何か御質問ございますでしょうか。

丸山参与：長野市です。お疲れさまでございます。いろいろと体験入学ですとか出前授業、公開講座ですとかいろいろやっていただいて本当にありがとうございます。我々も今、義務教育の中で、基本的にはもうちょっと理工系へ進む学生といえますか、生徒を増やしたいと。要するに、理科とか科学とかITとか、そういったものに興味を持たせるようなことをやろうということで、R5年からスーパーサイエンスプログラムみたいな形でやろうとしておりますので、また御協力いろいろとお願いしたいと思うんですけれども、特に今、鈴木先生からそんなに、これだけやられても受験者数が伸び悩んでいる、あるいは女子が少ないということなんですけれども、具体的に数字的にどのぐらいなんですかね。

鈴木入試広報室長：女子学生は、ここ5年間で大体38から42人くらいとか、20%ですね。ずっと横ばいになっております。工学科が1学科になって少し増えるかなと思ったけれども、今年の1年生は38人という、例年どおりということになっています。

丸山参与：分かりました。今も申し上げたとおり、これから初等・中等教育においても理科好きをもっと増やして、特に女子なんですけれども、優秀な子は本当にたくさんいます。ただ、国もそう言っていますけれども、もう少し女性の活躍できる、理系へ進む子をぜひとも増やしていきたいと思っていますので、またいろいろと御協力のほどよろしくお願いしたいと思います。

鈴木入試広報室長：こちらもよろしくお願いいたします。

天野参与：ほかはいかがですか。

倉島参与：要望というか、県なんですけれども、他高専の取組としまして、同窓生、卒業生に対してホームカミングデーだったかな、40歳前後、要はお子さんがちょうど中学卒業前後の卒業生に対しまして、学校から案内を出して、学校のまた説明とかそういう活動をされている高専があります。そんなことも検討していただいて、また、入学者数の増加に活用していただければと思いますので、新たな手法ということの中でひとつ御検討いただきたいと思います。

鈴木入試広報室長：ありがとうございます。ぜひ参考にしたいと思います。

天野参与：もう一方、お願いします。

柳見沢参与：お願いします。先ほど部活動の支援のところに関わらせてもらっているスポコミなんですけれども、週1回ぐらいは今高専へ来て、活動の場を提供いただいてやっているんですけれども、高専の魅力ってすごくあるように感じているんです。生徒の質が非常に高い。これはすごい魅力になると思うんです。だから、何かもう少し発信の仕方をすると、高専の魅力が伝わりながら子供たちが集まってくるという状況はきっとあるんだろうなと思うんですが、そんな中で、38番のところで、選抜実施の子供の気持ちと何か一致しないで入学しちゃっているところの改善の余地があると評価されて3なんですけれども、これは具体的にどんなようなことでこういうことを感じられているのか、ここら辺をもう少し教えてもらいたいのが一つと。それから、先ほど入試広報室というのはここで言っているIR室という、IRというのがよく分からないんですが、そのことなのかなと思ったんですが、2点を教えていただきたいんですが、お願いします。

鈴木入試広報室長：アドミッションポリシーというのは科学、数学、理科、英語がよくできる人と、あとは科学に関心を持っている人ということで選抜しているんですけども、必ずそれら全てがについて入学選抜に関わっているかというのは、まだ疑問するところがあります。改善するところがあります。特に学力選抜は単純に成績だけというか、ペーパー試験だけで取っています。推薦の場合は面接とかがあるんですけども、そんなようなところでもうちょっと適切な評価ができるかなということで今考えているところです。そういうことを考えるに当たって追跡調査、入ってきた学生がどのような形で本校の教育を受けているかということで、そういうことを分析する部屋が教学IR室です。分析室みたいなおところですね。そういうところで分析をして検証を進めていながら入試改革とか入学者の人数をたくさんになるようなことを考えているところです。

柳見沢参与：ありがとうございました。

天野参与：よろしいでしょうか。それでは、次の項目、よろしく申し上げます。

大項目7：研究活動の状況（研究主事）

小野副校長：それでは、大項目7番、研究活動の状況ということで私から説明させていただきます。まず、番号の44番ですけども、研究体制と支援体制ということで、特別経費、配分経費等を使いまして研究活動を活性化させていただこうというような活動をしたり、科学研究費の補助金の申請書の提出、こういうものやっております。あと、リサーチャーのニューズレターを活用しまして、地域との連携、共同研究の推進ということをやっております。45番と46番、自己評価が3ですが、表のほうは4になっております。4に訂正させていただきたいと思っております。研究活動の成果としては、こういうことをやりましたよと、皆さんも一緒に活動しませんかということでシーズ集を発行して、共同研究等に使うような、あるいは地域への我々の研究活動の展開、こういうことを取り組んでおります。また、研究業績、これはもうどこでもそうなんですけれども、集約しまして、どんな教員がどういう活動しているのか、これを把握しながらより改善していくような取組を進めてございます。46番、研究活動の改善なんですけれども、実は従前、研究支援委員会という形で、研究倫理とか特許とか研究活動の活性化ということを含めてやっておりましたが、本年、研究推進委員会と研究倫理委員会というものに分離しまして、研究活動の推進を担当する部分と、見た目が違う研究倫理に関してはもうちょっと違う組織でやりましょうということで体制を整備させていただきました。大きいスクリーンのほうですけども、研究活動の状況ということで、これは令和3年度、こちらは令和4年度の12月の時点ですけども、共同研究、受託研究、受託事業補助金等でどのぐらい外部資金を取ってきているか、どのぐらいの件数の活動をしているかというところでございます。前年度と比べまして、ほぼ同等ということで4をつけさせていただいたんですけども、本来でしたらこれをもっと伸ばすような我々も努力していかなきゃいけないところであると考えております。あと、科学研究費補助金ですけども、これも前年度とほぼ同等の件数、あるいは金額となっております。科研の申請書の添削事業で、何名か新たに科研採択になっている場合もございます。こういう事

業を今後とも継続して続けて取り組んでいくという考えであります。私からは以上です。

天野参与：いかがでしょうか。

池田参与：研究活動をやっていく中で、長野高専だから長野県にあるわけですがけれども、長野県の産業だとか、これからの要するに、将来を考えて、こういうところを長野高専の強みとしていこうじゃないかというような研究の方向づけというんですか、ビジョンみたいなのがあったら聞かせていただきたいんですが。

小野副校長：非常に難しい御質問なんですけれども、今、実際長野県の企業と共同研究の件数が恐らく今ここの共同研究30件の中の10件、12、3件だったと思うんですけれども、正確な数字を私は把握していませんでした。こういうものをもっと県内の企業と深めていければなというつながりを、大きなことから始めずに、小さなことからもうつながりをつくりながらうまく進めていきたいと考えております。大きなビジョンとしては、長野高専、これだけ地域とつながっておりますので、そここのところのパイプをうまく生かしながら取り組んでいく体制をこれから考えていきたい、取り組んでいきたいと考えています。

池田参与：そういう方向ですと、今からの延長線上でなかなか見えないと思うんですけれども、たまたまちょうどコロナかなんかがあって、これから地球環境も含めて変わらなきゃいけないんだよね。変わる方向に対して長野高専はこういう技術でリーダーシップを取っていきたいから、産学連携をやろうじゃないかみたいな方向づけをぜひ出していただきたいと思っています。お願いします。

小野副校長：ありがとうございます。

天野参与：よろしいでしょうか。そうしましたら、次の項目に進ませていただきます。

大項目8：地域貢献活動等の状況（総務主事）

古川副校長：では、私から大項目の8番、地域貢献活動について御説明いたします。では、A3の資料の7ページを御覧ください。7ページ目の上のほう、8番になりますけれども、小項目の3つに分かれています。まず、1つ目が地域貢献活動の計画ということで、地域貢献活動が適切に定められて、計画的に実施されているか、これについては、定められていて計画的にやっておりますので、自己評価を5としました。それから、次の項目、地域貢献活動の成果ということで、目的に沿った成果が得られているかというところで、これは自己評価を4にしております。それから、次の49番、地域貢献活動の改善というところで、これについてはアンケートでは改善しているので4と評価させていただきました。では、これについて中央スライドで説明させていただきます。まず、地域貢献活動の目的は、蓄積してきた技術開発と研究、こういった成果を地域に還元して、地域の発展に資すること。それから、2番として産業界とか地域公共団体、コミュニティー、ほかの教育機関と連携して社会活動に貢献するということが目的で定められていて、そして、本校では、出前授業とかオンライン工学講座とか産業フェアに出るとか、それから社会人向けのリカレント教育とか、これを年度当初に計画して実施しております。令和3年度には出前授業を21件実施しています。それから、令和2年度は8件でした。ここはちょうどコロナ禍の中でやっています、

令和2年度は8件と少なめだったんですが、令和3年度は21件になって増えてきています。それから、オンラインの公開講座は1件、令和3年度に実施しています。それから、産業フェア、これは令和3年度は1件でした。これは長野でしかなかったのが1件だったんですが、今年、令和4年度は長野と佐久と上田と諏訪で産業フェアが開催されましたので、そちらに出て4件やっております。それから、最後のリカレント教育講座、これはテクノセンターで企画、担当者を設けて44講座、これを実施しています。そして、これらの地域貢献活動は、アンケートを取りまして、そのアンケートで改善に生かしているというようなことをしております。以上になります。御質問ありましたらお願いいたします。

天野参与：いかがでしょうか。大変よく頑張っているんじゃないかと思います。取りあえず、次に進ませていただきます。

大項目9：財務及び管理運営と情報公開（事務部長）

亀井副校長：事務部長の亀井でございます。大項目9について御説明をさせていただきます。時間の関係もございますので、簡単に御説明させていただければと思います。まず、財務関係の50番から52番でございますが、財務関係のところでございますと、まず、適切な収支に係る計画が策定され、関係者に明示されているかということにつきましては、予算配分方針等で適切な収支に係る計画を策定しまして、学内に明示しておるところでございます。適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているかにつきましては、当初予算配分というものがございまして、コロナ禍で、簡単に申し上げますと、例えば、年度当初、こういった今の御時世でございますので、新型コロナウイルス感染症等の拡大により、今年度の実施がまだ年度当初では不透明なものであったり、まだ予算配分の段階で学内コンセンサスが取れていないもの等につきましては、一旦校長裁量経費に配分をしまして、内容を精査した後、あとは実施が確定した後、校長裁量経費から適宜追加配分という形で行わせていただいております。あと、年度当初に機構本部から配分があるものと年度途中で機構から配分があるものがございまして、年度途中で配分されているものにつきましては、適宜また必要なプログラムに対しまして配分を行っておるところでございます。適切に予算が執行され、その結果が公表されているかにつきましては、法令上、公表が義務づけられている書類等々につきましては、その結果を公表しておるところでございます。こちらが今大項目9のところでは財務関係ということで、これは学校要覧に出させていただいているものでございますが、令和3年度の収入と決算額でございます。こうやって見ていただくと、トータルとして、収入の部が9億5,307万3,000円、支出の部が9億5,004万4,000円ということで、収入額と支出額の差につきましては、寄附金等の外部資金の受入額であったり、翌年度に繰り越す事業もあつたりしますので、そういったところで差が出ておることになります。見ていただきますと、収入の部としまして、運営費交付金であったり、授業料というので、大体これで3割強の部分で、あと入学検定料、雑収入ということが大体それで5割まではいきませんが、あとはここを見ていただきますと、横にもありますけれども、施設整備費がほぼほぼ5割に近い形、それは支

出の部でも当然同じように、それは使途が限定されておりますので、施設整備費として配分されたものについては施設整備費として執行しておるところでございます。今年度は、今、建物の改修を行っておりまして、また来年度以降もこういった形で施設整備は使途が限定した形で使わせていただきたいと思っております。続きまして、管理運営の部分でございます。53番、各種委員会、事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているかということにつきましては、内部組織規則や各種委員会の規則というものをおのおの制定してございまして、その中で各種委員会であったり、事務組織がそれぞれのミッションを担っておりますので、適切に役割を分担し、効果的に活動をしておるところでございます。54番でございます。情報セキュリティーを含む危機管理等の安全管理体制が整備されているかということにつきましては、情報セキュリティーを含むということになっているんですが、長野高専の場合ですと、リスク管理室というのを設けておりまして、今回のコロナ禍でのいろいろな対応、県や市の医療情勢が刻々と変わる中で、そういったところで学校の運営というのをどうするかということリスク管理室で審議、決定をしておる次第でございます。あとサイバーセキュリティーの各種規則というのが、これは一律全国の高専で制定を求められているものがございますので、そちらに沿った形で規則を制定しております。それ以外の危機管理ということになりますと、防災管理マニュアル等々を整備しております。55番でございます。管理運営に関わる職員の資質向上を図るための取組が組織的に行われているかということにつきましては、管理運営に係る資質の向上を図るために、長野高専が自ら研修を実施するというのはなかなか規模的に難しいものがございますので、例えば機構本部が実施するような研修等への参加を積極的に行っておるところでございます。外部資金を積極的に受け入れる取組を行っているか、これは先ほどの研究主事から44番のところ科研費と、あと企業からの外部資金のお話をさせていただいたところがございますが、そういった場合ですと、外部資金公募の周知や科研費の申請支援ということで、いかに外部からの研究費を獲得できるかということで、添削支援等を実施しておるところでございます。ここには、あと、記載が漏れておりますが、外部資金ということでありましたら、長野高専の教育研究地域貢献活動への支援とか、学生の就学のための支援、あと国際交流の推進のための支援ということも目的としまして、長野高専基金というものを設けております。長野高専基金の場合ですと、学生支援事業全般にわたる支援であったり、就学支援事業、これは奨学金や留学支援といった形で基金に一般の方、卒業生の方、また企業の方から御寄附をいただいて、有効的に活用しておるところでございます。57番でございます。外部の教育資源を積極的に活用しているかということでございますが、これは実務訓練というものを通しまして、夏季休業期間中に様々な企業・機関において実務訓練を実施しておるところでございます。これは準学士課程、いわゆる本科での4年制と、専攻科については学外実習で、企業等で540時間の実習を行ったところがございます。あと、演習の中で企業等に勤務する方による講演を実施しておるところでございます。一番最後でございますが、58番、情報公開の部分でございます。情報公開、教育条項について、学校教育施行規則の事項を含むものがございますが、公

表されているかという自己点検項目につきましては、今お示ししたとおり、ホームページの教育情報のところで公開をしておるところでございます。こちらにつきましても、最新の情報に更新して継続して公表をしていきたいと思っております。自己評価につきましては、そういったことで、私が今御説明したところに関しましては全て4ということで自己評価をさせていただきました。説明は以上です。

天野参与：いかがでしょうか。私、1点だけお伺いしたいんですけども、今年、光熱費の増加が私のところでも非常に困っているんですけども、こちらはいかがでしょうか。

亀井副校長：実は、今、高専を取り巻く、高専だけではないんですけども、信州大学でもそうなんですけど、契約の手法を見直すように言われていまして、いわゆる新電力というところが、競争原理を働かせなさいということで、契約手法を見直すように言われているところで、そのところで、たまたまだったんですけども、うちは入札を1回実施したところではあったんですけど、新電力さんが入ってこなかったということで、従前どおりの中部電力さんからの契約に基づく電気の供給を受けているところでございます。今委員長からもお話がありましたけれども、光熱水料につきましては、光熱水料というか、これはどこの高専、どこの大学も同じような形になっているんですけど、やはり単価の向上というのがございまして、それは今のところは何とか内部の中で省エネ等々を図ることなるべく使用量を抑えてやっていこうということで、実際法人運営はしているところであるんですけども、それでもやはり今回の高騰というのは結構厳しい話で、実際のところ、機構本部が高騰に基づいて、今後、何か差額支援なりをしていただけるのかどうかというのは、今の段階でまだ不透明なところではあるんですけども、そういう形で機構で留保している予備費などを使って、値上げ部分について支援していただければいいなと個人的には思っておりますが、今のところは法人の中の、法人というか、学校の中で何とか捻出を図っているところでございます。簡単ですが、以上です。

天野参与：ありがとうございます。うちも国から補助はあったんですけども、実際には半分ぐらいしか賄えていないので、自助努力せざるを得ないということで、今年は何とかなるんですけども、次年度のほうがもっとリスクが上がると思っております。ほか、よろしいでしょうか。すみません、私の運営がまずく、かなり時間が超過で、総合討論をする時間なんですけど、予定の時間、あまり時間は残っておりませんが、全体を通して皆さんから何か御質問、御意見がありましたらお願いします。

(3) 質疑応答・意見交換

倉島参与：58の小項目ということで、これは大変なチェック項目だなと思うんですけど、私、お話を聞いている中で、組織の適正化とか予算の適正化かどうかという話、これは根本的な話なんですけれども、そんなに人そのものが欲しいからといって増えるわけでもなく、恐らく、私、学校の運営に関してはあまり素人みたいなことを言って申し訳ないんですけども、結局組織の人数だとか予算というの

はある程度決まってくるという前提でこれが行われていると理解をしております。そういう中で、そこについてどうこうというよりも、これだけのチェック項目を今後転がしていくということになると、今の評価のやり方を教えていただきたいんですが、これはあくまでこの項目に沿って担当者が自己評価をして、この資料にまとめて出てくるというような趣旨で、何か経営層の中でこういうものを全体を見通して議論を行ったりとかという仕掛けになっているのでしょうか。それがもうこの項目は担当者がお願いとあって担当者に投げて自己評価をして吸い上げているだけの、そういう趣旨なのか、そこら辺の今のこの全体の評価の仕方について教えていただきたいなというところはどうでしょうか。

古川副校長：総務担当の私から御説明いたします。これは基本的に担当者の方から評価をつけていただいています。それで我々副校長と校長が属する執行会議のところにこの一覧表を上げて、そこで一応議論はしてございます。ただ、細かな、本当に一個一個その会議の中で十分に議論しているかどうかというところ、それは時間の都合でなかなか難しいところがあります。

倉島参与：ありがとうございます。実は私ども行政も同じような、こういう項目というのがいっぱいあって、どうしても担当者任せになりがちで、我々も工業技術総合センターとかで同じような評価をやったりするんですけども、結構関連の項目があるので、担当者ではなくて皆さんで少し議論を深めることによってより前進できるような項目も幾つかあるなど感じましたので、私ども自戒も含めて、そんなようなことを仕掛けとして何か考えていかないと、人数がこれでオンされる、これだけの仕事もオンされるわけですから、恐らく、放っておくと形骸化されていくというか、評価をすること自体が目的になりがちなものですから、そんなような感想を持ちました。あと、私ども研究という意味では、さっき言った工業技術総合センターというのをぜひ今後の県の成長分野に向かったところで大いに医療機器や航空機や、それこそ今EVも出てきていて、何とかやって盛り上げていこうということで、県を挙げて少し予算をいただきながらやろうという動きになっております。ぜひ高専さんとも研究という面でぜひ一緒にやってやらせていただきたいと思っておりますので、そんなことをお願いしまして、今日はありがとうございます。

柳見沢参与：先ほども申したんですけれども、高専さんの学生さんの質の高さというのは非常に感じるということなんですが、私の知っている事例で、長沼小学校でプログラミングのやり取りをされていたというときに、私もたまたまその子供たちの場面に居合わせたんですけれども、非常に子供たちが意欲的にプログラミングをしているんですよ。それは高専の学生さんが持っているスキルに対して求める子供たちがうまく関わることができたということだと思っております。ですから、高専さんが得意としている分野で、しかも学校サイドで必要としているようなところへ関わりを持っていくというようなことをアピールすることが高専の学生の質を外へ向けて発信するいい機会になるんじゃないかなということも思っているんです。非常に学生の持っているスキルをどう売り込むかということが高専のPRにつながるかなということも強く感じています。それからもう一点、今日、私どもで評価を宿題にされたというか、やるようになっているわけですが、

昨年度もこの評価をどうするかということがオンラインの中で議論され、昨年度は評価は難しいということでやらなくてよかったという経緯があったかと思うんです。今回評価しますけれども、私は、非常に高専に関わる機会があるんですけれども、評価する者として高専へ来れる機会を提供してもらおうということが大事なんじゃないかなというようなことを思うんです。だから、そんなようなことも今後検討いただいて、評価のところへ直接感じ取れる私たちの立場も保障していただけるとありがたいなと、こんなことを思いました。以上です。

古川副校長：ありがとうございます。今のあとの話なんですけれども、高専に来れるような機会というのは参与会以外に見学だとか授業に見に来るというか、そういった機会ということでしょうか。

柳見沢参与：そうです。

古川副校長：ありがとうございます。

天野参与：私から1点よろしいでしょうか。この自己点検・評価は多分内部でやることですから全項目やられていいのかなと思うんですけれども、外部評価に関して、全部網羅するのは短時間で非常に難しいなと思ひまして、各年度で重点項目を定めて、その項目を毎年外部評価でやって、それが何年かで全ての項目に回るというような、そういうことをやられると、我々も分かりやすいのではないかなというところで、特に今年はこれを重点にしたいというような形でやっていただけたらというのは私の提案でございます。

古川副校長：御意見ありがとうございます。私どもも、これを今回用意しながら、内容が盛りだくさんで、無理かなということは認識しておりました。ですので、来年度以降、重点を絞ってやると同時に、こういった評価以外のこと、最近の高専の変わったところとか、そういったトピックスのお話ができるチャンスがないといけないかなと認識しておりますので、来年度以降変えていきたいと思っております。

天野参与：もう時間が来ておりますので。

小河原参与：2点お願いします。まず、1点目、今年からカリキュラムが変わったわけですがけれども、これから1年から2年に上がるときの学生の退学者数と留年者がおりましたらその数を教えていただきたいのと、例年より多いのか少ないのかということ。それと、もう一つは、財務に関係があるかと思うんですが、今、高専バス、大分苦戦されているとは思いますが、その辺のところでもうちょっと利用者を増やすとか、逆に言えば、技術振興会、池田会長がおられますけれども、そういったところで、スポンサーを集めてきれいなラッピングバスに看板をつけちゃうと見栄えが悪いんですけれども、そんなことで少し収益性を上げてもらうとか、例えば、中にモニターがあると思うので、学生の復習ができるような授業風景を撮っておいて、それを中で学生に流して、バスに乗る学生はちょっと得だよみたいな感じで、そんなことをしていただいて、利用されている学生もおるようなのですぐにはやめるわけには思うんですが、そんなことでもうちょっと利用者を増やす、収益性を上げることも御検討いただきたいと思ひます。これは要望なので返事は要らないですけれども、退学者とかその辺だけ数を教えていただければ。

濱口副校長：教務主事の濱口からお答えします。1年生についてということで、1年生につきましては、まだ留年等についてはまだ成績会議がこの後ということになりますので、不明の部分はあるんですけども、カリキュラムが、例えば1年生の学ぶ内容が2年生に上がっている、少しゆとりを持ったカリキュラムにしたところで、私、数学担当なんですけれども、数学に関しては成績は2年に比べてすごく上がっているなという印象がございます。退学者については、実は4月の入学の時点から登校できずという学生が1名だけ、その方向で現在ということになっています。

小河原参与：じゃ、例年多分1、2名程度はいたと思うので、あまり変わらないという。

濱口副校長：そうですね。1年生だとそういうあまり変わらない感じですよ。

小河原参与：ありがとうございます。

亀井副校長：バスの関係でございます。簡単に御説明させていただきますと、去年の段階では、バスを走らせますよというお披露目をしたのが実は合格者説明会的时候了ので、もう寮に入るとか、そういったある程度本人の意向はもうかなり決定している段階でいきなりバスということもありましたので、なかなか利用者数が伸びなかったというのがあるんですが、今年につきましては、夏から何度も志願者、入学希望者に対しましてバスというのをかなりもう見せておりますので、そういった部分では、去年よりは人数が増えるんじゃないかなと期待をしておるところでございます。松本支部等々で行われます講演会にも、私どもで御説明に上がってバスの利用を促進したいなと思っております。また来年はもうちょっといい数字がお伝えできるといいなと思うんですが、やはりバスを走らせるということを最初に言っているところもございますが、先ほどもありましたけれども、なかなか明日からすぐやめますとはなかなか言えないところではあるんですけども、費用対効果も考えて、今後学校の中でも議論していきたいと思っております。貴重な御意見ありがとうございます。

小河原参与：同窓会にお願いするのがなければいいので。

天野参与：そのほか、全体、よろしいでしょうか。ないようですので、それでは、事務局にお返ししたいと思います。

7. 閉会

江崎校長：本日は、2時間程度にわたりまして、本校の教育の質保証、それから教育環境、学生支援、研究並びに地域貢献、あるいは学校運営等に関連した自己点検・評価シート及びその評価の結果につきまして、参与の皆様方から大変貴重な御意見をたくさんいただきまして誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。いただきました御意見は、本校の今後の自己点検・評価体制にしっかりと反映をさせて、高等教育機関としての一層の充実につなげていきたいと思っております。どうか今後とも引き続き皆様方の御支援、それから御協力、そして御指導を賜りますことをお願いいたしまして、大変簡単ではございますが、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。

以上

1. 3. 2 第20回参与会

日時：2024年1月23日(火) 10:00～12:00

場所：長野工業高等専門学校第1会議室

主な検討事項：改組進捗状況について

出席者：

<参与>

天 野 良 彦 [信州大学工学部長] (会長)
丸 山 陽 一 [長野市教育委員会委員長]
倉 島 浩 [長野県産業労働部産業技術課長]
池 田 明 [株式会社ミマキエンジニアリング名誉顧問
／長野高専技術振興会会長]
渡 辺 雅 義 [信越放送株式会社代表取締役社長]
平 林 靖 久 [一般社団法人長野県経営者協会専務理事]
萱 津 理 佳 [長野県立大学グローバルマネジメント学科 准教授]
白 井 幸 一 [長野工業高等専門学校後援会会長]

<長野高専>

江 崎 尚 和 [校長]
濱 口 直 樹 [副校長 (教務主事)]
渡 辺 誠 一 [副校長 (学生主事)]
松 下 英 次 [副校長 (寮務主事)]
藤 澤 義 範 [副校長 (専攻科長)]
榆 井 雅 巳 [副校長 (総務主事) /第三者評価対応委員会委員長]
小 野 伸 幸 [副校長 (研究主事)]
鹿 又 仁 郎 [副校長 (事務部長)]
春 日 貴 志 [工学科情報エレクトロニクス系長]
中 山 英 俊 [工学科機械ロボティクス系長]
遠 藤 典 男 [工学科都市デザイン系長]
小 池 博 明 [工学科リベラルアーツ教員院長]
板 屋 智 之 [学生相談室長]
西 川 嘉 雄 [教育改善委員会委員長]
鈴 木 宏 [入試広報室長]
森 田 智 士 [総務課長]
中 嶋 広 隆 [学生課長]

議事：

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介（各参与・長野高専出席者）
4. 校長あいさつ

江崎校長から、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後の学校の状況と、海外研修や校内施設の改善などについて説明があり、本日の参与会では、本校における課題や問題について皆様の意見を伺いたい旨の挨拶があった。

5. 配付資料確認
6. 議事

天野会長から、この参与会は外部点検の意味合いもありますので、点検評価という意味でも忌憚ないご意見等を伺いたいとの挨拶があった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により天野会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。

(1) 自己点検・評価項目

楡井副校長から、「資料No.1 令和5年度自己点検・評価表（重点項目）」「資料No.2 令和5年度自己点検・評価表（全体版）」「資料No.6 長野高専の教育理念、教育・運営方針、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、学習・教育目標」をもとに、点検項目ごとにそれぞれ説明があり、以下の質疑応答を行った。

天野会長：最近では、学習成果の可視化に関して、ディプロマ・プログラム（DP）とカリキュラム・プログラム（CP）の関連付けや、授業科目との関連付け、そして学習進度を考慮したポートフォリオ化が重要視されるようになっていきます。この取り組みは大変ですが、御校の進捗状況はどうでしょうか？

濱口副校長：本校では、機構本部からの指導や連絡を受けながら、さまざまな整備を進めています。今回はアセスメントプランの要望があり、来年度から運用できるよう整備を進めています。全国高専と情報を共有しながら取り組んでおり、大変な作業ではありますが、進めていく必要があるという状況です。

天野会長：私どもも、現在データを活用して可視化する取り組みを行っています。興味があれば情報提供できるかもしれません。

池田参与：シラバスというのは、何年頃、発行されたのでしょうか。また、改訂のサイクルなどがあるのでしょうか。

楡井副校長：シラバスは毎年改訂を行っております。状況も変わってまいりますし、特に本校では、改組がございましたので、科目の変動もあります。そういうことも併せて、シラバスは毎年改訂を行っております。

渡辺参与：点検項目ですが、昨年も同じような項目を実施しているということでしょうか。

楡井副校長：点検項目につきましては、本校で自己点検評価表、資料No.2になりますが、こちらで定めて実施しております。昨年も同様の項目でございます。

毎年、見直しを行っております。今年も自己点検を行いました。けれども、今

回、担当した者としての感想を申し上げますと、学校の場合、やっているか、やっていないかという二者択一的な項目が非常に多く、達成率という形で作っていましたが、その数値化というものがしづらいなのというのが、担当者としての率直な感想です。できれば、今後は、数値化しやすいような項目に見直して、より具体的な評価ができるようにと改訂していく必要はあると考えております。

渡辺参与：そうなりますと、前年の実績に対して、今年はこの評価の項目が、どうアップしているかとか、ダウンしているかとか、何ができているか、何がまだできていないか、この辺がもう少し分かりやすくなると思います。

それと、評価制度に対するスタンスです。今おっしゃったように項目のこれやりましたというのは実行にすぎない。実行したことによって学生の支援にどのようにつながっているのかとか、どのような効果が出たのかとか、学生からどういう反応があったのかという評価の進捗と申しますか、このようなことを念頭に置いてやられることが大事かと思えます。

私も、昨年にご意見を伝えさせていただきました。発表のためのこれだけご苦労いただいて、皆さんでこれだけのものを作る。相当時間もかかるし、ただ、発表のための評価表作りみたいな、本当に学生の支援になっていたのかという、ご苦労いただいたのでしたら、いただいたなりに機能、効果が見えるものが必要かと思えました。

楡井副校長：まさにご指摘のとおりと私も感じております。やはり最終的な目標は、いい人材を育てるというところがございますので、それに向けて、どう改善をしていくか、よりよい環境を提供していくことが一番大事なところと認識しておりますので、改善していきたいと思えます。

平林参与：8番目の学習環境と学生支援の項目の中のメンタルヘルス研修ですが、どのような研修をやられていますか。

鹿又副校長：ここに記載させていただきましたのは、教職員向けのメンタルヘルス研修になります。外部講師による午後半日程度のセルフケアに関する研修会を行っております。

平林参与：学習環境及び学生支援と書いてありますが、これは、教職員のメンタルヘルス研修の実施について書かれているのですね。

平林参与：大項目3は、達成率80%という項目が多いのですが、ほとんどが点検項目の再検討はまだという1行で書かれておりますが、再検討はまだということなのでしょうか。

楡井副校長：それぞれの実施状況について教務委員会の中では進んではいるのですが、他部署のところではまだ未実施の部分があるということでございます。

平林参与：これですが、検討したらすぐ再検討が必要なのでしょうか。

楡井副校長：今後、そのように意識づけをしていきたいと思えます。

平林参与：この一文で全部80%にされていますが、本来は検討したらそれも再検討にすぐ適用していくという、本来その時間の流れとしては即やるという流れになると思えますのでぜひ、そのところは考えていただければと思えます。

丸山参与：この学習環境と学生支援の分野では、毎年、異なる手法やアプローチを取りながらも学生のニーズ調査やアンケートなどの項目が十分に実施されていな

いことがあるように思われます。こうした学習環境や学生支援は、受け身の学生側からどのように評価されているのかを把握することも重要かと思います。難しい面もありますが、学生側からの視点を取り入れることで、例えばガイダンスの実施状況だけでなく、その内容の理解や有益性に関する評価にもつなげることができると思います。

天野会長：今のご質問と関連して、そのアンケート調査に関しては卒業生と企業も5年に一度ということの理解でよろしいですか。

楡井副校長：卒業生と企業様にアンケートを依頼するのは5年に一度になります。このアンケートを次年度予定しています。

天野会長：企業にアンケートを実施するのは結構大変だと思います。卒業生については、我々のところは毎年、卒業生には必ず実施し、卒業証書と引換えということで行っています。

楡井副校長：その意味では当該年度の卒業生にはアンケートを実施しています。ここでの卒業生アンケートはOBに対して行っているということになります。

天野会長：それは結構大変なことですね。分かりました。

楡井副校長：この卒業生アンケートですが、昨年度の参与会で回収率が15%ということについて指摘いただきましたので、次回の卒業生アンケートでは回収率をあげるため準備しております。

(2) 改組進捗状況

濱口副校長から「資料No.3 学科改組の進捗状況」をもとに、学科改組の進捗状況について説明があった。

(3) JABEE 受審報告

楡井副校長から「資料No.4 JABEE 受審報告」をもとに、令和5年度に受審したJABEE 審査の受審報告について説明があった。

(4) 自己点検・評価項目の評価手法について

楡井副校長から「資料No.5 自己点検・評価項目の評価方法」をもとに、自己点検・評価項目の評価手法についてご意見いただきたい旨の説明があった。

(5) 質疑応答・意見交換

会議全体について、以下の質疑応答を行った。

天野会長：改組の関係で、1年時はある程度くくり入試のような形で進行し、2年時からレイト・スペシャライゼーションという形で進められています。そのうち3割は、最初は進路を決めていなかったが、うまく配属されたとのことで、これには驚きました。我々も高校生にアンケート調査を行った際に、実際に3分の1が進路をまだ曖昧で、入学後に決めたいと回答しており、この結果を見るとかなり一致している印象を受けました。この情報は参考になると感じます。最後に、進路調整がうまくいっており、ほぼ全員が落ち着いた状態にあること、そしてそ

のために様々な努力がされていることがよく分かりました。

天野会長：今回、大項目3と4に絞って説明をいただきましたが、項目が多いと点検や評価が難しく、点検のための点検になっているのではないかとこの疑念があります。特に達成率が比較的低い項目については、その年度ごとに重点的に取り組み、最終的に外部評価を受けるための準備を進めることが望ましいと考えます。外部評価を受ける際には全ての項目が対象となると思いますので、そのためにも効果的な取り組みが必要です。

丸山参与：イノベーションのサポートセンターを設立するというお話を伺いました。このセンターは、カリキュラムの中でアントレプレナーシップやスタートアップに関する教育とどのように関連しているのか、ご説明いただければと思います。

小野副校長：エンジニアリングデザイン入門という2年次の科目がございます。今回ソーシャルイノベーション・サポートセンターで企画して、その授業で学生向けに講演を行っています。今度はそれを指導する教員がスタートアップに関する知識、あるいは考え方というのが不十分なところがありますので、教員向けの講習会を準備しております。学生だけでなく、学校全体としてスタートアップに関する意識の底上げを図っています。

池田参与：先ほどの自己点検評価項目の実施すべき事項の具体化という中で、この具体化した状態を何か数値化しないと、あとで結果を数値化で評価することはできないのではないかと思いますがいかがでしょうか。

楡井副校長：私もこれを担当する中でKPIの考え方だとか、OKRの考え方とかいろいろな情報を仕入れて勉強していくと、そもそも、そういう具体化するときに、数値化を念頭に置いた上で言葉に表していかないと、やはり合っていないところが見えてきました。この学校の教育活動の中をどのように数値化できるような表現に落とし込んでいくかという、そこが、結構大事なところかなと感じております。次年度に向けて、何とかつくっていければなと思っています。

天野会長：KPIの数値化って非常に難しい話で、私も大学でやっているところが悩むところです。研究とかはKPI・数値化しやすいのですが、教育はなかなか数値化というのは難しいところがあるとは思いますが、なるべくしなければいけないかなと思います。

萱津参与：先ほどからシラバスの話が出ていたのですが、本学でも、今まさに、来年度のシラバス作成中で、その言葉の齟齬みたいなところを統一することが課題だと思っています。当然こういう枠があって、こういうことを書くというところまではあるのですが、教員が書いたときに、書き方とか分かりやすさみたいなチェックを、書いた教員以外がしたほうがいいのではないかとこの話が本学で出ています。高専では、特に書かれた、完成したシラバスに関するチェックというのを別の組織でやっているのかどうかというのをお聞きできればと思いました。

楡井副校長：シラバス作成自身の担当は教務委員会で担当しております。シラバス、最初に作る時に、ひな形的なものは当然あって、こういう書き方をしてくださいというものの指導もあります。現時点では、教員もある程度慣れてきているところもあって、あまり具体的に書き方のスタイルに対して、指導というよりも、例えばルーブリック化するときの書きぶりだとか、そういうところは、指摘は、

注意点、重要項目については、委員会でチェックしております。

萱津参与：幾つかのアンケートを取っていらっしゃるということですが、例えば、寮のところで、満足した生活の場を提供しているかというところで、アンケートを実施しているようですが、この右側のところ、満足度はどのくらいでしょうか？高専の場合は希望者が入っているということなので、満足度は高いのかなということと思うのですがいかがでしょうか。

松下副校長：このグラフ、右側に行けば行くほど良好ということになります。パワーポイント1枚全部載せると、ほぼ字が見えないという状況になりますので、おおむね評価3というのが一番多いです。右側の下の、これは寮の日課についてという項目で、よくないということになっています。これには理由がありまして、コロナ禍のときは学内の密度を下げるために寮を解放して昼間に寮の中に入ってもいいとしていました。それを昔のように、昼間は学校に行きなさい。閉めますよ。という状況に戻した途端にこうなりました。例年は、この項目は3が多いというのが例年の状況ですが、今年は特殊ということとだけ思っています。

萱津参与：アンケートの話で、さきほど卒業生、OBにアンケートを取るという話がありましたが、それは何年後の学生に取っているのか、対象がどういう形で取られているのか、どのタイミングで、どのくらいの規模で取られるのか、教えてください。

楡井副校長：大体、卒業後5年ぐらいのところを基準に、前回の実施のところは、専攻科生、本科生含めて、トータルで200通の調査を行ったということですので、卒業後の状況、できるだけ近いところということで、大体、5年ぐらいのところまでの範囲を想定して実施しています。

萱津参与：5年たった学生なのか、1、2、3、4、5まとめて、5年なのか、いかがでしょうか。

楡井副校長：状況にもよります。連絡先の問題もあって、各出身学科のところで数名推薦していただいて、そこで、実際のアンケートをお送りしているという状況です。

天野会長：卒業生に関するアンケートって、結構、大変だと思います。本学は、10年後と30年後の学生のやつを取っていましたが、10年後と30年後の学生だと、取ったアンケートだと意見が違って出てくるので、それは、それで面白いなと思いました。

倉島参与：先ほど丸山参与さんが述べたことにも関連していますが、私はベンチャーのソーシャルイノベーション・サポートセンターに大変関心があります。そこでは、様々なカリキュラムやポリシーの枠組みの中で教育が行われています。枠組みをしっかり取った上での教育の必要性を理解しています。しかし、例えば、起業家精神という知識以外の部分も刺激を与える取り組みが必要だと考えています。県内でも、起業家精神を持った企業が活躍している例があります。また、自己啓発やマインドセットの向上についても考える必要があります。これらの要素をカリキュラムに組み込むことは難しいかもしれませんが、柔軟性が求められます。この分野に詳しくないので、質問していますが、もし知っていることがあれ

ば教えていただきたいです。

小野副校長：カリキュラムにあるエンジニアリングデザイン入門の中に、既に入れ込んでいます。起業家の講演会とか、これは長野市とも協力しております。そういう事業を今展開しています。ただ、ソーシャルイノベーション・サポートセンターの予算というのが今年度までの予算になり、来年度が不透明な状態になります。

ただ、エンジニアリングデザイン入門あるいは実践という中で、実際にそういう起業家マインドの助成みたいな講演会は、計画しておりますので、継続的にこの事業というのは発展させていくような体制を整備しているところでございます。

倉島参与：ようやく理解しました。そういった一つのカリキュラム体系の中には柔軟度を持って、いろいろなところに組み込めるという、そういう形になっているとか、そういうことなのですね。

白井参与：点検項目の8に関するところでございますけれども、施設の設備管理状況、点検とって、定期的に点検していただいていると思います。今回、1月1日に能登の地震がありましたけれども、長野市もある程度揺れたと思います。このような状況で、学校の施設に何か傷みなどがあつたかどうか、また、1月1日でありましたことから、休校ということ、施設管理者の方が点検をしたのか、業者さんによる点検だったのか、その辺の確認をさせていただきたいと思います。

鹿又副校長：1月1日の地震の影響につきましては、特段、施設にひびが入つたとか、設備もそうですけれども、故障などが発生したという報告は今のところ出ておりません。実際に、1月1日の時点で警備員がおりましたので、警備員が巡回し目視の確認をしております。その後、教職員でそれぞれの設備等について目視等で確認をしたところでございます。

天野会長：今回の地震は、休日しかも1日だったということで、点検、結構大変だったと思います。本学も、建物の7階、8階のところで漏水が2件ほどありました。配管のずれですかね。1日から事務の方も出たりして、対策に当たったりして、結構、揺れがひどかったなと思います。特に高層階がひどかったようですね。

平林参与：私は、理工系の人材がますます重要性を増している中で、高専での教育に感心しています。自身が高専に関わり始めたのは去年からで、その中で高専の対応に感動しました。特に、工業系の高校の受験生が減少している中で、長野高専は中学卒業後の理工系教育の中核となるべきだと考えています。今日も先生方が子供たちのために積極的に検討し、カリキュラムを見せてくれる姿勢に感謝しています。子供たちにとって何が重要かを考え、それを育む努力をしていることを支持し、今後も継続して行ってほしいと思います。この感想を校長先生にも伝えたいと思います。

天野会長：本学のことで、高専編入のところで女子枠を設定ということで、次年度から行います。2月ぐらいに募集要項が出るとは思いますけれども、約半数を女子枠として設定します。3月に説明会も開く予定にしていますので、また、ぜひよろしくお願ひしたいと思います。

7. 閉会

江崎校長から閉会として、本校の学習環境、学生支援、教育に関する自己点検

や進行中の課題、JABEE への対応、評価手法に関する多くの意見を頂き、これらの意見を今後の教育や評価体制に反映し、高等教育機関として充実していきたい旨の挨拶があり、引き続き、皆様の支援と協力をお願いする旨発言があった。

以上

1. 3. 3 第21回参与会

日時：2025年1月29日(水) 10:00～12:00

場所：長野工業高等専門学校第1会議室

主な検討事項：新系設置構想について

出席者：

<参与>

香山 瑞 恵 [信州大学工学部長] (会長)
小河原 敏 男 [長野工業高等専門学校同窓会長] (副会長)
丸山 陽 一 [長野市教育委員会委員長]
倉島 浩 [長野県産業労働部産業技術課長]
池田 明 [株式会社ミマキエンジニアリング名誉顧問
／長野高専技術振興会会長]
渡辺 雅 義 [信越放送株式会社代表取締役社長]
平林 靖 久 [一般社団法人長野県経営者協会専務理事]
萱津 理 佳 [長野県立大学グローバルマネジメント学科 准教授]
白井 幸 一 [長野工業高等専門学校後援会会長]

<長野高専>

江崎 尚 和 [校長]
濱口 直 樹 [副校長 (教務主事)]
渡辺 誠 一 [副校長 (学生主事)]
酒井 美 月 [副校長 (寮務主事)]
藤澤 義 範 [副校長 (専攻科長)]
楡井 雅 巳 [副校長 (総務主事) /第三者評価対応委員会委員長]
田中 秀 登 [副校長 (研究主事) /地域共同テクノセンター長]
鹿又 仁 郎 [副校長 (事務部長)]
春日 貴 志 [工学科情報エレクトロニクス系長]
堀口 勝 三 [工学科機械ロボティクス系長]
小池 博 明 [工学科リベラルアーツ教員院長]
板屋 智 之 [学生相談室長]
松下 英 次 [教育改善委員会委員長]
中山 英 俊 [入試広報室長]
相馬 颯 子 [男女共同参画室長]
小宮山 真美子 [国際交流センター長]
百瀬 成 空 [情報エレクトロニクス系准教授]
森田 智 士 [総務課長]

中 嶋 広 隆 [学生課長]

議事：

1. 開会 総務課長
2. 会長・副会長紹介 総務課長
3. 自己紹介（各参与・長野高専出席者）
4. 校長あいさつ

江崎校長から、本会は、本校の教育研究や学校運営に関する意見を外部有識者から伺い、学校の改革や改善に反映させることを目的としている旨の説明があった。また、本校で現在抱えている課題や早急に対応が必要な問題、高専機構本部からの指示事項について議論し、限られた時間の中で忌憚のない意見を伺いたい旨の挨拶があった。

5. 配付資料確認
6. 議事

香山会長から、この参与会は長野高専の教育研究について検証し、支援や提言を行う重要な会であると考えているため、忌憚ないご意見等を伺いたいとの挨拶があった。

以下、参与会設置要項第7条第1項の規定により香山会長が議長となり、次第に沿って議事が進行された。

（1）議題1「新系設置構想」

榆井副校長：それでは、新系の設置構想について説明いたします。皆様、お手元の資料1をご覧ください。また、ディスプレイやスクリーンも併せてご確認ください。

本校は3年前に改組され、工学科となりました。最初のグラフが示すように、改組前は受験倍率が徐々に低下していましたが、改組後もその傾向は続き、昨年度は1.2倍、今年度は1.1倍とさらに下がっています。この状況を受け、早急な対応が必要と判断し、新しい系の設置を視野に入れ、近隣や全国の高専を訪問し情報を収集してきました。

現在、日本全国で中学生の人口が減少しており、それに伴い入試倍率も低下しています。本校においても定員割れのリスクが高まっているため、近隣の高専を調査し、倍率低下の要因を分析しました。

その一環として、ワーキンググループを組織し、近隣の高専における倍率の変動要因を詳しく調査しています。例えば、長野県全体の人口動向と長野高専の状況を確認したところ、昨年度の志願者倍率は1.2を少し下回る水準でした。現時点では、倍率の低下と特定の要因との間に強い相関は確認されていませんが、わずかな関連性がある可能性が示唆されています。

あと、各県の産業と倍率に何か関係があるのかについても調査しました。その結果、倍率が高い地域はいくつか存在するものの、産業との強い相関は見られませんでした。ただし、多少の関連性がうかがえる部分もあると考えられます。

次に、女子比率との関連を調べました。本校の女子比率は比較的低いものの、同程度の倍率の学校でも女子比率が高い学校があります。こうしたデータを踏まえ、女子比率の向上が本校の課題であると考えています。

特に、女子比率の高い高専を調査したところ、化学・バイオ系の学科を持つ学

校が多いことが分かりました。また、建築系やビジネス系も一定の割合を占めていますが、特に材料・バイオ系が女子比率向上に寄与している可能性が高いと考えています。

本校の学生や調査先の意見を集めたところ、女子学生の中には化学系に対する憧れを持つ人が多いことが分かりました。さらに、長野高専技術振興会の会員企業にアンケートを実施し、材料・バイオ系の学生に対する求人ニーズを調査しました。その結果、約7割の企業がこの分野の人材を求めており、採用枠も2割程度確保されていることが確認できました。

コンサルティング会社の意見としては、材料・バイオ系の専門性を考えると、大学院レベルの知識が求められる可能性があるとの指摘がありました。また、県内企業のみでは求人の幅が狭くなるため、県外企業も視野に入れる必要があるという提言を受けました。

新系の設置には化学系の実験室が必要となり、2～3室の設置が求められます。現在、本校には低学年向けの化学実験室がありますが、他の実験室と共有する形での運用が必要と考えています。また、化学系の分析機器やガス配管・水道などの整備も重要な課題として挙げられています。

学生の生活空間と実験室の共用は課題となりますが、他校の事例を参考にしながら整備を進める方針です。しかし、インフラの制約があるため、すぐに十分な環境を整えるのは難しく、工夫しながら進めていく必要があります。

また、高専のモデルコアカリキュラムを踏まえ、化学・生物・バイオ系のカリキュラム整備が求められます。現在、本校では機械系を中心に材料分野をカバーしていますが、バイオ系の教員がいないため、人事計画を立てて新たに採用する必要があります。

調査した高専では、化学・生物系や材料系を純粋に扱う学科と、複合系の学科を設置しているケースがあります。本校としては、化学・材料分野に加え、バイオ分野も取り入れることが適していると考えられます。

新系の設置に向けては、設備面や教員の確保を計画的に進める必要があります。また、授業の形態も工夫し、合同クラスや多人数での授業を活用することが重要となります。直近では教員の確保が難しいため、信州大学にも協力を依頼し、当面の対応を進めていくことも考えられます。

現在、本校の無機材料や環境材料の教員がカバーできる分野を確認しつつ、将来的には有機化学系の教員を増やしていく方針です。

以上、駆け足での説明となりましたが、今後の受験倍率の向上や女子学生の増加を目指し、材料・バイオ系の新系設置を進めてまいります。ご意見をいただければ幸いです。

香山会長：資料の21ページにある「新素材・バイオ系」というのが、現在チャレンジしようとしている分野という理解でよろしいでしょうか。

楡井副校長：はい。

香山会長：新素材という場合、有機系を今後増やしていくということですが、無機材料の専門家の先生方がすでにいらっしゃって、その分野が厚い層になっているのでしょうか。それとも、バイオ系の方がすでに厚いのでしょうか。

楡井副校長：現状、バイオ系に対応できる教員がいないという状況です。工業材料系や環境系の教員はおりますが、環境系の中でバイオ系に関連する部分が少し含まれる程度で、十分な体制にはなっておりません。今後、人事計画の中で進めていかざるを得ないと考えております。

香山会長：バイオ系は、女子向けという今回の目的を考えると、特にターゲットになり得る分野かと思えます。女子中学生へのアンケートについては、8ページに書かれているかと思えますが、至急アンケートを実施して方向性を固めたいということですね。地域ニーズの調査はこれから行われるという理解でよろしいでしょうか。

楡井副校長：はい。その通りです。中学生への調査はまだ実施できていませんので、今後、より幅広く情報を集めていく必要があると考えています。

香山会長：日本全国で工学系の人気は低下しており、私たちも危機感を持っています。特に若者の減少に伴い、高校レベルでも生徒の獲得競争が激しくなっており、より選ばれる学校になる必要があります。この点については、参与の皆様とも目的を共有しているかと思えます。

倉島参与：バイオの話が出ましたが、私たちの地域では食品分野、特に発酵食品の産業が活発化しており、技術の伝承や人材不足が課題となっています。バイオという大きな枠組みの中で、発酵技術も含めて人材育成が進められると、産業界にとっても大変ありがたいです。その点について、プログラムにうまく組み込んでいただけると良いのではないかと思います。

小河原参与：女子生徒の増員が目的とのことですが、ここ10年ほどで女子学生の割合はどのように変化しているのでしょうか。以前は2割から2割5分(25%)ほどだったと記憶しているのですが、現在は減少しているのでしょうか。また、新系設置構想について、大まかなスケジュールや具体的な計画があれば教えてください。

江崎校長：女子学生の割合は現在も20%前後で推移しています。年によって多少の増減はありますが、平均すると20%程度です。私は長野高専の前に鈴鹿高専や有明高専にりましたが、そこでは化学・バイオ系の学科がありました。例えば、鈴鹿高専の生物応用化学科では女子学生が70%~80%、材料工学科では50%ほどでした。

長野高専は設立当初、機械工学科2学科と電気工学科の3学科でスタートし、その後、土木工学科が追加されました。そのため、もともと女子学生が入りにくい学科構成になっています。化学系の学科があれば状況は変わっていたかもしれません。今後、女子学生の入学を増やしていかなければ、定員割れのリスクが高まると考えています。

また、長野高専は3年前に学科の改組を行いました。完成年度を迎えるまでは新たな学科変更が難しい状況です。あと2年で完成年度を迎えるため、その後に動き出すことができると考えています。

池田参与：中学生向けのアンケートや出口側(卒業生や企業向け)のアンケートについてですが、将来必要とされる技術を見据えた調査になっているのでしょうか。現在の延長線上での調査ではなく、10年後や20年後にどのような技術が必要

とされるのか、長野県の産業界のニーズに合致した内容になっているか、少し疑問を感じています。その点については、どのようにお考えでしょうか。

楡井副校長：今年から調査を開始したところですので、ご指摘を踏まえて、今後1年ほどしっかり調査し、将来構想を立てていきたいと考えています。

萱津参与：現在、志願者の減少が課題となっています。どの大学も少子化の影響を受けていますが、高専の場合は特に、中学生の段階で進路を決める必要があるという難しさがあります。中学生が進路を決める際、幼さゆえに迷うのか、逆に成熟して早くから決めるのか、その判断は難しいところです。理系か文系を決めるだけでなく、高専に進むとなると工学系を選択することになります。しかし、多くの生徒はまだ明確に決められず、工学系を志望していても、まずは普通高校に進学してから考えたいと思う傾向があります。

私の大学は「グローバルマネジメント学部」のような幅広い分野を扱う学部があり、入学後も進路に迷う学生が多くいます。それを考えると、高専に入学する学生は、ある程度はっきりとした意思を持っていないと入学を決断できないのではないかと感じます。

女子学生を増やすために新しい分野を設置することは一定の効果があるかもしれませんが、しかし、中学生から見たときに、その学科で何を学ぶのかが明確でなければ、志願者は増えないのではないかと懸念しています。私自身が中学生だったとしたら、「高専」という大枠で捉え、新しい学科ができたからといってすぐに興味を持つとは限らないと感じます。

そのため、中学生へのアプローチが重要です。広報活動も大切ですし、現在の「入学時の入り口を一つにして、入学後に系統を分ける」という制度に関しても、理解を深める必要があると思います。昨年、こちらの場に参加した際、「希望する系に進めない可能性はほとんどない」と伺いましたが、そうした情報をもっと積極的に発信することで、中学生や保護者の不安を和らげ、志願者増加につなげることができるのではないかと感じました。

(2) 議題2 「自己点検・評価項目」

楡井副校長：本校では自己点検の項目を定め、昨年度の指摘を踏まえ、四半期ごとに自己点検を実施する形で対応しております。

お手元の資料のうち、資料2、資料3、資料4が自己点検評価の資料になります。資料4は全体像を示したものです。本日はその中から「専攻科の教育活動及び研究活動」について、資料2と資料3を基にお話しし、その後、5年前に卒業した学生および受け入れ企業へのアンケート結果について、資料5で報告いたします。

まず、資料2をご覧ください。「専攻科課程の教育課程」に関する自己点検です。年度初めに点検項目を定め、四半期ごとに点検作業を進めております。昨年度の指摘を受け、点検項目自体の見直しも行いながら進めております。

- 点検項目28：カリキュラムが体系的に構成されているかの確認。専攻科は「電気情報」と「機械・制御・環境都市」の2つに分かれており、今年度、カリキュラムの体系を確認しました。

- 点検項目 29 : 社会の変化に応じた科目の整備状況。適切な科目が配置され、シラバスに教授内容が明記されていることを確認しました。
- 点検項目 30 : 評価方法の周知状況。シラバスへの記載と、講義開始時の教員による説明を通じて、学生の理解を促進しています。
- 点検項目 31 : シラバスの活用や研究指導が適切に行われているかを確認するため、全科目で授業評価アンケートを実施し、学生の意見を教員にフィードバックして改善を図っています。従来は一部の科目に限られていましたが、今年度から全科目に拡大しました。
- 点検項目 32 : 単位認定はシラバスで周知され、適切に実施されています。
- 点検項目 33 : 成績評価について、専攻科では前期に単位取得状況を確認し、後期に計画通り単位認定が進むかを確認しています。昨年度も適切に対応されており、今年度の成績評価や修了評価も今後実施予定です。
- 点検項目 34 : 修了認定の状況。単位認定の状況を確認しながら進めています。
- 点検項目 35 : ディプロマ・ポリシーに基づく成果を確認するため、学習状況や単位取得を確認しながら進めています。さらに、今年度から卒業特別研究の発表会で英語プレゼンを一部導入し、先日実施しました。
- 点検項目 36 : ディプロマ・ポリシーに沿った学習成果の評価として、学生の自己評価や修了生アンケートを実施しています。昨年度の結果では、達成度に応じた評価項目が設定され、学習成果が確認されています。
- 点検項目 38 : 進路状況の確認。希望する進路に進んでいるかを評価し、学位取得についても計画的に進めています。

次に、資料3「研究活動の状況」についてです。

- 点検項目 44 : 研究活動は計画に沿って進められており、外部資金の獲得も重視されております。科研費の採択は今年度14件、うち基盤Bが3件含まれています。これにより「頑張っている」と評価されており、共同研究なども計画の9割程度達成しています。今後も外部資金の確保に取り組んでいきます。オープンラボの活動については後ほど報告します。
- 点検項目 45 : 研究活動の一環として、地域向けに教員の研究内容を紹介するシーズ集を発行し、産業展などで広報しています。企業とのマッチングを進め、共同研究の促進を図っていますが、さらなる活性化が必要です。今後も広報を強化し、研究活動の発展を目指します。
- 点検項目 46 : 研究活動の状況は、研究主事を中心に研究推進委員会が確認し、提案やサポートを行っています。オープンラボもその取り組みの一環であり、後ほど報告予定です。

次に、資料5「卒業生・企業アンケートの結果」についてです。

- 本アンケートは5年に一度実施しており、本年度は卒業生250名（本科200名、専攻科50名）、就職・進学先の企業・大学255機関を対象に行いました。
- 回答率の課題:企業へのアンケート依頼方法に課題があり、伝達が十分でなかった点を反省。次回は企業の総務部等へ直接依頼する方針です。
 - 学生の自己評価:語学力やコミュニケーション能力、プレゼン能力について

「やや劣る」との評価が見られました。

- 企業・大学の評価:特に語学力（英語）の不足を指摘されました。前回（5年前）と同様の指摘があり、グローバル化教育の強化が求められています。
- 今後の取り組み:コミュニケーション能力の向上、数学的・物理的思考力の強化を専門教育の中で意識して取り組みます。

以上、自己点検及びアンケート結果の報告でした。よろしくお願いいたします。

香山会長:資料2の自己点検評価の専攻科課程についてですが、高い評価が多い中で、項目34と項目37がそれぞれ「3」と「2」という数値になっています。これらの算出根拠が分からないのですが、どのような理由でこの数値になったのか教えていただけますでしょうか。

楡井副校長:項目34については、修了認定の実施や基準の確認、点検状況が今後の議論の対象となっているためです。現在の状況としては、修了判定前の段階であり、単位取得状況の確認などが途中段階にあるため、評価項目の数値が低くなっています。

香山会長:項目37についても、3月に学位取得となるため、現時点では確定しておらず、年度末には「5」になる予定ということですね。

楡井副校長:はい。最終的には「5」にならなければなりません。

香山会長:資料5の卒業生へのアンケートについてですが、修了生の回収率が49人中8人、卒業生の回収率が200人中42人という結果に少し驚きました。これは既卒者に対して依頼したもので、当該年度の卒業時に行ったわけではないということですか。

楡井副校長:はい。これは令和2年、3年の卒業生を中心に、既に修了した方々をお願いしたものです。前回5年前のアンケートでも回答率は約15%で、低いという指摘を受けていました。何とか回収率を上げたいのですが、なかなか改善が難しい状況です。

香山会長:同窓会と連携しての実施ではなく、高専独自で実施されているのですね。

楡井副校長:はい。現在、同窓会から連絡先情報をいただき、回答が期待できそうな卒業生を選んで連絡を取るという方法で行っています。

平林参与:企業へのアンケートの回収がうまくいかなかった点についてですが、ぜひ企業の関係部署に直接送る形にしてください。現在、企業は人材を求めており、長野高専の卒業生を必要としている企業もあると思います。既に高専の卒業生が働いている企業なら、アンケートを無視することはないでしょう。ただし、卒業生を通じてアンケートを依頼すると、その人の負担になる可能性があり、企業側もあまり重視しないかもしれません。ですので、企業の窓口を通じてアンケートを実施していただきたいです。

もう一点、資料3についてですが、高専が諏訪工業メッセや佐久メッセなどのイベントでブースを設けているのは良い取り組みだと思います。一方で、経営者協会では定期的に役員会や常任監事会を開催していますので、その場で高専の取り組みをアピールするのも良いのではないのでしょうか。実際、信州大学はそのような場で積極的に発信しています。経営者の中には中学生の子どもを持つ方もいるため、高専への進学を考える機会にもなるかもしれません。ぜひ、アピールの

場として活用してください。

楡井副校長：ぜひ、お願いしたいと思いますので、その際はどうぞよろしくお願ひいたします。

(3) 議題3「本校での取り組み」

楡井副校長：それでは、先ほど少し触れましたが、最近の本校の取り組みについて、資料6、資料7、資料8に基づいてお話しします。よろしくお願ひします。

まず、今年度から始まった「オープンラボ」についてです。オープンラボでは、地元企業からの課題やニーズをいただき、それを本校の研究者や教員とマッチングさせます。そして、学生も参加し、実践の場として教育に活用しています。具体的には、テクノセンターのコーディネーターが地元企業に訪問し、課題やニーズをヒアリングして、それを基に教員とのマッチングを行います。その後、共同研究に繋げていくという形です。

この活動は2年間を計画し、共同研究費として700万円を企業から提供していただいています。また、企業からは職員が派遣され、学生と共に研究に取り組んでいます。

この活動は、校長である江崎の前任高専での実績をもとに提案され、実現したもので、今後も企業や本校、地元金融機関と連携して進めていきます。

今年度は「オープンラボ」として、アピックヤマダさんと山洋電気さんの2件がスタートしました。アピックヤマダさんでは教員が3名、山洋電気さんでは教員が2名、学生も交えて活動を始めています。今後も活動を増やし、さらに充実させていきたいと考えています。

現在、専攻科棟の入り口には、オープンラボの銘板を掲示していますので、ぜひご覧ください。

これらの取り組みを通じて、外部資金の獲得にも繋げていきたいと思っています。

次に、資料7についてです。これは一昨年からスタートした「高速信号伝送評価センター」に関するもので、全国の高専の共同利用設備として本校に設置されています。この設備は高周波の測定などに応用されており、企業にも利用されています。実際に、非破壊評価やCTを使った評価、高速信号の電波暗室などの用途で利用されています。

今年度の上半期には、特にCTや高周波のVNAアナライザーが活発に使用されており、面白いところでは、サツマイモや生ハムの特性を評価するプロジェクトも進行中です。これらの活動もさらに充実させていきたいと考えています。

続いて、資料8です。こちらは一昨年度から始まった「ソーシャルイノベーション・サポートセンター」で、学生の起業家マインドを養成することを目的としています。学生がやりたいことをすぐに実現できる環境を提供し、自由に使えるスペースを整備しています。また、学生が参加するコンテストの支援も行っています。

専攻科棟3階には、リモート環境が整備されたメインスタジオや工房などのスペースがあり、学生は自由に利用できます。これまでには、3Dプリンターを使って玉軸受けの試作を行うなど、さまざまな活動が進められています。

また、起業マインドの醸成やコンテスト支援などを通じて、学生にセミナーや学習の機会を提供しています。

簡単ではありますが、最近の本校の取り組みについてご紹介しました。よろしくお願いたします。

香山会長：オープンラボの取り組みについてですが、素晴らしい活動ですね。まず、2社からの提案を受けて活動が開始されたと理解しました。この活動では、教員が2名以上関わり、学生も参加しているという構図が描かれています。そこで、関わる学生へのインセンティブについてお聞きしたいのですが、何か措置はありますか？単位に関わる活動とは思いますが、個人的な研究者の活動ではなく、企業と関わる共同研究に参加する学生へのエフォートに対する配慮について、どのようにお考えでしょうか？

田中副校長：学生にとっては、自分の将来を考える良い機会になります。自分の専門性を生かし、仕事としてどの分野を選ぶかを考えながら、自分の向き不向きも判断できるチャンスです。この取り組みが学生の将来にどうつながるかが重要だと思います。学生が自分の気持ちと重なる部分があれば、就職を考えても良いですし、逆に無理に関わりを持たせたくないのも、あくまで学生自身の意志を尊重します。オープンという形にこだわり、学生にとって社会を知る良い機会になると考えています。また、最前線でどのような困難があるかを学び、スキルを向上させるチャンスにもなると思います。

香山会長：貴重な機会を提供することができるのは素晴らしいですね。さて、共同研究は大学側にとってのメリットだけではなく、企業にもメリットがあると思います。そこで、率直にお聞きしたいのですが、関わった学生に対して、例えばRA経費や謝金、アルバイト代など、エフォートに対する報酬は提供されていないということですか？

田中副校長：はい、現時点ではそのような報酬はありません。

平林参与：少し全体的な話になりますが、実はいろいろな方法があります。例えば、今話に出たような共同の形で進める方法もありますし、信州大学では長野県経営者協会と連携し、約20年にわたり、県内の経営者が講座を持つ仕組みを続けています。年間8名から10名ほどの講師が単位制で講義を行い、聴講生の制度もあります。講義の内容は、社長に限らず、技術系や管理系のトップが担当し、事前にテーマを決めて進めます。学生は受講後、最終的にレポートで学びを確認する形になっています。この制度は毎年継続されており、必要であればこうしたやり方も参考にできるでしょう。

また、私が以前在籍していた会社では、15～16年以上前に人事部長として、高校生向けの技術系プログラムを実施していました。理系の高校生が企業を訪れ、技術者との交流の場を持ちたい、会社見学をしたいと希望するケースがありました。技術関係の内容は機密事項も多いですが、可能な範囲でオープンにし、受け入れを行っていました。現在の企業の受け入れ方針は不明ですが、高校側から申し入れがあれば、受け入れる可能性は十分あると思います。実際に、長野高校や松本深志高校などの進学校から要請があり、理系の1・2年生が企業訪問を行ったこともあります。もし必要であれば、積極的に申し入れをしていただければと

思います。

また、先ほどの話にも関連しますが、中学生の段階で工学系の進路を決めるのは難しい問題です。ご存じのとおり、長野県内の工業高校の中には危機的な状況にある学校もあります。例えば、かつて名門と言われた岡谷工業や松本工業高校も含め、独立した工業高校が減少し、総合高校へと統合される流れが進んでいます。

こうした状況を踏まえると、専門性を前面に出しすぎず、より幅広い層の生徒を受け入れながら、徐々に専門性を深めていくような仕組みが重要ではないでしょうか。東京大学の「進学選択」のように、入学後に専門を決めるスタイルには一定の魅力があります。高校でもこの考え方を取り入れ、工学系に関心がある生徒をまず広く受け入れ、その中で専門性を深めていく形が望ましいと思います。工学科が設置されたこと自体は素晴らしいですが、さらに対象を広げてもよいのではないのでしょうか。

さらに、長野県の今後の発展を考えると、工業系と農学系を組み合わせた分野が重要になってくると思います。先ほど県庁の方からも発酵に関する話がありましたが、農学と化学、バイオ技術を融合させるような学びは、今後10年、20年、あるいは30年先の日本にとっても重要になります。特に、安全保障の観点からも「食」の分野は大きな課題であり、農学と工学を組み合わせた技術は今後ますます必要になってくるでしょう。高専においても、こうした分野を取り入れることが重要ではないかと思えます。

このように対象を広げていくことで、女性の進学者も増える可能性があります。現状、男女比を見ても女性の方が多いわけですから、いかに女性を工学系に引きつけるかが、学校の存続にも関わってくるのではないのでしょうか。ぜひ、より幅広い視点で検討していただければと思います。

楡井副校長：ぜひ参考にして、今後の取り組みに活かしていきたいと思えます。

(4) 議題4 「いじめ対策について」

渡辺副校長：本校が取り組んでいるいじめ防止対策についてお話しします。どの高専でもいじめ対策に取り組んでいますが、外部の方から見た際に本校の取り組みがどう評価されるのか、ご意見をいただきたくて資料を作成しましたので、どうぞご確認ください。

現在、いじめ防止対策には「いじめ防止対策推進法」があり、この法律に基づき、本校では「長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画」を策定しています。この計画は、本校のホームページにも掲載しており、広く周知されています。

基本計画は主に8つの項目で構成されており、今回はその中から「いじめの未然防止」「いじめの早期発見」「いじめに対する対応」についてお話しさせていただきます。

まず、防止策についてですが、いじめ防止等基本計画にPDCAサイクルを組み込み、学校内に「いじめ対策委員会」を設けています。この委員会では、対策の計画を立て、実行に移すための具体的な策を講じています。例えば、アンケート調査などを実施して早期発見に努めています。もし何か問題が発覚した場合は、

迅速に対応します。

個別の事案に対しては、2ヶ月に1度開催される「いじめ対策委員会」で情報共有を行い、その後、対応策を確認し実行しています。重大な事案が発生した場合は、国立高等専門学校機構本部にも報告し、アドバイスをもらいながら対応します。

また、計画の進捗については定期的に評価・検証を行い、次回の対策に活かしています。本校は工業系の学校であり、いじめに関する情報が教職員に届きにくい場合があるため、定期的に研修を行い、担当者のスキルアップを図っています。

次に、いじめ防止プログラムについて簡単に説明します。本校では、5月と11月を「いじめ防止月間」として、特にいじめ防止に取り組んでいます。この期間中には、教職員や学生がいじめについて考えるための活動を行っています。

5月には、SNSを使ったトラブルが多いため、1・2年生に対してSNSのトラブルの問題を取り上げ、それがいじめにどうつながるかを考えさせます。上級生については、6月に「いじめ防止に関するワークショップ」を開催し、自分の意見をしっかりと書き表す活動を行いました。

また、保護者向けにはいじめ防止に関するパンフレットを配布し、理解を深めてもらうようにしています。早期発見を目指して、年4回のアンケート調査を実施しており、6月、8月、12月、2月に実施されています。

後期のいじめ防止月間には、研修会を行うなどして、教職員にもいじめ防止の重要性を再確認してもらいます。また、行事のタイミングで講話を実施し、学生と直接触れ合う機会も設けています。

10月には文化祭があり、保護者と面談を行う際に資料を配布し、相談窓口の案内もしています。

未然防止の取り組みとして、課外活動や学生同士の交流の場を設けていますが、最近では積極的に参加しない学生も増えており、すべての学生に行き渡っているかどうか課題となっています。また、寮生が370人ほど在籍しているため、親元を離れて暮らす学生たちのいじめの存在には、なかなか気づきにくい部分もあります。

そのため、学生自らがいじめ問題を真剣に考える機会を増やす必要がありますが、現在のところ、用意されたプログラムに参加する形にとどまっている状況です。

早期発見と対処のため、教職員には「早期発見・事案対処マニュアル」を周知し、いじめが発覚した場合には24時間以内に報告し、適切な助言を受ける体制を整えています。アンケートを通じて早期発見が可能となり、情報共有のために定期的なミーティングや、グループウェアを使った情報提供を行っています。

これにより、迅速に対応できている事例もいくつかありますが、今後の課題としては、すべての学年で共通のいじめ防止対策プログラムを考え、実施していくことが挙げられます。そのためには、学級担任の先生たちへの研修を行う必要があります。少しハードルが高い部分もありますが、引き続き取り組んでいきたいと思っています。以上、いじめ防止対策についてのご報告でした。

金澤参与：今の説明の中で何件か事例があったということでしたが、今年度、または

今年に入ってから、いじめに関する事例は何件把握されているのか教えていただけますか。また、後援会も少し関わって、一緒に取り組む形で情報共有や連携を深めることが重要だと感じますので、その点についてもご検討いただければと思います。

板屋室長：いじめ対策委員会で議論された件数はおそらく数件程度だと思います。その中で、いじめ案件として高専機構に報告したのは、現在2件となっています。

渡辺副校長：後援会との連携についてのご意見、今まであまり考えていなかったのですが、意見交換させていただき、今後の協力方法について検討していきたいと思います。

香山会長：学校だけでなく、保護者の方々も一緒に見守り、正しい対応ができるようになることが重要ですね。

香山会長：いじめの定義に関して、今回の対象は「学生対学生」に限っているという理解でよろしいでしょうか。2ページ目のいじめの定義に、学生同士の出来事であると書かれていたのですが、その点について確認させていただけますか？

渡辺副校長：はい、その通りです。基本的には学生同士の問題として扱っています。ただし、学生生活の中で、例えば学生と教職員との間で発生するパワーハラスメントやアカデミックハラスメントなどについては、いじめという言葉を使うのではなく、別の形で対応しています。これらについては、ハラスメント防止のための対策を定めており、それに基づいて運用しています。

香山会長：いじめとは直接関係ないかもしれませんが、高専では途中で進路を変更、キャリアチェンジをする学生もいらっしゃるかと思います。その中で、もし不幸なことが原因となって進路変更がある場合、どのくらいの割合でそういったケースが発生しているのでしょうか。また、先ほど2件の事例が報告されたとのことでしたが、それらは解決し、安心して学生生活を送れているか、卒業まで支障なく進めているのかについても教えていただけますか。

渡辺副校長：具体的な退学理由はわかりにくいのが実情です。ただし、現状としては、退学の理由で最も多いのは成績不振です。また、進路変更については、例えば3年生終了後に大学を受験することができ、昨年度には国立大学に推薦で合格した学生もいます。前向きな進路変更の事例もあります。いじめを理由に退学した学生については把握しておりません。

(5) 議題5 「質疑応答・意見交換」

香山会長：それでは、ご用意いただいた4件の議題についてご説明いただきました。ここからは、全体的な質疑応答や意見交換の時間とさせていただきます。今回の議題に限らず、皆様にご意見をいただければと思います。

渡辺参与：普段なかなか聞けないお話を伺うことができ、大変勉強になりました。長野高専ではオープンラボやソーシャルイノベーション・サポート・センターなど、積極的にさまざまな取り組みをされていると伺いました。しかし、これらの活動が十分に周知されていないのではないかと感じます。先ほど長野県経営者協会の平林さんもおっしゃっていましたが、こうした取り組みをもっと広報に活用すれば、志願者の増加にもつながるのではないのでしょうか。

当社にもさまざまな組織や部署があり、デジタル分野にも力を入れています。

取組みが成功に結びつかないケースも多いです。評価書の作成も重要ですが、最終的なゴールは成果を上げることにあります。企業でも同様に、成果につながる取組みを行うことが重要です。そのためには、ここにいらっしゃる幹部の皆様が、実現可能な指針を示し、具体的な形にしていくことが必要だと思います。

その点で、長野高専の皆様がさまざまなアクションをされていることは素晴らしいと感じました。今後は広報にも力を入れ、「こんな素晴らしいことをしている」ということをより積極的に発信していくべきだと思います。

江崎校長：私自身も、長野高専はこれまで入試広報などの活動にあまり積極的ではなかったのではないかと感じています。これまで3つの高専を経験してきましたが、他と比べてもやや控えめな印象があります。しかし、遠慮する必要はないと考えています。

そこで、私が着任後すぐに入試広報室を新設し、現在、広報活動を進めています。ただ、広報の内容をさらに検討しなければ、志願者増加にはなかなかつながらないというジレンマもあります。今回のご意見を参考にしながら、長野高専の取組みを積極的に外部へ発信していくことを重視していきたいと思っています。

香山会長：入試広報室では具体的にどのような活動をされていますか？

中山室長：現在、倍率の回復を目指し、特に中学生をターゲットに県内各地で説明会を開催するなど、昨年度以上に力を入れて取り組んでいます。また、後援会の方々にもご協力いただき、地域のネットワークを活用しながら中学生へのアプローチを進めています。

私自身、広報室長としての1年目ですが、地域によって長野高専に対する認知度に差があると感じています。近隣の学校では高専の存在は認識されているものの、その魅力を十分に伝えきれていないと感じます。一方、中信や南信の地域では、高専の存在自体を知らない方が多いのが現状です。そのため、ニュースの発信や地域での活動を通じて、まずは認知を広げることが重要だと考えています。現在進行形ではありますが、引き続き活動を進めていきます。

香山会長：信越放送様として、ご協力いただけることはありますでしょうか？

渡辺参与：はい。どんどん情報をください。長野県経営者協会のほうにも情報をどんどん提供してください。

平林参与：私の出身は松本ですが、中信や南信の地域では、長野高専の認知度が低くなっていると感じます。設立当初は「国立の工業高校ができる」と大きな話題になり、トップ校へ進学するよりも高専へ進むべきだという話もあったほどです。しかし、私が中学に入る頃にはそうした話題はほとんど聞かれなくなりました。おそらく、当時と比べて広報の力が弱まったのではないのでしょうか。

例えば、エプソンにも長野高専出身の役員クラスの技術者が以前はいましたが、最近はその話をあまり聞かなくなりました。それでも、高専出身の社員は毎年入社していますし、社内でOB会を開催すればかなりの人数が集まるのではないかと思います。こうしたネットワークを活用するのも一つの方法かもしれません。本日、代表取締役の方々も集まる機会があるので、長野高専をもっと大切にすべきだという話をしておきます。

香山会長：地域の人材育成は、長野県立大学なども含め、皆で協力して進めていくべ

きことだと思えます。せっきくの機会ですので、最後に皆様から一言ずつお願いできますでしょうか？

丸山参与：義務教育を担当しています。以前も申し上げましたが、義務教育の中でも理系科目、特に理科や科学に興味を持たせることが重要だと考えています。その一環として、「長野スーパーサイエンスプロジェクト」を実施しています。信州大学や高専の協力を得て、学校外で展開しているこのプロジェクトは大変人気があり、申込みができないといった苦情の電話もあるほどです。つまり、理系に興味を持っている子どもは非常に多いのです。

そのため、彼らの関心をどう育てていくかが課題となります。将来の就職先を考える以前に、「新素材やバイオ技術を活用して地球環境問題を解決したい」といった高い志を持っている子どもたちが多くいます。SDGsについて学ぶ機会も増えており、そうした夢をサポートする取り組みが求められています。「就職に有利」といった視点よりも、より大きなビジョンを提示することが重要だと思います。

徳島の「神山まるごと高専」は、私も設立当初から注目していました。校長には経済産業省の五十棲氏が就任し、さらに素晴らしい学校へと発展していくことでしょう。全国的に注目されるこのような新しい取り組みが求められています。ただ単に「女子学生を増やそう」という動きではなく、「この道に進めばこんな未来が待っている」というビジョンを明確に示し、広報していくことが大切だと考えます。

私自身、市立長野高校を担当しているため、こうした課題に真剣に向き合っていきたいと思えます。

倉島参与：理系、特に技術系の人材は産業界にとって必要不可欠ですが、私たちもまた企業をサポートする立場として、技術職の人材が不足していると感じています。工業技術総合センターには技術者が集まっていますが、さらに多くの人材が求められています。

特に化学や食品系、さらには電動化の進展に伴い電気系の人材も重要です。EV（電気自動車）は一時的に勢いが落ちているとはいえ、電動化の流れは止まりません。教育界全体で理系人材の底上げを図り、産業界とともに成長できるような体制を作りたいと考えています。

池田参与：私どもミマキエンジニアリングでも、高専卒の方は60人以上、エプソンさんには100人以上の方が入社されていると思えます。しかし、昔に比べると高専生の存在感が薄れてきました。

私自身、「もう少し技術的に頑張ろう」と考え、技術者を集めようとしたのですが、全く人が集まりませんでした。そこで、長野高専さんに相談したところ、何人かが入社し、技術的なリーダーシップを取れるようになった、という経緯があります。

私はたまたま長野高専の電気工学科の2期生で、在学中に「電子計算機」の授業を少し受けました。その後、沖電気の子会社に入社し、当時はミニコンやオフコンに関わる仕事をしていました。あるとき、「この分野をやっていた」と話したところ、「じゃあ、お前が行ってこい」と任され、自然な流れで担当することになりました。

当時、設計はドラフターを使って行われていましたが、「将来的にはパソコン上で設計し、出力する機械が必要になる」と言われ、「じゃあ、それをやってみようか」と取り組んだのがプロッターでした。現在は、看板のカッティングやインクジェット技術へと発展しています。こうした流れを経て、技術はつながり、未来を見据えながら学ぶことが重要だと実感しています。

例えば、自動車業界はこれから大きく変化します。センサーが20個も搭載され、これまで5万円程度だった電子部品が30倍以上になるという話もあります。しかし、それらを動かすには結局ソフトウェアが不可欠です。バイオ技術も重要ですが、ソフトウェアはさらに重要であり、システムの機能性を高めるために欠かせません。

女性技術者の採用も積極的に進めています。バイオ分野も大切ですが、直近ではソフトウェア技術がより求められると考えています。

長野高専の教授の皆さんが研究開発を進め、それに長野県の産業がついていく。そして、その流れの中に学生が入っていく。そんな未来の姿を描き、実現していければと願っています。

渡辺参与：今朝、テレビ番組で駒ヶ根工業高校のロボット部が全国優勝・準優勝したと報道されていました。家内も見ているので「駒ヶ根工業ってすごいね」と感心していました。

こうした話題が広まるのが非常に重要です。長野高専も素晴らしい活動を行っているのですから、もっと積極的にアピールすべきです。もったいないと思います。

平林参与：文部科学省には長野県出身の関係者がいます。うまく活用し、改革を進めてください。

萱津参与：私は県立大学の関係者として、さまざまな取り組みを学ばせていただく機会になったと感じています。

高専では非常勤講師を務めています。先ほども申し上げたとおり、高専には16歳から20歳の学生が在籍しています。高校では「生徒」といった呼び方をしますが、高専では「学生」となり、その違いを改めて考えさせられました。

また、先ほど先生方がご説明された「いじめ」という言葉についても印象に残りました。大学では「いじめ」という言葉をあまり聞きません。もちろん、ハラスメント対策は進めています。が、「いじめ」というキーワードが高専ならではものなのか、それとも大学でも対応が必要なのか、改めて考えさせられました。大学では、学生同士のトラブルにあまり介入しませんが、高専では担任の先生方がクラス単位で学生指導をしっかり行っていることを知り、大学としても見習うべき点が多いと感じました。

さらに、工学系だけでなく、現在、私たちの大学でも志願者の減少が深刻な課題となっています。そのため、学部の改組やカリキュラムの変更を検討している最中です。そうした背景から、会の最後に話題に上がった点についても非常に参考になりました。

小河原参与：今日のお話を伺い、改めてショックを受けたのは、やはり志願者数の減少についてです。この状況には非常に危機感を覚えています。

先ほど「高専のメリット」という話がありましたが、私自身が高専を選んだ最大の理由は「学費の安さ」です。ただ、近年、高等教育の無償化が進められようとしています。もしこれが実現すれば、高専の魅力が相対的に薄れ、志願者数がさらに減少するのではないかと危惧しています。

現在の志願倍率が1倍程度という話がありましたが、ほぼ全員が入学できる状況になれば、学力層がばらつき、特に下位層の学生にとっては厳しい環境になってしまうのではないかと懸念しています。私自身、学生時代は決して優秀ではなかったため、先生方にご負担をかけたと自覚しています。もし学力が追いつかず途中で脱落してしまう学生が増えるのであれば、入学前の段階で一定の基準を設けることも必要かもしれません。

もちろん、新しい学科やカリキュラムの導入によって志願者を増やしていく取り組みには大いに期待しています。しかし、学生のため、そして先生方のためにも、入学基準についても慎重に検討していただくべきではないかと思えます。

金澤参与：後援会では、学生の部活動や学生生活を支援する活動を行っています。また、県内には13の支部があり、それぞれの支部では親御さん同士の交流も行っています。

しかし、コロナ禍の影響で、しばらくの間、交流会を開くことができませんでした。現在は徐々に再開され、支部内での交流会や親御さん同士の意見交換ができるようになってきています。

高専生はあまり親に学校での様子を話さないことが多いですが、こうした交流を通じて、親同士のつながりを深めることができればと思っています。今後も後援会として、こうした活動を大切にしながら取り組んでいきますので、どうぞよろしく願いいたします。

香山会長：信州大学工学部では、高専生向けに3年次編入の枠を設けており、特に女子学生向けに20名の枠を設置しています。今年で2年目になりますが、定員40名のうち20名を高専女子枠としているのは、かなり大きな取り組みではないでしょうか。現在も絶賛募集中ですので、ぜひ来年も多くの学生を送り出していただければと思います。

また、女子学生に限らず、工学全体が地域として発展していくことが重要です。特に長野県の北部は製造業が盛んな地域でもあります。先ほど県の方からもお話がありましたが、地域のニーズに応え、地域を活性化させる形で連携していければと考えています。さらに、学びの面では、社会情勢やグローバルな視点を持つことも忘れてはならないと感じています。

7. 閉会

江崎校長から閉会として、本校の教育機関としての充実を図るため、参与の皆様からいただいた貴重な意見を今後の学校運営に活かしていきたい旨の挨拶があった。また、地域に根差した高等教育機関としてさらなる発展を目指し、引き続き支援と協力をお願いする旨の発言があった。

以上

2. 参与会の提言を受けて

第19回参与会（令和4年度）から第21回参与会（令和6年度）まで、3回の会議を実施し、参与の皆様から本校の活動の対して多くの貴重なコメントや提言をいただいた。これらを基に、本校の教育研究活動の改善に取り組んできた。以下に、改善活動に反映された主な取り組み事例と今後検討すべき事項を示す。

（1） 本校の改善活動に反映した主な取り組み事例

① 自己点検活動の実施スケジュールの設定

第19回参与会において、自己点検が年1回ではPDCAサイクルの「CA」（評価と改善）が不十分であり、「PD」（計画と実行）の繰り返しに留まっているとの指摘を受けた。これを受け、令和5年度から四半期ごとの点検活動を導入し、実質的な改善に結び付けるようにした。

② 定量的な評価方法と点検事項自体の見直しの実施

第19回参与会において、評価が抽象的であるとの指摘を受けている。このため、具体的な点検事項を定め、その実施率に基づいて評価するように変更した。また、第20回参与会では、点検事項の見直しは毎回の点検時に実施すべきとの指摘を受け、点検事項も点検・修正することとした。

③ 中学生向けPRの場としての体験入学・オープンキャンパス・ホームページリニューアル

中学生への高専PRとして、夏の体験入学や秋のオープンキャンパスが行われている。令和4年度から工学科に改組されたことと併せて、高専の教育環境が紹介されている。令和5年度には60周年記念事業の一環として、ホームページのリニューアルを実施した。

④ 2年生における海外研修

令和5年度より、2年生の研修旅行として台湾を訪問し、文化や歴史に触れるとともに、現地大学生との交流を通じて英語力やコミュニケーション力を試す機会としている。

⑤ グローバルな交流の拡充

従来締結しているタイ、香港、台湾、ベトナム、インドネシアの大学に加えて、カナダのNorthern Alberta Institute of Technology（令和6年3月）、Saskatchewan Polytechnic（令和7年2月）との国際交流協定を締結した。

⑥ 研究活動とスタートアップ人材育成への取り組み

令和5年より、高速伝送信号評価センターとソーシャルイノベーションサポートセンターを設置し、研究活動に学生を交えた取り組みを行っている。ソーシャルイノベーション・サポートセンターでは、様々なセミナーや研修会を通じて、起業家マインドの涵養を行っている。また、令和6年度からはオープンラボの運用を開始し、地域企業との共同研究の中で学生教育の活性化の一助としている。

⑦ PBL教育の拡充

令和5年度より、工学科2年生の必修科目「エンジニアリングデザイン入門」において、小グループでの課題解決型プログラムを実施している。ここでは、長野高専

技術振興会企業の支援をいただきながら、全2年生がグループごとにテーマを設定し、その解決に取り組み、成果をポスターで発表している。令和7年度からの工学科4年生の必修科目「エンジニアリングデザイン実践」につなげていく。

(2) 今後検討すべき事項

① 活動目的に対する客観的評価

第21回参与会において、自己点検は目的とする活動の効果を把握することが必要であり、形ばかりの点検にならないようにすることが重要との指摘を受けた。点検事項の先にある活動目的の客観的評価に資するものにする必要がある。

② 受験者増加への取り組み

受験者倍率が年々低下傾向にある中で、優秀な人材確保の面からも受験者数の増加に向けた取り組みが必要である。第21回参与会で提示した新系設置構想の一環であるが、長野高専の広報活動の一層の充実も求められている。

③ グローバル教育の充実

令和6年度に実施された卒業生・企業アンケート結果からも、より一層の英語力やコミュニケーション力の強化が指摘されている。

以上のように第19回～第21回参与会での指摘や、それらに対する取り組みの概要を報告した。これら以外にも解決すべき多くの課題がある。より良い教育研究活動を目指した取り組みは、将来の長野高専のためにも、全教員が一致して進めていく必要がある。外部からのコメントや提言を活かしていきたい。

ご尽力いただいた参与の皆様へ深く感謝申し上げますとともに、協力いただいた関係各位へ感謝の意を表す。

(外部評価報告書第8報執筆編集担当：総務主事 楡井雅巳)

第 19 回 参与会 配付資料 (2023 年 2 月 14 日)

- ・ 長野工業高等専門学校 参与会 設置要項 (添付省略)
- ・ 第 19 回 長野工業高等専門学校 参与会 次第
- ・ 第 19 回 長野工業高等専門学校 参与会 出席者名簿 (添付省略)
- ・ 第 19 回 長野工業高等専門学校 参与会 座席表 (添付省略)
- ・ 資料No. 1 令和 4 年度 自己点検・評価表
- ・ 資料No. 2 自己点検・評価の方法
- ・ 資料No. 3 説明資料
- ・ 資料No. 4 補足説明資料
- ・ 資料No. 5 評価記入用シート
- ・ 冊子
 - 学校要覧 2022 年版 (添付省略)
 - GUIDE BOOK 2023 (添付省略)
 - 学園だより 187 号 (添付省略)
 - 長野高専基金 (添付省略)

第 19 回長野工業高等専門学校参与会

《次 第》

日 時 令和 5 年 2 月 1 4 日 (火) 10:00～12:00

会 場 長野工業高等専門学校 第 1 会議室

次 第

1. 開会
2. 会長・副会長紹介
3. 自己紹介 (各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ
5. 配付資料確認
6. 令和 4 年度自己点検・評価
 - 1) 自己点検・評価表の評価方法
 - 2) 自己点検・評価の説明
 - 3) 質疑応答・意見交換
7. 閉会

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	文章	1から5	文章
							現状	自己評価	改善点
1. 教育の内部質保証	自己点検評価	1	自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されおり、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	総務主事	総務主事 (教育改善委員長)	1.1 長野工業高等専門学校自己点検評価の実施に関する要項 1.2 教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せ 1.3 R2年度計画 実績調査に対する自己点検評価 1.4 運営会議議事概要(工学科の3ポリシー) 1.5 1.5 執行会議議事概要(専攻科の3ポリシー) 1.6 授業改善システム(抜粋) 1.7 令和3年度教育改善報告書 1.8 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 1.9 自己点検評価報告書 https://https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/self/index.php	・自己点検評価の実施に関する要項が定められており、6つの各種点検・改善システムの申合せに従って、自己点検・評価が行われ、その結果が公表されている。 自己点検評価項目による点検システム 年度計画項目による点検システム DP、CP、APの点検・改善システム 各委員会の重点項目の点検システム 授業改善システム 学生への支援体制点検システム	5	一部の自己点検評価項目による点検システムは、令和4年度に初めて実施されるものであり、継続して実施していく。
		2	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が、教育の質の改善・向上に繋がっているか。	総務主事	2.1 R01 卒業生企業等アンケート報告書 2.2 令和2年度 教育改善報告書 本文 2.3 令和3年度教育改善報告書	・令和元年度にアンケート調査を実施し、意見聴取が行われ、要望等を各委員会に教育改善委員会より提言した。	3	アンケートの回収率が15%ほどであり、高めることが望まれる。	
	3つのポリシー	3	準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が定められており、社会の状況等の変化に応じて見直されているか。	教務主事	教務主事 専攻科長	3.1 準学士課程および専攻科の3つのポリシー(ホームページ掲載) 3.2 執行会議等の各種資料	・令和3年度に、改組新学科である工学科の3ポリシーを新たに策定し、現行の5学科および専攻科のアドミッションポリシーに入学選抜の基本方針を入れる修正を行った。 ・専攻科については、令和4年度は方針および教育課程の見直しは行っていない。引き続き社会の状況の変化に応じて見直しを行う。	5	社会状況に応じて見直ししていく。
2. 組織及び教員・教育支援者	学校組織	4	教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているか。	事務部長	事務部長	4.1 組織図 4.2 内部組織規則 4.3 校務分掌一覧 4.4 会議資料(議事概要)	・本校の使命・目的を達成するために、教育研究の基本的な組織が適切に構成され、各組織においても適切な関連性が保たれている。	4	教育研究活動の充実及び社会の要請等に対応していくため、必要に応じ適切に見直ししていく。
	教員等の配置	5	準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。	教務主事	教務主事 専攻科長 事務部長	5.1 【抜粋】2022学校要覧(組織図・専任教員一覧) 5.2 2022後期本科専攻科時間割 5.3 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に係る基本データ(別紙1) 5.4 学則別表第3-6(専攻科) 5.5 専攻科教員氏名経歴概要等を記載した書類 5.6 学修総まとめ科目「特別研究II」課題一覧	・準学士課程においては、一般及び専門の教員を各科目担当者として配置し、必要に応じて技術支援部より技術職員を配置している。 ・専攻科課程においては、生産環境システム専攻に機械工学、電気電子工学、土木工学を専門とする教員を、電気情報システム専攻には電気電子工学を専門とする教員を配置した。	4	学科再編による変更点を確認し適切に配置していく。
	教員の評価	6	教員の採用や昇任に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育研究活動に対して、定期的な評価が行われているか。	教務主事	校長 教務主事	6.1 長野工業高等専門学校教員選考基準 6.2 長野工業高等専門学校における教員の昇任選考に係る取扱い 6.3 長野高専における教職員顕彰に関する申合せ	・教員の採用や承認は、これらに関する基準に則り行われている。 ・年度当初の業務計画や研究業績一覧等により、教員の教育研究活動に対する評価を実施している。	4	必要に応じて基準を見直ししながら適切な評価等を継続していく。
FD活動	7	FD・SD活動が実施され、改善等に基づいているか。	総務主事	総務主事 (教育改善委員長)	7.1 令和3年度教育改善報告書	・令和3年度は計4回のFD研修会を実施した。FD・SDは実施されているが、教育およびその支援等の具体的評価手法が定められていない。	3	教育およびその支援等の具体的評価手法について検討する。	

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
3. 学習環境及び学生支援	学習環境	8	学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。		事務部長	8.1 施設利用実態調査 8.2 令和4年度第1回安全衛生委員会議事要旨	・学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用している。	4	学校の施設・設備の有効活用を図るため、長期的展望に立ち、環境に配慮した計画的、積極的な整備を行う。
		9	学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。		教務主事 (情報教育センター長) 総務主事 (教育改善委員長)	9.1 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 9.2 BYOD購入依頼文書 9.3 BYOD+PCIに関する学生アンケート 9.4 (簡易版)スイッチ_AP_配置図_20221107 9.5 ネットワーク接続マニュアル_教職員 9.6 校内無線LANへの接続方法_Windows10 9.7 長野高専 情報システム関連 FAQ(学生向け)	・学生の満足度調査が行われ、有効に活用できている。 ・令和3年度の1年生から、BYOD(BringYourOwnDevice:個人所有端末)を導入し、学生個人のPCを授業に活用している。BYODを推進することにより、PCなどの情報機器をより身近なものとし、卒業までの在学中にICTを活用するスキルを高めるのみならず、最新のPC環境を学生が利用できるようになった。 ・全学生を対象としたBYODの無線LAN環境を提供している。 ・認証方式をIEEE802.1x認証としてセキュアなネットワーク接続環境を提供している。	4	今後も継続する
		10	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。		総務主事 (図書館長)	10.1 令和2年度図書館蔵書統計 10.2 学校要覧図書館のページ【2022学校要覧から抜粋】 10.3 令和3年度後期図書館利用状況報告	・図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を教員からの推薦により購入し系統的に整理し、有効に活用されている。 令和3年度の状況 ・蔵書総数 82,387冊(令和2年度:74,348冊) ・入館者数 34,100人 ・退出冊数 5,404冊 ・帯出者数 2,766人	4	今後も継続する
		11	新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。		教務主事 専攻科長	11.1 新入生の年度当初の日程について 11.2 新入生のための学習のアドバイス 11.3 令和4年度専攻科ガイダンス実施要領 11.4 外国人留学生生活ガイドブック	・準学士課程においては、新入生、留学生、編入生に対しては、授業開始までに、ガイダンスを実施している。 ・専攻科課程においては、1年生は入学式当日に、2年生については別途機会を設けてガイダンスを実施した。2年生については学位申請ガイダンスも実施している。	4	様々な変更点を含め、適切なガイダンスの実施を継続する。
		12	学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。		教務主事 専攻科長 学生相談室長 総務主事(教育改善委員長)	12.1 学級担任ガイドブック 12.2 学生相談室報告 12.3 2021年度メール目安箱投書メール対応状況一覧 12.4 令和3年度長野高専の満足度調査報告書 12.5 内部規則規程(専攻科) 12.6 専攻科1年生面談予定	・準学士課程においては、学級担任制により、学生の相談・助言を行っている。 ・メール目安箱等、学生の意見や苦情を受けるシステムが構築され、対応は遅延なく行われている。 ・専攻科課程については、専攻科および専攻科長が相談・助言を行っている。	4	学級担任ガイドブックの確認や見直しを継続して進める。学校としての体制を、学生に周知する仕組みを検討する。
		13	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。		教務主事 専攻科長 グローバル教育推進センター長 (国際交流センター長) 学生相談室長	13.1 令和4年度第1回国際交流センター会議議事概要 13.2 外国人留学生チューターの手引き 13.3 相談室会議資料 13.4 障害のある学生に対する特別支援	・入学前に保健調査票による保護者からの申し出等により特別な支援を必要とする学生を把握し、入学時より支援可能な体制を整えている。 ・留学生(3・4学年)に対してはチューターを選考し、学習と生活の支援を計画通りに実施している。また、留学生の生活支援として、寮務委員と留学生の近況の情報を共有することとし連携体制を整えた。 ・専攻科課程については、専攻科および専攻科長が学習支援や生活支援を行っている。	4	各学生の状況に応じて支援を行っている。今後も継続する。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点		
学生支援		14	学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。	学生主事 専攻科長 学生相談室長	学生主事 専攻科長 学生相談室長	14.1 学生相談室報告 14.2 経済支援実績R04学生支援委員会議事概要 14.3 学生支援委員会資料 14.4 学生支援委員会資料 別冊奨学金等の構内基準一覧 14.5 経済支援周知チラシ保護者向け 14.6 学級担任業務ガイド	・本科生に対しては学級担任をおき、また専攻科生に対しては専攻長が、きめ細かな指導・支援を行っている。また、学級担任業務ガイドをつくり(随時更新し)、社会状況に応じた指導・支援を行っている。さらに、個別の問題については学生相談室と連携して支援を行なっている。	4	個別の問題にチームで対応することになるが、専門家を含めたチーム内の連携を高めていく。		
		15	進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。			学生主事	進路支援室長	15.1 進路支援室会議議事概要 15.2 実務訓練の手引き 15.3 進路選択ガイド	・本科生に対しては学級担任や系長(学科長)が、専攻科生に対しては専攻長や専攻科長が、きめ細かな指導・支援を行っている。また、学生向け進路選択ガイドをつくり(随時更新し)、状況に応じた指導・支援を行っている。 ・本科生の実務訓練は教務委員会と4学年会が中心となり、また専攻科生の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって支援を行なっている。 ・令和4年度から進路支援室が中心となってキャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施している。	4	本年度から進路支援室を新設し、支援体制を強化していく。
		16	課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。			学生主事	学生主事	16.1 2022年度部・同好会の指導に関するガイドライン 16.2 部・同好会指導教員一覧 16.3 ケガ等報告書 16.4 長野高専課外活動指導員マニュアル 16.5 課外活動指導員業務報告書 16.6 団体結成審査方針の見直し 16.7 部・同好会の校内手続き 施設使用願	ガイドラインやマニュアルをつくり(随時更新し)、適切な支援を行うとともに、校内手続きのスマート化をはかっている。 「団体結成願(申請)の許可基準について」、「部・同好会活動の継続許可基準について」(執行会議承認)等により、団体数や活動の質をコントロールし、それを支える教職員の支援体制が適切に機能するよう努めている。	4	教職員の負担軽減のため、課外活動指導員(非常勤職員)の増員を引き続き行っていく。
		17	学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。			寮務主事	寮務主事	17.1 寮生会との協議会開催日程 17.2 寮生活に関するアンケート集計結果	・勉強会についてはコロナ過であるため、本年度は1回のみ開催している。 ・満足度調査は実施している。 ・寮生会との懇談会は月に1回程度実施している。	4	今後、勉強会の実施回数を増やしていく。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
4. 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	18	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているか。	教務主事	教務主事	18.1 教育課程表 18.2 系統図	・カリキュラムポリシーに基づき、理数系基礎科目及び人文社会系の教養科目は低学年を中心に、工学系の科目は高学年を中心に体系的に配置している。	4	学科再編後のカリキュラムについて、さらに整備を進める。
		19	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。	教務主事	教務主事	19.1 教育課程表 19.2 系統図 19.3 シラバス(科目の抜粋)	・実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験実習、卒業研究などにより、課題の発見能力、解決能力、及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成している。 ・異文化理解、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成している。	4	学科再編により対応させて配置したカリキュラムの確認を継続する。
	授業形態、学習指導法	20	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	教務主事	教務主事	20.1 授業公開(教員相互参観)アンケートより(抜粋)	・主体的な学習活動に向けた教材の利用や、新たなオンライン教材の活用、遠隔授業でも利用できるカメラやPCの設置など、様々な工夫を行っている。	4	新たな教育手法とあわせて、教育改善を継続して進める。
		21	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	教務主事	教務主事	21.1 シラバス(科目の抜粋) 21.2 授業改善システム(抜粋)	・カリキュラムポリシーに沿って設定された到達目標を記したシラバスを作成し、活用している。	3	再編によるWebシラバスの問題点にも対応しながら改善を進める。
	成績評価・進級及び卒業判定	22	成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。	教務主事	教務主事	22.1 教育課程表 22.3 シラバス(科目の抜粋)	・シラバスにおいて、成績評価および単位認定の基準を明記している。 ・教育課程表において、進級および卒業認定の基準を明記している。	4	必要に応じて改善を進める。
		23	成績評価は適切に行われているか。	教務主事	教務主事 総務主事 (教育改善委員会)	23.1 シラバス通りに成績評価が行われているかの一例 23.2 授業改善システム(エビデンスのチェック)	・各教員により成績評価が行われ、教育改善委員会によりエビデンスの確認を行っている。 ・成績評価がシラバス記載の通りに実施されているかの自己点検、および教育改善委員会におけるチェック体制と整えられ、適切に実施されている。	4	点検がより効果的に運用できる体制を検討する。
		24	進級判定、卒業認定が適切に行われているか。	教務主事	教務主事	24.1 成績判定会議の開催 24.2 年度末成績一覧	・卒業、進級判定のための資料を作成し、教員会議において確認している。	5	必要に応じて改善を進める。
	学習・教育の成果	25	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	教務主事	25.1 R3学生表彰受賞者一覧 25.2 R3特別敢闘賞受賞者一覧 25.3 年度末成績一覧	・各科目の平均点、卒業研究発表、学生表彰により、学習・教育の成果を確認している。	4	必要に応じて改善を進める。
		26	卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	教務主事	26.1 R3学習・教育目標の達成度自己評価調査票のまとめ 26.2 R3卒業生・修了生アンケート分析 26.3 R01卒業生企業等アンケート報告書	・卒業時の学習・教育目標達成度自己評価、ならびに卒業生・企業等アンケートにより確認している。	3	回答率の改善に向けて、新設した教学IR室を中心にさらに体制を整える。
		27	卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	教務主事	27.1 R3年度進路指導報告書 27.2 R3進路先一覧	・進路指導報告書の就職先および進学先から、学習・教育目標の成果が認められる。	4	必要に応じて改善を進める。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点	
5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	28	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。		専攻科長	28.1 学則別表第3-6(専攻科) 28.2 教育課程系統図	・融合複合・新領域で教育課程を編成しているため、系統図上は本科と結ばれていないが、本科で基礎的なことを学び、専攻科で応用的なことが学べるよう教育課程を編成している。	4		
		29	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。		専攻科長	29.1 シラバス抜粋	・授業科目の内容については、シラバス作成時に内容の検討を依頼している。また、社会からの要請に対応し、創造力・実践力を育む科目として「機能デザイン」、「学外実習」、「実践工学演習」を実施、異文化や地域の文化を理解する科目として「英語特論Ⅰ・Ⅱ」を実施している。	4		
	授業形態、学習指導法	30	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。		専攻科長	30.1 第13回委員会資料(R03専攻科運営委員会後期活動概要)	・ICT機器、遠隔授業、授業のアーカイブ作成など工夫している。	4		
		31	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。		専攻科長	31.1 生産環境システム専攻シラバス 31.2 電気情報システム専攻シラバス 31.3 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境 機械工学 31.4 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境 電気電子工学 31.5 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022生産環境 土木工学 31.6 学修総まとめ科目の授業に関する実施計画書 2022電気情報 電気電子工学 31.7 R04特別研究ⅠⅡ発表会実施要項	・カリキュラム・ポリシーに沿ってシラバスを作成している。また、授業開始時にシラバスの内容を説明するとともに、授業実施のスケジュールの説明等に活用している。 ・大学改革支援・学位授与機構の認定を受けた個表を持つ指導教員が研究指導を行うとともに、研究成果を特別研究発表会において発表させている。	4		
	成績評価・修了判定	32	成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。		専攻科長	32.1 R4専攻科学生便覧	・成績評価および単位認定についてはシラバスを使って説明している。修了認定については年度当初のガイダンスで学生便覧掲載の学則別表3~6を説明している。	4		
		33	成績評価は適切に行われているか。		専攻科長 総務主事 (教育改善委員会)	33.1 シラバス通りに成績評価が行われているかの一例 33.2 授業改善システム(エビデンスのチェック)	・成績評価がシラバス記載の通りに実施されているかの自己点検、および教育改善委員会におけるチェック体制と整えられ、適切に実施されている。 ・エビデンスの提出を受け、成績評価が適切に行われているか教育改善委員会で点検している。	4	点検活動がより効果的に運用できる体制を検討する。	
		34	修了認定が適切に行われているか。		専攻科長	34.1 R3専攻科「産業システム工学」プログラム修了判定資料	・専攻科運営委員会および教員会議で確認した後、執行会議で修了判定を行っている。	5		
	学習・教育の成果	35	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。		専攻科長	35.1 R3 専攻科2年生・総合判定表 35.2 R4.3連携教育P修了判定資料	・ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められ、27名全員の専攻科修了を認めた。また、JABEEプログラムは25名、連携教育プログラムは2名の修了を認めた	4		
		36	修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。		専攻科長	36.1 R03専攻科修了生到達度調査 AP 36.2 R03専攻科修了生到達度調査 AE 36.3 R03ルーブリック形式による学習・教育目標の達成度評価確認表(学生用, 20200304) 36.4 R03学習・教育目標の達成度評価確認(E渡辺)	・ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果は、修了時の学生面談や達成度評価確認表等で確認した。	4		
		37	修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。		専攻科長	37.1 専攻科の修了状況 37.2 過去5年間の学位取得状況と進路決定状況(H30-R3) 37.3 専攻科の就職状況 37.4 専攻科の進学状況 37.5 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の	・大学改革支援・学位授与機構に学位申請した25名全員の学士(工学)が授与された。また、豊橋技術科学大学との連携プログラム生2名は同大から学士(工学)が授与された。 ・進路は全員就職または進学が決定しており、学習・教育の成果を確認した。	4		

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点	
6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ	準学士課程の学生の受け入れ	38	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施されているか。		教務主事	38.1 令和5年度長野高専入学者募集要項(抜粋) 38.2 R5推薦選抜実施要領(抜粋) 38.3 R4学力選抜実施要領(抜粋)	・科学技術への関心を持つことを出願資格に明記し、調査書および面接により推薦選抜を実施している。 ・数学、理科、英語に傾斜配点を行った学力検査と調査書により学力選抜を実施している。	3	アドミッションポリシーに沿って選抜を実施しているが、合致する形に向けては改善の余地がある。	
		39	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。		教務主事	39.1 教学IR室報告(R4入学者選抜)	・教学IR室を新設し、入学者の追跡調査ならびに選抜方法の改善への検討をしている。	3	今年度、教学IR室を新設し、これまで以上に検証を進めることとしている。	
		40	受験者数増加対策は効果的に行われているか。		入試広報室長 教務主事 総務主事(広報企画室) 男女共同参画推進室長	40.1 R4一日体験入学実施案 40.2 令和4年度入試広報活動実施状況(入試広報室会議資料) 40.3 男女共同参画推進の事業例	・一日体験入学を実施し、中学生は学科再編を行った工学科のすべての系での体験授業に参加した。 ・中学校での対面での説明会、およびオンラインでの説明会を実施し、動画をホームページでも公開している。 ・出前授業の実施は、長野高専を多くの小中学生に知ってもらい機会となっている。 ・東京2020パラリンピック「車いすバスケットボール男子」に日本代表として出場した藤澤潔先生による特別講義を開催した。	4	新たな手法の検討も進める。	
	専攻科課程の学生の受け入れ	41	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施されているか。		専攻科長	41.1 R5専攻科学生募集要項	・アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施している。	4		
		42	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。		専攻科長	42.1 専攻科における過去5年間の休学者および退学者	・過去5年間における退学者が1名であり、アドミッション・ポリシーに沿った選抜ができていない。	3	入学選抜の改善に役立てた具体例はない。今後検証する。	
		43	受験者増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。		専攻科長	43.1 R04.4年生進学講演会実施要項 43.2 学校要覧2022抜粋_入学志願者入学状況 43.3 特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に係る基本データ(別紙1)	・12月に本科4年生に対して進学説明会を実施している。 ・過去5年間の定員充足率は、生産環境システム専攻が140.0%、電気情報システム専攻が142.5%と多めである。	3	大学改革支援・学位授与機構からは130%程度となるよう指導されており、改善したい。	
	7. 研究活動の状況	研究体制と支援体制	44	研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。		研究主事	44.1 長野工業高等専門学校における研究活動に関する目的・基本方針および目標 44.2 特別経費運用方針および申請通知 44.3 令和4年度科研費申請書添削支援状況 44.4 RAの雇用に関する取扱いについて	・特別経費配分による教育研究活動支援を実施している。 ・科学研究費補助金申請書の添削支援を実施している。 ・リサーチアドミニストレータによる研究活動支援や企業との共同研究マッチングを実施している。	4	
		研究活動の成果	45	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。		研究主事	45.1 令和4年度長野高専シーズ集 45.2 令和3-4年度科研費および共同研究等受入れ状況 45.3 令和3年度研究業績等一覧	・シーズ集の発行および技術振興会会員向け配布や産業展等での配布および説明を実施している。 ・研究業績の収集および公開等を通じて研究活動の状況把握を実施している。	4	
		研究活動の改善	46	研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。		研究主事	46.1 研究推進委員会規則 46.2 研究倫理委員会規則	・研究推進委員会を発足させ、研究業績等の収集や知財管理、外部資金獲得支援や紀要発行体制を整備した。 ・研究倫理委員会を発足させ、研究倫理審査等の体制を整備した。	4	各委員会設置が9月であったため、研究推進委員会の主な業務は次年度以降の活動となる予定。

大項目	小項目	番号	点検項目	PowerPoint	担当	根拠資料	現状	自己評価	改善点
8. 地域貢献活動等の状況	地域貢献活動の計画	47	地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。		総務主事 研究主事	47.1 長野工業高等専門学校における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標 47.2 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 47.3 令和4年度地域共同テクノセンター事業(ご案内) 47.4 令和4年度地域共同テクノセンター暦	・長野高専における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標を定めている。 ・サイエンスツアー(出前授業)、サイエンス・ライブ(公開講座)、学外開催の各種科学イベント、県内各地の産業フェア等に計画の上、出展している。 ・テクノセンターにおいて44のリカレント教育事講座等を企画し実施中。	5	令和3年度までコロナ禍で地域貢献活動に制約があったが、令和4年度は徐々に制約が少なくなりつつあり、感染予防に配慮しながら実施を継続していく。
	地域貢献活動の成果	48	地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。		総務主事 研究主事	48.1 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 48.2 令和4年度地域共同テクノセンター講座実施計画	・サイエンスツアー(出前授業)、サイエンス・ライブ(公開講座)、学外開催の各種科学イベント、県内各地の産業フェア等において、産業界、地方公共団体、コミュニティ、他の教育機関と連携することにより、社会活動に貢献している。 ・蓄積してきた技術開発や研究の成果をリカレント教育により地域社会に還元し、地域の発展に務めている。 ・リカレント教育講座等に企画担当者を設置し、講座内容の充実や改善を行った。	4	今後も継続していく
	地域貢献活動の改善	49	地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。		総務主事 研究主事	49.1 令和3年度広報企画室の活動計画・取組結果【令和3年度教育改善報告書から抜粋】 49.2 令和3年度地域共同テクノセンター講座アンケート結果	・地域貢献活動の実施状況を把握するとともに、アンケート調査を実施し改善を図っている。	4	今後も継続する
9. 財務及び管理運営と情報公開	財務関係	50	適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。		事務部長	50.1 2022予算配分方針(確定版)	・適切な収支に係る計画等を策定し、学内に明示している。	4	
		51	適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。		事務部長	51.1 2022学内当初予算配分(確定版)	・適切に予算を配分し、執行状況の確認を行っている。	4	学校運営上の課題を把握し、予算の適正な配分に努める
		52	適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。		事務部長	52.1 HP:情報公開 学校案内 国立長野高専	・適切に予算を執行し、法令上、公表が義務付けられている書類については、その結果を公表している。	4	
	管理運営	53	各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。		事務部長	53.1 内部組織規則 53.2 各委員会規則 53.3 事務組織及び事務分掌規則 53.4 令和3年度教育改善報告書	・各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。	4	
		54	情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されているか。		総務主事 事務部長	54.1 リスク管理室規則 54.2 サイバーセキュリティ管理・推進・教職員 規則 54.3 2022年度防災マニュアル(防災訓練用組織図あり) 54.4 情報セキュリティ利用者規則	・情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されている。	4	
		55	管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。		事務部長	55.1 管理運営等の研修会への参加リスト	・管理運営に関わる資質の向上を図るため、機構本部が実施する研修等への参加を積極的に行っている。	4	
		56	外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。		研究主事	56.1 特別経費運用方針、申請通知および配分結果 56.2 令和4年度科研費申請書添削支援状況	・外部資金公募の周知や科研申請支援として添削支援を実施した。	4	外部資金公募情報の周知や申請促進活動がさらに必要。
	情報公開	57	外部の教育資源を積極的に活用しているか。		研究主事	教務主事 専攻科長 研究主事	57.1 実務訓練の手引き	・準学士課程4年次では、夏季休業中に様々な企業・機関において実務訓練を実施した。 ・専攻科課程においては、学外実習では企業等で540時間実習を行った。また、実践工学演習では企業等に勤務する方による講演を実施した。	4
58		教育情報(学校教育法施行規則の事項を含む)が公表されているか。		総務主事	総務主事 事務部長	58.1 HP:教育情報 学校案内 国立長野高専	次のURLのホームページに掲載している。 https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/educational/index.php	4	今後も最新の情報に更新し継続する

自己点検・評価の外部評価方法

- 以下の資料をもとに、資料 No.5 の「評価点」「コメント」のご記入をお願いいたします。
資料 No.1 令和4年度自己点検・評価表
資料 No.2 自己点検・評価の外部評価方法
資料 No.3 説明資料
資料 No.4 補足説明資料
資料 No.5 評価記入用シート
- 参与会当日は、担当副校長等より各小項目を概説したのちに、資料 No.1 の色付けされている小項目（重点項目）について、説明資料等（資料 No.3 および No.4）を用いて説明いたします。
- 担当副校長等の説明ののち、説明箇所について質疑等があればご発言をお願いいたします。
- 「外部評価」「外部の意見」については、資料 No.5 に大項目単位でご記入いただき、当日ご提出いただくか、後日長野高専に郵送にてお送りください。

<大項目単位の重点項目>

- 教育の内容質保証（番号1～3）
番号1（自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されており、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。）
発表者：総務主事
- 組織及び教員・教育支援者（番号4～7）
番号5（準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。）
発表者：教務主事
- 学習環境及び学生支援（番号8～17）
番号9（学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。）
発表者：総務主事
番号12（学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。）
発表者：教務主事
番号16（課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。）
発表者：学生主事
- 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果（番号18～27）
番号19（教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。）
番号20（教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。）
発表者：教務主事
- 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果（番号28～37）
番号37（修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。）
発表者：専攻科長
- アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ（番号38～43）
番号40（受検者数増加対策は効果的に行われているか。）
発表者：入試広報室長
- 研究活動の状況（番号44～46）
番号45（研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。）
発表者：研究主事
- 地域貢献活動等の状況（番号47～49）
番号47（地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。）
番号48（地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。）
発表者：総務主事
- 財務及び管理運営と情報公開（番号50～58）
番号52（適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。）
発表者：事務部長

令和4年度 参与会

令和5年2月14日

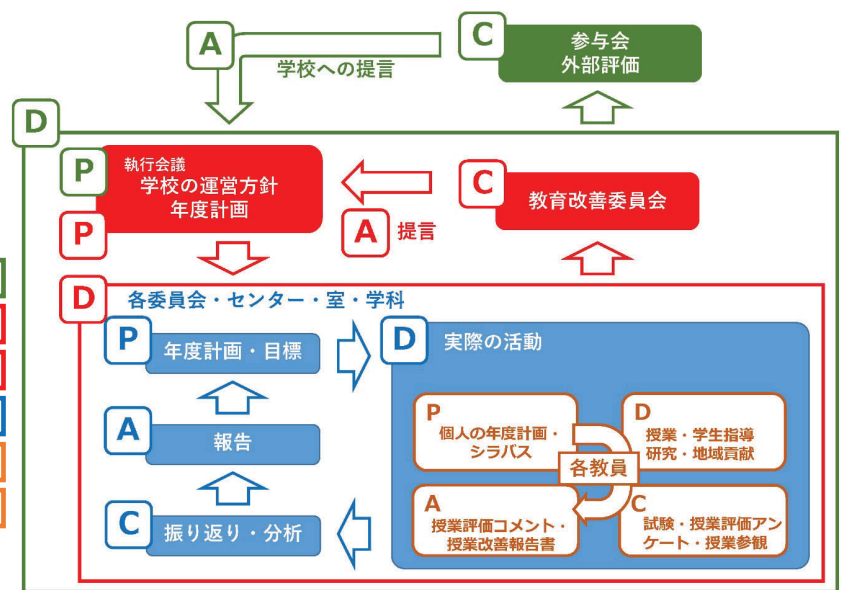
国立高専機構 長野工業高等専門学校

1

大項目1 教育の内部質保証 自己点検評価 【番号1】

6つの点検・改善システムの実施をし、
結果を公表

1. 自己点検評価項目による点検システム
2. 年度計画項目による点検システム
3. 三つの方針の点検・改善システム
4. 各委員会の重点項目の点検システム
5. 授業改善システム
6. 学生への支援体制点検システム



学校全体の質保証のための点検・改善システムのPDCAサイクル

出典：教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せ

大項目2 組織及び教員・教育支援者 教員等の配置【番号5】

所属		区分		職 位					計
		校長	教授	准教授	講師	助教	嘱託教授	職員	
校 長		1							1 (0)
工 学 科	情報エレクトロニクス系		10	6 (1)	1 (1)	3 (1)	1		21 (3)
	機械ロボティクス系		6	11 (1)	1				18 (1)
	都市デザイン系		6 (1)	3		1	1		11 (1)
	リベラルアーツ教育院		11	10 (4)	1	1 (1)	2		25 (5)
事 務 部								37 (17)	37 (17)
技術支援部								15 (1)	15 (1)
合 計		1	33 (1)	30 (6)	3 (1)	5 (2)	4	52 (18)	128 (28)

(令和4年5月1日現在)

出典：2022 学校要覧

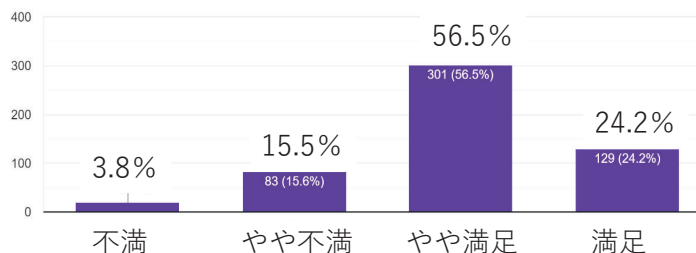
3

大項目3 学習環境及び学生支援 学習環境【番号9】

■学生に対する満足度に関するアンケート調査項目

【設問2】 本校のICT環境について満足していますか？

533件の回答



【設問2の自由記述】

- ・ 校内Wi-Fiに繋げるPCを一人二台にしてほしい
- ・ タブレット端末も学校の無線LANに接続したい
- ・ ネットワークの通信状況が不安定
- ・ Teamsによるオンライン授業が途切れる
- ・ 教室のプロジェクターが暗いため見づらい

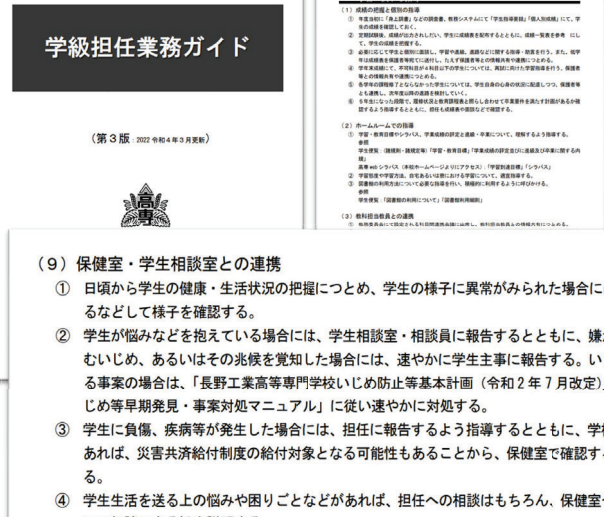
■十分なセキュリティ管理

- ・ パスワードポリシーの遵守
- ・ 多要素認証の実施
- ・ ウィルス対策ソフトの利用
- ・ ネットワーク接続を申請許可制（接続するにはMACアドレスの登録が必要）
- ・ 認証方式をIEEE802.1x認証としてセキュアなネットワーク接続環境

■令和3年度以後の入学生はBYOD-PC（学生所有のPC）を授業で利用

出典：令和3年度 学生に対する満足度に関するアンケート調査実施結果
長野高専 情報システム関連 FAQ（学生向け） 等

大項目 3 学習環境及び学生支援 学生支援【番号12(その1)】



学級担任業務ガイド
(第3版 2022年4月3日更新)

(9) 保健室・学生相談室との連携

- ① 日頃から学生の健康・生活状況の把握につとめ、学生の様子に異常がみられた場合には、声をかけるなどして様子を確認する。
- ② 学生が悩みなどを抱えている場合には、学生相談室・相談員に報告するとともに、嫌がらせ等も含むいじめ、あるいはその兆候を覚知した場合には、速やかに学生主事に報告する。いじめと思われる事案の場合は、「長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画（令和2年7月改定）」にある「いじめ等早期発見・事案対処マニュアル」に従い速やかに対処する。
- ③ 学生に負傷、疾病等が発生した場合には、担任に報告するとともに、学校の管理下であれば、災害共済給付制度の給付対象となる可能性もあることから、保健室で確認するよう指導する。
- ④ 学生生活を送る上の悩みや困りごとなどがあれば、担任への相談はもちろん、保健室や学生相談室にて相談が可能な旨を説明する。

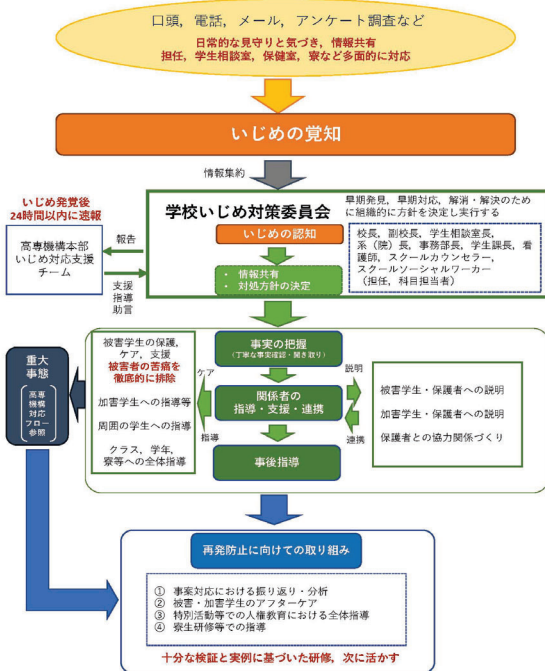
2022年度相談件数及び相談形態（のべ件数・）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
学生	19	20	27	37	7	8
保護者		1	4		1	2
保護者(電話)		1	7	4	1	1
保護者(同席)	2	2	1	3	2	1
職員	3		5	3		
合計(件)	24	24	44	47	11	12

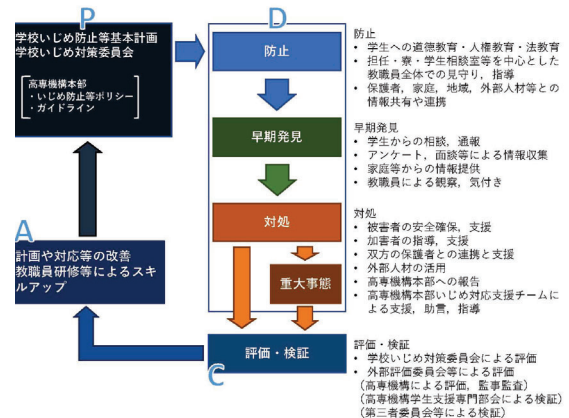
出典：学級担任業務ガイド（第3版・2022年3月）、学生相談室報告（2022年10月運営会議）

大項目 3 学習環境及び学生支援 学生支援【番号12(その2)】

長野高専 いじめ等早期発見・事案対処マニュアル 2022.6.6



長野高専 いじめ防止等基本計画 PDCAサイクル



大項目 3 学習環境及び学生支援 学生支援【番号16】

課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。

支援体制

- ・部同好会活動の指導に関するガイドライン
- ・課外活動指導員マニュアル
- ・総合型地域スポーツクラブとの包括連携協定
- ・卒業生などと外部指導者契約



業務負担軽減

- ・高専機構から通知（平成31年3月）
→課外活動指導員の雇用
- ・団体結成願（申請）の許可基準
- ・部同好会活動の継続許可基準
- ・運動系：18（-1）、文化系：13（-1）、同好会：11（-11）
※（ ）内数字 2020-21年度に解散休会
- ・新規：e-sports、競技麻雀、サイバーセキュリティーなど

7

大項目 4 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果 教育課程の編成【番号19】 授業形態・学習指導法【番号20】



出典：長野高専ホームページ

大項目 5 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

学習・教育の成果 【番号37】

表 過去5年間の学位取得状況と進路決定状況

	最終学年 在籍数	学位取得者数※1 (学位授与機構)	学位取得者数※2 (豊橋技術科学大学)	学位 取得率 (%)	就職 者数	進学 者数	進路 決定率 (%)
令和3年度	27	25	2	100.0	21	6	100.0
令和2年度	23	22	—	95.7	18	4	100.0
令和元年度	30	30	—	100.0	25	5	100.0
平成30年度	34	33	—	97.1	28	5	100.0
平成29年度	27	26	—	96.3	21	5	100.0

※1:大学改革支援・学位授与機構から授与、※2:豊橋技術科学大学から授与（連携教育プログラム生）

出典：学校要覧2018～2022、特例の適用認定を受けた専攻科における教育の実施状況等の審査に係る基本データ

9

大項目 6 アドミッション・ポリシーに沿った学生の 受け入れ 準学士課程の学生の受け入れ 【番号40】

本校主催のイベント		
イベント名	参加予定者	参加者数
一日体験入学(事前申込み制)	中学3年生・ 保護者 中学校教諭	生徒 423名、保護者 346名、教諭 6名 合計 775名
オンライン進学説明会(事前申込み制)	中学校教員	教諭 84名
秋の学校説明会(事前申込み制)	中学3年生・ 保護者 中学校教諭	生徒 46名、保護者 44名 合計 90名
中学校からの依頼		
イベント名	参加予定者	参加者数
学校説明会(中学校からの依頼)	中学3年生	3中学:総計 生徒 445名 、教諭 20名
学校見学(中学校または個人からの申込)	中学3年生	7件:総計 生徒 9名 、保護者 8名
先輩の話を聞く会(中学校からの依頼)	中学3年生	7件:生徒 およそ 500名

出典：入試広報室 会議資料より抜粋

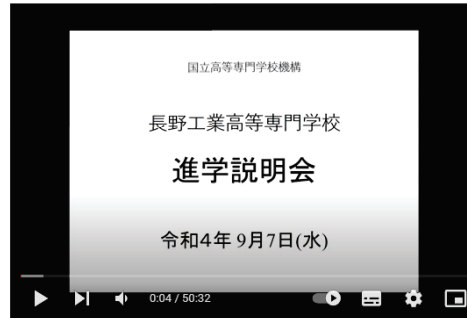
大項目6 アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ 準学士課程の学生の受け入れ【番号40】

令和5年度入学者選抜のための「進学説明会」

進路指導担当中学校教諭を対象とした説明会

8月の説明会

日程	会場	対象地区
08月25日(木) 15:00~16:30	※2回とも終了しました。当日の録画をこちらからご覧いただけます。 <日時(2回開催)> 令和4年8月25日(木) 15時00分~16時30分 令和4年9月7日(水) 15時00分~16時30分	全県(オンライン)



20220907長野高専進学説明会

中学校の先生への進路説明会 (動画配信)

サイエンス・ツアー 一覧

(1)ふしぎ?科学マジック	その他	科学	実施回数:1回
(2)障がい児・者向けふしぎ?科学マジック	その他	科学	実施回数:1回
(3)びっくり!超低温実験ショー	その他	科学	実施回数:1回
(4)障がい児・者向けびっくり!超低温実験ショー	その他	科学	実施回数:1回
(5)クイズやすごろくゲームを通して自然環境を学ぼう!	小学校高学年	技術	実施回数:1回
(6)1人で橋を作ろう	小学校高学年	技術	実施回数:1回
(7)太陽光発電を体験しよう	小学校高学年	技術	実施回数:1回
(8)電気自動車を作ろう	小学校高学年	技術	今年度終了
(9)風力発電機を作ろう	小学校高学年	技術	実施回数:1回
(10)材料の不思議	小学校高学年	科学	実施回数:1回
(11)サイバーセキュリティ入門	中学生	技術	実施回数:1回
(12)子どもプログラミング教室	小学校高学年	技術	実施回数:1回
(13)障がい児・者向けプログラミング体験教室	その他	技術	実施回数:1回
(14)マイコンブロックでロボットを動かそう!【特別支援学校向け】	小学校高学年	技術	実施回数:1回
(15)目指せ全国!小学生ロボコン工作教室	小学生	科学	実施回数:1回
(16)磁気(磁石)と電気の関係【特別支援学校向け】	中学生	科学	実施回数:1回
(17)電話で交際しよう	その他	科学	実施回数:1回
(18)遊戯ゲームで水害から命を守る方法を学ぼう!	小学校高学年	科学	今年度終了
(19)離れた場所に電気を送ろう	小学校高学年	技術	実施回数:1回

出典:長野高専ホームページ

大項目7 研究活動の状況 研究活動の成果【番号45】

■外部資金受入状況

名称	令和3年度(2021年度)		令和4年度12月時点	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	32	15,991	30	15,029
受託研究	5	3,127	6	2,791
受託事業・補助金他	3	2,249	6	2,711
寄附金(長野高専基金を含む)	135	36,807	46	24,890
合計	175	58,174	88	45,421

■科学研究費補助金交付決定状況

研究種目	令和3年度(2021年度)		令和4年度12月時点	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
基盤研究(A)	0	0	0	0
基盤研究(B)	0	0	0	0
基盤研究(C)	17	20,982	16	13,715
若手研究	5	4,030	4	3,970
奨励研究	0	0	0	0
研究活動スタート支援	0	0	0	0
学術図書	0	0	1	2,340
合計	22	25,012	21	25,025

大項目 8 地域貢献活動等の状況

地域貢献活動の計画【番号47】 地域貢献活動の成果【番号48】 地域貢献活動の改善【番号49】

地域貢献活動の目的

1. 蓄積してきた技術開発や研究の成果を地域社会に還元し、地域の発展に資すること
2. 産業界, 地方公共団体, コミュニティ, 他の教育機関と連携することにより、社会活動に貢献すること

R3年度の地域貢献活動の実施状況

■出前授業 21件を実施 (R2年度は8件)

実施先：小学校11件, 養護学校1件, 公民館3件, 団体6件 / 延べ参加者：793名 (R2年度は284名)

テーマ例：子どもプログラミング教室, 風力発電機を作ろう, 目指せ小学生ロボコン! 工作教室, 防災にかかわる授業, 不思議? 科学マジック, びっくり! 超低温実験ショー, etc

■オンライン公開講座 1件を実施 (R2年度は1件)

テーマ：目指せ小学生ロボコン! 工作教室

■産業フェアに1件を出展 (R2年度は0件)

■リカレント教育講座等に企画担当を設置し, 44講座を実施 (R2年度は31講座実施)

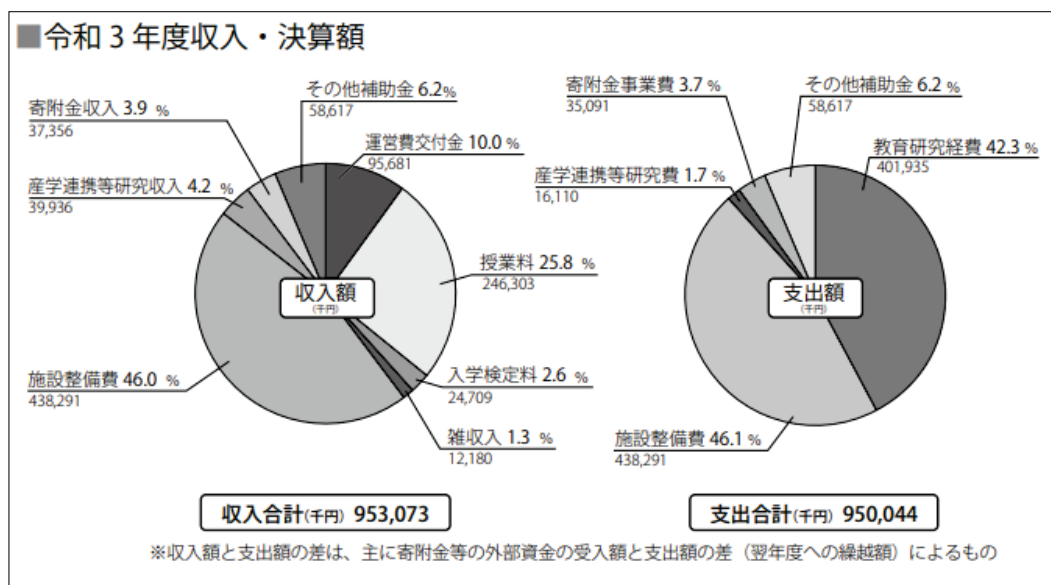
※主な地域貢献活動においてアンケート調査を実施し改善に活かしている

出典：長野工業高等専門学校における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標, 令和3年度教育改善報告書等

13

大項目 9 財務および管理運営と情報公開

財務関係【番号52】



出典：2022 学校要覧

14

大項目 1 教育の内部質保証

小項目：自己点検評価

【番号1】（自己評価：5）

- 次の6つの点検・改善システムの実施をし、結果が校内等に公表されている。
 - 自己点検評価項目による点検システム → 令和4年度より初年度
→ 継続性を見る必要がある
 - 年度計画項目による点検システム → 令和3年度より2年目
 - DP、CP、APの点検・改善システム → 令和3年度より2年目
 - 各委員会の重点項目の点検システム → 新システムは3年目
 - 授業改善システム → 13年目
 - 学生への支援体制点検システム
→ 授業アンケート調査は20年目、満足度調査は3年目

【番号2】（自己評価：3）

- 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査
 - 令和元年度に実施したが、回収率15%程度であり、高めることが課題。

1

大項目 1 教育の内部質保証

小項目：3つのポリシー

【番号3】（自己評価：5）

- 本科、専攻科において3つのポリシーが定められ公表されている。
 - 卒業（修了）の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）
 - 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
 - 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）
- 令和3年度の対応
 - 工学科の3つのポリシーの策定
 - 5学科と専攻科のアドミッションポリシーに入学選抜方法を入れる修正
→ 今後も社会状況に応じて見直していく。

2

大項目 2 組織及び教員・教育支援者

小項目：学校組織

【番号4】（自己評価：4）

- 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能している。

3

大項目 2 組織及び教員・教育支援者

小項目：教員等の配置

【番号5】（自己評価：4）

- 準学士課程においては、一般及び専門の該当分野の教員を各科目担当者として配置し、必要に応じて技術支援部より技術職員を配置している。
- 専攻科課程においては、生産環境システム専攻に機械工学、電気電子工学、土木工学を専門とする教員を、電気情報システム専攻には電気電子工学を専門とする教員を配置した。

→学科再編による変更点を確認し適切に配置していく。

小項目：教員の評価

【番号6】（自己評価：4）

- 教員の採用や承認は、これらに関する基準に則り行われている。
- 年度当初の業務計画や研究業績一覧等により、教員の教育研究活動に対する評価を実施している。

→必要に応じて基準を見直しながら適切な評価等を継続していく。

4

大項目2 組織及び教員・教育支援者

小項目：FD活動

【番号7】（自己評価：3）

- FD・SD活動は実施されている。
- 令和3年度は計4回の研修会を実施した。高等教育機関（特に理工学系）における男女共同参画の現状、教員の教育力向上のための講習やトレーニング、および今後の高専教育で必須となる学生へのケアについて考える機会を持てた。
 - 8月26日「男女共同参画推進について考えましょう」
 - 9月7日、10月19日「モデル授業、授業アンケート分析」「グループワーク」
 - 12月17日 「これからの長野高専に期待すること」
 - 3月2日 「長野高専の産学連携」
- 改善点
教育およびその支援等の評価手法が具体的に定められていない。
→ 検討の必要あり

5

大項目3 学習環境及び学生支援

小項目：学習環境

【番号8】（自己評価：4）

- 学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されている。

【番号9】（自己評価：4）

- 学生のニーズに対応したICT環境
 - 令和3年度の1年生よりBYOD PC（学生個人所有PC）を授業に有効活用している。
→ 最新のPC環境を学生が利用
 - 満足度調査「本校のICT環境について満足していますか？」の設問
→ 学生の回答 満足度1：3.8% 満足度2：15.6% 満足度3：56.5% 満足度4：24.2%

【番号10】（自己評価：4）

- 令和3年度の状況
 - 蔵書総数 82,387冊、入館者数 34,100人、退出冊数 5,404冊、帯出者数 2,766人
 - コロナ感染予防のため長野県発表の感染レベルに応じて開閉館時間を変更

6

大項目3 学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号11】（自己評価：4）

- 準学士課程においては、新入生、留学生、編入学生に対しては、授業開始までに、ガイダンスを実施している。
- 専攻科課程においては、1年生は入学式当日に、2年生については別途機会を設けてガイダンスを実施した。2年生については学位申請ガイダンスも実施している。

→様々な変更点を含め、適切なガイダンスの実施を継続する。

7

大項目3 学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号12】（自己評価：4）

- 準学士課程においては、学級担任制により、学生の相談・助言を行っている。
- メール目安箱等、学生の意見や苦情を受けるシステムが構築され、対応は遅延なく行われている。
- 専攻科課程については、専攻長および専攻科長が相談・助言を行っている。

→学級担任ガイドブックの確認や見直しを継続して進める。

→学校としての体制を、学生に周知する仕組みを検討する。

8

大項目3 学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号13】（自己評価：4）

- 入学前に保健調査票による保護者からの申し出等により特別な支援を必要とする学生を把握し、入学時より支援可能な体制を整えている。
- 留学生(3・4学年)に対してはチューターを選考し、学習と生活の支援を計画通りに実施している。また、留学生の生活支援として、寮務委員と留学生の近況の情報を共有することとし連携体制を整えた。
- 専攻科課程については、専攻長および専攻科長が学習支援や生活支援を行っている。

→学生の状況に応じて支援を行っている。今後も継続する

9

大項目3 学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号14】（自己評価：4）

- 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。

「学級担任業務ガイド」をつくり、社会状況に応じた指導・支援を行っている。さらに、個別の問題については学生相談室と連携して支援を行なっている。

【番号15】（自己評価：4）

- 進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。

「学生向け進路選択ガイド」をつくり、状況に応じた指導・支援を行っている。令和4年度から進路支援室を新設し、キャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施している。

【番号16】（自己評価：4）

- 課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。

ガイドラインやマニュアルをつくり、適切な支援を行うとともに、校内手続きの電子化・スマート化をはかっている。「団体結成願（申請）の許可基準について」、「部・同好会活動の継続許可基準について」等により、団体数や活動の質をコントロールし、また活動を支える教職員の支援体制が適切に機能するよう努めている。

10

大項目 3 学習環境及び学生支援

小項目：学生支援

【番号17】（自己評価：4）

- 勉強会についてはコロナ禍であるため、本年度は開催を中止した。
→コロナ過であっても勉強会を実施できるよう感染対策を含めて検討する。
- 満足度調査は11/30締切で実施中である。
- 寮生会との懇談会は月に1回程度実施している。

11

大項目 4 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：教育課程の編成

【番号18】（自己評価：4）

- カリキュラムポリシーに基づき、理数系基礎科目及び人文社会系の教養科目は低学年を中心に、工学系の科目は高学年を中心に体系的に配置している。
→学科再編後のカリキュラムについて、さらに整備を進める。

【番号19】（自己評価：4）

- 実践的な問題解決型学習、アクティブラーニング、実験実習、卒業研究などにより、課題の発見能力、解決能力、及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成している。
- 異文化理解、コミュニケーション力を育成する授業科目を編成している。
→学科再編により対応させて配置したカリキュラムの確認を継続する。

12

大項目 4 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：授業形態、学習指導法

【番号20】（自己評価：4）

- 主体的な学習活動に向けた教材の利用や、新たなオンライン教材の活用、遠隔授業でも利用できるカメラやPCの設置など、様々な工夫を行っている。

→新たな教育手法とあわせて、教育改善を継続して進める。

【番号21】（自己評価：3）

- カリキュラムポリシーに沿って設定された到達目標を記したシラバスを作成し、活用している。

→再編によるWebシラバスの問題点にも対応しながら改善を進める。

13

大項目 4 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：成績評価・進級及び卒業判定

【番号22】（自己評価：4）

- シラバスにおいて、成績評価および単位認定の基準を明記している。
- 教育課程表において、進級および卒業認定の基準を明記している。

→必要に応じて改善を進める。

【番号23】（自己評価：4）

- 各教員により成績評価が行われ、教育改善委員会によりエビデンスの確認を行っている。
- 成績評価がシラバス記載の通りに実施されているかの自己点検、および教育改善委員会におけるチェック体制と整えられ、適切に実施されている。

→点検がより効果的に運用できる体制を検討する。

【番号24】（自己評価：5）

- 卒業、進級判定のための資料を作成し、教員会議において確認している。

→必要に応じて改善を進める。

14

大項目 4 準学士課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：学習・教育の成果

【番号25】（自己評価：4）

- ・各科目の平均点、卒業研究発表、学生表彰により、学習・教育の成果を確認している。

→必要に応じて改善を進める。

【番号26】（自己評価：3）

- ・卒業時の学習・教育目標達成度自己評価、ならびに卒業生企業等アンケートにより確認している。

→回答率の改善に向けて、新設した教学IR室を中心にさらに体制を整える。

【番号27】（自己評価：4）

- ・進路指導報告書の就職先および進学先から、学習・教育目標の成果が認められる。

→必要に応じて改善を進める。

15

大項目 5 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：教育課程の編成

【番号28】（自己評価：4）

- ・融合複合・新領域で教育課程を編成しているため、系統図上は本科と結ばれていないが、本科で基礎的なことを学び、専攻科で応用的なことが学べるよう教育課程を編成している。

【番号29】（自己評価：4）

- ・授業科目の内容については、シラバス作成時に内容の検討を依頼している。また、社会からの要請に対応し、創造力・実践力を育む科目として「機能デザイン」、「学外実習」、「実践工学演習」を実施、異文化や地域の文化を理解する科目として「英語特論Ⅰ・Ⅱ」を実施している。

16

大項目 5 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：授業形態、学習指導法

【番号30】（自己評価：4）

- ICT機器、遠隔授業、授業のアーカイブ作成など工夫している。

【番号31】（自己評価：4）

- **カリキュラム・ポリシーに沿ってシラバスを作成**している。また、授業開始時にシラバスの内容を説明するとともに、授業実施のスケジュールの説明等に活用している。
- 大学改革支援・学位授与機構の**認定を受けた個表を持つ指導教員が研究指導を行う**とともに、研究成果を特別研究発表会において発表させている。

17

大項目 5 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：成績評価・修了判定

【番号32】（自己評価：5）

- 成績評価および単位認定については**シラバスを使って説明**している。修了認定については年度当初の**ガイダンスで説明**している。

【番号33】（自己評価：4）

- エビデンスの提出を受け、成績評価が適切に行われているか**教育改善委員会で点検**している。

【番号34】（自己評価：5）

- 専攻科運営委員会および教員会議で確認した後、**執行会議で修了判定**を行っている。

18

大項目 5 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

小項目：学習・教育の成果

【番号35】（自己評価：4）

- ・ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められ、**27名全員の専攻科修了を認めた**。また、JABEEプログラムは25名、連携教育プログラムは2名の修了を認めた。

【番号36】（自己評価：4）

- ・ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果は、**修了時の学生面談や達成度評価確認表等で確認した**。

【番号37】（自己評価：4）

- ・大学改革支援・学位授与機構に学位申請した**25名全員の学士（工学）が授与された**。また、豊橋技術科学大学との**連携プログラム生2名は同大から学士（工学）が授与された**。
- ・進路は**全員就職または進学が決定**しており、学習・教育の成果を確認した。

19

大項目 6 アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ

小項目：準学士課程の学生の受け入れ

【番号38】（自己評価：3）

- ・科学技術への関心を持つことを出願資格に明記し、調査書および面接により推薦選抜を実施している。
- ・数学、理科、英語に傾斜配点を行った学力検査と調査書により学力選抜を実施している。

→アドミッションポリシーに沿って選抜を実施しているが、合致する形に向けては改善の余地がある。

【番号39】（自己評価：3）

- ・教学IR室を新設し、入学者の追跡調査ならびに選抜方法の改善への検討をしている。

→今年度、教学IR室を新設し、これまで以上に検証を進めることとしている。

20

大項目6 アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ

小項目：準学士課程の学生の受け入れ

【番号40】（自己評価：4）

- 一日体験入学を実施し、中学生は学科再編を行った工学科のすべての系での体験授業に参加した。
- 中学校での対面での説明会、およびオンラインでの説明会を実施し、動画をホームページでも公開している。
- 出前授業の実施は、長野高専を多くの小中学生に知ってもらう機会となっている。

→新たな手法の検討も進める。

21

大項目6 アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ

小項目：専攻科課程の学生の受け入れ

【番号41】（自己評価：4）

- アドミッション・ポリシーに沿って適切な**入学者選抜方法が適切に実施**している。

【番号42】（自己評価：3）

- **過去5年間における退学者が1名**であり、アドミッション・ポリシーに沿った選抜ができています。

<改善点> 入学者選抜の改善に役立てた具体例はない。今後検証する。

【番号43】（自己評価：3）

- 12月に**本科4年生に対して進学説明会を実施**している。
- **過去5年間の定員充足率は、生産環境システム専攻が140.0%、電気情報システム専攻が142.5%**と多めである。

<改善点> 大学改革支援・学位授与機構からは130%程度となるよう指導されており、改善したい。

22

大項目7 研究活動の状況

小項目：研究体制と支援体制

【番号44】（自己評価：4）

- ・ 特別経費配分による教育研究活動支援を実施。
- ・ 科学研究費補助金申請書の添削支援を実施。
- ・ リサーチアドミニストレータによる研究活動支援や企業との共同研究マッチングを実施。

小項目：研究活動の成果

【番号45】（自己評価：3）

- ・ シーズ集の発行および技術振興会会員向け配布や産業展等での配布および説明を実施。
- ・ 研究業績の収集および公開等を通じて研究活動の状況把握を実施。

小項目：研究活動の改善

【番号46】（自己評価：3）

- ・ 研究推進委員会を発足させ、研究業績等の収集や知財管理、外部資金獲得支援や紀要発行体制を整備した。
- ・ 研究倫理委員会を発足させ、研究倫理審査等の体制を整備した。

23

大項目8 地域貢献活動等の状況

小項目：地域貢献活動の計画

【番号47】（自己評価：5）

- ・ 地域貢献活動等の基本方針は以下のとおりである。
 - (1) 技術相談、技術供与
 - (2) 生涯学習への支援活動
 - (3) 初中等教育機関等への支援および低年齢層からの理工系教育の普及活動
 - (4) 行政機関等との連携による協力、支援
- ・ 上記(1)～(4)の項目について年度ごとに計画を立て、以下に示す具体的な活動を行っている。
 - ① 地域共同テクノセンターを窓口とする技術相談、技術供与
 - ② 社会人学び直しを目的とした講座、各種技術セミナー、技術研究会の実施
 - ③ 科学イベントの開催および県内で開催される各イベントへの協力
 - ④ 公開講座および地域の小中学校等への出前授業の実施
 - ⑤ 長野市をはじめとする県内各自治体、各種団体等との包括協定または連携協定に基づく技術指導、委員会および審議会等への委員派遣

24

大項目 8 地域貢献活動等の状況

小項目：地域貢献活動の成果

【番号48】（自己評価：3）

地域貢献活動の目的

- ① 小中学生にPRし、入試志願者数を上げる。特に女子学生数を増加させる。
志願者数 H30年度:361名, H31年度: 250名, R2年度: 340名, R3年度: 280名, R4年度: 295名
女子入学者数 H30年度:38名, H31年度: 30名, R2年度: 42名, R3年度: 38名, R4年度: 38名
→ 増加に結びつきにくい、現状維持はされている。
- ② 地域、地域企業にPRし、共同研究（産業フェアの利用）や求人につなげる。
リカレント教育講座等に企画担当者を設置し、講座内容の充実や改善を行った。

25

大項目 8 地域貢献活動等の状況

小項目：地域貢献活動の改善

【番号49】（自己評価：4）

- 地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っている。
 - サイエンスツアー
 - 実施件数：合計 21 件、参加者793 名
 - サイエンスライブ
 - 実施テーマ 1 件
 - 科学イベント関係
 - 「まつもと広域ものづくりフェア」 3 テーマ教員 4 人が参加
 - 参加予定だった「体験と学びの環境博信州環境フェア」、「ながの子ども・子育てフェスティバル」、「長野高専キッズサイエンス」は中止等で参加しなかった。
 - 産業フェア
 - 「産業フェア in 信州 2021」にリアル出展、「上田地域産業展 2021」にオンライン出展
 - 「しんきんビジネスフェア」、「ぞっこんさく市、「諏訪圏工業メッセ」は中止のため不参加
 - NAGANO SDGs PROJECT に 1 件参加した。
- 上記の主な活動においてアンケート調査を行い改善に活かしている

26

大項目 9 財務および管理運営と情報公開

小項目：財務関係

【番号50】（自己評価：4）

- 適切な収支に係る計画等が策定され、学内に明示されている。

【番号51】（自己評価：4）

- 適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われている。

【番号52】（自己評価：4）

- 適切に予算が執行され、その結果が公表されている。

27

大項目 9 財務および管理運営と情報公開

小項目：管理運営

【番号53】（自己評価：4）

- 各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動している。

【番号54】（自己評価：4）

- 情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されている。

【番号55】（自己評価：4）

- 管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われている。

28

大項目 9 財務および管理運営と情報公開

小項目：管理運営

【番号56】（自己評価：4）

- 外部資金公募の周知や科研申請支援として添削支援を実施した。

【番号57】（自己評価：4）

- 準学士課程4年次では、夏季休業中に様々な企業・機関において実務訓練を実施した。
- 専攻科課程においては、学外実習では企業等で540時間実習を行った。また、実践工学演習では企業等に勤務する方による講演を実施した。

29

大項目 9 財務及び管理運営と情報公開

小項目：情報公開

【番号58】（自己評価：4）

- 教育情報（学校教育法施行規則の事項を含む）が公表されているか。
 - <https://www.nagano-nct.ac.jp/guide/educational/index.php>に公表



30

令和4年度自己点検・評価表 評価記入シート

御 名 前

所属・職名

<評価点および目安>

評価点	目安
5	十二分に実施している。
4	十分に実施している。
3	ほぼ実施している。
2	十分に実施していない。
1	実施できていない。

※ 返信用封筒により令和5年2月28日までにご返信をお願いいたします。

大項目	評価点 (5から1)	コメント
1. 教育の内部質保証		
2. 組織及び教員・教育支援者		
3. 学習環境及び学生支援		
4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果		
5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果		

大項目	評価点 (5から1)	コメント
6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ		
7. 研究活動の状況		
8. 地域貢献活動等の状況		
9. 財務及び管理運営と情報公開		

第 20 回 参与会 配付資料 (2024 年 1 月 23 日)

- ・ 長野工業高等専門学校 参与会 設置要項 (添付省略)
- ・ 第 20 回 長野工業高等専門学校 参与会 次第
- ・ 第 20 回 長野工業高等専門学校 参与会 出席者名簿 (添付省略)
- ・ 第 20 回 長野工業高等専門学校 参与会 座席表 (添付省略)
- ・ 資料No. 1 令和 5 年度 自己点検・評価表 (重点項目)
- ・ 資料No. 2 令和 5 年度 自己点検・評価表 (全体版)
- ・ 資料No. 3 学科改組の進捗状況
- ・ 資料No. 4 JABEE 受審報告
- ・ 資料No. 5 自己点検・評価項目の評価方法
- ・ 資料No. 6 長野高専の教育理念、教育・運営方針、
ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、学習・教育目標
- ・ 資料No. 7 点検・改善システムの PDCA サイクル
- ・ 冊子
 - 学校要覧 2023 年版 (添付省略)
 - GUIDE BOOK 2024 (添付省略)
 - 学園だより 189 号 (添付省略)
 - 長野高専基金 (添付省略)

第20回長野工業高等専門学校参与会

《次第》

日時 令和6年1月23日（火） 10:00～12:00

会場 長野工業高等専門学校 第1会議室

次第

1. 開会
2. 会長・副会長紹介
3. 自己紹介（各参与・長野高専出席者）
4. 校長あいさつ
5. 配付資料確認
6. 議事
 - 1) 自己点検・評価項目
 - 2) 改組進捗状況
 - 3) JABEE 受審報告
 - 4) 自己点検・評価項目の評価手法について
 - 5) 質疑応答・意見交換
7. 閉会

令和5年度参加会

自己点検・評価

令和6年1月23日

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 8

学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。

- 点検事項

- (1) 定期的に施設・設備の管理状況を点検し、良好な状態で維持保全しているか。
- (2) 安全衛生委員会による月1回の職場巡視を実施しているか。
- (3) 点検事項を再検討しているか。

点検項目 8 : 達成率 75%、評価 4

- 有効利用を図るため施設利用状況調査を7月に実施している。
- 日常的な点検の他、専門業者による定期点検や法定点検等を実施している。
- 月1回、安全衛生巡視を行っている。
- 問題点があれば指摘を行い、改善措置の確認を行っている。



令和5年6月 安全衛生巡視実施報告書

実施日：令和5年6月20日(火) 9時00分～10時00分

巡視者：委員長(事務部長), 総務課長, 他学科教員(北山委員), 衛生管理者(中嶋学生課長)

安全管理担当者(施設係長), 衛生管理担当者(人事係長)

資料02-1

巡視エリア 5		環境都市工学科棟及び同棟周辺屋外、専攻科棟		
連番	指摘場所(部屋)	参考写真	指摘事項	対応・対策
6-①	環境都市工学科棟 1階 準備室2		棚の転倒防止対策が施されていない。(前回巡視時と同様の状況であった)	転倒防止対策を行うこと。
6-②	環境都市工学科棟 1階 測量準備室		棚の上に重量のある物品が置かれており、落下すると危険である。	物品を安全な場所へ移動すること。
6-③	環境都市工学科棟 1階 水理実験室		水槽の蓋が開いており、転落の危険がある。	開けておく必要がある場合は、周りを囲う、注意書きを貼るなどして安全を確保すること。

出典：令和5年度第3回安全衛生委員会資料

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 9

学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

- 点検事項

(1) 学生のニーズ調査を実施しているか。

(2) セキュリティ研修を実施しているか。

(3) ICT環境の保守・点検を実施しているか。

(4) 点検事項を再検討しているか。

点検項目 9 : 達成率 50%、評価 3

- 学生ニーズ調査は年度末（意見交換会）
- 1年次の講義で実施されている。2年以降毎年のセキュリティ研修は学年会で実施されるが状況把握がされていない。
- 保守・点検は情報教育センターにて実施されている。
- 点検事項の再検討はまだ

5 学校行事とその指導

(1) 全校共通の主な行事とその指導

- ① 全校共通の主な行事には、入学式・始業式・終業式・卒業式、クラスマッチ、大掃除および清掃デー、工藤祭などがあり、それらを指導する。
- ② 特別編成授業中には、特別活動を実施する学年もあるため、それらについて計画・実施、指導する。

(2) 学年別の主な行事とその指導

- ① 学年別に行なう行事の企画・運営・指導をする。学年別の主な行事とその指導には、つぎのようなものがある。

1 学年	特別研修の計画とその指導・引率 新入生歓迎会の指導（学生会主催） 薬物乱用防止講習会の指導 心身のケアに関する講習会の指導 進路セミナー（5年生報告会）	交通安全講習会の指導 防災訓練の指導 2年研修旅行実施要項の策定 情報リテラシーに関する講習会の指導
2 学年	研修旅行事前研修とその指導・引率 特別講演会の指導 情報リテラシーに関する講習会の指導	防災訓練の指導 交通安全講習会の指導 スケート実習の連絡
3 学年	特別研修の計画とその指導・引率 防災訓練の指導 情報リテラシーに関する講習会の指導 生と性の講習会の指導	企業・現場見学の計画とその引率 スケート実習の連絡 心身のケアに関する講習会の指導 進路セミナー（進路選択編）
4 学年	インターンシップ事業の指導 進路（5年生）講演会実施要項の策定 進路説明会の計画と実施 卒業生講演会の計画と実施 情報リテラシーに関する講習会の指導	企業・現場見学の計画とその引率 進路（5年生）講演会の指導 進路セミナー（スタートアップ他）の指導 交通安全講習会の指導
5 学年	進路指導 卒業アルバム作成の指導	卒業研究発表会の指導 卒業式・謝恩会に関する指導

出典：学級担任業務ガイドVol4p11

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 10

図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

- 点検事項

- (1) 教職員・学生のニーズ調査を実施しているか。
- (2) 蔵書の点検を実施しているか。
- (3) 図書の活用状況の点検を実施しているか。
- (4) 点検事項を再検討しているか。

点検項目 10 : 達成率 50%、評価 3

- ブックハンティングを実施し、学生のニーズを把握している。
- 蔵書の点検は、人員の不足によりここ数年実施されていない。
- 図書の利用状況は月ごとに確認されている。
- 点検事項の再検討はまだ。

ブックハンティング参加者募集(2023夏)

1件のメッセージ

足立大輔 <toshot1@nagano-nct.ac.jp>

2023年7月19日 12:05

Bcc: zen-nnot-staff@nagano-nct.ac.jp

学生各位

図書館長

ブックハンティング参加者募集

長野高等図書館では下記のとおり「ブックハンティング (2023夏)」を開催します。
参加希望者は、申込フォーム (<http://goo.gl/WWOMaU>) からお申し込みください。

【日時】 2023年8月8日 (火)

【時間】 16時頃から1時間程度

【場所】 平安堂長野店 (東急シェルシェ)

(現地集合・現地解散)

※定期券がない方には旅費を支給します

【申込締切】 8月4日 (火)

【定員】 10名程度

ブックハンティングとは・・・

学生の皆さんが、図書館にあったらいいなと思う本を、

書店に行って楽しく選ぶイベントです。

あなたの読みたい本、読んでほしい本をさがしに行きませんか？

お申し込みお待ちしております。

※参加者にはご自身が選んだ本の推薦POPを1枚以上作成いただきます。

ご不明な点がありましたら、以下までお気軽にお問い合わせください。

問い合わせ先:

長野工業高等専門学校図書館

Tel.026-295-7005

e-mail: toshot1@nagano-nct.ac.jp

出典：ブックハンティング参加募集

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 1

新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。

- 点検事項

(1) 新入生ガイダンスを実施しているか。

(2) 留学生ガイダンスを実施しているか。

(3) 編入生ガイダンスを実施しているか。

(4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 11 : 達成率 100%、評価 5

第11回(令和5年3月23日)
教務委員会配布資料 No. 10

2023年度 新入生の年度当初の日程について

2023.03.23

- 新入生ガイダンスを入学式当日および翌日に実施した。
- 留学生ガイダンスを入学式当日に実施した。
- 編入生ガイダンスを入学式当日に実施した。
- 第8回教務委員会において、点検事項の確認を行った。

実施日	実施時間	場所	実施内容等	備考(担当者等)
4月5日 (水)	8:40~9:10	各HR	新入生集合	受付担当:
	9:00~9:50	第一体育館	《保護者》 新入生スペースの後方に着席	受付担当:
	9:15~9:45	各HR⇒ 第一体育館	《新入生》 9:15からクラスごとに体育館入場 (体育館入り口3箇所)	先導・担任 補助:総務係ほか
	10:00~10:50	第一体育館	入学式	
	10:50~10:55	第一体育館 ⇒各HR	《新入生》 担任紹介の後、クラスごとにHRに移動 (体育館入り口3箇所)	先導:担任 補助:総務係ほか
	10:50~11:15	各HR	《新入生》 担任から諸連絡 100番教室席席表、健康診断関係配付物	担任
		第一体育館	《保護者》 後援会からの説明 学生相談室からの連絡	後援会会長・副会長 学生相談室長 可会・教務主事 終了時アナウンス、誘導:嶋崎委員
	11:20~12:00	各HR ⇒100番教室 ⇒各HR	《新入生》 クラスごとに100番教室に移動 《保護者》 各HRに移動	誘導(100番、11:15~):小原委員 誘導(4棟前、11:05~11:20):花園委員 誘導(学生玄関前、11:05~11:20):百瀬委員
		100番教室	《新入生》 学習・教育目標、系の選択等について 《保護者》担任との懇談 ・高専生活のあり方 ・学校(担任)への連絡方法 ・年間予定 ・その他 諸連絡	教務主事
	午後		必要に応じ個人面接	

実施日	実施時間	場所	実施内容等	備考(担当者等)
4月6日 (木)	8:50~9:00	100番教室	担任挨拶	担任
	9:00~9:20		担任・副担任自己紹介	学年会
	9:20~9:40		学生生活について	学生主事
	9:40~10:00		図書館の利用について	図書館長
	10:00~10:10		学生相談室について(カウンセラー紹介)	学生相談室長
	10:10~10:20			
	10:30~11:30	各HR	1.当番・清掃当番について 2.学生自己紹介 3.入学式について 4.校内見学 5.金曜日からの授業について 6.貴重品の管理 7.その他	担任
11:30~16:00	第一体育館 図書館 他	健康診断 / 校内見学 ほか	(詳細は別紙)	
4月7日 (金)	8:50~	HRほか	前期授業開始	

出典：令和4年度第11回教務委員会資料

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 2

学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。

- 点検事項

(1) 学生の学習活動に関して相談できる体制を整えているか。

(2) 相談・助言等を行う体制が機能しているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 12 : 達成率 80%、評価 4

- 相談等を含む学級担任の業務をまとめたガイドブックを活用している。
- 学生相談室ポスターにより周知し、多くの学生が学生相談室を利用している。
- メール目安箱が活用されている。
- 点検事項の再検討はまだ。

3 学習に関する指導

(1) 成績の把握と個別の指導

- ① 年度当初に「身上調査」などの調査書、教務システムにて「学生指導要録」「個人別成績」にて、学生の成績を確認しておく。
- ② 達成度試験後、成績が出力されたい、学生に成績表を配付するとともに、成績一覧表を参考に、学生の成績を把握する。
- ③ 必要に応じて学生と個別に面談し、学習や進級、進路などに関する指導・助言を行う。また、低学年は成績表を保護者等宛てに送付し、たえず保護者等との情報共有や連携につとめる。
- ④ 学年末成績にて、不可科目が4科目以下の学生については、再試に向けた学習指導を行う。保護者等との情報共有や連携につとめる。
- ⑤ 各学年の課程修了とならなかった学生については、学生自身の心身の状況に配慮しつつ、保護者等とも連携し、次年度以降の進路を検討していく。
- ⑥ 5年生になった段階で、履修状況と教育課程表と照らし合わせて卒業要件を満たす計画があるか確認するよう指導するとともに、担任も成績表や面談などで確認する。

(2) ホームルームでの指導

- ① 学習・教育目標やシラバス、学業成績の評定と進級・卒業について、理解するよう指導する。

参照

- 学生便覧(規則・規程等):「学習・教育目標」「学業成績の評定並びに進級及び卒業に関する内規」
- 高専 web シラバス(本校ホームページからアクセス):「学習到達目標」「シラバス」

- ② 学習態度や学習方法、自宅あるいは寮における学習について、適宜指導する。
- ③ 図書館の利用方法について必要な指導を行い、積極的に利用するように呼びかける。

参照 学生便覧:「図書館の利用について」「図書館利用細則」



(3) 教科担当教員との連携

- ① 教務委員会に設定される科目間連携会議に出席し、教科担当教員との情報共有につとめる。
- ② 必要に応じて適宜、教科担当教員と連絡をとり、学生の欠課時数や学習状況を把握する。欠課時数が多い学生や成績不振学生については、連携して早めに必要な指導を行う。

(4) 達成度試験に関する指導

- ① 試験に向けて、計画的に学習するように指導する。
- ② 「受験上の注意事項」ならびに「試験時間割表」を周知徹底する。
- ③ 達成度試験1週間前から、課外活動等は禁止となるので、徹底するよう指導する。

(5) 進路指導

- ① 1学年および2学年においては、進路の決定に関する助言を行う。また、必要に応じて特別活動で高学年による講演会などを実施すると良い。
- ② 3～5学年においては、就職指導あるいは進学指導を行う。

参照

- 進路選択ガイド(毎年本科4年・専攻科1年生向けに当該学年末に発行)
- 進路指導(就職・進学)に係る学校推薦の指導方針⇒学級担任業務ガイド巻末に掲載

- ③ 主に長期休業中に実施される、就業を意識したインターンシップや起業に向けたアントレプレナーシップ、編入学生向けの大学体験実習などへの参加を呼び掛ける。



3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 3

特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。

- 点検事項

(1) 特別な支援が必要となる新入生の情報を共有しているか。

(2) 特別な支援が必要となる留学生の情報を共有しているか。

(3) 必要な支援や配慮事項を検討しているか。

(4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 13 : 達成率 80%、評価 4

- 入学前提出の保健調査票で家庭より連絡のあった事項を入学時まで学級担任と共有している。
- 機構本部からの特別な配慮を必要とする留学生の情報を、授業担当者間で共有している。
- 点検事項の再検討はまだ。

取扱注意		保健調査票	
令和5年度入学	学路番号	長野工業高等専門学校	
ふりがな	氏名		
1. 次の病気にかつ			
1. 心臓病			
2. 腎臓病			
3. 肝臓病			
4. 甲状腺			
5. 糖尿病			
6. 喘息			
7. てんかん			
8. 精神疾患			
9. 血液疾患			
10. 川崎病			
11. 眼疾患			
12. 耳疾患			
13. けがなどによる後遺症			
14. その他			
以下については母子手帳で			
15. 麻疹			
16. 風疹			
17. 水ぼうそう			
18. 麻疹			
19. おたふく(流行性耳下腺炎)			
2. 次の該当する項目			
アレルギー	「有」の		
(有・無)	1.		
	2.		
	3.		
アトシ			
心配なこと、学校へ知らせ			
<p>「有」の場合、以下ご記入ください。 該当するものを○で囲んでください。</p> <p>1. 視覚 2. 聴覚 3. 言語 4. 肢体 5. 腎臓 6. 心臓 7. 血液 8. その他() 身体障害手帳交付 有 () 年 () 月 () 日 () 級 診断名() 無</p> <p>心配なこと、学校へ知らせておきたいことがありましたら記入してください。</p>			
<p>「有」の場合、以下ご記入ください。 診断について → 有 (診断名) ・ 無 ・ 疑いがある 小・中学校での支援 → 有 ・ 無 本校入学後の支援 → 希望する ・ 希望しない</p> <p>心配なこと、学校へ知らせておきたいことがありましたら記入してください。</p>			
3. その他			
心配なこと、困っていることや相談したいことがありましたら記入してください。			
<p>お預かりする個人情報、学生の健康状態を知り、より良い学生生活を支援するための参考にするものであり、これ以外の目的には使用いたしません。 必要に応じて保護者等宛に直接ご連絡を取らせていただく場合がございますので、ご了承のほどお願いいたします。</p>			

出典：保健調査票

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 4

学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。

- 点検事項

(1) 相談・助言等を行う体制が機能しているか。

(2) 各種奨学金について周知する体制を整えているか。

点検項目 14 : 達成率 80%、評価 4

- 本科生に対しては学級担任が、専攻科生に対しては専攻長が主に相談・助言等を行っている。また、メンタル面など専門性の高い相談事項については学生相談室と連携して支援を行なっている。いじめ対策については、学生相談室で定期的に状況を把握するとともに、学校いじめ対策委員会を定期開催して情報を共有して、チームで対応している。
- 学生や保護者に対して学生課学生係よりメールやホームページで各種奨学金の案内を行っている。
- 点検事項の確認はまだ行っていない。



出典：学生相談室の様子（本校HP）

入学案内
諸経費・奨学制度（経済的支援）

※[青字の部分のリンク](#)をクリックいただくと、各手続の募集案内のページに遷移します。
※募集案内の下に書かれている（過去参考）は過年度募集があったもの、今年度の募集を終了しているものです。募集中の手続については各手続の募集案内をご参照ください。

● 奨学制度（経済的支援）

◆：給付型（返還不要） ◇：貸与型（要返還）

名称（制度概要）	手続時期 (手続方法)	1～3年生	4・5年生 専攻科生
◆高等学校等就学支援金	入学時4月& 毎年6～7月頃	○ 全員要手続	-
◆高等教育の修学支援新制度 (授業料減免+JASSO給付奨学金)	(春)4月頃 (秋)9月頃	-	○
◇JASSO 貸与型 奨学金	(春)4月頃 (秋)9月頃	○	○

出典：奨学制度の紹介（本校HP）

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 15

進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。

- 点検事項

(1) キャリア教育に関する各種セミナーを実施しているか。

(2) 相談・助言等を行う体制が機能しているか。

点検項目 15 : 達成率 80%、評価 4

- 進路支援室が中心となってキャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施。本科の実務訓練は教務委員会と4学年会が、専攻科の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって実施している。
- 学級担任と系長（本科）、専攻長（専攻科）が相談・助言等を行っている。また、進路決定に関する助言や書類作成、面接対策については進路担当教員の他に、キャリアコーディネーターが相談にのれる体制を整えている。
- 点検事項の確認はまだ行っていない。



出典：進路セミナー、卒業生講演会の様子

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 6

課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。

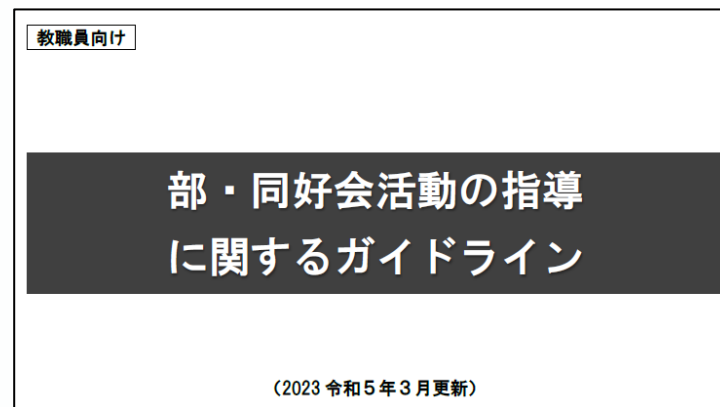
- 点検事項

(1) 課外活動の指導教員を配置して、指導できる体制を確立しているか。

(2) 教員による指導マニュアルを作成しているか。

点検項目 16 : 達成率 80%、評価 4

- 指導教員を複数配置して、課外活動を支援。平日の放課後と休日の午前中に課外活動指導員を配置、教員の業務負担軽減を図っている。
- 「部・同好会活動の指導に関するガイドライン」を作成して、教員が学生に対して支援しやすいよう工夫。「課外活動指導員マニュアル」を作成して、課外活動指導員が学生に対して支援しやすいようにしている。今年度、「熱中症予防に関するガイドライン」を作成して、安全に指導できるように配慮。
- 点検事項の確認はまだ行っていない。



出典：部・同好会活動の指導に関するガイドライン

長野工業高等専門学校における熱中症予防に関するガイドライン
令和5年8月31日 執行会議承認

WBGT(暑さ指数)は、熱中症のリスクを評価する暑熱環境の指標として用いられている。WBGTは、夏季は設置型または携帯型のWBGT計で測定し、熱中症の予防に活用する。
WBGTは、授業中は授業担当教員が、課外活動中は学生、指導教員または課外活動指導員が確認する。活動実施の判断基準については、日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」(2019)に従うものとする。

【熱中症予防運動指針】(日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」(2019))

WBGT	湿球温度	乾球温度	熱中症予防運動指針
31℃以上	27℃以上	35℃以上	危険(運動は原則中止) 特別の場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。
28~31℃	24~27℃	31~35℃	嚴重警戒(激しい運動は中止) 熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10~20分おきに休憩をとり水分・塩分の補給を行う。暑さに弱い人は運動を軽減または中止。
25~28℃	21~24℃	28~31℃	警戒(積極的に休憩) 熱中症の危険が増すので、積極的に休憩をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休憩をとる。
21~25℃	18~21℃	24~28℃	注意(積極的に水分補給) 熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給

出典：熱中症予防に関するガイドライン

3. 学習環境及び学生支援

- 点検項目 1 7

学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

- 点検事項

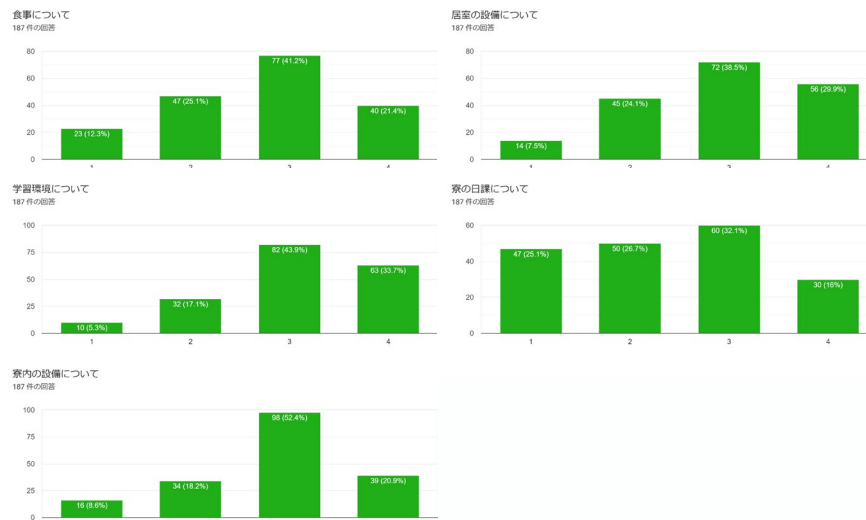
(1) 満足した生活の場を提供しているか。

(2) 勉学の場を提供しているか。

(3) 点検事項を再検討しているか。

点検項目 17 : 達成率 80%、評価 4

- 12月31日締めで寮生活に関するアンケートを実施している。
- 定期試験前に寮生会主催で実施している。1日1時間の勉強時間のコアタイムを実施している。
- 点検事項の確認はまだ行っていない。



出典：令和5年度アンケート（中間報告）

(1) 生活日課について

次の日課表をもとに、規則正しい生活を送ってください。なお、入浴や食事での混雑を防ぐために、寮生会で時間帯や使用箇所などの決まり事を定めていますので、そちらにも従ってスムーズに気持ちよく生活できるように協力してください。

日 課 表	
00:00 ~ 07:30	起床・清掃
07:30 ~ 08:30	朝食 (休日は8:00~9:00)
08:30	登校
12:00 ~ 12:50	昼食
16:30 ~ 22:30	入浴 (各学年で決められた時間帯に入浴)
17:30 ~ 19:30	夕食 ^{※1}
19:00 ~ 23:00	学習 (コアタイム ^{※2} は21:00~22:00)
21:00	門限
21:30	点呼
23:00	自主消灯

※1 遅くとも19:20には食堂に入り、19:30に片付けが終わるようにすること。

※2 学習時間のコアタイムは必ず自室の机に向かって学習する態勢をとること。

※3 桜風寮については、換風寮、清風寮に準ずるものとするが、イベント等で日課表に準ずることができない場合は、事前に許可をとること。

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 1 8

カリキュラム・ポリシー（CP）に基づき、教育課程が体系的に編成されているか。

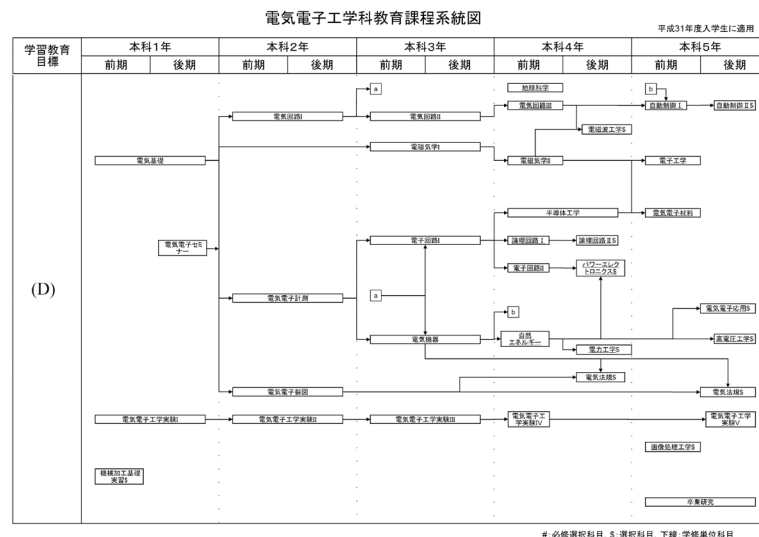
- 点検事項

(1) CPに基づき教育課程を編成しているか。

(2) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 18 : 達成率 100%、評価 5

- CPに基づいた教育課程を編成している。
- 工学科の教育改定の再検討は完成年度後に予定。
- アセスメントプランに対応する検討が行われている。



出典：教育課程系統図

表1 リベラルアーツ教育院が実施する一般科目の科目配置

学年	学期	人文社会	長野学選択科目	人文社会選択	自然科学系(数学)	自然科学系(理科)	外国語系	スポーツ	キャリア・芸術
5年	後期			経済学 社会学 日本社会史 法学 国際経済学		地球科学		スポーツII	
	前期		長野・専らと文学 アソクの中の長野 象山学 長野の思想 信濃の発展						
4年	後期			経済学 社会学 日本社会史 法学 国際経済学	数学特論		中国語 ハンガール 機軸英語	ウィンタースポーツ	
	前期		長野・専らと文学 アソクの中の長野 象山学 長野の思想 信濃の発展				Expressing Opinions	スポーツI アウトドア演習	
3年	後期	応用英語 公共			微分積分IA 微分積分IB 線形代数I 線形代数II 微分積分IIA	物理II	コミュニケーション・プログラマーII 総合英語II	体操体育III	
	前期								
2年	後期	基礎英語II 歴史総合			微分積分I 線形代数I	物理I 化学II	グローバルエンジニア基礎演習II コミュニケーション・プログラマーI	体操体育II	
	前期								
1年	後期	基礎英語I 地理総合			基礎数学A 基礎数学B	ベータサイエンスラボ 化学I	グローバルエンジニア基礎演習I 総合英語I	体操体育I 体育発表I	芸術
	前期							体操体育I ウエルネス・アウトドア	ZUKUDASEゼミ

出典：工学科設置趣意書

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

• 点検項目 19

教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。

• 点検事項

- (1) 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。
- (2) 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。
- (3) 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。
- (4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 19 : 達成率 100%、評価 5

- 適切な科目が配置されている。
- 教授内容はシラバスに適切に記載されている。
- 点検は教務委員会において行われている。

令和5年度 第6回教務委員会	
日時 令和5年9月20日(水) 15:00～	
場所 第5セミナー室	
協議題	
1. インターンシップ事業について	【資料 No. 1】
2. 工学科カリキュラムについて	【資料 No. 2】
3. ものづくり基礎工学・基礎実験の共通授業について	【資料 No. 3】
4. ポートフォリオについて	【資料 No. 4】
5. 授業公開相互参観について	【資料 No. 5】
6. 11月の特別編成授業について	【資料 No. 6】
7. 他大学 eラーニング科目の単位認定について	【資料 No. 7】
8. スケート実習について	【資料 No. 8】
9. 高専間提供科目「論理トレーニング」の履修希望状況について →27名の履修希望者あり	
10. その他 ・「エンジニアリングデザイン入門」におけるポスター展示発表の日時について →令和6年2月13日(火)特別編成授業の午後2コマで実施	
次回: 令和5年10月18日(水) 15:00～ 第5セミナー室で開催予定	
1	

出典：令和5年第6回教務委員会

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 20

教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。

- 点検事項

(1) 教育内容に応じて学習指導上の工夫をしているか。

(2) 指導上の工夫等について報告により確認をしているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 20 : 達成率 70%、評価 4

- 授業アンケート等により授業改善に取り組んでいる。
- 成績不振学生への校内学習塾による指導体制を効果的に運用している。
- 教務委員会において点検事項の確認を行った。

第11回(令和5年3月23日)
教務委員会配布資料 No.3

令和5年3月2日

令和4年度教務委員会活動報告

教務委員会で実施した活動の中で気づいた点についてまとめた。次年度の活動に反映し、改善することが本報告の目的である。各業務の担当者を中心に、本報告を考慮・参考にして次年度の活動を行う。

1. 教育課程

工学科のカリキュラムについて、改善が必要な部分があり、次年度に向けた検討が必要となっている。以下は課題：

- エンジニアリングデザイン入門・実践
- データサイエンス科目
- 副専攻科目
- 教育課程系統図の整備
- MCC 対応確認
- Web シラバスの整備

2. 学力向上対策・校内学習塾

校内学習塾

1年生の数学、2年生の数学と物理の成績不振の学生に対して、4、5年生、専攻科生（今年専攻科生の応募はなかった）のティーチングアシスタント（TA）が教える。

前期（7/15～8/10）最大6回

1年数学 19名

2年数学 20名

2年物理 13名（2名は数学と重なっている）

後期（前半）（11/7～12/9）最大6回

1年数学 24名（TA12名）

2年生は対象学生の指定がなかったので、行うことができなかった

後期（後半）（12/14～2/2）最大10回

1年数学 13名（TA6名）

2年数学 10名（TA6名）

2年物理 12名（TA8名）

実際に学力が向上したか否かは、まだ成績表が入手できていないのでわかっていない。しかし学生への聞き取りの範囲では、成績が向上したと言う者が多い。

2年生の欠席が多いのが気になる（図1参照）。特に同じ学生が複数回休むことがあり、2年生のある学生は9回（欠席率56%）も休んでいる。そのような学生に対しては学習塾の意味があまりないと思われる。実際、この学生は、成績不振学生の情報共有において頻繁に名前が挙がっていた。対象学生の選定に関して、担任も手を焼くような学生ではなく、もっと効率よく勉強すれば成績が上がるのという学生を選んだ方が良さそうだ。

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 1

カリキュラム・ポリシー（CP）に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

- 点検事項

(1) CPに沿って、シラバスを適切に作成しているか。

(2) シラバスを活用しているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 2 1 : 達成率 100%、評価 5

- CPに沿った教育課程を編成し、教授内容を示すシラバスが作成されている。
- 各講義においてシラバスが周知され、シラバスに沿った講義が行われている。
- 教務委員会において点検事項の確認を行った。

第8回(令和4年12月14日)
教務委員会配布資料 No. 4

令和4年12月14日

2023年度シラバス作成の予定

教務委員会

2023年度シラバスについて、下記の日程で作成をお願いする予定です。

1. 担当教員の確認・修正・追加（教務委員の先生方）
拠点校の方で2022年度のシラバスを2023年度のものにコピーしております。2023年度で担当者が変更になる科目及び工学科の新規科目への担当者追加について、2023年1月11日(水)までに教務委員の先生方で修正をお願いします。
2. シラバス作成依頼（全教員）
12月20日(火)に教員向けに作成依頼を行います。締切は2023年2月28日(火)の予定です。MCCへの対応、K-SECなどへの対応などのご確認もお願いします。
3. シラバス内容の確認（教務委員の先生方）
教務委員の先生方で2023年3月1日(水)から3月8日(水)までにシラバスの内容を確認していただき、修正がある場合には修正を依頼して下さい。3月中に完成できるようお願いします。

公開は2023年4月1日(土)を予定しています。年度当初にすべてのシラバスが公開できるよう、ご協力をお願いします。

ご不明な点は教務係にお問い合わせください。

出典：令和4年第8回教務委員会資料

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 2

成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。

- 点検事項

(1) 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。

(2) 卒業認定の基準を周知しているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 22 : 達成率 100%、評価 5

- 成績評定、単位認定基準はシラバスに記載され、周知されている。
- 卒業認定基準は学生便覧に記載され、周知されている。
- 教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

長野工業高等専門学校	開講年度	令和5年度(2023年度)	授業科目	基礎国語 I
科目基礎情報				
科目番号	0002	科目区分	一般 / 必修	
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	工学科(一般科目: 全系共通)	対象学年	1	
開設期	通年	週時開数	2	
教科書/教材	教科書:『精選 現代の国語』明治書院、『精選 言語文化』明治書院、『精選現代の国語 学習課題ノート』明治書院、『精選言語文化 学習課題ノート』明治書院、『基礎から学ぶ新古典文法 三訂版』桐原書店、『常用漢字ダブルク』アビシング、『新改訂カラー版 新国語便覧』第一学習社、古語辞典(電子辞書でも可)、国語辞典(中学校で使用したもので良い。電子辞書でも可)			
担当教員	小池 博明			
到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> 平易な論理的文章の構成や要旨をおおむね理解できる。 平易な文学的文章をおおむね理解でき、登場人物の心情やもの見方を、表現に即して読むことができる。 平易な古典について、その主題や内容をおおむね理解することができる。 基本的な漢字や言葉の意味をおおむね理解できる。 以上を満足することで、A-1に到達する初歩的段階の達成と認定する。				
ルーブリック				
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
現代文 論理的文章の理解	論理的文章の論理の展開をおおよそ理解し、要旨をほぼ把握することができる。	論理的文章の文意をおおよそ理解することができる。	論理的文章が理解できない。	
現代文 文学的文章の理解	文学的文章について、書き手の意図をおおよそ理解することができる。	文学的文章の場面や情景を想像でき、登場人物の心情をおおよそ理解することができる。	文学的文章が理解できない。	
語彙力	自らの語彙を知的好奇心をもって増やすことができる。	基本的な語彙がおおよそ理解できる。	基本的な語彙力がない。	
古典 読解・解釈	古典文学の読解と解釈を意欲的に進めることができる。	古典文学の読解と解釈に努めることができる。	古典文学の読解と解釈に興味を持てない。	
日本の伝統文化への理解	日本の伝統文化への理解を意欲的に進めることができる。	日本の伝統文化を理解しようとする。	日本の伝統文化に興味を持たない。	
学科の到達目標項目との関係				
教育方法等				
概要	<ul style="list-style-type: none"> 国際社会への対応が希求され、進展する情報化社会の中において、国語としての日本語について理解と表現力を育む。 現代の論理的文章を学習することを通して、理解力の基礎を養うとともに、語彙や表記など国語に関する基本的な知識を身につける。 近現代の文学作品を読むことを通じて、表現に即した鑑賞ができる基礎を養うとともに、語彙を豊かにし、表現力の涵養に努める。 古典の読解・解釈を通して、日本の言語文化についての基本的知識を身につけるとともに、日本文化や日本文化に関係の深い、外国文化への理解を深める。 			
授業の進め方・方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義、教員と学生との話し合い、学生同士の話し合いなどで授業を進めるとともに、演習問題や課題を課す。 課題は期限に遅れず提出すること。 			
注意点	<成績評価>・試験 80%・課題 20%の合計100点満点で(A-1)を評価し、合計の6割以上を獲得した者を合格とする <オフィスアワー> 放課後16:00～17:00、一般科棟3階。 <先修科目・後修科目>後修科目は基礎国語Ⅱ <備考>意見や感想の表明などは、授業や提出物などで行う。			
授業の属性・履修上の区分				
<input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input type="checkbox"/> ICT 利用 <input type="checkbox"/> 遠隔授業対応 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業				
授業計画				
	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1週	授業の方法の説明、なぜ古典を学ぶのか、歴史的仮名遣い	授業の方法の説明、なぜ古典を学ぶのか、歴史的仮名遣いを理解できる	
	2週	読説	簡単な古文を音読でき、おおよそ理解できる。	
	3週	古典文法 動詞①	正格活用が理解できる。	
	4週	古典文法 動詞②	変格活用が理解できる。	
	5週	古典文法 動詞③	動詞全体が理解できる。	
	6週	随筆①	簡単な古文を現代語訳しようとする、要めることができる。	
	7週	随筆②	簡単な古文を理解できる。簡単な助動詞が理解できる。	
	8週	これまでの理解度の確認	これまでの学習内容について、理解できている。	
	9週	古典文法 形容詞・形容動詞	形容詞・形容動詞が理解できる。	
	10週	古典文法 用言	用言全体が理解できる。	
	11週	物語①	長めの古文を現代語訳しようとする、要めることができる。	
	12週	物語②	長めの古文をおおよそ理解できる。	
	13週	物語③	基本的な助動詞が理解できる。	
	14週	物語④	基本的な助動詞が理解できる。	
	15週	物語⑤	和歌について理解できる。	

出典：シラバス例（基礎国語 I）

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 3

成績評価は適切に行われているか。

- 点検事項

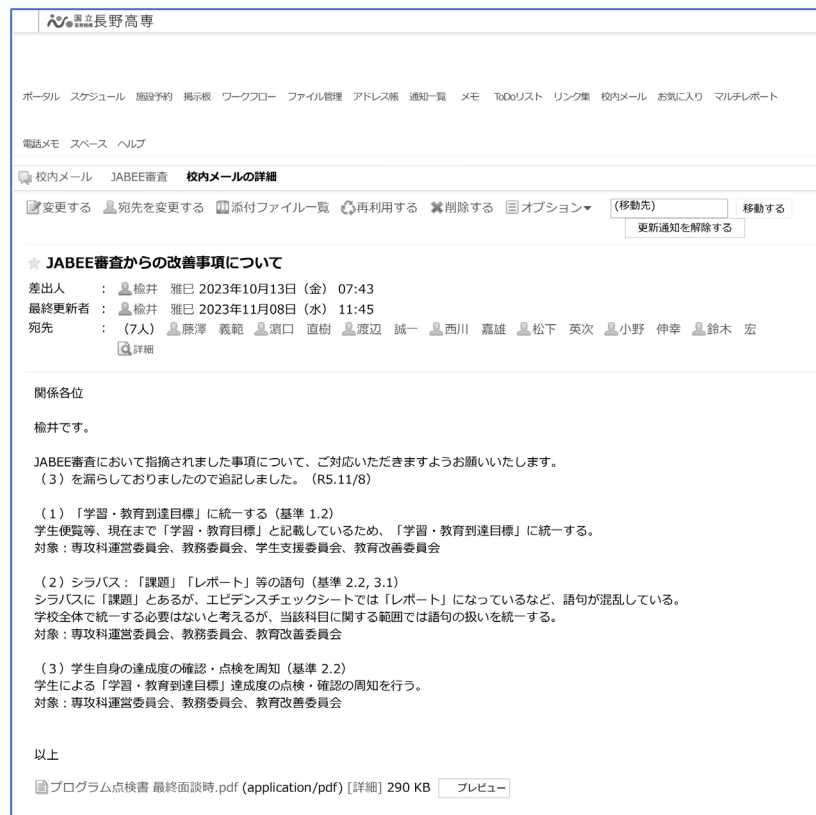
(1) 成績評価を適切に行っているか。

(2) 成績評価方法を確認しているか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目23： 達成率 100%、評価 5

- 授業改善システム（エビデンスのチェック）を実施し、教員へのフィードバックを行った。
- 前期エビデンスの収集を実施した。
- JABEE審査からの指摘事項を教育改善委員会等にフィードバックした。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。



出典：JABEE審査からの指摘事項伝達メール

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 4

進級判定、卒業認定が適切に行われているか。

- 点検事項

(1) 進級判定を適切に行っているか。

(2) 卒業認定を適切に行っているか。

(3) 進級判定・卒業認定基準を確認しているか。

(4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 24 : 達成率 100%、評価 5

- 年度末に、教員会議および執行会議において進級判定および卒業認定を行っている。
- 第7回教務委員会において、進級判定および卒業認定基準の確認を行った。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

令和4年度 臨時執行会議・第13回教員会議

日 時 令和5年3月1日(水) 10:00~

場 所 100番教室

I 協議題

1. 本科生(1~5年生)の成績判定(案)について(濱口副校長)
<机上配付・回収資料>

2. 高専間提供科目の成績判定(案)について(濱口副校長)
<机上配付・回収資料>

3. その他
・専攻科長報告(専攻科長)(資料なし)

次回 第14回教員会議 令和5年3月13日(月) 15:00~ 100番教室(予定)

本科生(1~5年生)の再試験判定案について

出典：第13回教員会議議事次第

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 5

ディプロマ・ポリシー（DP）に沿った学習・教育の成果が認められるか。

- 点検事項

(1) 学業成績からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。

(2) 学会発表や学生表彰からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 25 : 達成率 100%、評価 5

- 設定した科目の学業成績により、学習および教育の成果を確認している。
- 学生の学会発表や表彰、受賞等により学習および教育の成果を確認している。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

**令和5年度 長野高専
「ミマキスカラシップ」受給対象者**

学科	学年	学生氏名	
機械工学科	4	丸山	令和4年度 国立高専機構 学生表彰 【受賞団体】 長野高専サイバーセキュリティ同好会
電気電子工学科	4	松本	
電子制御工学科	4	橋本	

令和4年度長野高専特別敢闘賞受賞者
(学科・氏名五十音順)

学 科	氏 名	受 賞 理 由 (概 要)
機 械 工 学 科	堀 田 駿	在学中、学業において特に優秀な成績を修め、4年次にミマキスカラシップに選出、又、海外協定校との国際交流企画への代表学生に選出されるなど、高い学修意欲や様々な活躍は他の学生の模範となりました。
電 気 電 子 工 学 科	松 下 一 歩	在学中、学業において特に優秀な成績を修め、5年次に卓越した学生に対する授業料免除者に選出、又、海外研修への参加や4年次には全国高専英語プレゼンテーションコンテストに出場するなど、高い学修意欲や様々な活躍は他の学生の模範となりました。
電 気 電 子 工 学 科	矢 花 大 季	ロボコン部の中心メンバーとして全国高専ロボコンに連続出場し特別賞を受賞するなど優秀な成績を取ったことから長野高専学生表彰を複数回受賞、又、5年次に卒業研究の成果を学会発表し優秀賞、1～3年次に長野県発明くふう展で知事賞を連続受賞するなど本校の名誉を高め、3～5年次には学生会風紀委員長を務めるなど、そのリーダーシップは他の学生の模範となりました。
電 子 制 御 工 学 科	加 藤 智 祐	在学中、学業において特に優秀な成績を修め、4年次にミマキスカラシップに選出、又、卒業研究の成果を学会発表し優秀賞を受賞、海外協定校との国際交流企画への代表学生に選出されるなど、高い学修意欲や様々な活躍は他の学生の模範となりました。
電 子 制 御 工 学 科	小 嶋 蒼 依	ロボコン部の中心メンバーとして全国高専ロボコンに連続出場し特別賞を受賞するなど優秀な成績を取ったことから長野高専学生表彰を複数回受賞、又、5年次に卒業研究の成果を学会発表し優勝するなど本校の名誉を高め、4年次に寮長を務め功労賞を受賞するなど、そのリーダーシップは他の学生の模範となりました。
環 境 都 市 工 学 科	塚 原 治 美	在学中、学業において特に優秀な成績を修め、4年次にミマキスカラシップに選出、又、5年間吹奏楽部に所属し部長を務め、県のコンクール等で銀賞を複数回受賞するなど、高い学修意欲やリーダーシップは他の学生の模範となりました。

ミマキスカラシップは、
寄附金を原資として設立

出典： 令和4年度学生表彰受賞者等

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 6

卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。

- 点検事項

(1) 卒業時のアンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。

(2) 卒業生および企業アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。

(3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 26 : 達成率 60%、評価 3

- 卒業時に、学習・教育目標の自己評価を行い、成果を確認している。
- 卒業生および企業に対するアンケートにより、成果を確認する予定である。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。

3. 令和元年度における各種点検報告

3-1 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果

1. 卒業生および企業に対するアンケート調査の実施方針

本調査は平成 19 年 5 月 11 日に教育改善委員会で決定された申し合わせ事項も基づいて実施するものである。申し合わせ事項の必要部分を以下に抜粋する。

1-1 目的

- (1) 本校の本科卒業生および専攻科修了生が、在学時に身につけた学力、資質、能力に満足しているか、また、これらが（修了）後に仕事等で役に立っているかの意識について把握する。
- (2) 本校の本科卒業生および専攻科修了生が、在学時に身につけた学力、資質、能力が、社会においてどのような評価を得ているか把握する。
- (3) 本校の教育の成果（卒業生の満足度、社会の評価等）を点検することにより、その後の教育改善に役立てる。

1-2 内容

- (1) 調査対象者
 - ・長野高専本科卒業生
 - ・長野高専専攻科修了生
 - ・長野高専本科卒業生と専攻科修了生の就職先および進学先機関
- (2) 調査回数
 - ・原則として、5年毎に一回実施する。

1-3 令和元年度実施に関する基本方針

令和元年度実施に関する基本方針

1. 平成 28 年および 29 年 3 月専攻科生修了生と本科卒業生もアンケート調査の対象とする。
2. 専攻科修了生は全員（H27 年度 29 名、H28 年度 26 名、合計 55 名）とし、本科卒業生については各学科 20 名、全数 255 名とする。
3. 人選については本科卒業生に対する就職者・進学者 20 名の内訳は学科に一任する。
4. 人選された卒業生の就職先および進学先機関にアンケート調査を依頼する。
5. アンケート内容は別紙の通りとする。
6. 実施時期、令和元年 12 月から令和 2 年 1 月の間に実施する。
7. アンケート発送、回収の業務は事務部にお願いする。
8. 本調査の集計・分析・点検は当委員会が行う。

2. 実施方法

前記基本方針により、アンケート項目を決定し、令和元年 12 月末の住所が確認できた修了生および卒業生に対してアンケートを 1 月 7 日に送付した。内訳は修了生 52 名、卒業生 209 名の合計 261 名である。回答の締切りを令和 2 年 2 月 14 日と設定した。回収総数は、50 通であった。

3. まとめと提言

参考資料として付録 1 に、教育改善委員会から提出された【令和元年度 卒業生および企業等に対するアンケート調査実施結果】を示す。

調査結果の分析は令和 2 年度に行う。

20

出典：令和元年度教育改善委員会報告書
134

4. 準学士課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 2 7

卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。

- 点検事項

- (1) 卒業後の進路に学習・教育の成果が表れているか。
- (2) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 27 : 達成率 100%、評価 5

- 卒業後の進路を確認し、成果を確認している。
- 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。



出典：令和5年度キャリアサポートレター 136

大項目	小項目	番号	点検項目	担当	点検事項	根拠資料	文章 現状	数値	1から5	文章	1から5	文章		
								達成率%	自己評価	改善点	外部評価	外部の意見		
1. 教育の 内部質保 証	自己点検 評価	1	自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されており、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の事項を定めているか。 点検・評価の数値基準を定めているか。 点検・評価を四半期ごとを実施しているか。 点検・評価手法を再検討しているか。 	長野工業高等専門学校自己点検評価の実施に関する要項 自己点検評価報告書(ホームページ) 以下の6つの各種点検・改善システムの報告書 自己点検評価項目による点検システム 年度計画項目による点検システム DP、GP、APの点検・改善システム 各委員会の重点項目点検システム 授業改善システム 学生への支援体制点検システム	<ol style="list-style-type: none"> 昨年度参与会の指摘より、自己点検・評価の評価手法を変更し、実施した。 評価手法として、点検事項の達成度を数値化することとした。 上期での点検・評価が十分に行われなかった。 手法の再検討を行いながら評価作業を行っている。 	60	3			令和4年度参与会にて、自己点検・評価の評価基準が曖昧であると指摘された。これを受けて、年度始めより検討し、6月に提案した。		
		2	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が、教育の質の改善・向上に繋がっているか。	総務主事	<ol style="list-style-type: none"> 学校構成員の意見聴取の規則を定めているか。 意見検討の手続きが定められているか。 実施の効果について検討しているか。 点検・評価手法を再検討しているか。 	卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果 教育改善報告書	<ol style="list-style-type: none"> 学校構成員および学外関係者の意見聴取の規則は、各種点検改善システムとして定めている。 意見検討の手続きは、各種点検改善システムとして定めている。 実施の効果については、教育改善委員会にて検討する予定。 点検・評価手法の再点検はまだ 	50	3					
	3	3つのポリシー	準学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受け入れに関する方針(アドミッション・ポリシー)が定められており、社会の状況等の変化に応じて見直されているか。	教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> DPを定めているか。 CPを定めているか。 APを定めているか。 3ポリシーの見直し必要性について検討しているか。 	1-3. 準学士課程および専攻科の3つのポリシー 4. 執行会議資料 アセスメントプラン	<ol style="list-style-type: none"> 令和3年度に、改組新学科である工学科の3ポリシーを新たに策定し、現行の5学科および専攻科のアドミッションポリシーに入学選抜の基本方針を入れる修正を行った。 DP、GP、APを定めている。 アセスメントプランの整理とあわせて検討予定。 	80	4			社会状況に応じて見直ししていく。		
2. 組織及 び教員・教 育支援者	学校組織	4	教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているか。	事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 時宜を見ながら学校運営体制の見直しを行っているか。 運営体制が機能しているか適時点検・確認しているか。 	組織図、内部組織規則、校務分掌一覧、会議資料(議事概要)	<ol style="list-style-type: none"> 年度末の執行会議・運営会議において、次年度の学校運営体制の見直しを行っている。 毎月の執行会議・運営会議で各種会議・委員会からの報告がなされ運営体制が機能していることを確認している。また、年度途中であっても、執行会議において必要があれば運営体制を見直すこととしている。 	75	4					
	教員等の 配置	5	準学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。	教務主事 専攻科長 事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 一般科目担当教員を適切に配置しているか。 専門科目担当教員を適切に配置しているか。 教育支援者を適切に配置しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	1, 2. 教員の専門分野と担当科目一覧(学校要覧、時間割表) 3. 技術支援部の支援一覧 4. 執行会議資料	<ol style="list-style-type: none"> 教員および教育支援者を適切に配置している。 担当科目数の確認とともに点検状況を報告予定。 	80	4					
	教員の評 価	6	教員の採用や昇任に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育研究活動に対して、定期的な評価が行われているか。	校長 教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> 教員の採用や昇任に関する基準があるか。 採用・昇任基準を適切に運用しているか。 教員の教育研究活動を定期的に評価しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	1. 採用・昇任などの人事規則 2. 執行会議資料 3. 教員顕彰 業務計画および校長面談の実施 4. 執行会議資料	<ol style="list-style-type: none"> 教員採用や昇任に関する基準が定められている。 教員採用や昇任に関する基準が適切に運用されている。 業務計画・報告などにより教員の教育研究活動が定期的に評価されている。 採用や昇任の基準をより明確にするなど、点検が行われている。 	100	5					
	FD活動	7	FD・SD活動が実施され、改善等に結びついているか。	総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> FD研修会を3回実施しているか。 実施FD研修会の効果を検討しているか。 SD研修会を3回実施しているか。 実施SD研修会の効果を検討しているか。 点検事項を再検討しているか。 	1. 教育改善報告書 2. 20231120第4回教育改善委員会議事概要	<ol style="list-style-type: none"> FD研修会を数度実施した。 FD研修会を教育活動に生かすため、年度の途中で報告書を送り、研修を振り返ってもらうこととした。3月頃FD研修の効果についてのアンケートを予定し11/24メール送信済み SD研修会を数度実施した。 SD研修会の効果検討はまだ FD研修会の評価方法を検討し年度末に実施予定 	60	3					
学習環境	8	学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 定期的に施設・設備の管理状況を点検し、良好な状態で維持保全しているか。 安全衛生委員会による月1回の職場巡視を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	安全衛生委員会報告 キャンパスマネジメント委員会議事概要 施設の管理状況：点検・検査記録等	<ol style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会にて、毎月職場巡視(4/17、5/16、6/20、7/13、8/28、9/21、10/17、11/15実施済み)を実施し、職場の安全衛生を点検し、委員会で適宜改善を図っている。 メンタルヘルス研修会、11/14に実施済み。 救急法(AED)講習会を、教職員を対象に11/20に実施済み。 施設の維持管理については、施設管理者による日常的な点検に加え、契約による定期点検や法定点検等を実施している。 居室等の稼働状況を把握し、資産の有効活用を図っており、今年度は施設利用状況調査を7月に行った。結果は情報共有し、稼働率が低い居室等は有効活用に向け引き続き検討を行うこととしている。 	75	4						
	9	学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	教務主事 (情報教育センター長) 総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> 学生のニーズ調査を実施しているか。 セキュリティ研修を実施しているか。 ICT環境の保守・点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	1. 学生の満足度調査結果 2. 情報教育センター報告 3. 第0回情報セキュリティ推進委員会議事概要 4. 第0回情報教育センター議事概要	<ol style="list-style-type: none"> 学生ニーズ調査は年度末(意見交換会) 1年次の講義で実施。2年以降毎年のセキュリティ研修は学年会で実施されるが状況把握がされていない。 保守・点検は情報教育センターにて実施されている 点検事項の再検討はまだ 	50	3						
	10	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究に必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。	総務主事 (図書館長)	<ol style="list-style-type: none"> 教職員・学生のニーズ調査を実施しているか。 蔵書の点検を実施しているか。 図書の活用状況の点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	図書館蔵書数 図書館利用状況	<ol style="list-style-type: none"> ブックハンティングを実施し、学生のニーズを把握している。 蔵書の点検は、人員の不足によりここ数年実施されていない。 図書の活用状況は月ごとに確認されている。 点検事項の再検討はまだ。 	50	3						
11	新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。	教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> 新入生ガイダンスを実施しているか。 留学生ガイダンスを実施しているか。 編入生ガイダンスを実施しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	1. 新入生の年度当初の日程について新入生のための学習のアドバイス 専攻科 新入生ガイダンス実施要領 2. 外国語新入生ガイディングブック 3. 編入生ガイダンスの日程表 4. 第8回教務委員会議事概要	<ol style="list-style-type: none"> 新入生ガイダンスを入学式当日および翌日に実施した。 外国人留学生および編入生ガイダンスを入学式当日に実施した。 第8回教務委員会において点検事項の確認を行った。 	100	5							

3. 学習環境及び学生支援	学生支援	12	学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	教務主事 専攻科長 学生相談室長 総務主事(教育改善委員長)	1. 学生の学習活動に関して相談できる体制を整えているか。 2. 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 学級担任ガイドブック 2. 学生相談室報告 3. メール目安箱、学生の満足度調査結果 4. 執行会議資料	1. 相談等を含む学級担任の業務をまとめたガイドブックを活用している。 2. 学生相談室がスターにより周知し、多くの学生が学生相談室を利用している。 3. メール目安箱が活用されている。 4. 点検事項の確認はまだ。	80	4						
		13	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。	教務主事 専攻科長 国際交流センター長 学生相談室長	1. 特別な支援が必要となる新入生の情報を共有しているか。 2. 特別な支援が必要となる留学生の情報を共有しているか。 3. 必要な支援や配慮事項を検討しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 保健調査票様式 2. 国際交流センター会議資料 3. 外国人留学生チューターの手引き 4. 執行会議資料	1. 入学前提出の保健調査票で家庭より連絡のあった事項を入学時まで学級担任と共有し、配慮の希望について家庭に確認している。 2. 機構本部からの特別な配慮を必要とする留学生の情報について、授業担当者間で共有している。 3. 点検事項の確認はまだ。	80	4						
		14	学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。	学生主事 専攻科長 学生相談室長	1. 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 2. 各種奨学金について周知する体制を整えているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	学生相談室報告 授業料免除利用状況 奨学金実績 学生支援委員会報告 学校いじめ対策委員会議事次第	1. 本科生に対しては学級担任が、専攻科生に対しては専攻長が主に相談・助言等を行っている。また、メンタル面など専門性の高い相談事項については学生相談室と連携して支援を行っている。いじめ対策については、学生相談室で定期的状況把握するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催して情報を共有して、チームで対応している。 2. 学生や保護者に対して学生課学生係よりメールやホームページで各種奨学金の案内を行っている。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。	80	4						
		15	進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。	教務主事 学生主事 (進路支援室長) 専攻科長	1. キャリア教育に関する各種セミナーを実施しているか。 2. 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	進路指導状況報告書 進路講演会実施要項、進路説明会開催要項 インターンシップ事業の実施要項と実施の手引きと実施数等 キャリアセミナー開催要項	1. 進路支援室が中心となってキャリア講演会、進路講演会、卒業生講演会、進路説明会を実施している。また、本科生の実務訓練は教務委員会と4学年会が中心となり、専攻科生の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって実施している。 2. 本科生に対しては学級担任と系長(学科長)が、専攻科生に対しては専攻長が相談・助言等を行っている。また、進路決定に関する助言や書類作成、面接対策については進路担当教員の他に、キャリアコーディネーターが相談にのれる体制を整えている。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。	80	4						
		16	課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。	学生主事	1. 課外活動の指導教員を配置して、指導できる体制を確立しているか。 2. 教員による指導マニュアルを作成しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	部・同好会活動の指導に関するガイドライン 部・同好会 指導教員一覧 学生の病氣・ケガに対する対応報告書	1. 部・同好会に指導教員を複数配置して、課外活動を支援している。また、平日の放課後と休日の午前中に課外活動指導員を配置して、教員の業務負担軽減を図っている。 2. 「部・同好会活動の指導に関するガイドライン」を作成して、教員が学生に対して支援しやすい工夫している。また、「長野高等専修学校指導員マニュアル」を作成して、課外活動指導員が学生に対して支援しやすいようにしている。なお、今年度は「長野工業高等専門学校における熱中症予防に関するガイドライン」を作成して、安全に指導できるように配慮した。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。	80	4						
4. 進学生課程の進級及び卒業判定	教育課程の編成	17	学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	寮務主事	1. 満足した生活の場を提供しているか。 2. 勉学の場を提供しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	勉強会の開催通知 満足度調査結果(学生との懇談会報告)	1. 12月31日締めで寮生活に関するアンケートを実施している。 2. 定期試験前に寮生会主催で実施している。1日1時間の勉強時間のコアタイムを実施している。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。	80	4						
		18	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているか。	教務主事	1. CPlに基づき教育課程を編成しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 教育課程表および教育課程系統図 2. 第8回教務委員会議事概要	1. CPlに基づいた教育課程を編成している。 2. 工学科の教育改定の再検討は完成年度後に予定。 2. アセスメントプランに対応する検討が行われている。	100	5						
		19	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。	教務主事	1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1-3. 教育課程表およびシラバス(科目の抜粋) 4. 第8回教務委員会議事概要	1. 適切な科目が配置されている。教授内容はシラバスに適切に記載されている。 2. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	100	5						
		20	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	教務主事	1. 教育内容に応じて学習指導上の工夫をしているか。 2. 指導上の工夫等について報告により確認をしているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1-2. 授業改善報告書および授業公開アンケート(eーラーニング、フィールド型、情報機器活用、学力不足学生への配慮、連携、教材の工夫などの抜粋) 3. 第8回教務委員会議事概要	1. 授業アンケート等により授業改善に取り組んでいる。成績不振学生への校内学習態による指導体制を効果的に運用している。 2. 授業改善報告書による確認を行う予定である。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	70	4						
		21	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	教務主事	1. CPlに沿って、適切なシラバスを作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1-2. シラバス 授業改善報告書 3. 第8回教務委員会議事概要	1. CPlに沿った教育課程を編成し、教授内容を示すシラバスが作成されている。 2. 各講義においてシラバスが周知され、シラバスに沿った講義が行われている。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	100	5						
成績評価・進級及び卒業判定	22	成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。	教務主事	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. シラバス 2. 教育課程表 3. 第8回教務委員会議事概要	1. 成績評価、単位認定基準はシラバスに記載され、周知されている。 2. 卒業認定基準は学生便覧に記載され、周知されている。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	100	5							
	23	成績評価は適切に行われているか。	教務主事 総務主事(教育改善委員会)	1. 成績評価を適切に行っているか。 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1-2. シラバス 授業改善システム(エビデンスのチェック) 3. 第8回教務委員会議事概要	1. 授業改善システム(エビデンスのチェック)を実施し、教員へのフィードバックを行った。 2. 前期エビデンスの収集を実施した。 3. JABEE審査からの指摘事項を教育改善委員会にフィードバックした。 4. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	100	5							

学習・教育の成果	24	進級判定、卒業認定が適切に行われているか。	教務主事	1. 進級判定を適切に行っているか。 2. 卒業認定を適切に行っているか。 3. 進級判定・卒業認定基準を確認しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1-2. 進級・卒業判定資料 会議の開催案内 3. 第7回教務委員会議事概要 4. 第8回教務委員会議事概要	1. 年度末に、教員会議および執行会議において進級判定および卒業認定を行っている。 2. 第7回教務委員会において、進級判定および卒業認定基準の確認を行った。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	100	5							
	25	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 学業成績からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 学会発表や学生表彰からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 卒業判定資料 2. 卒業研究の学会発表件数 学生表彰・受賞一覧 3. 第8回教務委員会議事概要	1. 設定した科目の学業成績により、学習および教育の成果を確認している。 2. 学生の学会発表や表彰、受賞等により学習および教育の成果を確認している。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	100	5							
	26	卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 卒業時のアンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 卒業生アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 企業アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 学習・教育目標の達成度自己評価調査票 2-3. 卒業生および企業に対するアンケート調査 4. 第8回教務委員会議事概要	1. 卒業時に、学習・教育目標の自己評価を行い、成果を確認している。 2. 卒業生および企業に対するアンケートにより、成果を確認する予定である。 3. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	60	3							
	27	卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 卒業後の進路に学習・教育の成果が表れているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 進路指導報告書（就職先・進学先一覧） 2. 第8回教務委員会議事概要	1. 卒業後の進路を確認し、成果を確認している。 2. 第8回教務委員会において点検事項の確認と検討を行った。	100	5							
	28	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。	専攻科長	1. CPに基づき教育課程を編成しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	教育課程表 系統図（7年分）	1. 系統図上では、専攻科単独で科目表を構成しているが、本科で基本的事項を学習し、専攻科で応用的なことが学べるように構成している。 2. 社会からの要請の変化に対応するため見直しを随時行っている。	50	3							
5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果	29	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。	専攻科長	1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	教育課程表 系統図（7年分） シラバス（科目の抜粋）	1. 科目に関しては必要に応じて見直しを行っている。 2. 「機能デザイン」「学外実習」「実践工学演習」を実施している。 3. 「英語特訓I」を実施している。 4. 随時確認を行っている。	60	3							
	30	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	専攻科長	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 修了認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	対話型、eラーニング、フィールド型、情報機器活用、学力不足学生への配慮、連携、教材の工夫など特色ある授業例（授業改善報告書書や授業公開より、抜粋）	1. 科目ごとにシラバスに掲載し、説明している。 2. 年度当初のガイダンスで説明を行っている。 3. 随時確認を行っている。	60	3							
	31	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。	専攻科長	1. CPに沿って、シラバスを適切に作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	シラバス 研究指導計画などの実施要項 専攻科の研究発表会、学会等への参加状況	1. CPに沿ってシラバスの作成をおこなっている。 2. 初回の講義にてシラバスの説明を行っている。 3. 随時確認を行っている。	60	3							
	32	成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。	専攻科長	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	学生へのアンケート調査結果	1. 科目ごとにシラバスに掲載し、説明している。 2. 年度当初のガイダンスで説明を行っている。 3. 随時確認を行っている。	60	3							
	33	成績評価は適切に行われているか。	専攻科長 総務主事 (教育改善委員会)	1. 成績評価を適切に行っているか。 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	シラバス通りに成績評価が行われているかの一例 授業改善システム(エビデンスのチェック)	1. 授業改善システム(エビデンスのチェック)を実施し、教員へのフィードバックを行った。 2. 前期エビデンスの収集を実施した。 3. 点検事項の再検討はまだ。	80	4							
	34	修了認定が適切に行われているか。	専攻科長	1. 進級判定を適切に行っているか。 2. 修了認定を適切に行っているか。 3. 進級判定・修了認定基準を確認しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	修了判定資料および会議の開催	1. 専攻科運営委員会および執行会議で行われた。 2. 随時行っている。	80	4							
	35	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 学業成績からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 学会発表や学生表彰からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	特別研究の学会発表件数および学生の表彰・受賞一覧 学校として把握できる資料 専攻科生 修了判定資料 専攻科「産業システム工学」プログラム修了判定	1. DPに沿った学習・教育が認められ、23名が専攻科を修了した。 2. 学会発表を通じてDPに沿った学習・教育が認められた。 3. 随時確認している。	100	5							
	36	修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 修了時のアンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了生アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 企業アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	自己評価シート、学習・教育目標達成調査、ループリク形式による学習・教育目標の達成度評価確認表 学生個人用、専攻科修了生・学習教育目標達成など 卒業生および企業に対するアンケート調査	1. 意見交換会のアンケートにより、成果等を確認している。 2. 企業アンケートにより、成果等を確認する予定である。 3. 随時検討している。	60	3							
	37	修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 修了時の学生の取得状況から学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了後の進路状況から学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項を再検討しているか。	学位取得状況 過去5年間の就職先・進学先一覧	1. 修了時の学位取得状況にて確認している。 2. 修了後の進路状況にて確認している。 3. 点検事項の確認はまだ行っていない。	80	4							
	6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ	38	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施されているか。	教務主事	1. APIに基づき入学者選抜を実施しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 入学者推薦選抜及び学力検査実施要領 2. 第〇回入学者選抜委員会議事概要	1. APIに基づき入学者選抜を実施している。 2. 点検事項の確認・検討はまだ。	80	4						
39		入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	教務主事	1. 入学者がAPIに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1-3. 入学者選抜委員会議事概要	1. 入学者がAPIに沿っているか検証している。 2. 検証結果を入学者選抜の改善に向けた検討に用いている。 3. 点検事項の確認・検討はまだ。	80	4							
40		受検者数増加対策は効果的に行われているか。	教務主事 総務主事(広報企画室) 男女共同参画推進室長 入試広報室	1. 受検者数増加対策を検討しているか。 2. 受検者数増加対策を実施しているか。 3. 活動の検証をしているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1-2. オープンキャンパス(体験入学)実施要項 本校ホームページ、各種広報活動 男女共同参画推進の事業 3-4. 第〇回入学者選抜委員会議事概要	1-2. 学校説明会(8/30)、オープンキャンパス(7/8、10/30)を実施した。 3-4. 検証および点検事項の確認はまだ。	50	3							
41		アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学者選抜方法が適切に実施されているか。	専攻科長	1. APIに基づき入学者選抜を実施しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	専攻科「産業システム工学」プログラム修了判定資料	1. APIに従って入学者選抜を実施している。 2. 検討を行う。	60	3							

専攻科課程の学生の受け入れ	42	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学者選抜の改善に役立っているか。	専攻科長	1. 入学者がAPに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学者選抜の改善に役立っているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	専攻科推薦および学力選抜の検証 (入学者選抜委員会や専攻科運営委員会等資料)	1. 入学者選抜方法で適切であることを判断している。 2. 今後改善を行う。 3. 検討を行う。	50	3					
	43	受験者増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。	専攻科長	1. 受験者数増加対策を検討しているか。 2. 受験者数増加対策を実施しているか。 3. 活動の検証をしているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	4年生に対する広報活動等 専攻科生の状況 入学志願者・入学状況(学校便覧)	1. 説明会を実施している。 2. 今後検証を行う。 3. 検討を行う。	50	3					
7. 研究活動の状況	研究体制と支援体制	44	研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	研究主事	1. 研究活動に関する基本方針が定められているか。 2. 研究推進委員会が設置されているか。 3. 研究倫理委員会が設置されているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	長野工業高等専門学校における研究活動に関する基本方針 研究推進組織図 研究支援委員会活動内容(支援体制など) 特別経費申請一覧 科研申請書の添削希望の募集	1. 研究推進委員会において研究活動および知財管理について確認した。 2. 研究倫理委員会において2件の審議を行った。 3. 研究推進委員会において原状を踏まえた点検事項の再検討を行う予定。	80	4				
	研究活動の成果	45	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	研究主事	1. 研究業績一覧を発行し、研究状況の確認を行っているか。 2. 学生による学会発表件数、学生が関与する共同研究の実施状況などを確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	シーズ集、特許出願件数、科学研究費応募状況 各学科等における研究活動、学生が関わる企業との共同研究件数	1. 62名の教員によるシーズ集の発行および研究業績一覧を紀要に掲載。 2. 学生の学会発表や共同研究に関する情報を収集している。 3. 研究推進委員会において原状を踏まえた点検事項の再検討を行う予定。	80	4				
	研究活動の改善	46	研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。	研究主事	1. 研究推進委員会にて研究活動推進に関する事項を検討しているか。 2. 点検事項を再検討しているか。	研究支援委員会活動内容(研究活動の改善など)	1. 研究推進委員会において研究活動および知財管理の方向について確認。 2. 研究推進委員会において原状を踏まえて点検事項の再検討を行う予定。	80	4				
8. 地域貢献活動等の状況	地域貢献活動の計画	47	地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。	総務主事 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 地域貢献の目的を定めているか。 2. 活動計画を定めているか。 3. 計画に沿って実施しているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。	国立高専機構長野高専における地域貢献活動等に関する目的・基本方針および目標 広報企画室の活動計画 地域共同テクノセンター年間行事日程	1. 広報企画委員会、地域共同テクノセンターにおいて、本年度の活動計画を策定した。 2. 計画に沿って、各種事業・各地域の産業展等への参加を実施し、広報・地域貢献を行った。 3. 再検討はまだ。	80	4				
	地域貢献活動の成果	48	地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。	総務主事 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。	広報企画室活動のまとめ 地域共同テクノセンター活動のまとめ	1. サイエンスライブ、サイエンスツアー、テクノセンター事業等の実施アンケートに基づき、実施の成果を確認している。 2. 実施アンケートより、目的に沿った成果を確認している。 3. アンケート項目・内容の点検はまだ。	80	4				
	地域貢献活動の改善	49	地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。	総務主事 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。	広報企画室活動のまとめ 地域共同テクノセンター活動のまとめ	1. 実施状況および課題の確認は、広報企画委員会、地域共同テクノセンターにおいて、確認している。 2. 委員会およびセンターでの確認を通じて、成果があがっているかを確認している。 3. 手法の検討はまだ。	80	4				
9. 財務及び管理運営と情報公開	財務関係	50	適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	事務部長	1. 効率的・効果的な収支計画(見積)を策定しているか。 2. 学内会議等で予算配分方針を周知しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	予算配分方針	1. 6月29日の執行会議にて予算配分方針案が承認された。 2. 7月6日の運営会議で報告を行った。 3. グループウェアへ資料の掲載を行っている。	75	4				
		51	適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。	事務部長	1. 予算配分方針に基づき、適切な予算配分をしているか。 2. 定期的に、予算執行状況を確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	予算配分 予算執行集計表、予算差引簿	1. 6月29日の執行会議にて予算配分案が承認された。 2. 7月6日の運営会議で報告を行った。 3. 定期的に執行状況を確認し、執行率が低い場合は執行予定等の聞き取りを行い、早期執行を促している。	75	4				
		52	適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。	事務部長	1. 定期的に予算執行状況を把握しているか。 2. 決算状況について、HP等で公表しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	学校要覧：財務状況 ・収入・決算額 ・外部資金受入状況 ・科学研究費交付決定状況 HP：財務状況	1. 定期的に予算執行状況の把握を行っている。 2. 収入・決算額の状況については、7月にホームページへ前年度の財務状況として(令和4年度)の公表を行った。	75	4				
管理運営	53	各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	事務部長	1. 時宜に応じた事務組織等の見直しを行っているか。 2. 事務組織等の人員配置などについて定期的に点検・確認しているか。 3. 教育改善委員会で各種委員会の活動状況の点検を行っているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	内部組織規則、各委員会規則 事務組織及び事務分掌規則 各種委員会の活動状況の点検結果(教育改善報告書)	1. 年度末に次年度の事務組織等の人員配置を検討しており、必要に応じて人員配置の見直しを行っている。 2. 事務組織の人員配置の検討材料の一つとして、半期ごとの業績評価時における職員面談を通じて、現在の業務状況なども確認している。 3. 年度末に教育改善委員会で各種委員会・センター等が適切に活動しているか点検を行っている。(令和5年5月「令和4年度教育改善報告書」)	75	4					
	54	情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備されているか。	総務主事 事務部長	1. 安全管理規則が定められているか。 2. 規則に沿って研修が行われているか。 3. 規則に沿った安全管理対応が行われているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。	リスク管理規則、情報セキュリティ管理・推進規則 防災マニュアル、情報セキュリティ利用者規則、教職員規則	1. 各種関連規則は整備済み。(R4の情報セキュリティ監査で確認済み。) 2. R5.6に防災マニュアルを更新済み。 3. R5.6に防災訓練全体、R5.11に業防災訓練を実施済み。 4. R5.7情報セキュリティe-Learningを実施済み。 5. 令和5年度情報セキュリティインシデント対応訓練(9/4、11/6実施)に伴い情報セキュリティ管理委員会を設置した。 6. 毎月情報セキュリティ推進委員会を開催(4/25、5/29、6/26、7/24、8/30、10/26、11/29)し、情報セキュリティの管理を行っている。	75	4					
	55	外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	研究主事	1. 外部資金の公募案内を校内に周知しているか。 2. 科学研究費申請書の添削支援を実施しているか。 3. 特許出願に関する支援を実施しているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	研究支援委員会活動内容(支援体制など) 特別経費申請一覧 科研申請書の添削希望の募集	1. 外部資金の公募案内は都度校内に周知。 2. 科学研究費申請書の添削に8名に教員が参加。 3. 6名の教員が弁理士の指導による特許関連事業に参加。 4. 研究推進委員会において原状を踏まえた点検事項の再検討を行う予定。	80	4					
56	外部の教育資源を積極的に活用しているか。	教務主事 専攻科長 研究主事	1. 外部の教育資源を積極的に活用しているか。 2. 点検・評価手法を再検討しているか。	1. 実務訓練、学外実習、企業書生およびその実施状況資料 産学連携関係の共同研究や共同教育の実施例の資料 企業現場見学実務状況資料 1-2. 第9回産学連携推進委員会議事概要	1. 実務訓練およびその報告会を例年の形式に戻して実施し、多くの企業等の協力のもと実施ができた。実務訓練のさらなる充実に向けて、また他の研修や見学等の行事でも協力が得られるよう、受け入れ企業募集や説明会の時期の変更等を検討した。 2. 点検事項の確認と検討を行った。	100	5						

		57	管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。	事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 定期的にSD研修会などを実施しているか。 2. その他、職員の資質向上を図る取組を実施しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。 	SD研修会の実施、 管理運営等の研修会への参加リスト	<ol style="list-style-type: none"> 1. 9/8にタイムマネジメント研修を実施。合計49名受講(本校29名、他高専15名、信州大学9名) 2. 事務部有志にて、業務効率化の勉強会を実施中(6/29、7/5、7/13、8/31、9/21実施済み) 3. 長野高専メンタルヘルス(セルフケア)研修を11/14に実施 4. 長野高専職員海外派遣研修(11/7-10)に2名派遣 5. 高専機構主催の新任校長・新任事務部長研修会(4/26)1名、新任職員研修会(5/29、31)に2名参加 6. 高専機構主催の中堅教員研修会(10/16、17)に2名参加 7. 信州大学主催の財務会計実務研修(9/14、15)に2名参加 8. 関東信越地区高専技術職員研修会(9/11-13)に1名参加 9. 高専機構主催の施設担当者研修会(10/12、13)に1名参加 10. 関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修(10/12、13)に1名参加 11. 関東・甲信越地区国立大学法人等会計事務研修(11/22)に1名参加 12. 関東・甲信越地区実践セミナー(財務の部)(10/19)に1名参加 13. 関東・甲信越地区実践セミナー(広報の部)(11/1)に1名参加 	100	5				
情報公開		58	教育情報(学校教育法施行規則の事項を含む)が公表されているか。	総務主事 事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 1. 文部科学省令第15号に沿って情報公開が行われているか。 2. 公開状況の点検・整備が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。 	長野高専ホームページ 教育情報	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成30年度の機関別認証評価において、公表内容を審査されている。その後、随時内容を変更している。 2. 公開情報の見直しが行われ、データ更新を行っている。 3. OMSが古いので、年度末のシステム更新を計画し、準備を進めている。 4. 点検の再検討はまだ。 	80	4				

達成率

点検事項

の達成率

自己評価

1

達成率 0~20%

2

達成率 21~40%

3

達成率 41~60%

4

達成率 61~80%

5

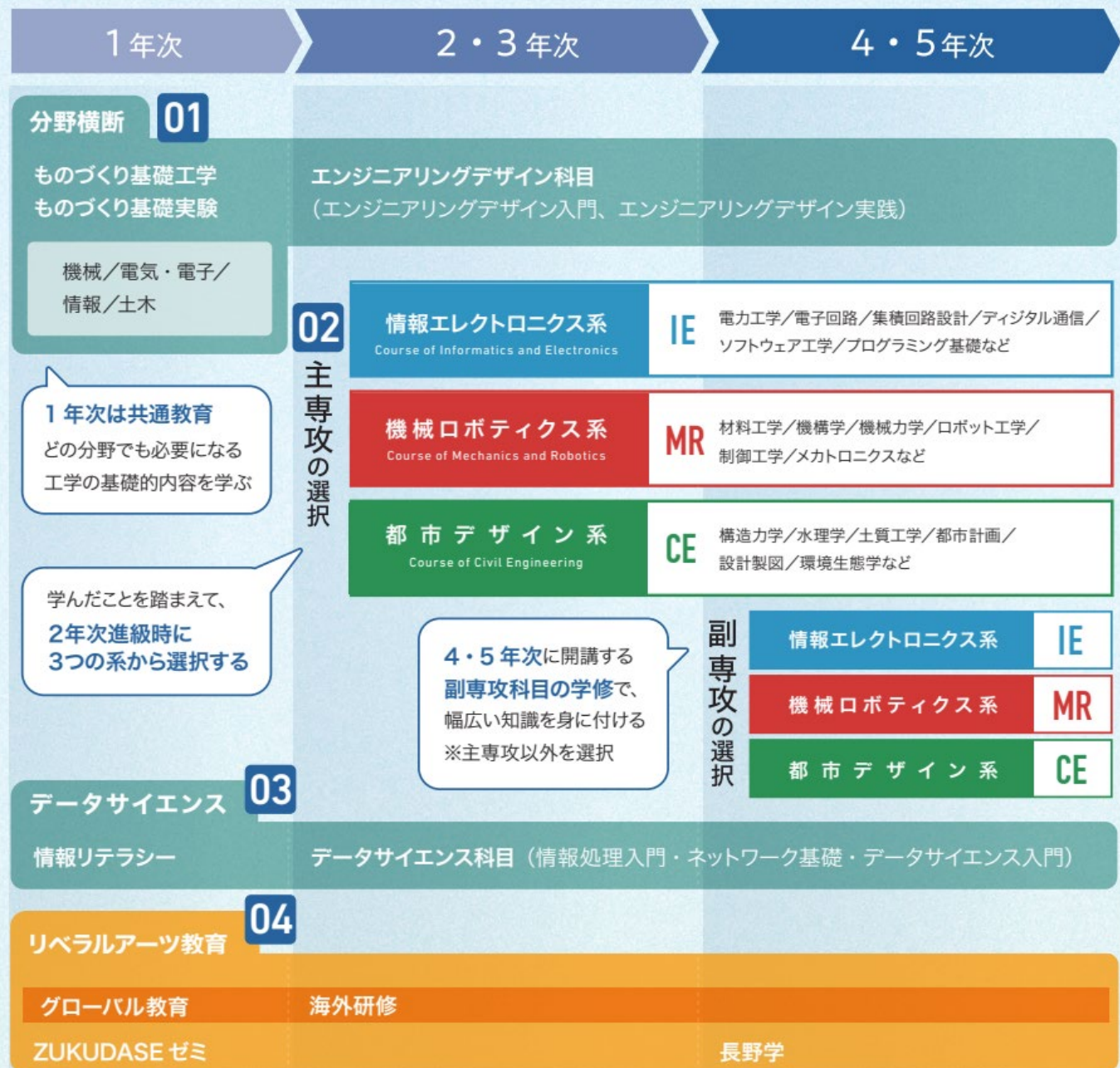
達成率 81~100%

令和5年度参与会

学科改組進捗状況

令和6年1月23日

工学科3系 カリキュラム



主専攻選択状況

1年生が自分の主専攻とする系で学ぶ内容や卒業後の進路に関する情報を得る機会を設定

- 1年生では**ものづくり基礎工学・実験**において各分野の基本的内容を学ぶ。
- 1年生全体に対して、3系の系長による分野の内容に関する**講話**（各20分程度）を受講。
- 1年生と5年生の**交流会**で、卒研究室訪問などにより話を聞く機会を設定。（90分×4コマ）

主専攻選択状況

ものづくり基礎工学・実験ローテーション表

	1組	2組	3組	4組	5組	特活等、授業時間外
1週目	IE1_1	MR1_1	CE_1	IE2_1	MR2_1	ガイダンス
2週目	IE1_2	MR1_2	CE_2	IE2_2	MR2_2	第1回主専攻希望調査
3週目	IE2_1	MR2_1	IE1_1	MR1_1	CE_1	
4週目	IE2_2	MR2_2	IE1_2	MR1_2	CE_2	
5週目	MR1_1	CE_1	IE2_1	MR2_1	IE1_1	
6週目	MR1_2	CE_2	IE2_2	MR2_2	IE1_2	
7週目	MR2_1	IE1_1	MR1_1	CE_1	IE2_1	
8週目	MR2_2	IE1_2	MR1_2	CE_2	IE2_2	
9週目	CE_1	IE2_1	MR2_1	IE1_1	MR1_1	
10週目	CE_2	IE2_2	MR2_2	IE1_2	MR1_2	
11週目	IE1_1	MR1_1	CE_1	IE2_1	MR2_1	第2回主専攻希望調査
12週目	IE1_2	MR1_2	CE_2	IE2_2	MR2_2	
13週目	IE1_3	MR1_3	CE_3	IE2_3	MR2_3	
14週目	IE2_1	MR2_1	IE1_1	MR1_1	CE_1	
15週目	IE2_2	MR2_2	IE1_2	MR1_2	CE_2	
16週目	IE2_3	MR2_3	IE1_3	MR1_3	CE_3	

主専攻選択状況

R4年度

	合格者 説明会	第1回調査	第2回調査	本調査	変更受付	調整後 (確定)
IE系 (80)	78	91	73	75	75	76
MR系 (80)	54	73	79	79	82	85
CE系 (40)	39	43	54	52	49	45
未定・不明	36					
計	207	207	206	206	206	206

3月実施
入学前

5月実施
入学後

8月実施
ものづくり基礎
全分野受講

12月実施
1年・5年
交流会実施

※4名が第2希望に移動

R5年度

	合格者 説明会	第1回調査	第2回調査	本調査	変更受付	調整後
IE系 (80)	76	104	90	74	78	80
MR系 (80)	37	56	68	92	87	85
CE系 (40)	32	44	46	38	39	39
未定・不明	59					
計	204	204	204	204	204	204

3月実施

5月実施

8月実施

12月実施

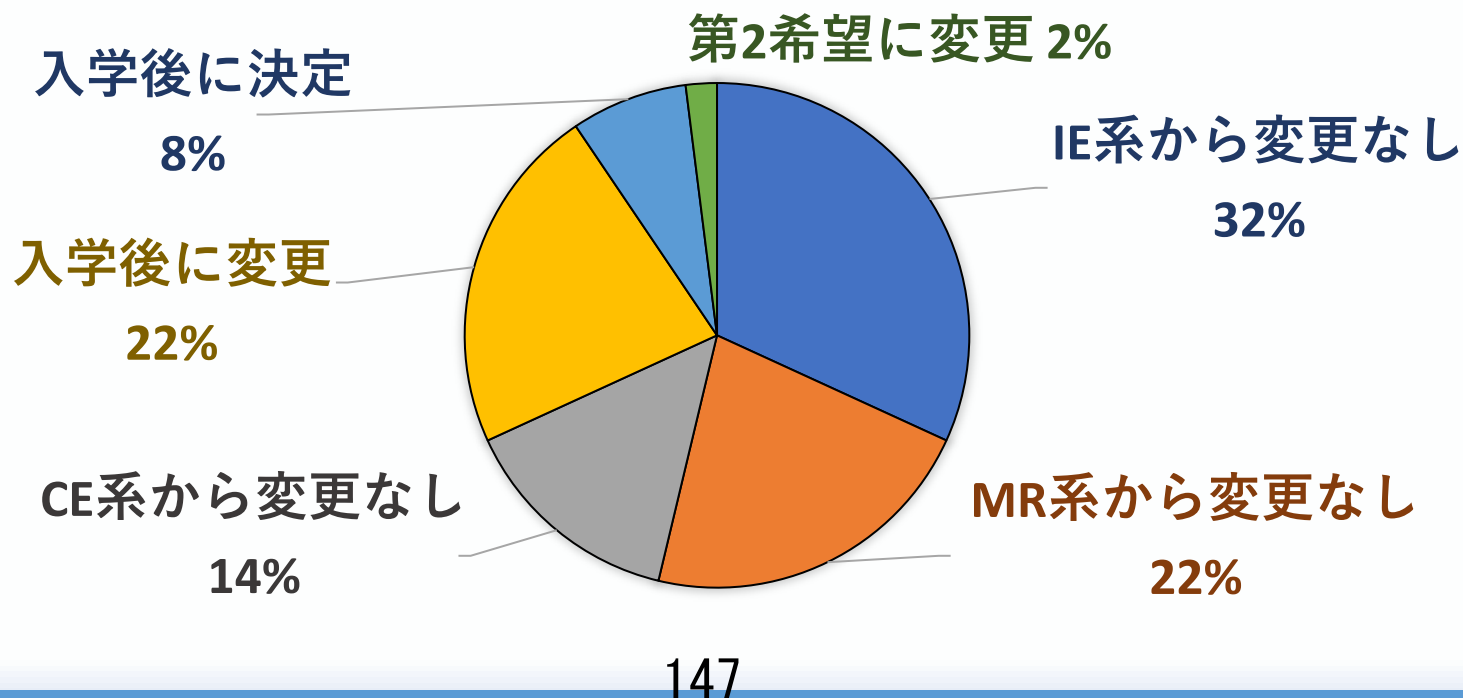
※2名が第2希望に移動

146

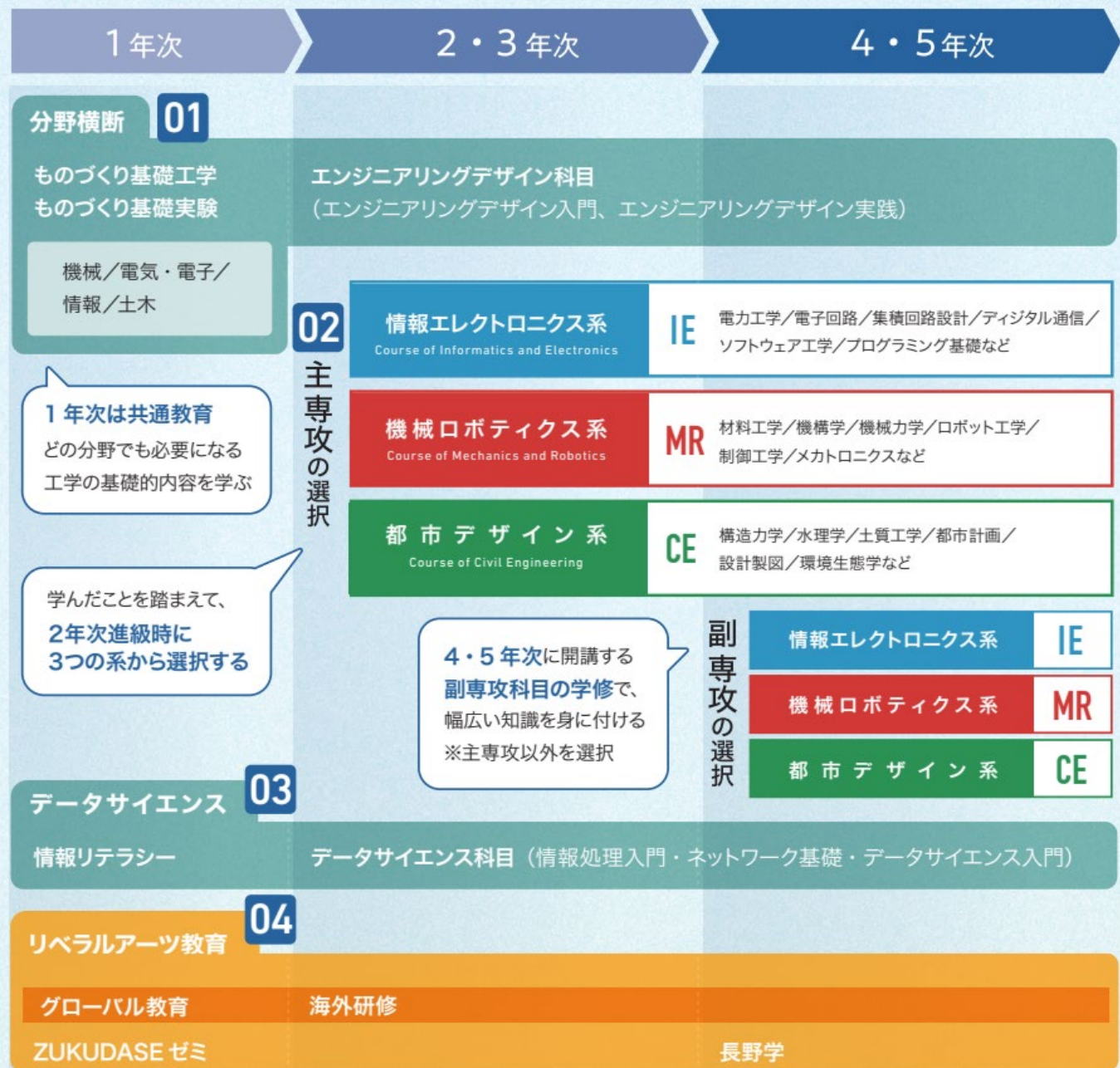
主専攻選択状況

R4年度入学生の最終的な選択への過程 (調査後のアンケート回答数：201)

- ・ 入学時から希望変更なし 137名
- ・ 入学時希望する系が未定 15名
- ・ 入学時の希望の系を変更 45名



工学科3系 カリキュラム



学年進行状況 【1年生】

ZUKUDASEゼミ

少人数のグループで実施する演習科目

学生の興味関心を元に課題を自ら設定し、
調査・研究・発表・討論のプロセスを経て
自発的な学習のためのスキルを身につける

学年進行状況 【1年生】

ZUKUDASEゼミ R5年度のテーマ例

- ビブリオバトルを楽しもう！
- 挫折のしないロックンロールギター
- 言葉をめぐる冒険
- ドローンを飛ばしてみよう
- 数式を図形で考える
- ゲームで数学
- 回る回る回る
- おいしい水について考える
- その常識ホント？実験で確かめよう



学年進行状況 【2年生】

グローバルエンジニア育成プログラム

- ・ネイティブ教員による少人数英会話演習
- ・海外研修（台湾・R5年度全員参加）



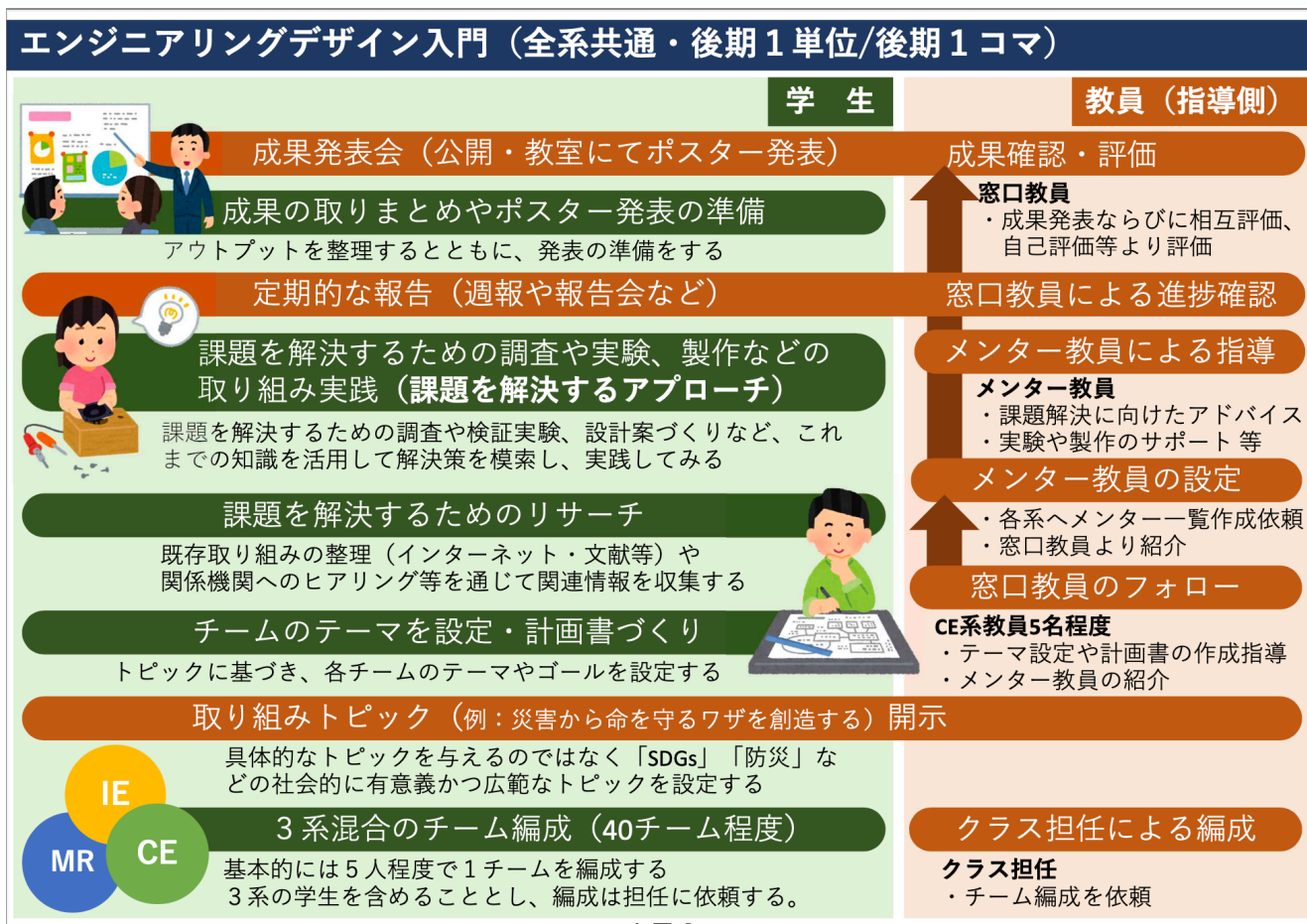
学年進行状況 【2年生】

エンジニアリングデザイン入門

- 4年次の**エンジニアリングデザイン実践**の導入となる授業
- テーマに沿った情報収集、協力、課題解決の作業とそのまとめ方を学ぶ
- 学生達がトピックに沿って「課題」や「不思議に思うこと」を発見し、実施期間内に自らスケジュール管理しながら、課題や不思議を解決するための情報収集と作業をチームで協働して行うプロセスを体験する

学年進行状況【2年生】

エンジニアリングデザイン入門



学年進行状況【2年生】

エンジニアリングデザイン入門

メンター一覧

系	教員名	専門分野	メンター	アドバイザー	アドバイス可能な具体的な内容			
MR	小林 裕介	メカトロニクス, FA	1チーム程度	1回/週程度	かんたんなCAM試作			
MR	花岡 大生	加工, 設計等	IE	力丸 彩奈	機械学習, 画像処理, データ分析	出来る限り対応	出来る限り対応	AIデ 画解
MR	門脇 廉	機械・生体・食品の形と きの分析・評価						
MR	中村 尚誉	機械部品の加工, 生産に する分野	IE	原 貴之	画像処理	1チーム程度	1回/週程度	簡単 フィ
MR	柳澤 憲史	人間工学・界面・摩擦・ 水	IE	富岡 雅弘	ヒューマンインタフェー ス, モーションキャプ チャ, VR	2チーム程度	出来る限り対応	ヒト
MR	相馬 顕子	熱流体	MR	長坂 明彦	機械的性質	1チーム程度	1回/週程度	機械
MR	召田 優子	動作解析, 仮想化	MR	岡田 学	機械要素, 機械計測	1チーム程度	1回/週程度	ねじ
CE	遠藤 典男	コンクリート橋の維持管 について	MR	小野 伸幸	機械・電子回路設計, 機械 加工等	1チーム程度	1回/週程度	機械 作等
CE	大原 涼平	建設材料(特にコンクリ ート)	MR	北山 光也	機械設計	1チーム程度	1回/週程度	強度
MR	宮下 大輔				ものづくり全般	1チーム程度	1回/週程度	3Dブ 加工,

今後の予定

専門科目の選択に関する指導

履修モデルの整備

ポートフォリオの活用

4年次副専攻科目ほか、完成年度
までの科目に関するシラバス作成

令和5年度参与会

JABEE受審報告

令和6年1月23日

JABEE受審沿革

産業システム工学プログラムの構成

学科（準学士課程）4年生、5年生： プログラム 1年生、2年生

専攻科（学士課程）1年生、2年生： プログラム 3年生、4年生

専攻科に入学する時点でプログラム登録

2003年度：JABEEプログラム「産業システム工学プログラム」と決定

2005年度：新規審査受審；JABEEプログラム認定

2007年度：中間審査

2010年度：認定継続審査受審；JABEEプログラム継続認定

2013年度：中間審査受審

2016年度：認定継続審査受審；JABEEプログラム継続認定

2020年度：非JABEEコース 連携教育プログラム（豊橋技科大）設置

2023年度：認定継続審査受審（2022年度分を1年遅れで実施）

有効期間：認定審査から最大6年間

R5年度受審結果

- すべての項目において「S」評価
- 現3年生が専攻科を修了する年度まで認定見込
- **JABEE評価の標語**
 - 「S」：満足（改善を促すコメントを含む）
 - 「W」：弱点
 - 「D」：欠陥

コメント1：基準1.2

・学習・教育到達目標の設定と公開・周知

学内で、「学習・教育目標」を使用しており、自己点検書などのJABEE資料内にも「学習・教育到達目標」との混在があり、JABEE資料としては、後者の文言に統一する改善が望まれる。

対応

「学習・教育到達目標」に統一する
学生便覧等、現在まで「学習・教育目標」と記載しているため、「学習・教育到達目標」に統一する。
対象：専攻科運営委員会、教務委員会、学生支援委員会、教育改善委員会

コメント 2 : 基準2.2, 3.1

・シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習

シラバスの記述フォーマットが定められているなど、シラバスに対して非常に配慮されていることが伺えるが、一部で語句の不統一などが見受けられる。教員がシラバスを作成する時、またその後の学科主任などのエビデンスシート点検時、各時点できめ細かい注意を払う改善が望まれる。

対応

当該科目に関する範囲では語句の扱いを統一する。

対象：専攻科運営委員会、教務委員会、教育改善委員会

コメント 3 : 基準2.2

・シラバスに基づく教育の実施と主体的な学習

学生自身が学習・教育到達目標の達成度を点検・確認して、主体的な学習に取り組む促進に繋がるとの観点で、学生自身の達成度の確認・点検を周知する改善が望まれる。

対応

学生による「学習・教育到達目標」達成度の点検・確認の周知を行う。

対象：専攻科運営委員会、教務委員会、教育改善委員会

改組後の学生について

- 工学科への改組に伴い、現「産業システム工学プログラム」と整合しない。
- 工学科学生については、新規プログラム申請が必要
- 現工学科2年の学生については、実質的修了生となる見込み

令和5年度参与会

自己点検・評価項目の評価手法について

令和6年1月23日

自己点検・評価項目の評価手法について

- 令和4年度参与会における指摘

自己評価の基準が曖昧

PDCAが回っていない

- 評価手法の検討

(1) 実施すべき事項の具体化

(2) 実施効果の改善への取り組み

(3) 実施結果の数値化

これらを含む手法の適用

自己点検・評価項目の評価手法

- 点検項目に対応する「点検事項」の設定
- 四半期でのチェックの実施
- 効果改善に向けた「点検項目・事項」の再検討
- 上記実施率による数値化

懸念事項

- ルーティンワーク、形式的評価に陥らないか

長野高専の教育理念、教育・運営方針、ディプロマポリシー、
カリキュラムポリシー、学習・教育目標

本校の教育理念，教育・運営方針

本校の教育理念および教育・運営方針は次のように設定されています。また，それに沿って定められた目標とする人材像及び各学科の教育上の目的は以下のとおりです。

■教育理念

「優れた技術者は，優れた人間でなければならない。」

■教育・運営方針

1. 本校の教育理念に基づき，豊かな人間性と独創力，創造力を身に付けた実践的技術者を養成する高等教育機関としての教育体制を維持し，科学技術の高度化及び社会問題・グローバル化に対応し得る技術者を育成する。
2. 地域と連携し，地域に密着した学校運営を行う。また，地域から期待され，愛される学生を育成し，社会から要請されている高等教育機関としての使命を果たす。

■目標とする人材像

1. 工学の基礎知識を備え，倫理観を持ち，自ら問題を発見し，技術的知識・技能を駆使して問題を解決していくことができる実践的技術者
2. 幅広い教養を備え，社会，環境等の諸問題に自ら関心を示し，リーダーシップを発揮して積極的に社会に関わっていく人材
3. 文化の多様性を認識し，自ら諸外国との交わりに関心を抱き，国際社会に貢献できる人材

工学科のディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針） （令和4年度1年生）

自ら課題を発見し解決することができるよう主体的に学び、以下に示す能力等を身に付け、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定する。

1. 工学全般にわたる基礎学力，応用力及び一般教養
2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力
3. 社会のグローバル化に対応する能力
4. 様々な人々との協働力

工学科のカリキュラムポリシー（教育課程の編成および実施に関する方針） （令和4年度1年生）

1. 理数系及び人文社会系などのリベラルアーツ科目と，専門共通科目，専門科目，データサイエンス科目，分野横断科目，副専攻科目を授業科目として編成します。
2. 実践的な問題解決型学習，アクティブラーニング，実験・実習，卒業研究などを通じて，課題の発見能力，解決能力及び論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。
3. 異文化を理解し，コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。
4. 地域の文化を理解し，人間力を育成する授業科目を編成します。

上記により設定される各科目における達成度評価は，それぞれのシラバスに基づき，試験，課題等を考慮して，100点満点によって評価します。

5 学科の教育上の目的 (令和4年度2年生から5年生)

学 科 名	教育上の目的
機械工学科	自動車やロボット等の各種機械の開発・設計ができ、それらを作り出すために必要な製造・生産技術を駆使できる能力を身につけ、機械工学を社会との関連の中で捉えながら、技術革新に対応できる実践的・創造的な技術者を養成する。
電気電子工学科	電気及び電子工学の将来の進歩に対応して活躍できるよう、基礎理論をしっかり身につけ、環境との共生に配慮しつつ、電力・電子・情報の各分野を包括して、電気電子システムを統合的に構築できる実践的・創造的な技術者を養成する。
電子制御工学科	各種機械装置の自動化に対応できるメカトロニクス技術者の養成を目的とし、その基盤となる機械、電気・電子、コンピュータや制御に関する基礎的な工学技術や、これらを有機的に結びつけて一つのシステムを構築できる総合力を身につけ、製品開発や設計、生産技術の場で活躍できる実践的・創造的な技術者を養成する。
電子情報工学科	電子工学に関するハードウェア技術及び情報工学に関するソフトウェア技術に加え、コンピュータ科学に関する総合的技術を有し、今日の高度情報社会で必要とされる幅広い技術分野に対応できる実践的・創造的な技術者を養成する。
環境都市工学科	環境にやさしい理想のまちづくりや、かけがえのない生活環境を次世代に引き継ぐことを目指し、自然環境や社会環境に配慮し、かつ安全にして文化的な生活が営まれるような社会基盤の整備に当たる実践的・創造的な技術者を養成する。

5 学科のディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針） （令和4年度2年生から5年生）

目標とする人材像と各学科の教育上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組み、以下に示す能力等を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 工学全般にわたる基礎学力，応用力および人文社会科学の素養
2. エンジニアリングデザインの基盤となる能力
3. グローバル化への対応能力

上記に加え、各学科において身につけるべき能力を以下に示します。

学 科 名	各学科において身につけるべき能力
機械工学科	機械工学に関する設計，製作，計測などものづくりに必要な知識・技術
電気電子工学科	電気電子工学におけるエネルギー変換，エレクトロニクスおよび情報通信に関わる各分野の知識・技術
電子制御工学科	電子制御技術に関する機械工学分野，電気・電子工学分野および制御・情報工学分野の知識・技術
電子情報工学科	電気電子工学，情報工学に関するハードウェア・ソフトウェアの知識・技術
環境都市工学科	環境都市工学（土木工学・建設工学・社会システム工学）に関するまちづくり・社会基盤デザインの知識・技術

本校のカリキュラムポリシー（教育課程の編成および実施に関する方針） （令和4年度2年生から5年生）

ディプロマポリシーを達成するために、以下のカリキュラムポリシーに則り、教育課程を編成します。

1. 理数系基礎科目および人文社会系の教養科目を低学年に、工学系科目を高学年に配置します。
2. 実践的な問題解決型学習，アクティブラーニングによる学習，実験実習，卒業研究などを通じて，課題の発見能力，解決能力および論理的に表現する能力を育成する授業科目を編成します。
3. 異文化を理解し，コミュニケーション力を育成する授業科目を編成します。

上記に加え，各学科のポリシーを以下に示します。

学 科 名	ポリシー
機械工学科	機械工学に関する基礎的な知識・技術が修得できるよう，基礎科目ならびに設計製図，工場実習，工学実験などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。
電気電子工学科	電気電子工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに電気電子工学実験，電気工事士セミナー，電気電子製図などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。
電子制御工学科	機械工学，電気・電子工学及び制御・情報工学に関する基礎的な知識・技術が修得できるよう，基礎科目ならびに工学実験実習などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。
電子情報工学科	電気電子工学及び情報工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに工学実験実習，情報処理演習などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。
環境都市工学科	環境都市工学に関する基礎的な知識・技術を修得できるよう，基礎科目ならびに実験実習，設計製図などの実験，実習及び実技科目をバランス良く編成します。

上記により設定される各科目における達成度評価は，それぞれのシラバスに基づき，試験，課題等を考慮して，科目担当教員が100点満点によって評価します。

「身につける学力・資質・能力（学習・教育目標）」

本校では、教育理念、教育・運営方針等に沿って、以下の身につける学力・資質・能力（学習・教育目標）を定めています。身につける学力・資質・能力（学習・教育目標）は、本校卒業時の目標とすべき人材像に照らして設定したものです。

- (A) 世界の政治、経済、産業や文化を理解し、その中で自分自身が社会に貢献できる役割が何かを討論し、多面的に物事を考え、行動できる素養を持つ。
 - (A-1) 社会科学および人文科学に興味を持ち、関連知識を理解し身につけられる。また、自分自身と他人との関わりや価値観の相違について、理解できる。
 - (A-2) 健全な心身の発達について理解して行動でき、考えを述べることができる。

- (B) 自然環境や社会の問題に関心を持ち、技術者としての役割と責任について考えを述べる素養を持つ。（技術者倫理）
 - (B-1) 自然や社会の問題に関心を持ち、技術が果たしてきた役割を理解し論述できる。
 - (B-2) 環境や社会における課題を理解し論述できる。

- (C) 機械、電気電子、情報または土木の工学分野（以下「基盤となる工学分野」という。）に必要な数学、自然科学の知識を有し、情報技術に関する基礎知識を習得して活用できる。
 - (C-1) 数学、自然科学において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。
 - (C-2) 工学に必要な情報技術に関するリテラシーを身につけ、利用できる。

- (D) 基盤となる工学分野およびその基礎となる科学、技術の知識と技能を習得して必要とされる技術上の問題に活用できる。
 - (D-1) 基盤となる工学分野において、事象を理解するとともに、技術士第一次試験相当の学力を身につける。
 - (D-2) 基盤となる工学分野において、論理展開に必要な基礎問題を解くことができる。
 - (D-3) 基盤となる工学分野以外の工学分野の基礎的な知識を身につける。

- (E) 科学、技術および情報の知識、基盤となる工学分野で習得した知識、さらに技術者としての実践的な知識や技能を活用して、自ら問題を発見し解決する能力を養う。
 - (E-1) 科学、技術、工学に関する情報を収集し、その適否を判断してまとめることができる。
 - (E-2) 習得した知識や技能を課題に対して利用できる。

- (F) 具体的なテーマについて論理的な記述と説明および討論できる能力を身につける。
 - (F-1) 学習成果を文章、図等により表現できる。
 - (F-2) 基盤となる工学分野において、必要な英語の基礎力を身につける。

- (G) 習得した工学分野の知識を基に、課題の達成に向けて自ら問題を発見し、それに対処するための業務を自主的・継続的かつ組織的に遂行する能力を身につける。
 - (G-1) 自己の能力を把握し、その向上のために自主的に学習を遂行できる。
 - (G-2) 実務訓練等を通じて基盤となる工学分野に関連した業務の概要を理解できる。

教育の質保証のための各種点検・改善システムに関する申合せ

令和3年12月6日 第14回執行会議承認

1. 目的・ビジョン

本校の教育の質保証のために、内部質保証システムとして、いくつかの点検・改善システムを構築し、それを実施することにより、教育の改善を図る。

すなわち、目標とする人材像と各学科の人材養成上の目的に即して、自ら問題を見つけ解決することができるよう主体的学習に取り組み、ディプロマ・ポリシーに示す能力等を身に付け卒業・修了できるよう、教育研究等の活動を点検し、改善していくための各種点検・改善システムを構築する。

2. 各種点検・改善システム

- 2-1 自己点検評価項目による点検システム 【別紙1】
- 2-2 年度計画項目による点検システム 【別紙2】
- 2-3 三つの方針の点検・改善システム 【別紙3】
- 2-4 各委員会の重点項目の点検システム 【別紙4】
- 2-5 授業改善システム 【別紙5】
- 2-6 学生への支援体制点検システム 【別紙6】

3. 点検・改善システムの PDCA サイクル

学校全体の質保証のための各種点検・改善システムの PDCA サイクルを示す。

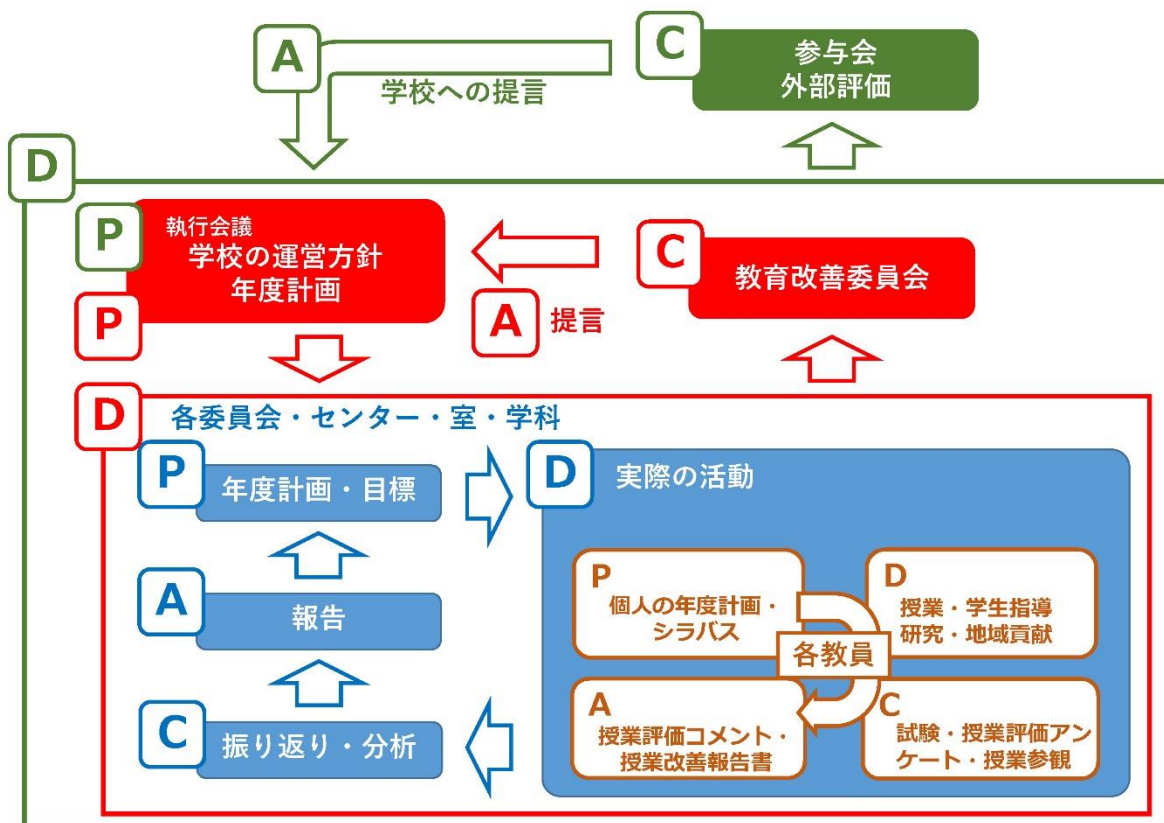


図1 学校全体の質保証のための点検・改善システムの PDCA サイクル

4. タイムスケジュール

各種点検・改善システムの年間のタイムスケジュールを示す。執行会議（総務主事と教育改善委員会）が主となり、このタイムスケジュールで、各種点検・改善システムを進めていく。

表1 各種点検・改善システムのタイムスケジュール

: 執行会議（総務主事） : 教育改善委員会 : 委員会・教員

月	点 検 項 目					
	自己点検 評価項目	年度計画項目	3ポリシー	各委員会	授業改善	学生支援
4	点検項目確認 (見直し)	年度計画策定		重点項目・活 動計画の策定		
5						
6						
7			確認 修正検討			授業評価アン ケート実施
8						
9					点検書作成	
10					提言提示	
11		フォローアッ プ(進捗状況)				授業評価アン ケート実施
12	評価書作成				授業改善 報告書提出	本科:学生との 意見交換会
1						
2	参与会での 点検・評価					専攻科:学生と の意見交換会
3		年度計画報告				学生への 満足度調査
		年度計画点検				点検・提言

2-1 自己点検評価項目による点検システム

1. 目的

機関別認証評価で定められている「教育活動を中心とした学校の総合的な状況について、学校として定期的に学校教育法第109条第1項に規定される自己点検・評価を行い、その結果に基づいて教育の質の改善・向上を図るための教育研究活動の改善を継続的に行う仕組み（以下「内部質保証システム」という。）が整備され、機能していること」を行うために、機関別認証評価項目を参考に自己点検評価項目を設定して、担当者が毎年自己点検評価を実施し、改善に繋げる。また、参与会（外部評価委員会）に評価して頂き、改善を行う。

2. 自己点検評価項目による点検システム

2-1 執行会議で自己点検評価項目の確認と見直しと点検書を策定する。 (Plan)

2-2 各委員会等の活動 (Do)

各委員会等は、各委員会の年度計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 自己点検項目を基に点検・評価・分析 (Check)

各項目の担当者は、点検書に基づき、点検・評価・分析（改善点）を行い、自己点検評価報告書を作成する。また、参与会（外部評価委員会）に提示し評価して頂く。

2-4 改善点の提言 (Act)

執行会議で、自己点検および参与会（外部評価委員会）の点検・評価結果より、評価・提言をまとめる。また、4年に一度自己点検評価報告書を公開する。

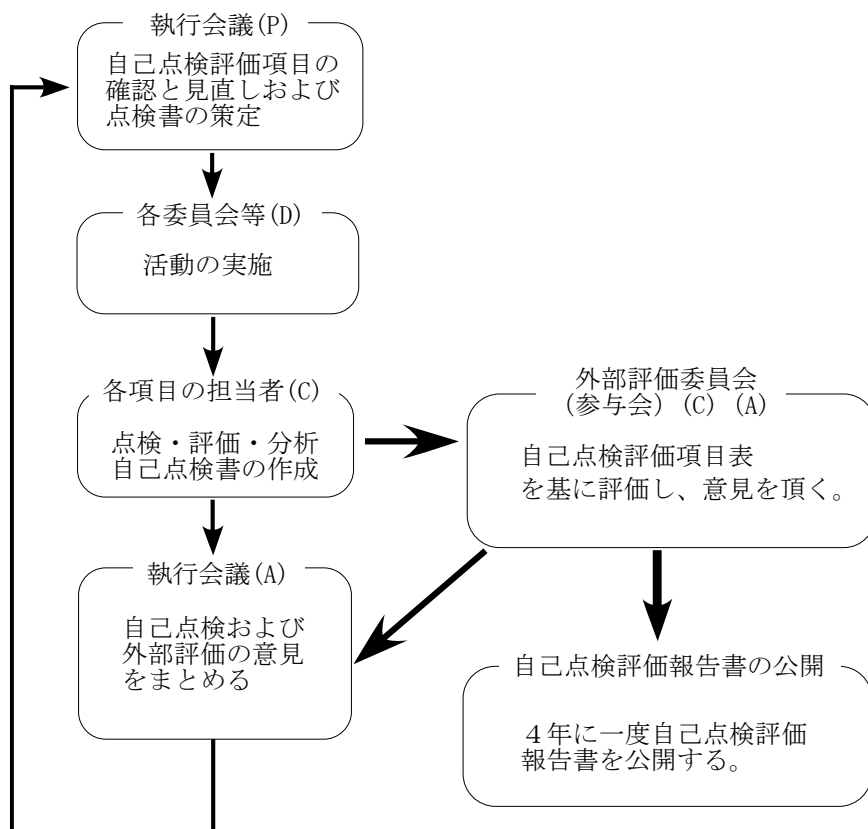


図 2-1 自己点検評価項目による点検システム

3. 自己点検評価項目による点検システムの点検計画

以下のように点検を実施していく。

- 1年目 ・自己点検評価を全項目対して行い，根拠資料も含めて自己点検評価報告書を作成し，参与会で全項目の外部評価を行い公表する。
- 2年目 } ・変更・改善点を修正し，自己点検評価報告書を書き直す。
- 3年目 } ・参与会で全項目の外部評価を行う。

- 4年目(1年目)・自己点検評価を全項目対して行い，根拠資料も含めて自己点検評価報告書を作成し，参与会で全項目の外部評価を行い公表する。

2-2 年度計画項目による点検システム

1. 目的

高専機構に毎年年度計画を提出し，進捗状況と実績報告を高専機構にしている。この活動が適切に行われているか，各部署で自己点検を行い，その結果を教育改善委員会が点検する。

2. 年度計画項目による点検システム

2-1 執行会議が年度計画を策定 (Plan)

各担当部署は，自己点検・評価および教育改善委員会からの点検結果をもとに，年度計画を策定する。

2-2 各担当部署の活動 (Do)

各委員会等は，年度計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各担当部署および教育改善委員会の点検・評価 (Check)

各担当部署は，年度計画の自己点検・評価を行う。教育改善委員会は，その点検・評価をもとに，点検・評価を行う。

2-4 改善の提言 (Act)

各担当部署は，次年度に向けて，改善点をまとめる。教育改善委員会は，各担当部署に点検を提言する。

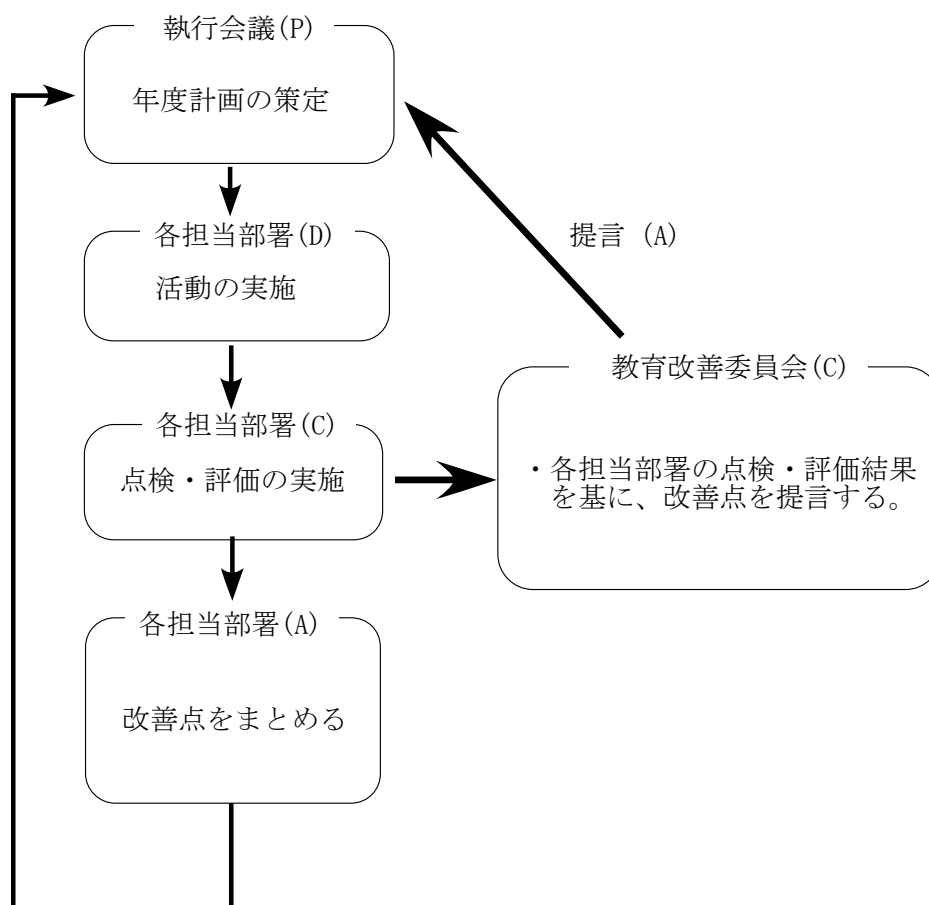


図 2-2 年度計画項目による点検システム

2-3 三つの方針の点検・改善システム

1. 目的

大学改革の一環として、2017（平成29）年4月から、すべての大学・高専に対して、「入学者の受入れに関する方針」（アドミッション・ポリシー）、「教育課程の編成及び実施に関する方針」（カリキュラム・ポリシー）、「卒業の認定に関する方針」（ディプロマ・ポリシー）という「三つの方針」の策定と公開が義務付けられた。策定後、それらの方針が社会の状況等の変化に応じて適宜見直されているかを点検する必要があるため、以下の点検・改善システムを実施する。

2. 三つの方針の点検・改善システム

2-1 執行会議が三つの方針を策定（Plan）

執行会議が、学校の目的を踏まえて3つの方針が整合性を持つように、三つの指針を策定する。

2-2 各担当部署の活動（Do）

三つのポリシーに基づき、各委員会等で入試の実施、教育課程表の確認と見直し、卒業認定の実施などの活動を行う。

2-3 執行会議での点検・評価（Check）

外部評価委員会（参与会）、自己点検評価報告書、卒業生および企業等に対するアンケート調査、学生への支援体制の点検システムなどの各担当部署の評価や提言をもとに、執行会議において、三つのポリシーの点検・評価を行う。

2-4 改善の提言（Act）

執行会議において、改善点をまとめる。

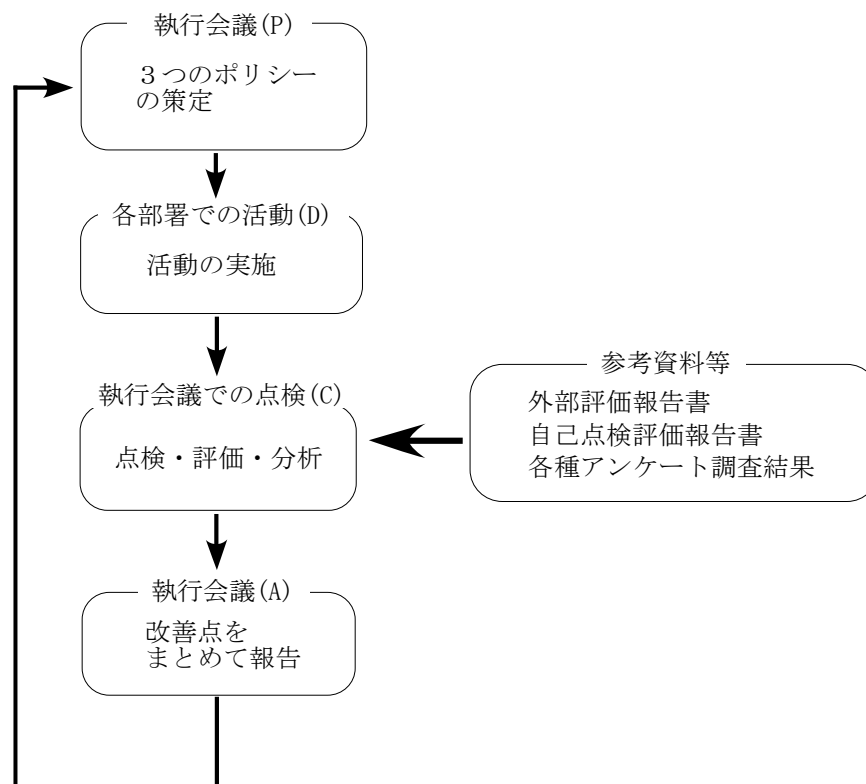


図2-3 三つの方針の点検・改善システム

2-4 各委員会の重点項目の点検システム

1. 概要

各委員会は、重点項目を定め、それに対する活動等計画を立てて、委員会活動を行っている。その活動が実際に適切に行われているか教育改善委員会が点検し、改善点等を提言している。その PDCA サイクルを示す。

2. 各委員会の重点項目の点検システム

2-1 各委員会の重点項目と活動等計画の策定 (Plan)

各委員会は、年度当初にその年度に行う重点項目とその活動等計画を定める。

2-2 各委員会の活動 (Do)

各委員会は、活動等計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各委員会の評価・分析 (Check)

各委員会は、委員会独自の視点から、自己分析を行う。

2-4 各委員会の改善 (Act)

各委員会は、年度末にその年の重点項目に対する取組結果報告を行い、次年度への改善点等を示す。

2-5 各委員会の点検(Check)と提言(Act)

教育改善委員会は、各委員会の点検を行い次年度への提言を行う。

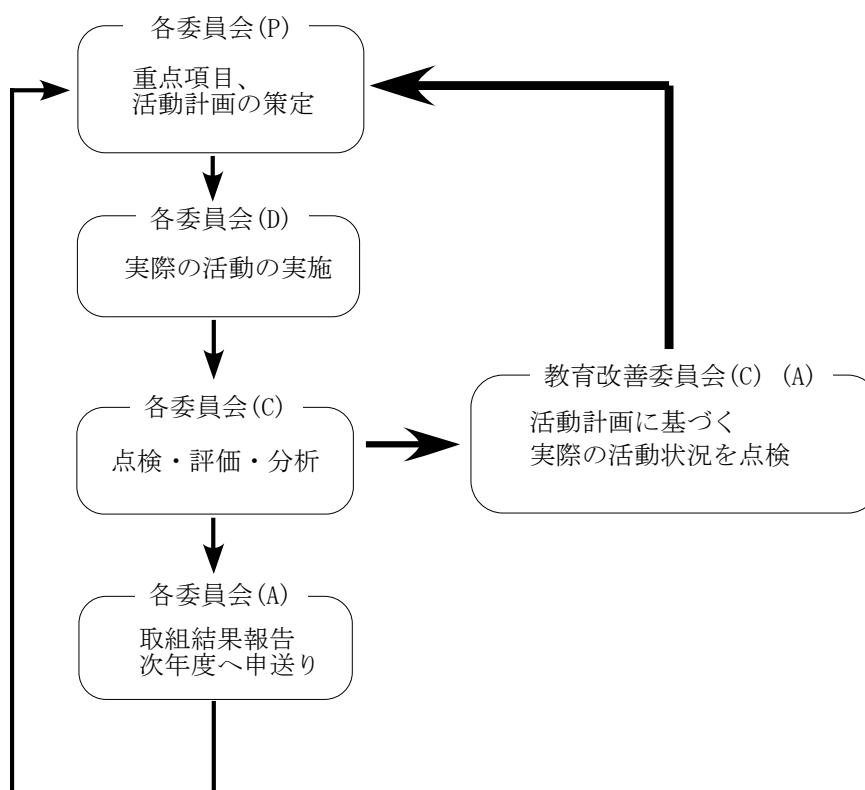


図 2-4 各委員会の点検システム

2-5 授業改善システム

1. 概要

教員は、常により良い授業を目指して努力している。しかし、その教授方法や効果については、独自の評価が多く、客観的に評価される場合は少ない。そこで、各方面(学生、教員、教育改善委員会)より授業に関する意見を調査・分析し、効果的な授業のあり方を検討し、授業改善に役立てる。

教育改善委員会は、各教員が適切な改善を行っているかをチェックし、その結果をチェック・提言シートに記入して、各教員へ授業に関する提言を行う。教員は、これによりPDCAサイクルを作り、授業改善に努めて行く。

2. 改善システム

2-1 教員の授業計画 (Plan)

各教員は、教授内容を決めて、シラバスにその計画を示して、学生に提示する。

2-2 教員の授業実施 (Do)

各教員は、シラバスに基づき授業を行う。

2-3 教員の授業分析 (Check)

各教員は、以下の2つの視点から、各科目の授業分析を行う。

- 1) 学生より、授業評価アンケート、メール目安箱、意見交換会 など
- 2) 教員より、授業公開、科目間連携会議、科会、エビデンス閲覧 など

2-3-1 学生からの評価による分析

・ 授業評価アンケート

各教員は、任意の1科目に対して、年2回の授業アンケート調査を行い、その結果をもとに授業方法等の分析を行う。その結果をコメント(分析と課題)として、教員・学生に公開する。

・ その他

メール目安箱や学生との意見交換会での、科目に対する要望・意見から授業方法等の分析を行う。

2-3-2 教員からの評価による分析

・ 授業公開

前期・後期に1週間ずつ年2回授業公開日が定められており、他の教員が授業参観を行う。そのアンケート結果をもとに授業方法等の分析を行う。

・ その他

科目間連携会議での要望・意見より、教員は授業方法等の分析を行う。

科会による科目への要望・意見より、教員は授業内容・方法等の分析を行う。

エビデンス閲覧(テスト・レポートなどの閲覧)による他の教員からの科目への要望・意見より、授業内容・方法等の分析を行う。

2-4 教員の授業改善 (Act)

各教員は、分析結果をもとに授業改善を行い、シラバスや授業に反映させ、その成果を「授業改善報告書」として提出する。

2-5 改善のチェック(Check)と提言(Act)

教育改善委員会は、①から⑥のチェックを行い、その結果をチェック・提言シートに記入して、各教員へ授業に関する提言を行う。

- ① エビデンスチェックを行う。
教育改善委員会 WG は、年度当初に前年度のエビデンスが、シラバス通りに提出されているかチェックを行い不備がある場合は、各担当教員に提出物確認票を渡し、再提出を求める。
- ② 試験問題レベル保証確認をチェックする。
産業システム工学プログラム科目（JABEE 対象科目）で学習・教育目標が（C-1）あるいは（D-1）を主たる目標としている科目の試験問題等が、技術士一次試験相当のレベル以上であるかを、各教員 1 科目（専攻科科目を優先）申請し、担当者以外の 2 名の教員により評価を行う。
- ③ 学生からの授業アンケートの実施状況をチェックする。（教務委員会に確認する）
- ④ 教員からの授業公開アンケート結果をチェックする。
- ⑤ 教員からの授業アンケートへのコメント状況をチェックする。
（教務委員会に確認する）
- ⑥ 教員より提出された授業改善報告書をチェックする。
- ⑦ チェック結果を、チェック・提言シートへ記入し、各担当教員へ授業に関する提言を行う。

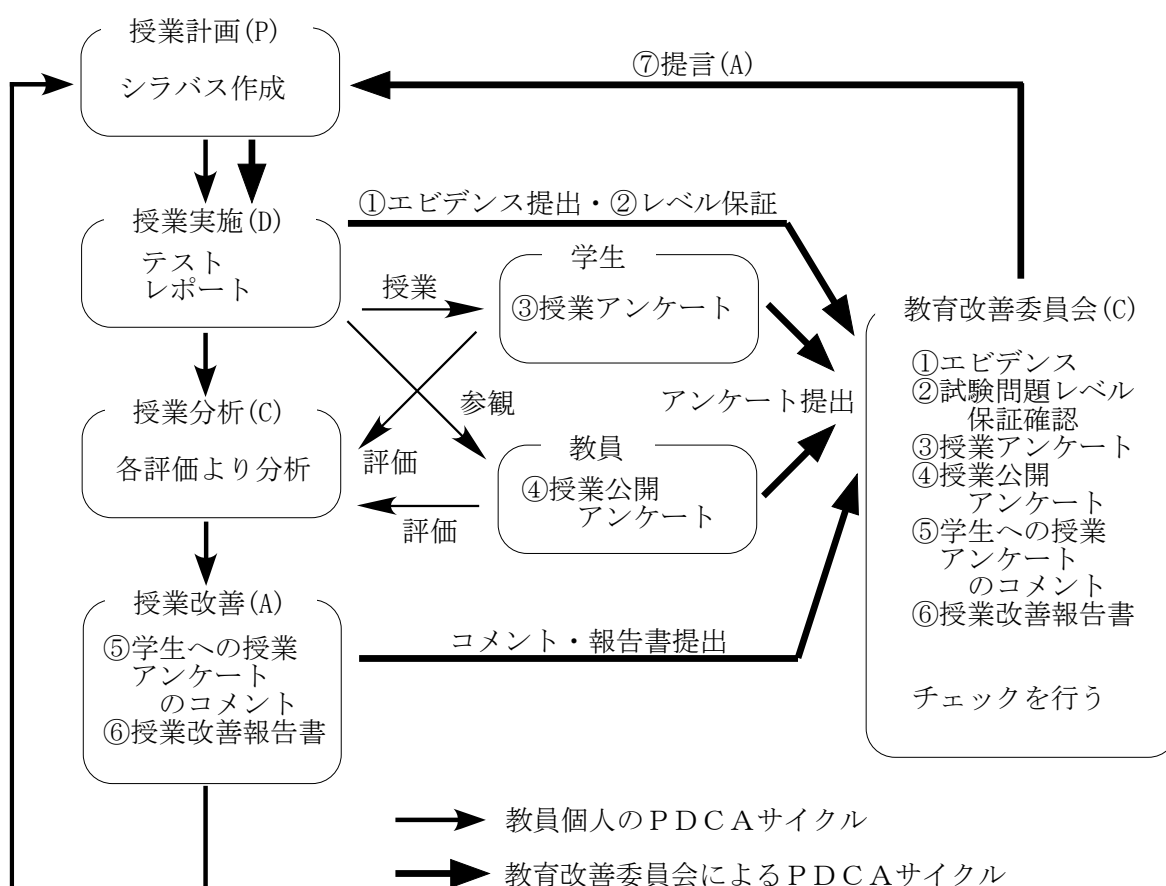


図 2-5 授業改善システム

2-6 学生への支援体制の点検システム

1. 目的

教育を実施する上での履修指導，学生の自主的学習の相談・助言等の学習支援体制や学生の生活や経済面並びに就職等に関する指導・相談・助言等を行う体制，また，学生の課外活動に対する支援体制等が，整備され機能していることが必要である。

このため，学生との意見交換会，授業評価アンケート，学習教育目標達成度自己評価，学生への満足度調査を行い学生の意見・要望を聞いて，学生への支援体制を点検し，改善していく。

2. 支援体制の点検システム

2-1 各委員会による学生への支援体制計画の策定 (Plan)

各委員会は，年度当初にその年度に学生への支援として行うことをまとめ支援活動等計画を定め，教育改善委員会に提出する。

2-2 各委員会の活動 (Do)

各委員会は，学生への支援活動等計画に基づき実際の活動を実施する。

2-3 各委員会の評価・分析 (Check)

各委員会および教育改善委員会は，学生との意見交換会，授業評価アンケート，学習教育目標達成度自己評価，学生への満足度調査を行い学生の意見・要望を聞き，学生の満足度を把握する。

2-4 各委員会の改善 (Act)

教育改善委員会は，学生の満足度の点検を行い，各委員会へ提言を行う。

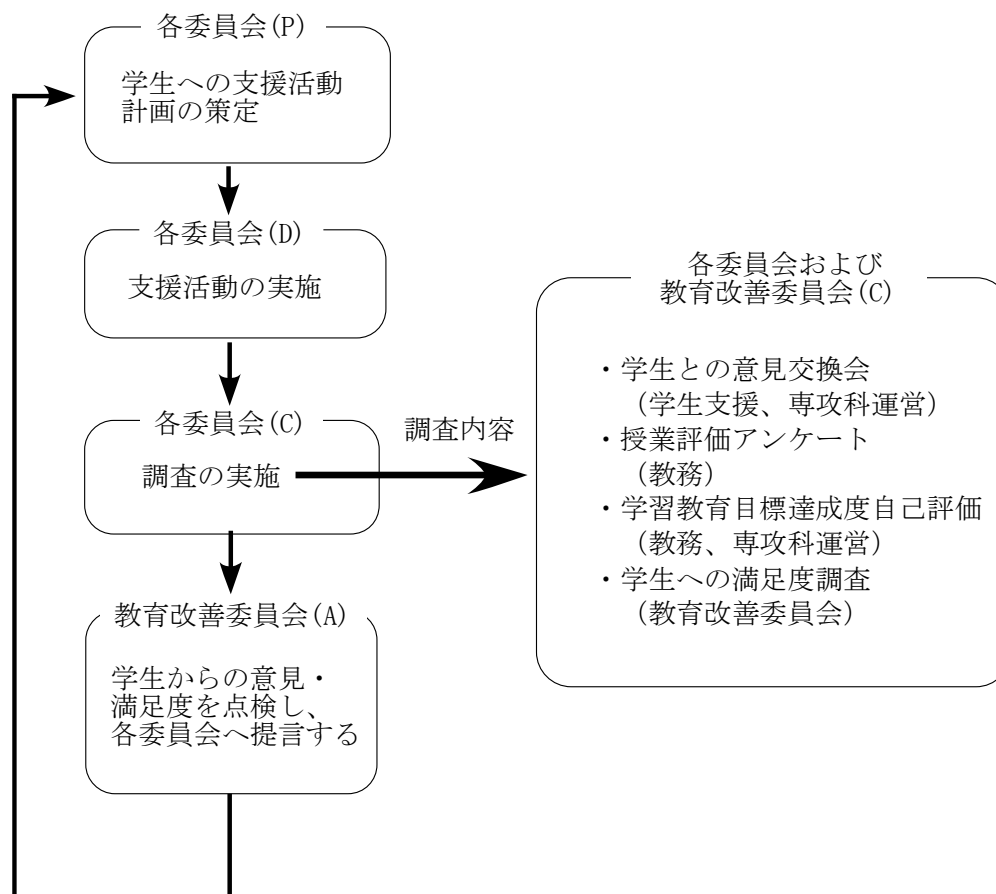


図2-6 学生への支援体制点検システム

第 21 回 参与会 配付資料 (2025 年 1 月 29 日)

- ・ 長野工業高等専門学校 参与会 設置要項 (添付省略)
- ・ 第 21 回 長野工業高等専門学校 参与会 次第
- ・ 第 21 回 長野工業高等専門学校 参与会 出席者名簿 (添付省略)
- ・ 第 21 回 長野工業高等専門学校 参与会 座席表 (添付省略)
- ・ 資料No. 1 新系設置構想
- ・ 資料No. 2 自己点検・評価 (専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果)
- ・ 資料No. 3 自己点検・評価 (研究活動の状況)
- ・ 資料No. 4 自己点検・評価 (全体)
- ・ 資料No. 5 卒業生・企業アンケート
- ・ 資料No. 6 長野高専オープンラボ
- ・ 資料No. 7 高速信号伝送評価センター
- ・ 資料No. 8 ソーシャルイノベーション・サポートセンター
- ・ 資料No. 9 いじめ防止対策への取り組み
- ・ 冊子
 - 学校要覧 2024 年版 (添付省略)
 - GUIDE BOOK 2025 (添付省略)
 - 学園だより 192 号 (添付省略)

第 21 回長野工業高等専門学校参与会

《次 第》

日 時 令和 7 年 1 月 2 9 日 (水) 10:00～12:00

会 場 長野工業高等専門学校 第 1 会議室

次 第

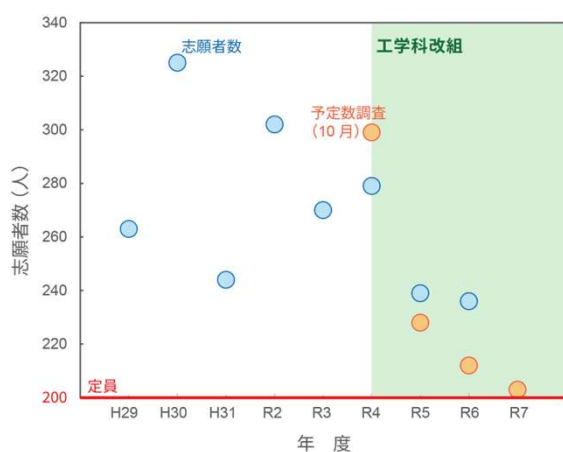
1. 開会
2. 会長・副会長紹介
3. 自己紹介 (各参与・長野高専出席者)
4. 校長あいさつ
5. 配付資料確認
6. 議事
 - 1) 新系設置構想
 - 2) 自己点検・評価項目
 - 3) 本校での取り組み
 - 4) いじめ対策について
 - 5) 質疑応答・意見交換
7. 閉会

新系設置構想

参与会資料

1

入学生確保における 長野高専の現状と課題



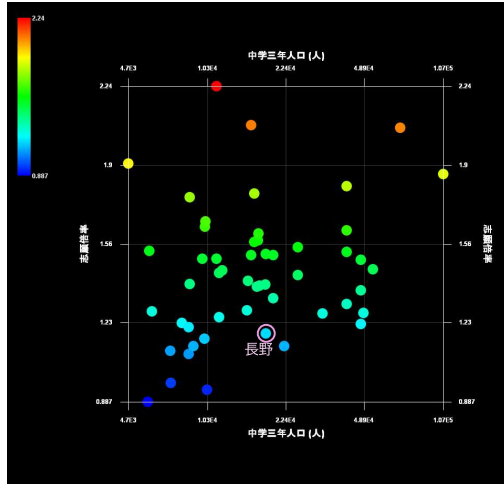
- 工学科改組後にさらなる下落
- 令和7年度は志願予定数調査で定員に迫る

- ◆ 中学三年生人口の減少
- ◆ 入学後に希望する系へ進めない可能性を心配する声も

状況の打開に一刻の猶予も許されない状況

2

志願倍率へつながるファクターの検証



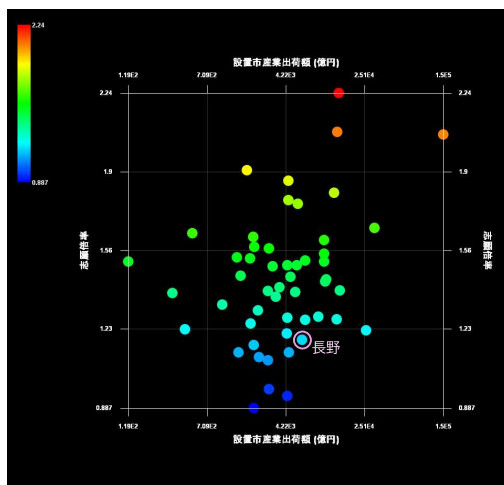
※横軸はボリュームゾーンの団子化を軽減するため対数プロット

中学三年生人口との関連

わずかに正の相関が見られる
(相関係数0.254)

3

志願倍率へつながるファクターの検証



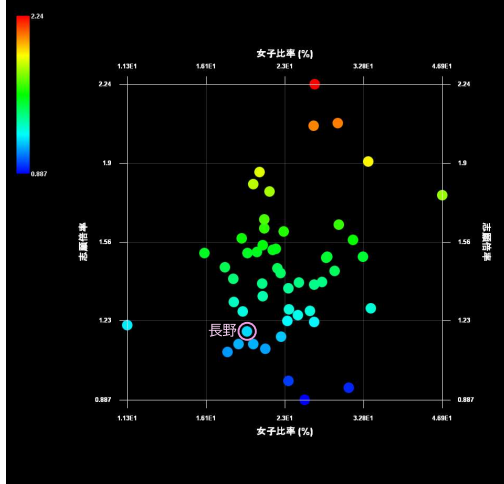
※横軸はボリュームゾーンの団子化を軽減するため対数プロット

設置市町村の産業出荷額との
関連

弱いながらも調べた中では
もっとも正の相関が窺える
(相関係数0.362)。
長野市はまずまずの順位に位
置しながらも、同格の高専と
比してもっとも志願倍率が低
い。

4

志願倍率へつながるファクターの検証



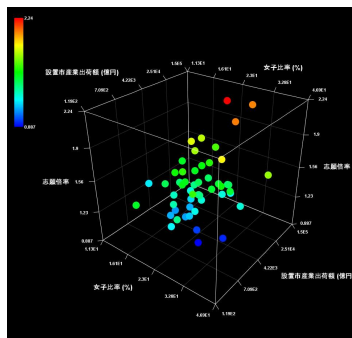
※横軸はボリュームゾーンの団子化を軽減するため対数プロット

女子比率との関連

女子比率が高いながらも定員割れしている学校もあるが、志願倍率を上伸ばすチャンスは女子比率の高い側に窺える（相関係数0.223）。

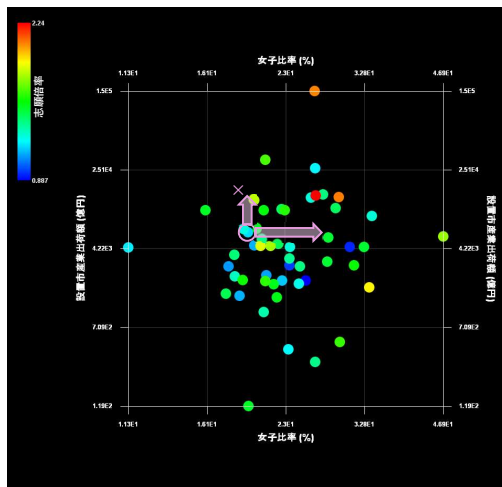
5

志願倍率へつながるファクターの検証



女子比率(x)ー産業出荷額(y)ー志願倍率(z)プロットの3D-viewとtop-view。カラーグラデーションの中間色（緑色）が志願倍率1.56倍。

これらの要素の中で本校が上昇に乗せられるファクターは「女子の比率」しかない



※x, y軸ともボリュームゾーンの団子化を軽減するため対数プロット

6

女子の比率が高い学科(系, コース)

- **物質・化学・バイオ系** 32校(キャンパス)で36学科(系, コース)設置。女子比率平均45%。学科(系, コース)名の例:応用化学/環境生命/生物応用/材料システム/物質化学/化学・バイオ/マテリアル・バイオ/マテリアル環境/化学・生物・環境
- **建築系** 19校(キャンパス)で19学科(系・コース)設置。女子比率平均43%。学科(系, コース)名の例:建設システム/建築デザイン/建築社会デザイン/建設環境/環境都市・建築デザイン/土木・建築/環境・建築
- ※ **ビジネス系** 3校(キャンパス)で3学科設置。女子比率平均75%。
学科名:ビジネスコミュニケーション/経営情報/国際ビジネス

7

新分野, 女子が多い系に対するニーズ(入口側)

- 白衣を着て実験できる学科にあこがれる。(4年生女子, 5年生女子)
- 食品, 化粧品会社へ就職できる学科があれば入りたかった。(4年生女子)
- 建築を本気で勉強したかったら長野高専ではなく長野工業高校に進んだ方が良いという話が伝わっている。(5年生女子)
- 女子が多い学科・系があったら断然その系を希望していた。女子の少なさで進学候補から外した友人もいる。(4年生女子)
- 制服がなかったら高専を選んでいなかったかも。(米子高専女子)

等々。建築へのニーズも聞かれる中, 化学系へのあこがれが圧倒的に多く聞かれる(※至急アンケートをして固めたいところ)。また女の子として学校生活を楽しめる要素もニーズとして強い。

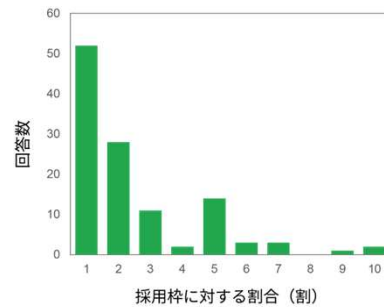
8

新分野の系に対するニーズ(出口側)

技術振興会会員企業へアンケートを実施
(166社回答)

物質・材料・化学系の専門知識を持つ本科
卒業生の採用ニーズ・・・有リ:70%

- ➡ 専門性の深さのイメージ・・・本科卒業
レベル71.5%, 専攻科卒業レベル25.9%,
大学院卒業レベル2.6%
- ➡ 採用枠に対する採用の割合・・・平均
2.5割(内訳右図)



9

新分野の系に対するニーズ(出口側)

県内企業がイメージしている業務内容(回答抜粋)

環境負荷物質調査 / 鑄造の溶湯管理, 鑄造条件の研究, 鑄造品の試作 / アスコンや生コン等の建設材料の配合 / 食品品質管理 / 車載部品関係のコア開発における磁性体材料, 成型部品の材料選定 / 半導体製造用モールド金型の開発設計 / 金属加工の生産技術 / 材料開発や品質管理(試験・分析) / レンズプレス, レンズ加工, 洗浄, メッキ等の化学知識 / 工事監督支援業務, 積算技術業務 / プラスチック成形加工 / 金型設計, 金型加工, 生産技術 / 化学物質管理責任者 / ITエンジニア / ユーザー様への素材材料等の提案 / 導電ペースト製造のための研究開発 / コンクリートの調査(物理探査)の分析 / 超音波振動子の材料研究 / 新素材対応 / コンクリート二次製品もしくは生コン関連 / ナノインプリント等を用いた樹脂の性能評価 / 環境分析(土壌, 水質等の分析) / 食品製造設備の開発部門 / 理化学分析機器の営業販売部門・サービスサポート部門 / タンパク質合成部門 / 施工管理職 / 品質保証とISO管理 / 化学物質責任者 / 公害防止管理者等

10

新分野の系に対するニーズ(出口側)

県内企業を支援しているコンサルティング会社からのコメント

- 長野県内に該当職種の企業は極めて少なく、学生の選択の幅が狭くなることは必定。
- 物質・材料・化学系で欲しいのは専門性を持った大学院卒で、それ以外の分野において技術者の汎用性が高いのでは。



視点を県外・全国区へも広げる

八戸高専・2019～2023年度本科就職先(県外)

(化学・材料)旭化成(6)／大日精化工業(4)／三洋化成工業(3)／星光PMC(2)／DIC(2)／東洋インキSCHD／富士フィルム和光純薬工業／日本色材工業研究所／花王／日東電工／NAT／関東化学／日本触媒／石福金属興業／日本ゼオン／東レ／日本たばこ／三菱ガス／東芝DMS／三菱マテリアル／フードテクノエンジニアリング／浜松ホトニクス (エネルギー) ENEOS(2)／出光興産(2)／東亜石油／日本原子力発電／東京ガス (食品) サントリーHD(2)／雪印メグミルク／森永乳業／キリンビバレッジ／マルハニチロ (製薬・分析) 第一三共プロファーマ(4)／東京都下水道サービス(3)／三井化学分析センター(2)／第一三共バイオテック(2)／アステラス／中外製薬／シオノギファーマ／第一三共ケミカルファーマ

11

必要となる準備

45人規模の学生実験室



八戸高専 講義棟に1室、マテリアル・バイオコース棟に3室あり

- ドラフトチャンバー
- 収納棚付実験机
- 薬品収納棚
- 水道・ガス配管
- 定温乾燥機

バイオの実験をするなら

- クリーンベンチ
- 試料冷凍庫
- 培養器 など

一般科棟の化学実験室も借りながら、最初は1室の作成から(2室で運用) 例：低学年の化学実験を集中講義化して時間割を空ける(米子高専)

12

必要となる準備



富山高専本郷キャンパス

オープンキャンパスへの対応も想定したレイアウト（演示用の実験機とプロジェクタ・引き出し型スクリーンを設置）

13

必要となる準備



長野高専一般科棟2階 化学実験室

（一案）

一般科棟の化学実験室も借りながら、まずは新系棟に1室を作成し、合計2室で運用

低学年の化学実験（実験室を使う单元のみ）を集中講義化して時間割を空けるという実例も紹介いただいた（米子高専）

14

必要となる準備



八戸高専

卒研スペース

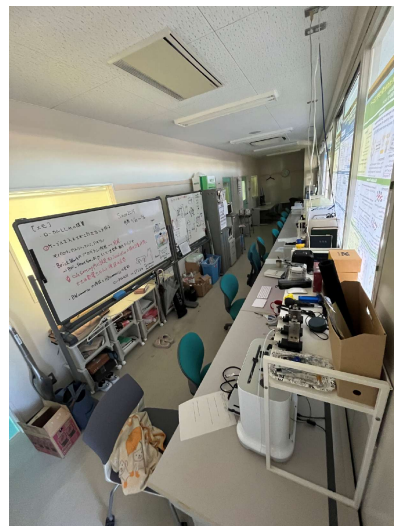
- ドラフトチャンバー
- 収納棚付実験机
- 薬品収納棚
- 水道・ガス配管
- 定温乾燥機

はできる限り標準で備え、あとは各教員が必要に応じて揃える

15



八戸高専 写真左側に卒研生スペース



富山高専本郷キャンパス 3研究室合同スペース

学生の居住区は実験スペースと切り離すのが原則
→部屋数の関係から実際はなかなか難しい

16

必要となる準備



八戸高専 テクノセンターを共有分析装置の設置拠点としている

分析機器, 実験設備 (青色は
現有)

- クロマトグラフ (液体, 気体)
- NMR (核磁気共鳴) 装置
- 試料冷凍庫, 恒温庫
- クリーンベンチ
- 分光器・FTIR
- 電子顕微鏡, XRD, など
- 純水製造装置

→ 研究室で設備を囲わず, 共有体制を構築

→ 暫くは特別経費, マスタープランなどの競争的資金は新系構築に注力

17

必要となる準備 カリキュラム

モデルコアカリキュラム(MCC)

※青色は【V-E 化学・生物系分野】と共通している

【V-B 材料系分野】 1材料物性(金属の構造/原子の構造と周期律/固体の構造/量子力学の基礎/半導体) 2材料組織(格子欠陥/物質の状態と平衡条件/一成分系状態図/二成分系状態図/変形と強度/拡散/回復と再結晶/相変態) 3物理化学(第一法則/第二法則/相平衡と化学平衡) 4力学(応力とひずみ/引張・圧縮・せん断応力/曲げ/ねじり) 5環境(公害・環境汚染/地球環境問題/エネルギー資源問題/廃棄物処理技術) 6金属材料(鉄と鋼/炭素鋼の熱処理/合金鋼/鋳鉄/銅及び合金/アルミニウム及び合金/チタン及び合金/金属材料各論) 7無機材料(原子の構造/原子の電子配列と周期律/化学結合と分子の構造/結晶構造と格子/酸化還元反応/無機物質/無機材料各論/反応熱/反応速度論) 8有機材料(有機化学の定義/有機化合物の構造と結合/炭化水素/立体化学/官能基による分類と各化合物の特性, 反応/高分子化学序論/高分子合成/高分子材料各論) 9設計・加工(製図/鋳造/溶接/塑性加工/)

18

必要となる準備 カリキュラム

モデルコアカリキュラム(MCC)

※青色は【V-B 材料系分野】と共通している

【V-E 化学・生物系分野】 1有機化学(有機化学の定義/有機化合物の構造と結合/立体化学/有機化合物の分類と各化合物の特性, 反応/高分子化学序論/高分子合成) 2無機化学(原子の電子配列と周期律/原子核構造と放射能/化学結合と分子の構造/固体の構造/錯体の構造/無機物質) 3分析化学(定性分析/化学平衡/化学分析/光分析法/その他の分析法/機器分析) 4物理化学(気体の性質/混合物の性質/熱力学/化学平衡/反応速度/量子化学) 5化学工学(物質収支/熱の移動/液体と気体の流れ/物質の分離と精製)

ここからバイオ分野。現状で対応できる教員がいない。 6生物化学(糖/脂質/タンパク質/核酸と遺伝情報の発現/酵素/生体エネルギーと代謝) 7生物工学(細胞と生体の恒常性/微生物の増殖と培養/微生物や動植物細胞等の利用/遺伝子工学)

19

必要となる準備 カリキュラム

各高専のMCC対応の情勢 (36学科/コース)

■ 化学・生物系 27

■ 材料系 鈴鹿高専材料工学科, 新居浜高専環境材料工学科の2つのみ。ただし両校とも化学・生物系の別学科をもつ。

■ 複合融合 ※2系で1学科分のMCCを満たすよう構成。カリキュラムを占めている順に列記。3つ目以上の系はMCC充足条件外。

□ 化学・生物系+材料系 沖縄高専生物資源工学科

□ 化学・生物系+電気・電子系 仙台高専総合工学科マテリアル環境コース/有明高専創造工学科応用化学コース/同・環境生命コース

□ 材料系+機械系 久留米高専材料システム工学科

□ 化学・生物系+機械系(+材料系+電気・電子系) 久留米高専生物応用化学科

□ 化学・生物系+材料系(+機械系+電気・電子系) 高知高専ソーシャルデザイン工学科新素材・生命コース

20

どの方向へ、どこまで目指すのか

ハードルの高さは

バイオ > 化学・高分子材料 > 無機材料(金属, 半導体, セラミック, 炭素, 等)

MCCも, 材料系と生物・化学系の「複合融合系」とすれば, バイオ系単元(V-Eの6, 7)を回避できる。

しかしながら, **バイオの導入は重要**

- 高専黎明期は「工業化学科」を設置している高専が多かった。しかし女子学生が集まらず, 平成初期にバイオ分野を取り込んだ改組により, 女子学生が一挙に増えた, という過去を持っている(八戸高専, 米子高専, 鈴鹿高専, など)。
- 「ニーズに向き合わず, 自分たちの都合に合わせておこなう改革は絶対に失敗する」(富山高専 入試広報センター長 河合孝恵教授からの警告)。

本校がカバーしている無機材料研究を, これからの産業界の動向に合わせて進化させていくとともに, 女子学生が望むバイオ分野も組み入れた系が, 目指す形のひとつであろうと提案する。 新系名の一案:「**新素材・バイオ系**」。

21

必要となる準備 教員体制の構築(一案)

- バイオ系, 化学系の授業を担当できる教員を1名, できれば2名を採用
- リベラルアーツ教育院に所属の化学教員から1名を新系へ移動
- 低学年化学の授業を複数クラス合同化(最大5クラス同時。米子高専で実施)
※長野高専は他校よりも多人数授業をする教室の数に恵まれている。
- それでも担当を充てられない授業では非常勤講師での充足も検討
- 残りはひとまず本校現所属の無機材料・環境材料研究の教員で固める
- 低学年の基礎的化学の科目は, 見ながら教えられるレベルの教科書を選定し, 現所属の化学系外の教員も担当する

- このような体制で初期をしのぎ, 徐々に有機化学系の教員の割合を増やしていく

22

令和6年度参加会

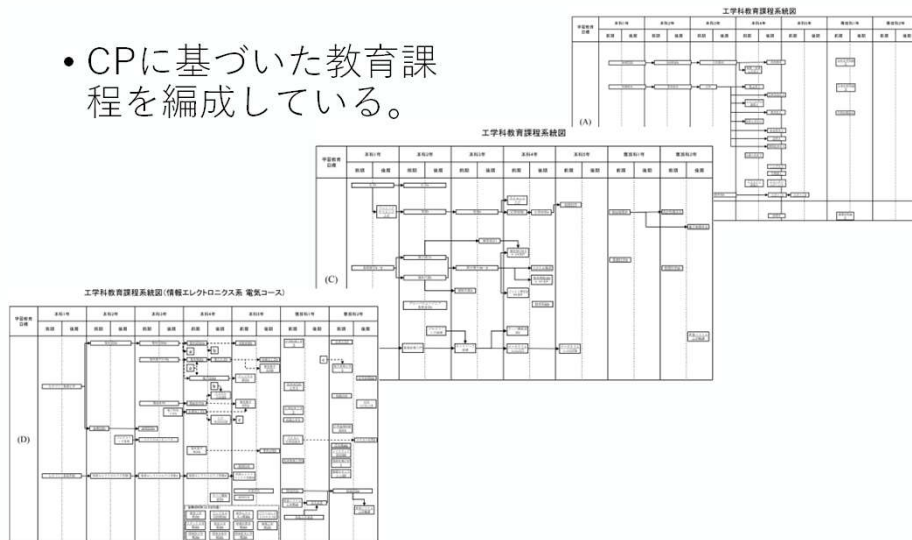
令和7年1月29日

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 28
カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。
- 点検事項
 - (1) CPに基づき教育課程を編成しているか。
 - (2) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 28： 達成率 100%、評価 5

- CPに基づいた教育課程を編成している。



出典：工学科教育課程系統図（一部抜粋）

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

• 点検項目 29

教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。

• 点検事項

- (1) 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。
- (2) 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。
- (3) 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。
- (4) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 29： 達成率 100%、評価 5

- 適切な科目が配置されている。
- 教授内容はシラバスに適切に記載されている。
- 点検は専攻科運営委員会において行われている。

令和6年度 第5回専攻科運営委員会

日 時 令和6年3月24日(金) 16:15～
会 場 専攻科第2講義室

議題	
1. 博士学士の関係について	資料No.1
2. 専攻科博士学芸・教育到達目標の関係について	資料No.2
3. 学芸・教育到達目標と認定科目の関係について	資料No.3
4. 令和6年度学外実習について	資料No.4
5. その他	
報告事項	
1. 専攻科学芸部の組織状況について	資料No.5
2. 懇話会について	資料No.6
3. 履修計画書の確認について(資料なし)	
4. 履修計画の合格者について(資料なし) AP専攻は名、AE専攻は名合格 → 5月から入学願状書が提出された。	
5. その他	

資料委員会 4月7日(金) 16:15～専攻科第2講義室

出典：令和6年第5回専攻科運営委員会

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 30
教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。
- 点検事項
 - (1) 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。
 - (2) 修了認定の基準を周知しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 30： 達成率 100%、評価 5

- 成績評価等について Web シラバスにて周知している。
- 修了認定についてはガイダンス、学士の説明会などで周知している。

ルーブリック	期待される到達レベルの記述	標準的な到達レベルの記述	到達したレベルの記述
評価基準	授業計画に基づいて授業の理解が深まっていることを確認できる。	授業計画に基づいて授業の理解が深まっていることを確認できる。	授業計画に基づいて授業の理解が深まっていることを確認できる。
公開範囲	公開範囲の理解が深まっていることを確認できる。	公開範囲の理解が深まっていることを確認できる。	公開範囲の理解が深まっていることを確認できる。
評価方法	評価方法の理解が深まっていることを確認できる。	評価方法の理解が深まっていることを確認できる。	評価方法の理解が深まっていることを確認できる。

出典：Webシラバス（抜粋）

85年度 学位授与申請案内 P90

10 電気電子工学	工学
<ul style="list-style-type: none"> • 修了一本取得科目と履修科目の異動（申請可） 	
<p>【本専攻（工学部）】（4単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○電気電子工学の基礎となる科目（4単位以上） ○電気電子工学に関する科目 ○電気電子工学に関する科目 ○電気電子工学に関する科目 ○電気電子工学に関する科目 ○電気電子工学に関する科目 	
<p>【申請（交換）科目】（1単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工学部の関連となる科目 ○工学部の関連となる科目 	
<p>【申請（交換）科目】（1単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工学部の関連となる科目 ○工学部の関連となる科目 	
<p>【申請（交換）科目】（1単位以上）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工学部の関連となる科目 ○工学部の関連となる科目 	

出典：学士取得説明会資料

5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 31

カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。
- 点検事項
 - (1) CPに沿って、シラバスを適切に作成しているか。
 - (2) シラバスを活用しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 3 1 : 達成率 80%、評価 4

- CPに沿った教育課程が編成されているが、研究指導に適切に活用されているかについては評価方法検討している。
- 講義系科目についてはアンケートにてシラバスの活用を調査している。

長野工業高等専門学校	開講年度	令和06年度(2024年度)	授業科目	特別研究II																
科目基礎情報																				
科目番号	2032	科目区分	専門Iの部																	
科目名称	授業・実習	履修の単位と単位数	2単位/16																	
開講科目	総合基礎システム教育	対象学年	専攻																	
開講期	1期	開講回数	4																	
教科書・教材	講義																			
担当教員	佐藤 義典																			
授業目標	<p>これほど専門I上内容を特別研究Iで学ぶことで、より深い理解が得られる。授業目標の達成および授業「プレゼンテーション」を行うことにより、知識の定着を図る。また、特別研究Iの経験により、より深い理解が得られることとなる。</p>																			
ルーブリック	<p>学習目的達成のための評価</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習目的</th> <th>評価項目</th> <th>評価基準</th> <th>評価方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 授業内容の理解</td> <td>1.1 授業内容の理解</td> <td>1.1.1 授業内容の理解</td> <td>授業内容の理解</td> </tr> <tr> <td>2. 授業内容の活用</td> <td>2.1 授業内容の活用</td> <td>2.1.1 授業内容の活用</td> <td>授業内容の活用</td> </tr> <tr> <td>3. 授業内容の発表</td> <td>3.1 授業内容の発表</td> <td>3.1.1 授業内容の発表</td> <td>授業内容の発表</td> </tr> </tbody> </table>				学習目的	評価項目	評価基準	評価方法	1. 授業内容の理解	1.1 授業内容の理解	1.1.1 授業内容の理解	授業内容の理解	2. 授業内容の活用	2.1 授業内容の活用	2.1.1 授業内容の活用	授業内容の活用	3. 授業内容の発表	3.1 授業内容の発表	3.1.1 授業内容の発表	授業内容の発表
学習目的	評価項目	評価基準	評価方法																	
1. 授業内容の理解	1.1 授業内容の理解	1.1.1 授業内容の理解	授業内容の理解																	
2. 授業内容の活用	2.1 授業内容の活用	2.1.1 授業内容の活用	授業内容の活用																	
3. 授業内容の発表	3.1 授業内容の発表	3.1.1 授業内容の発表	授業内容の発表																	
授業の方法	<p>講義・実習・グループワーク・発表・ディスカッション・個別指導・自主学習・課題研究・特別研究I・特別研究II</p>																			
授業の進め方・方法	<p>授業の進め方・方法は、授業内容の理解・活用・発表・ディスカッション・個別指導・自主学習・課題研究・特別研究I・特別研究II</p>																			
注釈	<p>授業内容の理解・活用・発表・ディスカッション・個別指導・自主学習・課題研究・特別研究I・特別研究II</p>																			

出典：特別研究IIシラバス（抜粋）

C(2) 積極的に授業の内容を理解しようと努めましたか					
得点	①強くそう思う	②そう思う	③普通	④あまり思わない	⑤思わない
4.2	1.0	20.0	4.0	80.0	0.0
C(3) 授業の自分に必要かどうかを考慮することができましたか					
得点	①強くそう思う	②そう思う	③普通	④あまり思わない	⑤思わない
4.2	1.0	20.0	4.0	80.0	0.0
C(4) この授業の学習を進めるにあたって、シラバスを参考にしましたか					
得点	①強くそう思う	②そう思う	③普通	④あまり思わない	⑤思わない
3.6	0.0	0.0	3.0	60.0	2.0
C(5) シラバスにある成績評価方法を理解していますか					
得点	①強くそう思う	②そう思う	③普通	④あまり思わない	⑤思わない
3.6	0.0	0.0	4.0	80.0	0.0

出典：授業評価アンケート（抜粋）

5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 3 2
成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。
- 点検事項
 - (1) 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。
 - (2) 修了認定の基準を周知しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 3 2 : 達成率 100、評価 5

- 成績評価等について Webシラバスにて周知している。
- 修了認定についてはガイダンス、学士の説明会などで周知している。

ルーブリック	授業計画・授業シラバスの記載	授業計画・授業シラバスの記載	評価シラバスの記載
情報リテラシーに関する理解	情報リテラシーの重要性を理解し、そのリテラシーの重要性を理解できる	コンピュータ上の情報について適切な理解ができる	コンピュータ上の情報について適切な理解ができる
公開情報方式の理解	公開情報方式の仕組みを理解し、そのリテラシーの重要性を理解できる	公開情報方式の仕組みについて適切な理解ができる	公開情報方式の仕組みについて適切な理解ができる
共有情報方式の理解	共有情報方式の仕組みを理解し、そのリテラシーの重要性を理解できる	共有情報方式の仕組みについて適切な理解ができる	共有情報方式の仕組みについて適切な理解ができる
学部の教育目標項目との関係			
教育方法等	授業の目的・概要・目標・評価方法・授業計画・授業シラバスに記載する。特に評価方法は、履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。		
授業の進め方・方法	履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。		
評価方法	履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。		
評価	履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。		
履修の履修・履修上の区分	履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。		
履修計画・履修シラバス	履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。履修計画・履修シラバスに記載する。		

出典：Webシラバス（抜粋）

(4) 履修に関する注意事項

- 1年生は余裕をみて2年間で64単位以上となる計画を立ててください。また、1年前期に認めらるような計画を立ててください。無計画な計画により、特別研究の進捗が遅れ、2年生の修士申請時に研究の見通しがつかなくなるおそれがあります。
- 2年生は修了要件の単位を満たせるか確認をお願いします。
- TOEIC など外部資格による英語特許・Bの単位認定を希望する学生は、原則として履修開始前に単位認定の申請をしてください。履修開始前に申請できない学生は、必ず授業に出席して履修を進めてください。
- 履修を取りやめる場合には、必ず学生課で履修取り消しの手続きを行ってください。手続きせずに履修を取りやめると「不可」の記録が残ります（GPAを計算する際に不利になります）。

17

出典：専攻科ガイダンス資料（抜粋）

5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 3 3
成績評価は適切に行われているか。
- 点検事項
 - (1) 成績評価を適切に行っているか。
 - (2) 成績評価方法を確認しているか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目34： 達成率 60%、評価 3

- 執行会議・教員会議において、全学生の単位修得について確認し、進級・卒業判定が行われている。
- 上記会議において、認定基準を確認している。

会議後回収

氏名 _____

令和6年度 専攻科修了判定資料(案)

令和6年2月15日
第12回教員会議
配布資料No. 1

登録番号	学籍番号	氏名	専攻	本科	専攻科修了判定	学位授与機構学位修得	「産業以て工学」学位修得	備考
1			「生産機械システム工学科」					
2			「生産機械システム工学科」					
3			「生産機械システム工学科」					
4			「生産機械システム工学科」					
5			「生産機械システム工学科」					
6			「生産機械システム工学科」					
7			「生産機械システム工学科」					
8			「生産機械システム工学科」					
9			「生産機械システム工学科」					
10			「生産機械システム工学科」					
11			「生産機械システム工学科」					
12			「生産機械システム工学科」					
13			「生産機械システム工学科」					
14			「生産機械システム工学科」					
1			「生産機械システム工学科」					
2			「生産機械システム工学科」					
3			「生産機械システム工学科」					
4			「生産機械システム工学科」					
5			「生産機械システム工学科」					
6			「生産機械システム工学科」					
7			「生産機械システム工学科」					
8			「生産機械システム工学科」					

出典：第12回教員会議資料

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目35
ディプロマ・ポリシー（DP）に沿った学習・教育の成果が認められるか。
- 点検事項
 - (1) 学業成績からDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。
 - (2) グローバル化への対応成果が認められるか。
 - (3) 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 35 : 達成率 80%、評価 4

- 各学生の単位修得状況から学習の成果を確認している。
- グローバル化への対応として英語プレゼンを実施する。

出典：第12回教員会議資料

専攻科 特別研究日 英語プレゼン要項
2024.09.27 専攻科運営委員会
今年度の専攻科特別研究日発表会 (R7.1.29) は本科の卒業研究発表会と合同で行うことから、学生の英語でのスピーチ時間を設けることとした。

1. 発表時間
英語スピーチ 5分、日本語発表 10~12分、合計 15分の持ち時間(質疑 5分とする一人当たりの持ち時間は20分とする。

2. 事前準備
① 英語での研究概要：A4版1ページを用意すること
・フォーマットは、IEEEのA4版 Word ファイルを利用
(<https://www.ieee.org/conferences/publishing/templates.html>)
・英語科の先生のチェックは行わず指導教員が責任を持って確認すること。
② 発表用の英語スライド3~5枚程度
③ 英語での発表用スピーチ原稿 (任意)

出典：英語プレゼン要項

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目 36
修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。
- 点検事項
 - (1) 修了時のアンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。
 - (2) 修了生アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。
 - (3) 企業アンケートからDPに沿った学習・教育の成果が認められるか。
 - (4) 点検事項の確認・検討をしているか。

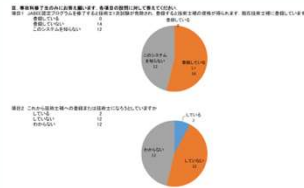
点検項目36： 達成率 80%、評価 4

- 卒業時の学習・教育目標の到達度自己評価を行い、成果を確認している。
- 修了生へのアンケート調査

ループシフト制による卒業・修業目標の達成度評価結果表 学生数199 記入済

学習・教育目標	達成率	達成率	達成率
A 卒業時に「卒業論文」を提出し、その内容を十分に理解している。	9.1	81.8	9.1
B 卒業時に「卒業論文」を提出し、その内容を十分に理解している。	40.9	50.0	9.1
C 卒業時に「卒業論文」を提出し、その内容を十分に理解している。	31.8	59.1	9.1
D 卒業時に「卒業論文」を提出し、その内容を十分に理解している。	50.0	45.5	4.5
E 卒業時に「卒業論文」を提出し、その内容を十分に理解している。	18.2	77.3	4.5
F 卒業時に「卒業論文」を提出し、その内容を十分に理解している。	42.9	47.6	9.5
G 卒業時に「卒業論文」を提出し、その内容を十分に理解している。	50.0	40.9	9.1

出典：令和5年度専攻科修了生アンケート



出典：修了生アンケート集計結果（抜粋）

5. 専攻科課程の 教育課程・教育方法・学習成果

- 点検項目37
修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。
- 点検事項
 - 修了時の学士の取得状況から学習・教育の成果が認められるか。
 - 修了後の進路状況から学習・教育の成果が認められるか。
 - 点検事項の確認・検討をしているか。

点検項目 37 : 達成率 20%、評価 2

- 学位の取得状況については、3月。
- 進路状況から成果を確認している。

The image shows a screenshot of a progress status table. The table has multiple columns and rows, with some cells highlighted in yellow. The columns likely represent different stages or metrics of progress, and the rows represent different categories or departments. The table is titled '進路状況' (Progress Status) and is dated '令和6年10月20日現在' (As of October 20, 2024).

出典：進路状況（令和6年10月20日現在）

令和6年度参加会

令和7年1月29日

1

7.研究活動の状況

点検項目44.

研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

点検事項

1. 研究活動に関する基本方針が定められているか。
2. 研究推進委員会が設置されているか。
3. 研究倫理委員会が設置されているか。
4. 点検事項を再検討しているか。

2

点検項目44：達成率100%、評価5

研究活動に関する基本方針が定められており、研究推進委員会及び、研究倫理委員会が設置され、支援体制をおこなっている。

■研究活動方針

「本校の研究活動に関する基本方針」校長裁定より抜粋

本校における研究活動は、教員によって本校創立以来継続され、教育の質を保证する上での重要な手段となっている。あわせて、重要な知的情報の発生源でもあり、また、研究活動を通して地域に貢献することへの期待が大きい。そこで、上記のような社会的背景あるいは本校研究活動の活性化の状態を受けて、研究の主たる目的を以下のように明確化するものとする。

- (1) 地域と連携し、かつ地域と密着した研究活動を行う。
- (2) 産学官金の共同研究を推進する。
- (3) 研究活動を本校の教育の向上に反映させる。
- (4) 国際的、および学際的な研究を推進する。
- (5) 社会の安寧と人類の幸福、平和に資する研究を推進する。

■研究活動の点検

研究推進委員会にて、議論・確認をおこなっている。

外部資金科研費獲得目標と状況を把握し、対策としてオープンラボを設置。

研究活動と地域連携を加速する目的で「長野高専オープンラボ」（企業から持ち込まれた課題を解決するための研究室研究連携）を設置しました。

(2024年10月1日から開始、開所式10月29日)

3

外部資金科研費獲得目標と状況

■目標設定

「5/15に開催された第1回研究推進・産学連携本部会議」にて設定

1) 科研費獲得目標 全種目平均17%以上。全種目での採択数330件以上。(各高専6.5件以上)
基盤B以上の新たな採択件数15件以上。(各高専1件以上)

2) 外部資金獲得目標 高専機構全体で2.5億円増加(各高専500万円増加)

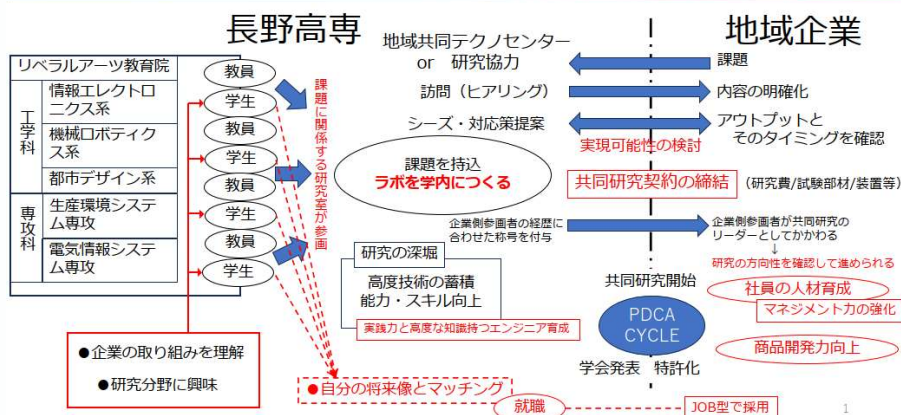
■状況(科研費採択数14件(基盤B:3件含む) 200%達成 外部資金:69,478千円89.9%達成)
科研費及び外部資金合計の獲得状況としては、合算では517万円の増加

■外部資金受入状況													
名称	令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)		
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	
共同研究	18	14,040	23	18,827	15	13,325	16	19,585	32	25,979	15	25,656	
委託研究	1	614	5	2,775	5	3,127	6	4,091	5	3,440	6	4,260	
受託事業・補助金他	2	650	5	2,900	13	16,797	5	3,104	5	3,332	4	2,501	
寄附金(長野高専基金を含む)	58	49,721	133	43,511	134	24,521	131	43,322	252	39,514	113	37,061	
合計	79	65,025	166	68,013	167	57,770	158	70,102	294	72,265	138	69,478	
■科学研究費補助金交付決定状況													
研究種目	令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)		
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	
挑戦的研究(萌芽)	1	624	2	1040	0	0	0	0	0	0	1	780	
基盤研究(A)	0	0	0	0	1	1,300	0	0	0	0	0	0	
基盤研究(B)	4	1,278	3	988	2	585	4	1,365	2	195	3	13,260	
基盤研究(C)	5	12,968	7	17,485	7	17,268	10	20,696	8	15,444	10	19,851	
若手研究	2	8,450	1	2,730	1	4,810	2	8,970	3	10,292	0	0	
奨励研究	2	990	2	830	0	0	0	0	0	0	0	0	
研究活動スタート支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
学術図書	0	0	0	0	0	0	1	1,800	0	0	0	0	
厚生労働科学研究費補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	14	24,310	15	23,073	11	23,963	17	32,831	13	25,931	14	33,891	

※2024年11月末まで

4

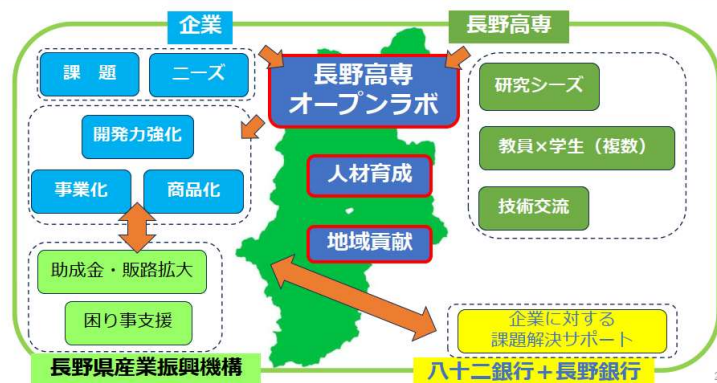
長野高専オープンラボ



企業から持ち込まれた課題について関連分野を研究する教員（2名以上）や学生が共同研究に取り組み、研究活動の活性化と学生の実践力を高める。
・共同研究費700万円/企業拠出、期間2年間（希望により延長可）

長野高専オープンラボ

[産]企業×[学]長野高専×[金]八十二銀行+長野銀行×[公]長野県産業振興機構



長野高専オープンラボは、進捗のステージに応じた様々な支援体制が受けられる枠組みの中で活動しています。

長野高専オープンラボ

アピックヤマダ 未来技術研究室



スタートチーム
富岡研究室、姜研究室、田中研究室

山洋電気 パワエレ未来研究室



スタートチーム
中島研究室、田中研究室

相談窓口：地域共同テクノセンター特命教授
(オープンラボ推進担当) 浅沼 和志
e-mail : asacoordi@nagano-nct.ac.jp
TEL : 026-295-7106

7

7.研究活動の状況

点検項目45.

研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。

点検事項

1. 研究業績一覧を発行し、研究状況の確認を行っているか。
2. 学生による学会発表件数、学生が関与する共同研究の実施状況などを確認しているか。
3. 点検事項を再検討しているか。

8

点検項目45：達成率80%、評価4

教育研究報告（旧紀要）、シーズ集を発行することで、研究成果の公開をおこなっている。地域連携を促進するため、産業展などでの配布をおこなう技術相談や共同研究へ繋げている。

■ 研究業績一覧を発行

- ・ 教育研究報告（旧紀要）、シーズ集の発行を実施している。
（シーズ集は、全教員を対象として実施）
- ・ 産業展示会での配布
配布した産業展示会：しんきんビジネスフェア、佐久メッセ、上田産業展、長野産業展
諏訪圏工業メッセ、など
- ・ 創業支援センター会議、地域雇用促進会議などでも配布

■ 共同研究申請

- ・ 研究推進委員会にて、都度、確認と課題がないか確認をしている。

■ 点検事項

- ・ 研究推進委員会にて状況確認を行うと同時に、第2ブロック研究推進会議や、研究推進担当者会議などの内容を展開を検討中。

9

7.研究活動の状況

点検項目46.

研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。

点検事項

1. 研究推進委員会にて研究活動推進に関する事項を検討しているか。
2. 点検事項を再検討しているか。

10

点検項目46：達成率80%、評価5

研究推進委員会により、研究活動の状況把握をおこなうと共に課題や支援内容の検討を行っている。更に、第2ブロック研究推進会議、研究推進者担当責任者会議からの情報収集をおこない、展開をしている。

研究プロジェクトの申請、科研費申請、研究力強化プログラムの対象者などについて、研究推進委員会で状況把握をおこない、実施方法を議論し進めている。

資料4 自己点検・評価 (全体)

令和6年度 自己点検・評価表

第21回参与会 R7.1.29

承認日: 令和6年12月26日

確認欄

平均 文章

大項目	小項目	番号	点検項目	担当	点検事項	掲載資料	文章 現状	数値		文章		平均		R5年度 外部の意見
								達成率%	自己評価	改善点	小項目評価	大項目評価	文章	
1. 教育の 内部質保証	自己点検 評価	1	自己点検・評価を実施するための方針、体制が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されており、改善を測る指標になっているか。また、自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。	総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> 自己点検・評価の事項は改善を測る指標になっているか。 点検・評価の数値基準を定めているか。 点検・評価を四半期ごとに実施しているか。 四半期ごとに点検・評価手法を再検討しているか。 	学校ホームページ: 評価 R6年度第2回運営会議議事概要: 報告事項6 第1期自己点検依頼メール(5/30校内メール) 第3回執行会議議事概要 第6回執行会議議事概要 第9回執行会議議事概要	R5年度自己点検評価表はホームページに公開 R6年度自己点検評価項目を運営会議にて確認 第1期 6/21 第3回執行会議にて自己点検状況を確認 第2期 9/26 第6回執行会議にて自己点検状況を確認 第3期 12/26 第9回執行会議にて自己点検状況を確認	75	4					前年の実績に対して、今年のこの評価の項目が、どうアップしているかとか、ダウンしているかとか、何ができているか、何がまだできていないか、この辺がもう少し分かりやすくなると思います。 それと、評価制度に対するスタンスです。項目のこれやりましたというのは実行にすぎない。実行したことによって学生の支援にどのようにつながっているのかとか、どのような効果が出たのかとか、学生からどういった反応があったのかという評価の進捗といいますか、このようなことを念頭に置いてやられることが大事かと思います。
		2	学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が、教育の質の改善・向上に繋がっているか。	総務主事	<ol style="list-style-type: none"> 学校構成員の意見聴取の規則を定めているか。 意見検討の仕組みが定められているか。 実施の効果について検討しているか。 点検・評価手法を再検討しているか。 	長野工業高等専門学校校長面談実施要項 長野工業高等専門学校職員面談実施に係る取扱いについて 参与会設置要項 R6年度校長面談日程調整依頼メール(5/1校内メール) 事務部面談等進行中	校長による教員面談実施(5/13-6/4) 参与会実施予定(1/29) 改善につながっているかの評価手続きが不明瞭	50	3					
	3つのポリシー	3	進学士課程、専攻科課程それぞれについて、卒業(修了)の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の入りに関する方針(アドミッション・ポリシー)が定められており、社会の状況等の変化に応じて見直されているか。	教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> DPを定めているか。 CPを定めているか。 APを定めているか。 3ポリシーの見直しの必要性について検討しているか。 	学校ホームページ R6第2回教務委員会議事概要 第3回執行会議議事概要 第8回執行会議議事概要	3ポリシーについて、見直しの必要性を含めて確認し、文言等の修正案を執行会議で確認した。 第3回執行会議において3ポリシーの修正を実施した。 本科CPについてさらに見直しの必要があり、教務委員会において検討のうえ、CPの修正を含む3ポリシーの見直しを行った(第8回執行会議承認)。	100	5					
2. 組織及び教員・教育支援者	学校組織	4	教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され、機能しているか。	事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 定期的な各種委員会が開催されているか。 運営体制が機能しているか適時点検・確認しているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 組織図 内部組織規則 校務分掌一覧 執行会議・運営会議資料 令和5年度教育改善報告書 	<ol style="list-style-type: none"> 前年度末の執行会議・運営会議において、次年度の学校運営体制の見直しを行った。 毎月の執行会議・運営会議で各種会議・委員会からの報告がなされ、運営体制が機能していることを確認している。また、年度途中であっても、執行会議において必要であれば運営体制を見直しを行う体制としている。 教育改善委員会において、各種委員会の活動状況の点検を年間通じて行っており、必要に応じて次年度への改善点等の提言を行っている。 	75	4					
		教員等の配置	5	進学士課程、専攻科課程において、一般及び専門の教員並びに教育支援者が適切に配置されているか。	教務主事 専攻科長 事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 一般科目担当教員を適切に配置しているか。 専門科目担当教員を適切に配置しているか。 教育支援者を適切に配置しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	授業時間割(編成資料) R6第2回教務委員会議事概要	各教員の専門とする領域を考慮して一般科目および専門科目の担当者として配置している。 実験・実習科目を中心に授業支援者として技術職員を配置している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5				
	教員の評価	6	教員の採用や昇任に関する基準があり、適切な運用がされており、教員の教育研究活動に対して、定期的な評価が行われているか。	校長 教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> 教員の採用や昇任に関する基準があるか。 採用・昇任基準を適切に運用しているか。 教員の教育研究活動を定期的に評価しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	長野工業高等専門学校教員昇任の取扱い R6第2回教務委員会議事概要 長野工業高等専門学校教員の教育研究活動の評価に関する要項	昇任の基準が定められている 教員評価手続き規定(長野工業高等専門学校教員の教育研究活動の評価に関する要項)を8/7に制定した。 点検項目は教務委員会で確認している。	75	4					
	FD活動	7	FD・SD活動が実施され、教育活動の改善等に結びついているか。	総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> FD研修会を3回実施しているか。 実施FD研修会の効果を検討しているか。 点検事項を再検討しているか。 	学校ホームページ: 情報公開	R5年度教育改善報告書の結果から状況把握 FD研修会を9月30日に実施予定	25	2					
学習環境	学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	8	学校の施設・設備が整備され、適切な安全・衛生管理の下に有効に活用されているか。	事務部長	<ol style="list-style-type: none"> 定期的な施設の管理状況を点検し、良好な状態で維持保全しているか。 安全衛生委員会による月1回の職場巡回を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	<ol style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会議事要旨 キャンパスマネジメント委員会議事概要 施設の管理状況: 点検・検査記録等 	<ol style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会メンバーが毎月職場巡回(4/19, 5/16, 6/17, 7/18, 8/26, 9/17, 10/16, 11/14, 12/17)を行い、職場の安全衛生を点検・確認し、同委員会が必要に応じて改善を図っている。 施設の維持管理については、施設管理者による日常的な点検に加え、契約による定期点検や法定点検等を実施している。 資産の有効活用を図るために、例年、居室等の稼働状況の把握を目的とした施設利用状況調査を6月に行った。12月には6月の調査で稼働率が低かった部屋について再調査を行った。調査結果は情報共有し、稼働率が低い居室等は有効活用に向けた検討を行う。 安全安心な職場環境・教育研究環境を目指すため、全校舎3階以上の居室等に引違い窓の開口制限を実施した。屋外非常階段進入防止扉を設置した。 	75	4					
		9	学生のニーズに対応したICT環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。	教務主事 (情報教育センター長) 総務主事 (教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> 学生のニーズ調査を実施しているか。 セキュリティ研修を実施しているか。 ICT環境の保守・点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	学校ホームページ: 情報公開	<ol style="list-style-type: none"> 学生ニーズをR5年度教育改善報告書の結果から状況把握 非常勤講師を含む全教職員に対してセキュリティ研修実施した。 ICT環境の保守・点検を定期的に実施している。 点検事項を定期的に実施している。 	100	5					
	10	図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究に必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されるよう取り組みが行われているか。	総務主事 (図書館長)	<ol style="list-style-type: none"> 教職員・学生のニーズ調査を実施しているか。 蔵書の点検を実施しているか。 図書の活用状況の点検を実施しているか。 点検事項を再検討しているか。 	学校ホームページ: 情報公開 図書希望調査メール(6/5) 1. 教職員「学生用図書の推薦について」(4/12教職員へのオールメール)、図書希望調査メール「リクエスト図書募集」(6/5学生へのオールメール)、教職員「関川文庫の推薦図書について」(8/2教職員へのオールメール)。 2. 令和5年度完了済み。年1回実施のため、令和6年度においては未着手。 3. 4. 5. 6. 7月の図書資料等貸出月計表(6月は作成中)。 4. 図書館会議議事録。	学生ニーズをR5年度教育改善報告書の結果から状況把握。 1. 教職員・学生への図書希望調査ともに実施中。 雑誌・新聞の利用調査実施済み(10月~11月)。 2. 根拠資料を、館長・係長・係員で回覧し、活用の現状を把握している。 4. 検討済み。	75	4		2. 令和6年度においても実施中で、3月完了を予定している。				
	11	新入生、留学生、編入生に対して、履修や施設・設備等に関するガイダンスを実施しているか。	教務主事 専攻科長	<ol style="list-style-type: none"> 新入生ガイダンスを実施しているか。 留学生ガイダンスを実施しているか。 編入生ガイダンスを実施しているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	新入生の年度当初の日程 入学式資料 R6第2回教務委員会議事概要	新入生については入学式当日および翌日に実施 留学生・編入学性については入学式当日にガイダンスを実施 点検項目は教務委員会で確認している	100	5						
12	学生の自主的学習を進める上での相談・助言等を行う体制が整備され、機能しているか。	教務主事 専攻科長 学生相談室長 総務主事(教育改善委員長)	<ol style="list-style-type: none"> 学生の学習活動に関して相談できる体制を整えているか。 相談・助言等を行う体制が機能しているか。 相談対応など、状況確認がなされているか。 点検事項の確認・検討をしているか。 	学校ホームページ: 情報公開 R6第2回教務委員会議事概要 第4回運営会議議事概要	R5年度教育改善報告書の結果から状況把握 毎月の運営会議において進路支援室、学生相談室からの状況報告が行われている 点検項目は教務委員会で確認している	50	3							

3. 学習環境及び学生支援	学生支援	13	特別な支援が必要と考えられる学生への学習支援及び生活支援等が行われているか。	教務主事 専攻科長 国際交流センター長 学生相談室長	1. 特別な支援が必要となる新入生の情報を共有しているか。 2. 特別な支援が必要となる留学生の情報を共有しているか。 3. 必要な支援や配慮事項を検討しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	保健調査票(入学時提出資料) R6第2回教務委員会議事概要	新入生について配慮が必要な情報は関係教職員間で共有している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5	この学習環境と学生支援の分野では、毎年、異なる手法やアプローチを取りながらも学生のニーズ調査やアンケートなどの項目が十分に実施されていないことがあるように思われます。こうした学習環境や学生支援は、受け身の学生側からどのように評価されているのかを把握することも重要かと思えます。難しい面もありますが、学生側からの視点を取り入れることで、例えばガイダンスの実施状況だけでなく、その内容の理解や有益性に関する評価にもつなげることができると思っています。
		14	学生の生活や経済面に係る指導・相談・助言等を行う体制が機能しているか。	学生主事 学生相談室長	1. 学生の生活や経済面に係る相談・助言等を行う体制が機能しているか。 2. 学生や保護者に対して各種奨学制度について周知する体制を整えているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	学級担任業務ガイド(第5版) 学生便覧(令和6年度版) 相談室からのメッセージ(2024年度版) 長野高専における個別支援 学生相談室報告 第3回学生支援委員会報告(授業料免除利用状況、奨学金実績) 第1回学校いじめ対策委員会議事次第	1. 本科生に対しては学級担任が、専攻科生に対しては専攻長が主に相談・助言等を行っている。また、メンタル面など専門性の高い相談事項については学生相談室、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携して支援を行っている。いじめ対策については、学生相談室で定期的に状況を把握するとともに、学校いじめ対策委員会を定期的に開催して情報を共有して、チームで対応している。なお、令和5年度末に合理的配慮による学生への個別支援について手順および相談様式を整備して、令和6年度から実施している。 2. 学生や保護者に対して学生課学生係よりメールやホームページで各種奨学金の案内を行っている。また、ホームページに掲載している旨を後援会支部会(須高、上小、大北)で説明している。 3. 第4回学生支援委員会点検予定(生活面と経済的支援に関する点検項目の分離を予定)。	80	4	
		15	進路指導およびキャリア教育の体制が機能しているか。	教務主事 学生主事 (進路支援室長) 専攻科長	1. キャリア教育に関する各種セミナーを実施しているか。 2. 進路に関する相談・助言等を行う体制が機能しているか。 3. インターンシップが適切に行われているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	第1回進路支援室会議資料No.5「令和6年度進路支援室イベント開催予定(案)」 進路支援室Letter(2024年4月版) 第1回進路支援室会議資料No.3「キャリアコーディネーター 進路(進学・就職)相談」 実務訓練企業説明会実施要項 R6第2回教務委員会議事概要 R6第7回教務委員会議事概要	1. 各種セミナーの実施は8月以降実施予定。 2. 学生主事、専攻科長、専攻長、系長、学級担任、就職担当教員、キャリアコーディネーターで構成する進路支援室が進路に関する相談・助言を行っている。 3. 本科生の実務訓練は教務委員会と4学年会が中心となり、専攻科生の学外実習は専攻科運営委員会が中心となって実施している。4年生のインターンシップ事業を効果的に進めるため実施時期を変更して5/30に企業説明会を開催し、10/30に報告会を開催した。 4. 点検事項1～2については第2回進路支援室会議で点検予定。点検項目	80	4	
		16	課外活動に対する支援体制が、適切に機能しているか。	学生主事	1. 課外活動の指導教員を配置して、課外活動を支援しているか。 2. 教員または課外活動指導員用の指導マニュアルに従い、課外活動が安全に実施できているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	部・同好会指導教員一覧(2024年度版) 部・同好会活動の指導に関するガイドライン(2024年度版) 長野高専課外活動指導員マニュアル(2024年度版) 学生の病気・ケガに対する対応報告書	1. 部・同好会に指導教員を配置して、課外活動を支援している。また、平日の放課後と休日の午前中に課外活動指導員を配置して、教員の業務負担軽減を図っている。 2. 教員用「部・同好会活動の指導に関するガイドライン」、課外活動指導員用「長野高専課外活動指導員マニュアル」に従い、引率時や練習時でケガや体調不良となった学生が出た場合に医療機関を受診させるなど対応できている。 3. 第4回学生支援委員会点検予定。	80	4	
		17	学生寮が、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。	寮務主事	1. 満足した生活の場を提供しているか。 2. 勉学の場を提供しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	寮食堂喫食率調査・寮生活調査アンケート 寮生teamの作成と運用状況 学習コアタイム 学習数確認結果 寮生会実施 勉強会 参加者数確認結果	1年1回の寮生活調査アンケート(12月実施)と、寮食堂における摂食率調査と満足度調査 1.寮生teamを作成し、学生への連絡を迅速化し、確認精度を上げた。 2.学習コアタイムにおける4月・6月、9月・11月の巡視結果から学習者の比率を把握 2.寮生会協議会で実施検討を依頼し、寮生勉強会が復活(後期中間試験から) 3.第9回寮務委員会で再度検討予定	80	4	
4. 准学士課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	18	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的に編成されているか。	教務主事	1. CPIに基づき教育課程を編成しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	教育課程表 R6第2回教務委員会議事概要	カリキュラムポリシーに従い、一般科目及び専門科目を配置した教育課程を編成している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5	
		19	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。	教務主事	1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	学校ホームページ:工学科概要 教育課程表 R6第2回教務委員会議事概要	学科改組による新設科目を含め、一般科目および専門科目を適切に配置している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5	
	授業形態、学習指導法	20	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	教務主事	1. 教育内容に応じて学習指導上の工夫をしているか。 2. 指導上の工夫等について報告により確認をしているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	R6第2回教務委員会議事概要	指導上の工夫についての確認を今後行う。 点検項目は教務委員会で確認している。	50	3	
		21	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。	教務主事	1. CPIに沿って、適切なシラバスを作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	Webシラバス R6第2回教務委員会	Webシラバスを作成し、周知している。 シラバスの活用についてはアンケートで確認予定である。 点検項目は教務委員会で確認している。	80	4	
	成績評価・進級及び卒業判定	22	成績評価・単位認定及び卒業認定の各基準が学生等に周知されているか。	教務主事	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	Webシラバス 学生便覧 R6第2回教務委員会	成績評価・単位認定の基準に関する情報はシラバスに記載し周知している。 単位数および卒業要件については学生便覧で周知している。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5	
23		成績評価は適切に行われているか。	教務主事 総務主事 (教育改善委員会)	1. 成績評価を適切に行っているか。 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	Webシラバス 成績評価履歴 R6第2回教務委員会	シラバスおよび成績評価履歴により成績評価が適切に行われていることを確認している。	100	5		
24		進級判定、卒業認定が適切に行われているか。	教務主事	1. 進級判定を適切に行っているか。 2. 卒業認定を適切に行っているか。 3. 進級判定・卒業認定基準を確認しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	Webシラバス 卒業・進級判定資料 R6第2回教務委員会	教務委員会において進級および卒業認定の基準を確認し、卒業・進級判定会議において、学生全員の卒業・進級判定を行った(R5)。	100	5		
25	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 学業成績からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 学会発表や学生表彰からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	卒業・進級判定資料 学会発表や学生表彰一覧 R6第2回教務委員会	学習・教育到達目標を達成するために設定された科目の単位習得により、学習・教育の成果が認められた(R5)。 学会発表や課外活動、コンテスト等で活躍した学生の状況から、学習・教育の成果が認められた(R5)。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5			

	学習・教育の成果	26	卒業時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 卒業時のアンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 卒業生アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 企業アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	学習到達度自己評価の調査結果 第2回教務委員会	卒業時の学習到達度自己評価の調査結果から、学習・教育の成果が認められた(R5)。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5				
		27	卒業後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	教務主事	1. 卒業後の進路に学習・教育の成果が表れているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	進路状況に関する資料(就職・進学) 第2回教務委員会	卒業後の進路状況から学習・教育の成果が認められた(R5)。 点検項目は教務委員会で確認している。	100	5				
5. 専攻科課程の教育課程・教育方法・学習成果	教育課程の編成	28	カリキュラム・ポリシーに基づき、教育課程が体系的並びに準学士課程との連携および発展的に編成されているか。	専攻科長	1. CPIに基づき教育課程を編成しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	1.専攻科科目連携表 2.第2回専攻科運営委員会議事録		100	5				
		29	教育課程には、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請に対応した科目、創造力・実践力を育む科目、異文化や地域の文化を理解する科目などが配置されているか。	専攻科長	1. 学生のニーズ、学術発展の動向、社会の要請に対応した科目を配置しているか。 2. 創造力・実践力を育む科目を配置しているか。 3. 異文化理解・地域文化理解のための科目を配置しているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1.2.3. Webシラバス参照 4. 第2回専攻科運営会議議事録	1.2.3. DP,CP,学習教育到達目標の関係を明確化し、科目の配置を検討した。 4. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	100	5				
	授業形態・学習指導法	30	教育内容に応じた、適切な学習指導上の工夫がなされているか。	専攻科長	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 修了認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. Webシラバス参照 2. 学生の説明会資料 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. Webシラバスを確認した。 2. 年度末に実施している学生取得の説明会で周知している。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	100	5				
		31	カリキュラム・ポリシーに沿って、適切なシラバスが作成・活用され、研究指導が適切に行われているか。	専攻科長	1. CPIに沿って、シラバスを適切に作成しているか。 2. シラバスを活用しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. Webシラバス参照 2. 授業評価アンケート 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. Webシラバスを確認した。 2. 専攻科授業評価アンケート項目として設定予定である。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	80	4				
	成績評価・修了判定	32	成績評価・単位認定及び修了認定の各基準が学生等に周知されているか。	専攻科長	1. 成績評価・単位認定の基準を周知しているか。 2. 卒業認定の基準を周知しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. Webシラバス参照 2. 成績判定会議資料 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. Webシラバスを確認した。 2. 専攻科ガイダンスで周知している。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	100	5				
		33	成績評価は適切に行われているか。	専攻科長 総務主事 (教育改善委員会)	1. 成績評価を適切に行っているか。 2. 成績評価方法を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1.2. Webシラバス参照 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 2. Webシラバスを確認した。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	100	5				
		34	修了認定が適切に行われているか。	専攻科長	1. 修了認定を適切に行っているか。 2. 修了認定基準を確認しているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 削除 2. 修了判定会議 3. 修了判定会議 4. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 進級判定は行っておらず、単位認定のみである。 2. 修了判定会議で実施予定である。 3. 修了判定会議で実施予定である。 4. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	20	2				
	学習・教育の成果	35	ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 学業成績からDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. グローバル化への対応成果が認められるか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 所定の単位を収めることで確認 2. 削除 2. 特別研究IIの英語の要項および発表 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. CPIにより設置された科目群の単位を取得することで確認する。 2. 学会発表や学生表彰は任意の活動であり、指標とはならない。 2. 英語の要項作成および英語での発表を取り入れる 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	20	2				
		36	修了時の学生および卒業生・進路先関係者からの意見聴取で、ディプロマ・ポリシーに沿った学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 修了時のアンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了生アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 3. 企業アンケートからDPIに沿った学習・教育の成果が認められるか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 専攻科修了時のアンケート調査 2. 専攻科修了生へのアンケート調査 3. 企業へのアンケート調査 4. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 専攻科 修了時に2種類のアンケート調査を実施する予定である。 2.3 アンケートを実施しなければならない。 4. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	10	1				
		37	修了後の進路状況から判断して、学習・教育の成果が認められるか。	専攻科長	1. 修了時の学生の取得状況から学習・教育の成果が認められるか。 2. 修了後の進路状況から学習・教育の成果が認められるか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. 修了時の学位の取得状況 2. 修了時の進路状況 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 学位の取得状況の確認を行う。 2. 修了時の進路状況を確認する。 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	20	2				
6. アドミッション・ポリシーに沿った学生の受け入れ	準学士課程の学生の受け入れ	38	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施されているか。	教務主事	1. APIに基づき入学選抜を実施しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	入学者募集要項 入学選抜実施要項(推薦選抜・学力選抜)	募集要項にAPを記載し、出願資格に「科学技術に関する興味があること」を明記している。 推薦選抜では「内申点の傾斜配点」およびAPを確認した面接点の点数化を行い実施している。 学力選抜では数学・理科・英語に傾斜配点を行い実施している。	100	5				
		39	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学選抜の改善に役立っているか。	教務主事	1. 入学者がAPIに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学選抜の改善に役立っているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	主専攻選択希望調査結果	新入生の主専攻選択調査においてアンケートを実施し、APIに沿った学生が入学しているかを確認してしる。また、希望する系の選択およびその系において学びたい内容に関するコメントにより、工学に関心がある学生が入学していることを確認している。	100	5				
		40	受験者数増加対策は効果的に行われているか。	教務主事 総務主事(広報企画室) 男女共同参画推進室長 入試広報室	1. 受験者は増加したか。 2. 受験者数増加対策を検討しているか。 3. 受験者数増加対策を実施しているか。 4. 活動の検証をしているか。 5. 点検事項の確認・検討をしているか。	入学選抜委員会議事概要	受験者数は微減となっており、増加対策を検討している。	50	3				
	専攻科課程の学生の受け入れ	41	アドミッション・ポリシーに沿って適切な入学選抜方法が適切に実施されているか。	専攻科長	1. APIに基づき入学選抜を実施しているか。 2. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 専攻科入学選抜要領 2. 委員会資料	1. 入試の面接でAPIについて質問している。 2. APIに従い、傾斜配点などを導入できないかを検討している	100	5				
		42	入学者が、アドミッション・ポリシーに沿っているか検証し、その結果を入学選抜の改善に役立っているか。	専攻科長	1. 入学者がAPIに沿っているか検証しているか。 2. 検証結果を入学選抜の改善に役立っているか。 3. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 専攻科入学時のアンケート調査 2. 入学選抜委員会議事録 3. 第2回専攻科運営会議議事録	1. 専攻科理解度アンケート 2. アンケート結果を入学選抜委員会で報告予定 3. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	80	4				
	43	受験者数増加対策は効果的に行われ、入学定員と実入学数との関係の適正化が図られているか。	専攻科長	1. 受験者数増加対策を検討しているか。 2. 受験者数増加対策を実施しているか。 3. 活動の検証をしているか。 4. 点検事項の確認・検討をしているか。	1. 専攻科運営委員会議事録 2. 本科4年生の説明会資料 3. 専攻科運営委員会議事録 4. 第2回専攻科運営委員会議事録	1. 本科4年生への説明会の他、先取り単位制度の導入などを検討中 2. 進路支援室からの要請による本科4年生への説明を実施予定 3. 活動の結果を委員会で報告し、その効果を検証する。 4. 継続審議事項として、委員会で話し合っている。	25	3					
7. 研究活動の状況	研究体制と支援体制	44	研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。	研究主事	1. 研究活動に関する基本方針が定められているか。 2. 研究推進委員会が設置されているか。 3. 研究倫理委員会が設置されているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	1.研究推進委員会議事録 2.3. 職務分掌による組織図及び委員会議事録 4. 研究推進委員会議事録	研究推進委員会にて検討すると同時に、第2ブロック研究推進会議や研究推進担当責任者会議などの内容の展開を検討中。	50	2				
	研究活動の成果	45	研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。	研究主事	1. 研究業績一覧を発行し、研究状況の確認を行っているか。 2. 学生による学会発表件数、学生が関与する共同研究の実施状況などを確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	教育研究報告(旧紀要)、シーズ集の発行 2.16 学生が関与する共同研究申請書 研究推進委員会議事録	投稿案件の募集中 学生の間での共同研究申請は、都度対応	50	2				

	研究活動の改善	46	研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。	研究主事	1. 研究推進委員会にて研究活動推進に関する事項を検討しているか。 2. 点検事項を再検討しているか。	研究推進委員会議事録	研究プロジェクトの申請や、科研費申請、研究力の強化プログラムの対象者を研究推進委員会で検討する際に議論を行っており、現在も進行中で議論している	50	2				
8. 地域貢献活動等の状況	地域貢献活動の計画	47	地域貢献活動が適切に定められ、計画的に実施されているか。	総務主事 (広報企画室長) 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 地域貢献の目的を定めているか。 2. 活動計画を定めているか。 3. 計画に沿って実施しているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。	・産業への協力 ・第1回広報企画室会議議事概要 ・社会人向け講習会・研究会・交流会の計画書・案内メール ・テクノセンター運営会議議事録	1. 学校広報の目的、活動方針を確認している 2. 講習会、研究会、交流会の計画にもとづき、月1回のテクノセンター運営会議で確認を行い推進	50	2				
	地域貢献活動等の成果	48	地域貢献活動の目的等に沿った成果が得られているか。	総務主事 (広報企画室長) 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。	テクノセンター年報	社会人向けの講習会、研究会、交流会など開催後のアンケートによる分析をおこない、次回への改善につなげている テクノセンター運営会議で、進め方を確認しながら計画を進めている	50	2				
	地域貢献活動の改善	49	地域貢献活動の実施状況や問題点を把握し、改善を図っているか。	総務主事 (広報企画室長) 研究主事 (地域共同テクノセンター長)	1. 成果の点検手法が定められているか。 2. 点検手法に沿って成果の確認が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。	第1回広報企画室会議議事概要 テクノセンター運営会議議事録 技術振興会の理事会及び総会議案書	昨年度の活動を確認し、本年度の活動を計画 開催後の参加者アンケートを分析し、次回への改善につなげている	25	2				
9. 財務及び管理運営と情報公開	財務関係	50	適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。	事務部長	1. 効率的・効果的な収支計画(見積)を策定しているか。 2. 学内会議等で予算配分方針を周知しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. 予算配分方針 2. 予算配分	1. 6月21日の執行会議にて予算配分方針案等が承認された。 2. 7月4日の運営会議で予算配分方針・予算配分を報告を行った。 3. グループウェアへ資料の掲載を行っている。 4. 点検事項の検討を行っている。	75	4				
		51	適切に予算が配分され、その執行状況の確認が行われているか。	事務部長	1. 予算配分方針に基づき、適切な予算配分をしているか。 2. 定期的に、予算執行状況を確認しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. 予算配分方針 2. 予算配分 3. 予算執行集計表 4. 予算差引簿	1. 6月21日の執行会議にて予算配分方針・予算配分承認された。 2. 定期的に執行状況を確認し、執行率が低い場合は執行予定等を確認し、早期執行を促している。 3. 点検事項の検討を行っている。	75	4				
		52	適切に予算が執行され、その結果が公表されているか。	事務部長	1. 定期的に予算執行状況を把握しているか。 2. 決算状況について、HP等で公表しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. HP・学校要覧(財務状況) ・収入・決算額 ・外部資金受入状況 ・科学研究費交付決定状況	1. 定期的に予算執行状況の把握を行っている。 2. 7月にホームページへ前年度の財務状況を公表を行った。 3. 点検事項の検討を行っている。	75	4				
	管理運営	53	各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。	事務部長	1. 時宜に応じた事務組織等の見直しを行っているか。 2. 事務組織等の人員配置などについて定期的に点検・確認しているか。 3. 教育改善委員会で各種委員会の活動状況の点検を行っているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	1. 内部組織規則、各委員会規則 2. 事務組織及び事務分掌規則 3. 各種委員会の活動状況の点検結果(教育改善報告書)	1. 第2四半期頃より次年度の事務組織等の人員配置を検討し、必要に応じて人員配置の見直しを行っている。 2. 事務組織の人員配置の検討材料の一つとして、半期ごとの業績評価時における職員面談を通じて、現在の業務状況なども確認する予定。 3. 年度末に教育改善委員会で各種委員会・センター等が適切に活動しているか点検を行っている。(令和6年3月「令和5年度教育改善報告書」)	75	4				
		54	情報セキュリティを含む危機管理等の安全管理体制が整備され、規則に沿った運用がなされているか。	総務主事 事務部長	1. 安全管理規則が定められているか。 2. 規則に沿って研修が行われているか。 3. 規則に沿った安全管理対応が行われているか。 4. 点検・評価手法を再検討しているか。	1. リスク管理規則 2. 情報セキュリティ管理・推進規則 3. 防災マニュアル 3. 情報セキュリティ利用者規則、教職員規則	1. 各種関連規則は整備済み。(R4の情報セキュリティ監査で確認済み。) 2. 情報セキュリティe-LearningをR6.9~10に実施した。 3. 情報セキュリティインシデント対応訓練の第1回をR6.11に実施し、第2回をR6.12に実施した。 4. 情報セキュリティ推進委員会を開催(4/22、5/27、6/24、7/29、8/26、10/28、11/25)し、情報セキュリティの管理を行っている。 5. R6.4に防災マニュアルを更新した。 6. R6.5に防火訓練を行い、R6.11に防災訓練を実施した。 7. 点検事項の検討を行っている。	90	4				
		55	外部資金を積極的に受入れる取組を行っているか。	研究主事	1. 外部資金の公募案内を校内に周知しているか。 2. 科学研究費申請書の添削支援を実施しているか。 3. 特許出願に関する支援を実施しているか。 4. 点検事項を再検討しているか。	科研費申請の案内 研究プロジェクトの申請制度の開始 三校特許事務所による指導を企画	科研費の申請状況を執行会懇談会で共有、外部資金の状況を共有し問題意識を共有している 長野高専オーブンラボを設置し、活性化を図る取り組みを行っている	80	4				
		56	外部の教育資源を積極的に活用しているか。	教務主事 専攻科長 研究主事	1. 外部の教育資源を積極的に活用しているか。 2. 点検・評価手法を再検討しているか。	実務訓練企業説明会実施要項 学校報告資料(技術振興会総会) R6第2回教務委員会議事概要 R6第7回教務委員会議事概要	企業や機関の協力のもと、インターンシップ事業を進めている。 エンジニアリングデザイン科目の実施に向けて協力依頼を含めた説明を行った。 点検項目は教務委員会で確認している。	80	4				
57	管理運営に関わる職員の資質の向上を図るための取組が組織的に行われているか。	事務部長	1. 定期的にSD研修会などを実施しているか。 2. その他、職員の資質向上を図る取組を実施しているか。 3. 点検事項を再検討しているか。	1. SD研修会の実施 2. 管理運営等の研修会への参加リスト	1. 高専機構主催の初任職員研修会(5/13~15)に2名参加 2. 高専機構主催の令和6年度学務担当者向けオンデマンド研修(5/15~8/15)に2名参加 3. 高専機構主催の初任教員研修会(5/27~28)に3名参加 4. 長野高専主催のメンタルヘルス(ラインケア)研修(8/28)に18名参加 5. 長野高専主催の職員海外研修(シンガポールへの学生の海外研修に同行8/26~8/30)に1名参加 6. 長野高専主催の語学研修(事務系職員対象)(8月末~11月末)に1名参加 7. 長野高専主催の部下指導研修(9/20)に19名参加 8. 長野高専主催の職員海外研修(シンガポールへの学生の海外研修に同行8/26~8/30)の研修報告会を開催(10/8) 9. アンケートや報告会から点検の再検討を行っている。	100	5						
58	教育情報(学校教育法施行規則の事項を含む)が公表されているか、また、タイムリーな情報発信が行われているか。	総務主事(広報企画室長) 事務部長	1. 文部科学省令第15号に沿って情報公開が行われているか。 2. 公開状況の点検・整備が行われているか。 3. 点検・評価手法を再検討しているか。	長野高専ホームページ 教育情報	1. 平成30年度の機関別認証評価において、公表内容を審査されている。その後、担当教員に点検を依頼するなど、随時内容を変更している。 2. 公開情報の見直しが行われ、データ更新を行っている。 3. 本年度からホームページをリニューアルした。ホームページや地域活動、刊行物などを通じて、社会に向けた情報発信を適時に行っている。 4. 点検の再検討を行っている。	85	4						

達成率
点検事項の実績に基づいて達成率を算定する

自己評価
1 達成率 0~20%
2 達成率 21~40%
3 達成率 41~60%
4 達成率 61~80%
5 達成率 81~100%

令和6年度参加会

令和7年1月29日

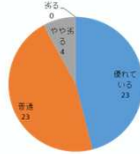
卒業生・企業アンケート

- 実施：令和6年8月～9月
- 対象：令和2年年度、令和3年年度
 - 本科卒業生 200名（各科20名）
 - 専攻科修了生 49名
 - 就職・進学先 255機関
- 回答数：回答率 12.5%
 - 修了生 8 / 49
 - 卒業生 42 / 200
 - 機関 14 / 255

修了生・卒業生：新しい環境での生活を始めた頃の事

項目 1

周囲の同僚あるいは学生と比較して専門的な知識や能力の素養は



項目 2

周囲の同僚あるいは学生と比較して、数学・自然科学・情報技術など技術者としての素養に関する知識は



項目 3

周囲の同僚あるいは学生と比較して、語学やコミュニケーションに関する能力は



項目 4

周囲の同僚あるいは学生と比較して、問題や課題に対して様々な知識を用いて解決する能力や姿勢は



項目 5

周囲の同僚あるいは学生と比較して、社会的な倫理観については



項目 6

周囲の同僚あるいは学生と比較して、物事を表現したりプレゼンテーションを行う能力は



修了生・卒業生：現在の状況

項目 1

本校を修了あるいは卒業してから特に重点的に学んだと思う知識



項目 2

修了あるいは卒業してから自分の知識や技術がどのように変化したか



項目 3

現在の自分にとって長野高専で学んだ基礎的な工学の専門知識は



項目 4

現在の自分にとって長野高専で学んだ数学・自然科学・情報技術に関する知識は



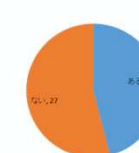
項目 5

現在の自分にとって長野高専で学んだ語学やコミュニケーション能力は



項目 6

現在の自分にとって長野高専で学んだ専門分野に関する知識以外で、現在必要な他の工学専門分野の知識で必要なのは



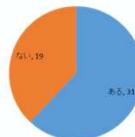
修了生・卒業生：現在の状況

項目6で「ある」と答えた方で具体的な例があればここに記入してください

- React ASP.NET IIS Python
- 環境都市工学を専攻したが、会社が電気通信事業の土木分野に分社した会社のため電気通信分野の知識が必要と感じている
- 事務処理ソフトの扱い
- 医療の知識
- 第二種電気主任技術者の資格取得の際に授業でやった内容だけでは分野も範囲も不足している
- 光学
- 通る申請書の書き方
- 情報セキュリティ
- 工程設計手法
- プログラム言語
- 精密計測・光学
- コンピューターサイエンス
- 自然言語処理, GitHub
- プログラミング言語
- プログラミング
- 電気電子卒ですが、電気に加えて機械、土木も関連している職業です。

項目7

他の教育機関（大学・大学院等）の卒業生と高専卒業生との違いがありますか



修了生・卒業生

項目7で「ある」と答えた方で具体的な例があればここに記入してください

- 土木学部卒以外と比較して土木にまつわる基礎知識の違いで差が出ていると感じる。土木資格問題の基礎知識がある。
- 初任給
- 教養
- 地頭の良さ
- まじめさ
- 専門性
- 専門知識の勉強やり方や問題があった時の対処の仕方などは周りと比べて優れていると思う。周りに比べると先に行動できたりしている。
- 考えてから行動に移すまでの速さ
- 卒業研究や実験の考察力は高専の方が優れていると感じた。
- 自身の研究の説明能力
- 実験、実習を多く経験しているため、手を動かせる人が多いと感じる。
- 専門的な技術力
- 高専生っぽさ
- 高専生は専門のみに特化しすぎている印象がある
- 高専卒業生のほうが技術に対する興味関心が高い
- 在学中に実験等を多くこなすため、高専卒業生は即戦力になると思う
- 機械工作における知識の差
- 同期の方が自分より歳上のことが多い
- プレゼンテーション能力が他機関のほうが高い印象です。
- 高専生の方が基本情報技術者試験レベルの基礎的な知識やドキュメントにまとめる能力があるように思います。

企業:入社時点の状況

項目 1

工学や技術に関する専門的な知識の素養は



項目 2

数学・自然科学・情報技術などの基礎的な知識の素養は



項目 3

語学やコミュニケーションに関する能力の素養は



項目 4

周囲の同僚あるいは学生と比較して、問題や課題に対して様々な知識を用いて解決する能力や姿勢は



項目 5

周囲の同僚あるいは学生と比較して、社会的な倫理観については



項目 6

周囲の同僚あるいは学生と比較して、物事を表現したりプレゼンテーションを



企業:現在の状況

項目 1

入社あるいは入学時(研究室等への配属を含む)から特に能力が向上したと思われる分野を選択肢の中から一つだけ選択すると



項目 2

入社あるいは入学時(研究室等への配属を含む)から現在の専門的な知識や技術は



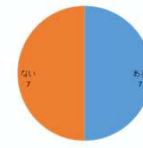
項目 3

入社あるいは入学時(研究室等への配属を含む)から現在の語学やコミュニケーション能力は



項目 4

就業上あるいは学習・研究活動において本校で学んだ専門分野に関する知識以外で、現在必要な他の工学専門分野の知識で必要なものは



項目4で「ある」と答えた方で具体的な例があればここに記入してください

- 物事を数学で考える能力
- IT関連の知識
- プログラミング言語
- 数理統計、品質工学、プロジェクトマネジメント
- 電気・機構学

企業:現在の状況

(1) 高専教育に不足していることがありましたらお願いいたします。

- 英語教育が大変不足している。英文をきちんと音読できない学生がおり、音読できるまで指導した。
- 業務を取り組むにあたり、専門的な知識が十分に身についていると感じました。在学中に得た知識か、個人で学習した知識かの判断まではできていませんが、高専での教育が影響していることは間違いないと思います。

(2) その他、感想または意見・要望がありましたらお願いいたします。

- 当部署に配属されている卒業生全員が、それぞれに学んだ知識や技能を活かし意欲的に仕事に取り組んでいる。会社にとっての重要な戦力となっている。今後も継続して優秀な人材の育成、輩出を望みます。
- 物事を数学的・物理的に考える訓練を行なってほしい。
- 貴高卒業生は、技術的専門知識や弊社に必要な資格取得についても優れています。コミュニケーション能力も必要となりますが、弊社への就職者は、この能力も高いと感じます。今後ともよろしくお願いいたします。
- まだ、研修中ではありますが、高専で学んだ知識を活かし更に高め業務に励んでおります。今後とも良き関係であればと思います。
- 純粋な業務だけではなく、社会人としての姿勢も感心する部分があり、優秀な人材を確保できたことを嬉しく思っております。

令和6年度 参与会

令和7年1月29日

研究活動方針

「本校の研究活動に関する基本方針」 校長裁定より抜粋

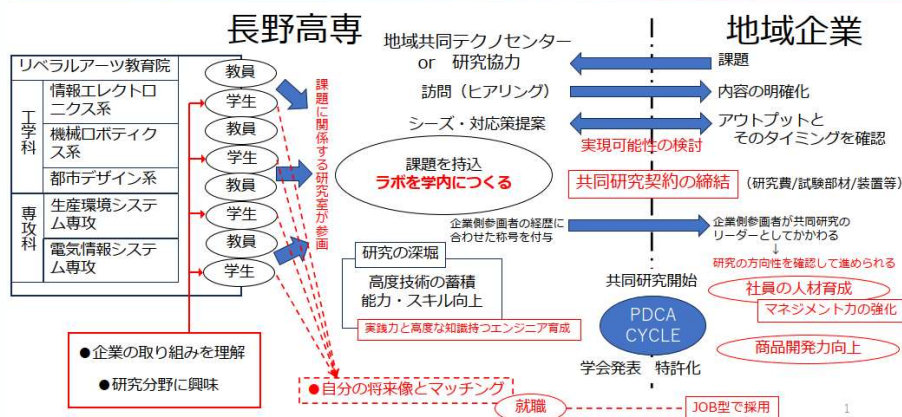
本校における研究活動は、教員によって本校創立以来継続され、教育の質を保証する上での重要な手段となっている。あわせて、重要な知的情報の発生源でもあり、また、研究活動を通して地域に貢献することへの期待が大きい。そこで、上記のような社会的背景あるいは本校研究活動の活性化の状態を受けて、研究の主たる目的を以下のように明確化するものとする。

- (1) 地域と連携し、かつ地域と密着した研究活動を行う。
- (2) 産学官金の共同研究を推進する。
- (3) 研究活動を本校の教育の向上に反映させる
- (4) 国際的、および学際的な研究を推進する。
- (5) 社会の安寧と人類の幸福、平和に資する研究を推進する

研究活動と地域連携を加速する目的で「長野高専オープンラボ」（企業から持ち込まれた課題を解決するための研究室研究連携）を設置しました。

(2024年10月1日から開始、開所式10月29日)

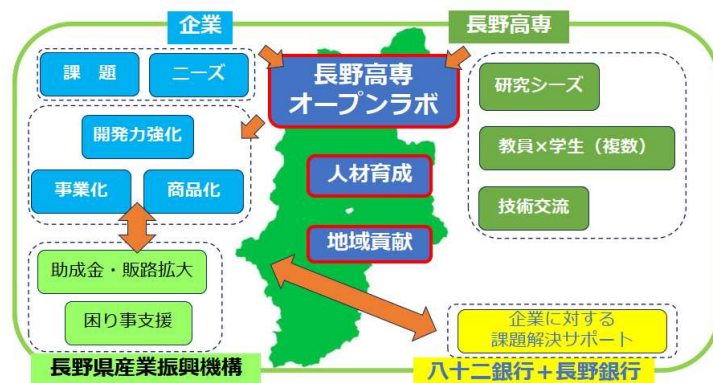
長野高専オープンラボ



企業から持ち込まれた課題について関連分野を研究する教員（2名以上）や学生が共同研究に取り組み、研究活動の活性化と学生の実践力を高める。
 ・共同研究費700万円/企業拠出、期間2年間（希望により延長可）

長野高専オープンラボ

[産]企業×[学]長野高専×[金]八十二銀行+長野銀行×[公]長野県産業振興機構



長野高専オープンラボは、進捗のステージに応じた様々な支援体制が受けられる枠組みの中で活動しています。

長野高専オープンラボ

アピックヤマダ 未来技術研究室



スタートチーム
富岡研究室、姜研究室、田中研究室

山洋電気 パワエレ未来研究室



スタートチーム
中島研究室、田中研究室

相談窓口：地域共同テクノセンター特命教授
(オープンラボ推進担当) 浅沼 和志
e-mail : asacoordi@nagano-nct.ac.jp
TEL : 026-295-7106

外部資金科研費獲得目標と状況

■目標設定

「5/15に開催された第1回研究推進・産学連携本部会議」にて設定

- 1) 科研費獲得目標** 全種目平均1.7%以上。全種目での採択数330件以上。(各高専6.5件以上)
基盤B以上の新たな採択件数15件以上。(各高専1件以上)
- 2) 外部資金獲得目標** 高専機構全体で2.5億円増加(各高専500万円増加)

- 状況(科研費採択数14件(基盤B:3件含む) 200%達成 外部資金:69,478千円89.9%達成)
科研費及び外部資金合計の獲得状況としては、合算では517万円の増加

名称	令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
共同研究	18	14,040	23	18,827	15	13,325	16	19,585	32	25,979	15	25,656
受託研究	1	614	5	2,775	5	3,127	6	4,091	5	3,440	6	4,260
受託事業・補助金他	2	650	5	2,900	13	16,797	5	3,104	5	3,332	4	2,501
寄附金(長野高専基金を含む)	58	49,721	133	43,511	134	24,521	131	43,322	252	39,514	113	37,061
合計	79	65,025	166	68,013	167	57,770	158	70,102	294	72,265	138	69,478

研究種目	令和元年度 (2019年度)		令和2年度 (2020年度)		令和3年度 (2021年度)		令和4年度 (2022年度)		令和5年度 (2023年度)		令和6年度 (2024年度)	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
挑戦的研究(萌芽)	1	624	2	1040	0	0	0	0	0	0	1	780
基盤研究(A)	0	0	0	0	1	1,300	0	0	0	0	0	0
基盤研究(B)	4	1,278	3	988	2	585	4	1,365	2	195	3	13,260
基盤研究(C)	5	12,968	7	17,485	7	17,268	10	20,696	8	15,444	10	19,851
若手研究	2	8,450	1	2,730	1	4,810	2	8,970	3	10,292	0	0
奨励研究	2	990	2	830	0	0	0	0	0	0	0	0
研究活動スタート支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学術図書	0	0	0	0	0	0	1	1,800	0	0	0	0
厚生労働科学研究費補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	14	24,310	15	23,073	11	23,963	17	32,831	13	25,931	14	33,891

※2024年11月末まで

令和6年度参与会

令和7年1月29日

高速信号伝送評価センター

令和3年度・国立高専機構高度設備共同利用拠点整備事業として
高速信号伝送評価センターを2023年度に長野高専内へ設置した。

装置概要

- ~100GHz帯の信号伝送・電磁材料の測定装置により、**Beyond 5G/6Gのハードウェア開発**ができます。
- X線CT-Scanやレーザー顕微鏡により、**電子機器・電磁材料の構造データ**を取得できます。
- 情報通信分野に留まらず、機械系・土木系分野からの要望に応え、有限要素法による**電磁界・応力・熱流体解析**ができます。



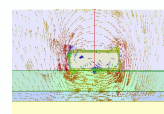
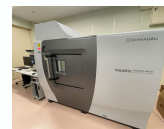
信号伝送
電磁材料評価



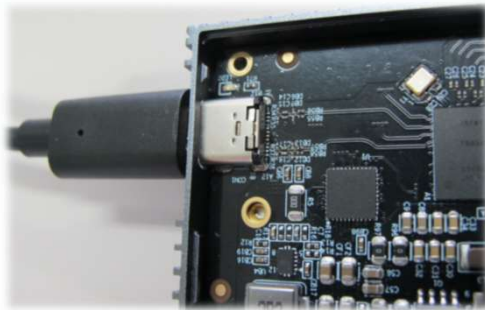
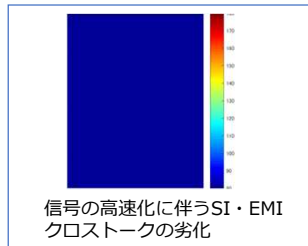
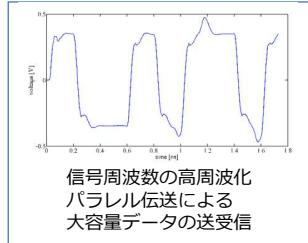
3次元
構造解析



電磁界解析



Society 5.0 時代の高速信号伝送の課題

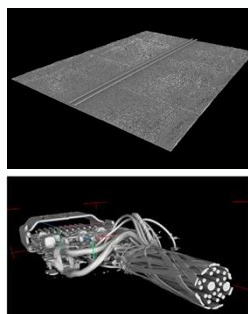


**Beyond5G/6G時代に対応した
信号伝送や電磁材料測定・解析装置が必要**

GHz帯の測定器は高額なので、高専教員の研究・教育で活動できるように、長野高専が拠点校になり整備された

高速信号伝送評価センターの活用事例

- AIなどのビッグデータを処理するための高速通信の評価

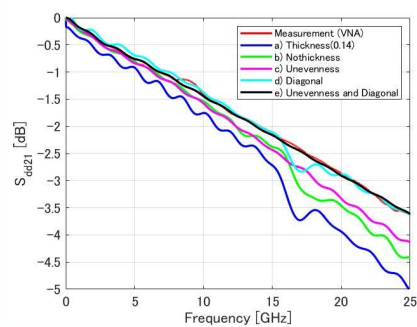


基板やコネクタ・ケーブルをCTでモデル化

電磁界解析



実測



高速信号伝送評価センターの利用状況

表 2024年上期利用時間 [h]

設備名	外部個別利用時間	共同研究利用時間	総利用時間
VNA	22	40	377
電波暗室	0	0	0
CT-Scan	14	69.5	221.7
レーザー顕微鏡	0	0	55

外部個別利用数 : 6件
共同研究数 : 4件

主な利用内容：

- 電波吸収体の吸収特性評価
- 新しい低損失基板の電気特性評価
- CT-Scanによる機械的内部構造評価
- CT-Scanと電磁界解析を連携した特性評価解析
- 生ハムやサツマイモの特性評価試験
(高専機構・食品組成測定技術プロジェクト)



空洞症のサツマイモ



正常なサツマイモ

令和6年度参加会

令和7年1月29日

ソーシャルイノベーション・ サポートセンター

「高等専門学校スタートアップ教育環境整備事業」

交付申請書より抜粋

本事業では、新たにソーシャルイノベーション・サポートセンターを設置し、学生の自主的活動や「エンジニアリングデザイン」の実施を支援する「ものづくり」環境の充実だけでなく、FD研修などを通じた教員のスキルアップを図り、長野高専全体としてスタートアップ人材育成体制の基盤整備と体制強化を行うものである。

- (1) ソーシャルイノベーション・サポートラボを設置
- (2) 学生の起業マインド醸成
- (3) 起業経験者や卒業生、技術振興会による支援体制の強化
- (4) 「エンジニアリングデザイン入門・実践」の指導体制の整備
- (5) 起業相談窓口を新たに設置

**学生の支援のためソーシャルイノベーション・サポートセンターと
ソーシャルイノベーション・サポートラボを設置しました。**

ソーシャルイノベーション・サポートラボ概要



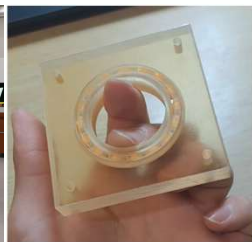
ソーシャルイノベーション・サポートラボ使用状況

利用時間(R6年11月26日現在) [h]

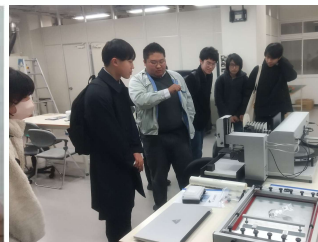
設備名	学生試作利用時間	教員研究利用時間	総利用時間
レーザー加工機	24.5	12.5	37
インクジェットカラープリンタ	2	0	2
3Dプリンタ	6.5	47.0	53.5
プリント基板設計	0	6	6



ラボ利用の様子



3Dプリンタを使用した試作
(学生作成の樹脂玉軸受け)



外部講師による
装置活用講座の様子

令和6年度参加会 R7.1.29

4

ソーシャルイノベーション・サポートセンター活動状況

- 学生の起業マインド醸成
- 10/1 起業家によるエンジニアリングデザイン入門講座
- 11/4 卒業生によるキャリア講演会
- 11/18 技術振興会企業様による講演会
- 12/9 起業家によるエンジニアリングデザイン実践講座
- 学生のビジネスコンテスト出場状況
- DCON2025
 - 1次審査通過 4チーム
 - ぶくなる制作委員会, HearOes, 未来稲作研究所, ReGlass Tech
- GCON2024
 - エントリー 2チーム さかちゃんズ, 長生きし隊
- 信州ベンチャーコンテスト
 - 本選出場 1チーム TanbaProject
- エンジニアリングデザイン入門・実践の指導体制の整備
- 9/30 教職員向けFD研修
 - 学生のモチベーションを高めるメンタリングとは
- 2/中 教職員向け研修(予定)
 - メンタリング相談会



技術振興会企業による講演会の様子



起業家による講演会の様子

ソーシャルイノベーション・サポートセンター活動状況

- 起業相談窓口の整備
- 5/20 起業を目指す学生のオンライン相談①
- 6/20 学生向け技術講座
- 8/05 ビジコン同好会オンライン相談①
- 9/24 ビジコン同好会オンライン相談②
- 11/13 起業を目指す学生のオンライン相談②
- 11/20 DCONブラッシュアップセミナー①
- 11/21 起業を目指す学生のオンライン相談③
- 11/25 DCONブラッシュアップセミナー②
- 11/25 DCONブラッシュアップセミナー③
- 11/28 信州ベンチャーコンテストブラッシュアップセミナー
- 12/5 DCONブラッシュアップセミナー④
- DCONブラッシュアップセミナーは3チームをフォローし全12回予定
- 相談窓口は学生からの希望があれば随時開催予定



学生向け技術講座の様子



信州ベンチャーコンテスト
ブラッシュアップセミナーの様子

令和6年度参与会

令和7年1月29日

いじめ防止対策への取り組みについて

本校におけるいじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため、長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画」を定めている。この計画は、

- 「いじめ防止対策推進法」
- 「いじめの防止等のための基本的な方針」
- 「独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等対策ポリシー」
- 「独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等ガイドライン」

を踏まえて作成している。

いじめの防止等に関する措置を、実効的に行うため、複数の教職員を、心理・福祉等に関する専門的な知識を有する者その他の関係者により構成される「学校いじめ対策委員会」を設置し、定期的に会議を開催している。

長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画

平成26年9月18日制定
令和2年7月6日改定
令和6年5月2日改定

長野工業高等専門学校（以下「本校」という。）は、いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号、以下「法」という。）、いじめの防止等のための基本的な方針（平成25年10月11日文科科学大臣決定、最終改定平成29年3月14日、以下「国の基本方針」という。）、並びに独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等対策ポリシー（平成26年3月27日理事長議定、最終改定令和2年4月30日、以下「機構ポリシー」という。）、独立行政法人国立高等専門学校機構いじめ防止等ガイドライン（令和2年4月30日理事長議定、以下「機構ガイドライン」という。）を踏まえ、本校におけるいじめの防止等の対策を総合的かつ効果的に推進するため、「長野工業高等専門学校いじめ防止等基本計画」（以下「学校いじめ防止等基本計画」という。）を定める。

1. いじめの防止等のための基本的な方針

(1) いじめの定義
「いじめ」とは、学生に対して、当該学生が在籍する学校に在籍している等当該学生と一定の人的関係にある他の学生が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった学生が心身の苦痛を感じているものをいう。（法第2条）
また、個々の行為が「いじめ」に該当するか否かについては、表面の・形式的に判断することなく、いじめられた学生の立場に立ち、学生の感じる被害性に着目して判断する。

(2) いじめの禁止
学生はいじめを行ってはならない。（法第4条）「いじめは絶対に許されない」という姿勢のもと、本計画にのっとり厳正に対処する。

(3) 基本理念
1) いじめの防止等のための対策は、いじめが学校の全ての学生に関係する問題であることに鑑み、学生が安心して学習その他の活動に取り組むことができるよう、学校の内外を問わずいじめが行われないようにすることを旨として行う。特に、寮生活におけるいじめは、教職員の目が届きにくいことを理解し、寮生活においてもいじめが行われないようにすることも旨とする。

いじめ防止等基本計画の構成

1. いじめの防止等のための基本的な方針

いじめの定義、いじめの禁止、基本理念、学校及び教職員の責務、学校いじめ対策委員会

2. いじめの未然防止

いじめ防止プログラムの策定、教職員の指導力向上、人権意識、道徳的実践力の向上、家庭や関係機関との連携及び学生が自主的に行う活動への支援

3. いじめの早期発見

日常生活における教職員による観察や情報交換、個人面談等の実施、相談体制の整備や相談機関の周知、早期発見・対処マニュアルの策定

4. いじめに対する対応

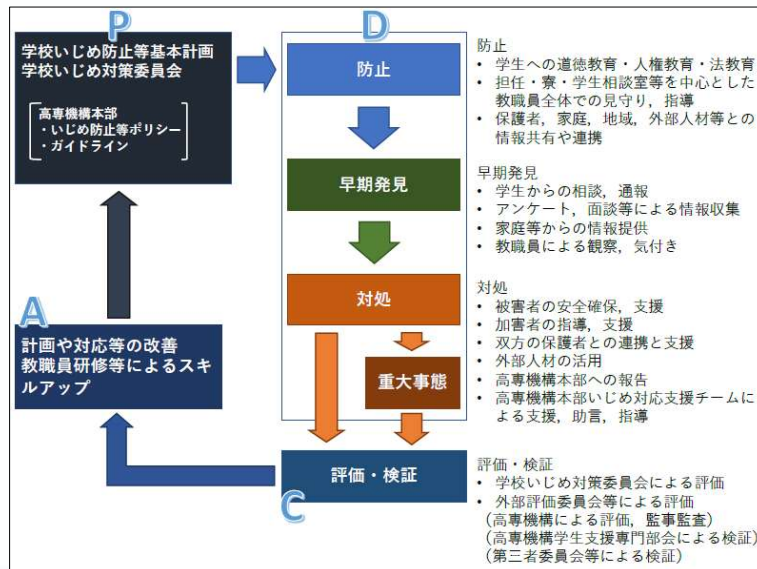
いじめの発見や相談を受けたときの対応、事実調査、組織的対応、いじめを受けた学生やその保護者への支援、いじめた学生やその保護者への助言、いじめを行った学生への懲戒、継続的な指導

5. インターネット等のいじめへの対応 未然防止、早期発見、早期対応、

6. 重大事態への対応 7. 実効的なP D C Aサイクルの確保

8. 学校いじめ基本計画の周知

いじめ防止等基本計画PDCAサイクル



いじめ防止プログラム（前期）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月
			春のいじめ防止月間				
未然防止	研修			4月18日（木）1・2年生で実施 6月5日（水）3～5年生で実施			
	学生向け講習会		○（1） ○（4）	学生会新聞「秀嶺」でいじめ防止月間を周知 6月5日（水）3～5年生で「SNSと向き合う」ワークを実施			
	保護者等への周知	保護者向けパンフ配付					実施済
早期発見	アンケート		実施済	第1回実施		第2回実施	
	情報交換		学校いじめ対策委員会開催		学校いじめ対策委員会開催		学校いじめ対策委員会開催
	個人面談	随時	随時	随時	随時	随時	随時
評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証

令和6年度参与会 R7.1.29

5

いじめ防止プログラム（後期）

		10月	11月	12月	1月	2月	3月
			秋のいじめ防止月間				
未然防止	研修		○（3）	11月13日（水）学生相談講習会 スクールソーシャルワーカーによる講演を聴講			
	学生向け講習会		○（2） ○（4）	11月11日（月）学生主事講話 いじめ防止に関する講話を実施			
	保護者等への周知	保護者懇談会にて周知		学生会にいじめ防止啓発活動の実施を依頼したが、実施できず			
早期発見	アンケート		資料を配布	第3回実施		第4回実施	
	情報交換		学校いじめ対策委員会開催		学校いじめ対策委員会開催		学校いじめ対策委員会開催
	個人面談	随時	随時	随時	随時	随時	随時
評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	事案対処評価・検証	年間評価・検証

令和6年度参与会 R7.1.29

6

いじめの未然防止

- いじめ防止プログラムの策定
 - ・・・月毎に設定して実施
 - 5月と11月をいじめ防止月間に設定
- 教職員の指導力向上・・・11月に研修会を実施
- 人権意識、道徳的実践力の向上
 - ・・・学校行事や課外活動等を通じて向上させている
- 家庭や関係機関との連携及び学生が自主的に行う活動への支援
 - ・・・保護者向けにパンフレットを配布するなどして家庭と連携している
 - 学生が主体的にいじめ問題を考えるワークを実施
 - 学生会等による啓発活動は、ほとんど実施できていないこともあり、支援が不十分

いじめの未然防止・早期発見



パンフレットの配布

長野高専
学生相談室から保護者の方へ
 ～充実した学生生活へ一歩を踏み出す～

高専という環境
 高専は大学等と同等の高等教育機関であり、5年間で高等学校と同等の学習内容に加え、専門的で高度な学修を求められるという特色のある環境です。よって、生活では早く自立する必要があります。
 学園祭があります。中学までとは異なり、毎日時間ごと一人一人を歓迎できるとは限りません。高専は半分大学のようなものであり、学生は、**主体的に、自分で必要な情報を収集し、選択・行動していく**ことが求められます。又、専ら生活をする学生も多く、人間関係の成りや社会とのつながりなども増え、より早く自立することが必要です。
 初年度入学後の1年間は、そのほか学習・生活の変化に、とまどいを感じる学生が多くなります。
 保護者の方は、特に最初の1年間、日々の状況や生活の足守りに関して、ご協力をお願いします。

本校では、学生・保護者向けに複数の相談受付の体制をとり、学生と共に考え、サポートし、成長を見守る環境を整えています。

学習について 勉強方法、授業予備・復習、卒業論文の書き方など	学生生活 専ら生活、友人・仲間・教員、人間関係の築き直しなど	健康相談 摂食、心身相談の必要性、相談窓口	心電相談 自傷・心療・他、事前に相談予約がおすすめです
進路・進学 職業選択・卒業後の進路	対処の仕方 いじめや被害を受けたときの対応方法	相談機関の紹介 いじめや被害を受けたときの対応方法	

新入生の保護者向け

ワーク4
もし、あなたが次の画面に直面したら、どう感じますか。また、どう対応しますか。考えを書き出してみてください。
 (1) 人物を特定できる画面上で、その人の人物を特定する内容を書き込んでいる匿名のアンケートを見た時。

(2) あるグループチャットの他に、もう一つのグループチャットに入るとなると、そこでも特定の人の悪口が書かれているのを見た時。

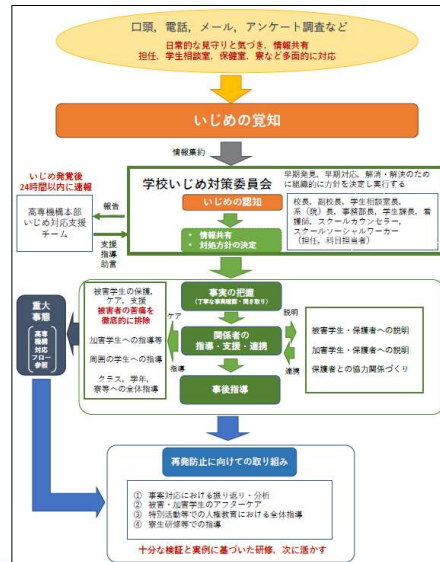
ワーク5
次のワークをおして、どのような行為が人権侵害につながるのか、嫌な思いをしたときどんな変化は相談したらよいか、考えてみましょう。
 (1) 違法、または権利の侵害につながるケースについて、「ケース内容」と「侵害の内容」を繋いでつなぎながら確認しましょう。

「ケース内容」	「侵害の内容」
「〇〇」はサブアカウントと登録した。	・ 誹謗中傷
顔の画像を無断で公開した。	・ プライバシーの侵害
個人情報を無断公開した。	・ 名誉毀損
お問い合わせ欄を公開した。	・ 肖像権の侵害

いじめについて考えるワーク
 (神奈川県作成「SNSと向き合う」)

いじめ等早期発見・事案対処マニュアル

- いじめを覚知した場合には、学校いじめ対策委員会に情報を集約して、対処方針を決定する。
- いじめを受けた学生、いじめを行った学生等から聞き取りを行う。
- 専門的な知識を有する職員を含め、複数の教職員によって、心理、福祉等に関する専門的な知識を有する者の協力を得つつ、いじめを受けた学生又はその保護者に対する支援を行う。また、いじめを行った学生に対する指導等又はその保護者に対する助言等を継続的に行う。
- いじめ発覚後、24時間以内に高専機構本部に報告を行い、助言を受ける。



いじめの早期発見・いじめに対する対応

- アンケートによる早期発見
友人間のトラブルなど、比較的早期に発見できている
 - 早期の情報共有と対応
学生相談室ミーティングや、グループウェア（サイボウズ）を校内メールを使い情報共有を早期に実施
大きな問題になる前に、早期に対処できている。
- 【解決できた事例】**
- ・教員による観察を行い、本人から事情を聴取。実験グループの編成を変えた。
 - ・教員による観察を行い、本人から事情を聴取。授業内で教員が全体的に注意を払うようにした。
 - ・本人から事情を聴取し、周囲の学生へ対応した。

今後の課題

学生自らが、いじめ問題に主体的に行動しようとする（学生主体による防止プログラムの実施を含む）取組が十分行えていない。学生会における啓発活動、ホームルームの時間を使いいじめについて理解を深めるプログラムを検討する必要がある。

外部評価報告書 第8報

2025年3月

長野工業高等専門学校

〒381-8550 長野市大字徳間 716

TEL 026-295-7003 (総務課)

FAX 026-295-4356 (総務課)